دليل قواعد اللغة العربية

アラビア語文法ハンドブック

新妻仁一
Jinichi Niitsuma

白水社

まえがき

日本におけるアラビア語教育の発展は、近年目覚ましいものがあります。著者は、二十数年にわたってアラビア語の教育現場に携わり、さまざまなレベルの学習者と接してきましたが、この間、入門者はもちろんのこと、さらにその上のレベルの学習者が継続的に活用できる包括的な内容と構成を備えた文法書の必要性を感じていました。

2002年に外務省研修所用として作成したテキストは、著者の意図を体系的に整理した最初の試みでした。その後、多くの専門家との意見交換や授業を通して明らかになったさまざまな課題を検討し、そのテキストの内容と構成を全面的に見直したものが本書です。現代アラビア語の理解に必要な基本文法から、さらに上のレベルを目指す学習者に対する高度な文法までをも含み、どのレベルの学習者であっても活用できるよう編まれています。

本書の執筆にあたっては岩見隆氏、ムハンマド・ヌールッディーン・ナクシュバンディー氏、高田康一氏、宮本雅行氏から多くの助言を得ました。また３年間継続した「地域言語としてのアラビア語研究会」(於：京都大学) のメンバーの方々からは、毎回新鮮な刺激を与えられました。そして白水社の岩堀雅己氏は編集者として、また学習者として多くのアイデアを提供してくださいました。このほか、多くの方々の助言および批判なくして、本書の完成はありえませんでした。ここに深くお礼申し上げます。

本書がアラブ世界に関心を持つ学習者の希望をふくらませ、それぞれが夢の達成に向けて踏み出すための指針となればこれ以上の喜びはありません。

最後に留学生活を暖かく支えてくれたシリアの人々と、本書の執筆をあらゆる面で支えてくれた妻に、心から尊敬と感謝の気持ちを伝えます。

2009年 春

新妻　仁一

目　次

第1課　文字と発音

アラビア語は7世紀、イスラームの発展とともにそれまで使われていたアラビア半島から広大な地域に広がっていきました。イスラームの聖典コーランがアラビア語で表記されたことから、永遠不変の神の言葉を正確に解釈するための文法学が発達し、それに基づいて正則アラビア語（フスハー）と呼ばれる、読み書き、そして思索のためのアラビア語が成立しました。フスハーは、アラビア語の揺るぎない基盤を形成してきましたが、近代になり、新しい語彙や表現方法を取り入れた結果、現代フスハー、あるいは現代標準アラビア語と呼ばれる、学校教育、報道、著作などの公的な空間で用いられるアラブ世界の共通言語が誕生しました。

一方、アラビア語にはアーンミーヤと呼ばれる、人々が私的な生活空間で用いる民衆言語、方言があります。フスハーがしっかりとした文法体系に基づいた言語であるのに対して、アーンミーヤは、アラビア語が広がっていく過程で種々の要因によって形成された言語で、文法的にきちんと説明することが困難な場合があります。またフスハーとの間に発音や語彙の面で、大きな違いがある場合もあります。アーンミーヤは各地域、町、村によってそれぞれ独自の発展をし、その数を特定することは困難ですが、大別すれば、北アフリカ方言、エジプト方言、アラビア半島方言、シリア方言、イラク方言となります。

アラビア語のこのような現状のなか、現代フスハーの学習は、アラブ世界各地から発せられるさまざまな情報を理解するために、またイスラーム世界との意思疎通をはかるために、さらにアーンミーヤを理解するために非常に重要になります。

1　アラビア語の文字

アラビア語は、次の29文字を用いて右から左に表記されます。文字にはそれぞれ独立形と連結形があり、連結形はその文字が単語のどこで用いられるかによって語頭形、語中形、語尾形の３つに区別されます。

独立形	（文字名）	ラテン文字転写	連結形 語尾形	語中形	語頭形
ا	('alif) アリフ	ā	ـا	ـا	ا
ب	(bā') バー	b	ـب	ـبـ	بـ
ت	(tā') ター	t	ـت	ـتـ	تـ
ث	(thā') サー	th<ṯ>	ـث	ـثـ	ثـ
ج	(jīm) ジーム	j	ـج	ـجـ	جـ
ح	(Hā') ハー	H<ḥ>	ـح	ـحـ	حـ
خ	(khā') ハー	kh<ḵ>	ـخ	ـخـ	خـ
د	(dāl) ダール	d	ـد	ـد	د
ذ	(dhāl) ザール	dh<ḏ>	ـذ	ـذ	ذ
ر	(rā') ラー	r	ـر	ـر	ر
ز	(zāy) ザーイ	z	ـز	ـز	ز
س	(sīn) スィーン	s	ـس	ـسـ	سـ
ش	(shīn) シーン	sh<š>	ـش	ـشـ	شـ
ص	(Sād) サード	S<ṣ>	ـص	ـصـ	صـ
ض	(Dād) ダード	D<ḍ>	ـض	ـضـ	ضـ
ط	(Tā') ター	T<ṭ>	ـط	ـطـ	طـ
ظ	(Zā') ザー	Z<ẓ>	ـظ	ـظـ	ظـ
ع	(Ayn) アイン	A<‘>	ـع	ـعـ	عـ

غ	(ghayn) ガイン	gh<ḡ>	ـغ	ـغـ	غـ
ف	(fā') ファー	f	ـف	ـفـ	فـ
ق	(qāf) カーフ	q	ـق	ـقـ	قـ
ك	(kāf) カーフ	k	ـك	ـكـ	كـ
ل	(lām) ラーム	l	ـل	ـلـ	لـ
م	(mīm) ミーム	m	ـم	ـمـ	مـ
ن	(nūn) ヌーン	n	ـن	ـنـ	نـ
ه	(hā') ハー	h	ـه	ـهـ	هـ
و	(wāw) ワーウ	w	ـو	ـو	و
ي	(yā') ヤー	y	ـي	ـيـ	يـ
ء	(hamza) ハムザ	'	ـئ/ـؤ/ـأ	ـئـ/ـؤ/ـأ	ئ/ؤ/أ

以上の29文字に加えて、ة（tā'marbūTa　ター・マルブータ）と呼ばれる文字があります。書き方はهの語尾形に２つの点を加えます。発音はت（tā'）と同じです。独立して書かれる時はةですが、右側の文字と連結する場合はهの連結形（語尾形）の上に２つの点を加えた形（ـة）が用いられます。

ء（hamza）はおもにا（'alif）を土台にして用いられますが、و（wāw）、ي（yā'）を土台としたり、独立形で用いられる場合があります。どちらにしても発音は、اを土台にした場合と同じです。اはこれ自体は音価をもちませんが、長母音記号として用いられますので、表ではāと表記してあります。

ي の表記には、エジプト方式とシリア方式があります。エジプト方式では、ي を独立形、語尾形で用いる場合、２つの点を打たず、ىと表記します。一方、シリア方式では必ず２つの点を打って表記します。本書ではシリ

ア方式を採用しています。

　アラビア文字のラテン文字への転写にはいろいろな方式があります。<　>内には現代アラビア語の代表的辞書であるArabic-English Dictionary (Hans Wehr：Dictionary of Modern Written Arabic)で採用されているものを示しておきました。

2　注意すべき発音

ح (Hā’)：手に息を吹きかける感じを思い出し、舌の付け根を喉の奥の方へ寄せ、喉を狭める形で強くｈの音を吐き出します。

خ (khā’)：喉に詰まった物を吐き出す感じを思い出し、舌の後ろの方を軟口蓋(上あごの奥のやわらかい部分)に近づけて、かすれた感じで強くｈの音を発します。

ص (Sād)：舌先を歯茎に接触させ、舌の中央部分をへこませて口の中を広げるようにして出します。通常のｓよりも重たい感じの音になります。

ض (Dād)：صの要領で発音し、ｄよりも重たい感じの音になります(舌先は歯にも接触)。この音はアラビア語で最も特徴的な音といわれ、そのためアラビア語はしばしば「ضの言葉」という名称で呼ばれます。またアラブ人は「ضを発音する人」とも呼ばれます。

ط (Tā’)：صの要領で発音し、ｔよりも重たい感じの音になります。

ظ (Zā’)：صの要領で発音し、ｚよりも重たい感じの音になります(舌は両歯に接触)。

ع (Ayn)：حの要領で喉を緊張させてａを発音します。

غ (ghayn)：خの要領でｇを発音します。

ق (qāf)：kを喉の奥で発音します。舌の後ろの方を喉に付けたあと、それを離す勢いでｋを発音します。

ء (hamza)：喉を閉じて息を一気に吐き出す声門閉鎖音。

3　文字の連結方法

アラビア文字は右から左へ連結させて書いていきます。連結形には語頭形、語中形、語尾形の３種類があります。しかしすべての文字が連結するとは限りません。なかには左側と連結しない文字もあります。

◇左側と連結しない文字：この６文字は左側にくる文字とは連結しません(右側の文字とは連結します)。

ا د ذ ر ز و

「左側と連結しない文字」の後ろにきた文字には語頭形が用いられます。

مدرسة (madrasat) 学校　　　دمشق (dimashq) ダマスカス

なお、「左側と連結しない文字」の後ろにくる文字が単語の語尾となる場合、独立形が用いられます。

لبنان (lubnān) レバノン　　　بيروت (bayrūt) ベイルート

◇注意すべきلと ا の連結：

- 単独で用いられる場合やلの右側の文字が「左側と連結しない文字」(前述の６文字)の場合に用いられます。

لا (lā) いいえ　　　دولاب (dūlāb) タイヤ

- لの右側の文字が「左側と連結する文字」(前述の６文字以外の文字) の場合に用いられます。

بلاد (bilād) 国　　　سلام (salām) 平和

＊ ﻻ の形を単独で用いる場合も見られます。

4　書体について

アラビア語には多くの書体があります。書道家が生み出した芸術的な書体もありますが、本書では多くのアラビア語の印刷物がそうであるように、ナ

スヒー書体を基礎とした一般的な印刷書体を用いています。しかしアラブ人は多くの場合、この印刷書体よりも簡略化されたルクア書体を基礎とした手書き用の書体（草書体）を用います。以下に「シリア・アラブ共和国」と書かれた２つの書体を示します。上が一般的な印刷書体、下が手書き書体のもととなるルクア書体です。

الجُمْهُورِيَّة العَرَبِيَّة السُّورِيَّة

الجمهوريّة العربيّة السوريّة

第2課　母音記号

1　短母音記号

アラビア語の29文字はاを除いて、すべて子音です(اは本来、ءの土台となる文字で音価を持っていません)。では、どのように読むのでしょうか。その指針となるのが母音記号(シャクル)です。

たとえば、م(m)とن(n)でできたمنは、manと読むと「だれ」を意味する疑問詞となり、minと読むと「…から」を意味する前置詞となります。1つの単語がどのような母音を付けるかによって、その意味や役割を変化させるわけです。これがアラビア語の大きな特徴の1つになります。

アラブ世界では通常、母音記号は初等教育のテキストや特定の文章を除いてほとんどの場合、表記されることはありません。一定の教育を受けた人であれば、どう読むべきかがわかるからです。しかし学習者にとってはそうはいきません。そのため、アラビア語では、この母音の違いを文字の上下に付ける母音記号によって示します。母音は、a、i、uの3つで、それぞれ短母音と長母音に分類されます。短母音は次の母音記号によって示されます。

- ダンマ：uの音を示します。文字の上にبُ(bu)、تُ(tu)のように書きます。
- ファトハ：aの音を示します。文字の上にبَ(ba)、تَ(ta)のように書きます。
- カスラ：iの音を示します。文字の下にبِ(bi)、تِ(ti)のように書きます。

2　長母音記号

- ダンマ：ダンマの短母音記号が付いた文字にوを書き加えます。

بُو(bū)　تُو(tū)

- ファトハ：ファトハの短母音記号が付いた文字にاを書き加えます。

بَا(bā)　تَا(tā)

ただしأについては、マッダと呼ばれる記号~をاの上に書きます。

آ (ā)

اの代わりにىを書き加える場合があります。このاとして用いられるى（2つの点が付いていない)をアリフ・マクスーラ(短縮されたアリフ)と呼びます。

ذِكْرَى (dhikrā) 思い出、記念

また頻繁に用いられる単語のなかには、縦棒の「小さなアリフ」を文字の上に書き、ファトハの長母音として発音させるものがあります。ただし印刷上繁雑になるためこの短いアリフは通常、省略されます。なお、本書においてはこの「小さなアリフ」を省略せずに示してありますが、ファトハの単母音記号で示す方法もしばしばみられます。

هٰذَا (hādhā) これ　　ذٰلِكَ (dhālika) それ

- カスラ：カスラの短母音記号が付いた文字にيを書き加えます。

بِي(bī)　تِي(tī)

3　その他の記号：スクーン、シャッダ、ワスラ

- スクーン：母音が付かないことを示します。文字の上にبْ(b)、تْ(t)のように書きます。
- シャッダ：同じ文字がスクーンと短母音で連続していることを示します。文字の上にWに似た記号を書き、促音で発音します。[　]はシャッダが付いている文字を分解して示したものです。

اَلْحَمَّامُ ('al-Hammāmu) 風呂 [اَلْحَمْمَامُ]
اَلأَرُزُّ ('al-'aruzzu) 米 [اَلأَرُزْزُ]
اَلْمُعَلِّمُ ('al-muAallimu) 教師 [اَلْمُعَلْلِمُ]

＊ダンマとファトハはシャッダの上に書きます。カスラはシャッダの下、または文字の下に書きます。اَلْمُعَلِّمُ

• ワスラ：

ء は、ا とともに用いられる場合、أ や إ のように書かれます。しかし、一部の ا において ء は表記されません。代表的なものは、اِسْم「名前」、اِبْن「息子」、اِبْنَة「娘」、اَلْ（定冠詞）、اَلَّذِي（関係代名詞）などの省略された ء です。表記上省略された ء はこれらの語が文頭に用いられたときにのみ発音されます。そして発音されない場合は ا の上にワスラ記号 ٱ を ٱ のように書きます。このように表記されず、また場合によっては発音されずに省略されてしまう ء を「ハムザトルワスル」と呼びます。ワスラ記号は、本書では省略せず表記してありますが、「小さなアリフ」と同様に印刷上省略されることがしばしばあります。

قَصْرُ ٱلْمَلِكِ (qaSru-lmaliki) 王様の宮殿

4　2重母音

アラビア語には、aw (au)とay (ai)という2つの2重母音があり、ـَوْ/ـَيْ で示します。وとيは長母音記号としても صُو (Sū)や بِي (bī)のように用いられますが、両者の発音の違いに気をつけましょう。このようにوとيは、前にきた他の母音の影響を受けることがあるため弱子音と呼ばれます。また、この2文字と音価をもたない ا の3文字は弱文字と呼ばれ、相互に置き換えられたり、省略されたりします。

صُورَة (Sūrat) 写真　　رَبِيع (rabīA) 春

صَوْت (Sawt) 音　　بَيْت (bayt) 家

5　アクセント

アラビア語のアクセントは、おおよそ以下の原則によりますが、地域によって異なる場合があります。しかし1つの単語がアクセントの違いによって異なる意味をもつということはありませんから、あまり神経質になる必要は

ないでしょう。また最後の音節にアクセントが置かれることはありません。

- アクセントは長音節に置かれます：長音節とは長母音、または短母音とスクーンが組み合わされたものを意味します。

كِتَاب (ki-**tā**-b) 本　　　سَاعَدَ (**sā**-Aa-da) 援助する

كَلْب (**kal**-b) 犬　　　مَكْتَب (**mak**-ta-b) 事務所

- 長音節が２つ以上ある場合：最後の長音節にアクセントが置かれます。

إِبْرَاهِيم (ib-rā-**hī**-m) イブラーヒーム［人名］

مُسْتَقْبَل (mus-**taq**-ba-l) 未来

- 短音節（短母音）のみの単語の場合：基本的にどれも同じ強さで発音されますが、最初に発する音であることから必然的に最初の音節にアクセントが置かれます。

كَتَبَ (**ka**-ta-ba) 書く

第3課　名詞と格変化

アラビア語には限定と非限定の区別があります。限定とは特定のものを指し示すこと、非限定とは特定のものを指し示さないことを意味します。ある名詞が限定される場合には、その名詞の前に定冠詞のاَلْを連結します。なお、اَلْの ا は前述のハムザトルワスルですから、文頭にきた場合のみ発音され、それ以外の場合にはその発音は省略されます。

1　太陽文字と月文字

アラビア語の29文字のうち、次の14文字は太陽文字と呼ばれます。これらの太陽文字が定冠詞اَلْの後ろにくるとلْの発音が省略されます。同時に太陽文字の上にはシャッダ記号が付けられ促音で発音されます。

ت ث د ذ ر ز س ش ص ض ط ظ ل ن

اَلشَّمْسُ ('asshamsu) 太陽　　اَلطَّالِبُ ('aTTālibu) 学生

一方、残りの文字は月文字と呼ばれ、これらの文字が定冠詞اَلْの後ろにくる場合、لْの発音は省略されません。

ا ب ج ح خ ع غ ف ق ك م ه و ي ء

اَلْقَمَرُ ('al-qamaru) 月　　اَلْمَدْرَسَةُ ('al-madrasatu) 学校

2　基本3段変化

アラビア語の名詞の最大の特徴はその格変化にあります。格変化は単語の役割を決定し、ひいては文章全体の意味に大きな影響を及ぼします。格変化は語尾の母音記号によって示されます。ここでは主格、対格、属格という基本3段変化とその変形である2段変化をしっかり学んでおきましょう。

◇主格：

主語や述部に用いられます。単語が非限定の場合には、語尾の上にダンマのタンウィーン記号 ٌ を書きます。定冠詞のاَلْが付いて限定された場合には普通のダンマ記号を書きます。タンウィーンというのは最後にnの発音が加わることを意味します。その役割は、非限定を示すことです。

非限定　كِتَابٌ (kitābun)　本は　　جَامِعَةٌ (jāmiAatun)　大学は

限定　اَلْكِتَابُ ('al-kitābu) その本は　　اَلْجَامِعَةُ ('al-jāmiAatu) その大学は

＊ダンマのタンウィーンには ٌ や ٌ の形が用いられることもあります。

◇対格：

おもに目的語として用いられます。単語が非限定の場合には、語尾の上にファトハのタンウィーン記号 ً を書きますが、さらにその後ろに ا が書き加えられます。ただし ة で終わっている単語には ا を書き加える必要はありません。限定されている場合には、普通のファトハ記号を書きます。

非限定　كِتَابًا (kitāban)　本を　　جَامِعَةً (jāmiAatan)　大学を

限定　اَلْكِتَابَ ('al-kitāba) その本を　　اَلْجَامِعَةَ ('al-jāmiAata) その大学を

◇属格：

所属を示す語、また前置詞の後ろにくる語に用いられます。単語が非限定の場合には、語尾の下にカスラのタンウィーン記号 ٍ を書きます。限定されている場合には、普通のカスラ記号を書きます。

非限定　كِتَابٍ (kitābin)　本の　　جَامِعَةٍ (jāmiAatin)　大学の

限定　اَلْكِتَابِ ('al-kitābi) その本の　　اَلْجَامِعَةِ ('al-jāmiAati) その大学の

なお、単語のなかには主格でもダンマをとらないものや非限定でもタンウィーンをとらないものなど、特別な活用をするものもあります。

مُسْتَشْفًى (mustashfan) 病院（主格、対格、属格すべて同じ）

ذِكْرَى (dhikrā) 思い出（主格、対格、属格すべて同じ）

صَحْرَاءُ (SaHrā'u) 砂漠

３　属格関係の基本

「...の...」と２つ以上の名詞で形成される語句をつくる場合、「の」に相当する単語はアラビア語にはありません。その代わりに属格が、名詞と名詞を結び付ける働きをします。たとえば「大学の門」という場合、بَابٌ「門」、جَامِعَةٌ「大学」の順番で２つの名詞を並べ、属格関係を表します。属格関係は、後ろにくる語（大学）と先行する語（門）によって成立します。

بَابُ جَامِعَةٍ 大学の門　　　　بَابُ ٱلْجَامِعَةِ その大学の門

＊定冠詞اَلْの اは文頭以外では発音されません。そのため ٱ とワスラ記号がついています。

属格関係によって結ばれた語句の格変化は先行する語に示されます。

بَابُ ٱلْجَامِعَةِ その大学の門は　（主格）

بَابَ ٱلْجَامِعَةِ その大学の門を　（対格）

بَابِ ٱلْجَامِعَةِ その大学の門の　（属格）

＊先行する語は、後ろにくる語によって限定されたものと見なされるため、それにタンウィーン記号が付くことはありません。しかし注意すべきは、限定されているにもかかわらず先行する語には定冠詞اَلْを付けてはいけないという点です。

３つ以上の単語によって属格関係が形成される場合、最後の単語が定冠詞اَلْの付いた限定名詞になります。

بَيْتُ طَالِبِ ٱلْجَامِعَةِ その大学生の家は

4　名詞の性

名詞は、基本的に男性名詞と女性名詞の２つに区別されます。

男性名詞	كِتَابٌ	دَفْتَرٌ	مَطْعَمٌ	قَلَمٌ	مُحَمَّدٌ
	本	ノート	食堂	ペン	ムハンマド
女性名詞	جَامِعَةٌ	دَوْلَةٌ	حَدِيقَةٌ	مَدْرَسَةٌ	مَحَطَّةٌ
	大学	国家	公園	学校	駅

＊女性名詞の語尾は一般的にةです。またةの付く単語が文末や文の切れ目にきた場合、通常ةの発音は省略されます。しかし学習者は、単語を正確に覚えるためにも、まずةをきちんと発音して読むことを心がけてください。なお、ةの前の子音はファトハで発音されます。

ةを付け加えたり、削除したりすることによって、男性と女性を表すことができる名詞もあります。

مُعَلِّمٌ–مُعَلِّمَةٌ	أُسْتَاذٌ–أُسْتَاذَةٌ	طَالِبٌ–طَالِبَةٌ
教師（男性－女性）	教授（男性－女性）	学生（男性－女性）
مَلِكٌ–مَلِكَةٌ	مُوَظَّفٌ–مُوَظَّفَةٌ	وَزِيرٌ–وَزِيرَةٌ
国王　（男性－女性）	職員（男性－女性）	大臣（男性－女性）

語尾がةで終わっていない名詞のなかにも女性名詞として扱われるものがあります。

◇語尾が女性形を示すىやاءで終わっている語：ذِكْرَى　صَحْرَاءُ

思い出　砂漠

◇意味上、女性を示す語：

عَرُوسٌ	بِنْتٌ	أُمٌّ	أُخْتٌ
花嫁	娘	母	姉（妹）

◇国名、都市名など：

بَارِيسُ　بَيْرُوتُ　دِمَشْقُ　مِصْرُ　اَلْيَابَانُ

日本　エジプト　ダマスカス　ベイルート　パリ

＊アラブ諸国の国名で例外的に男性名詞として扱われるものがあります。

لُبْنَانُ　اَلْعِرَاقُ　اَلْمَغْرِبُ　اَلسُّودَانُ

スーダン　モロッコ　イラク　レバノン

◇身体で対になっている部分：

قَدَمٌ　سَاقٌ　فَخْذٌ　رِجْلٌ　يَدٌ　ذِرَاعٌ　كَتِفٌ　عَيْنٌ　أُذْنٌ

耳　目　肩　腕　手　足　ふともも　すね　足

◇習慣的に女性名詞として扱われる語：

دَارٌ　نَارٌ　رِيحٌ　حَرْبٌ　نَفْسٌ　أَرْضٌ　اَلشَّمْسُ

太陽　土地　精神　戦争　風　火　家、館

逆に、語尾が ة で終わっているにもかかわらず、男性名詞として扱われる語もあります。

مُعَاوِيَةُ　خَلِيفَةٌ　عَلَّامَةٌ

大学者　カリフ　ムアーウィヤ［人名］

なお、男性、女性、どちらで扱ってもいい名詞もあります。

مِينَاءٌ　خَمْرٌ　سُوقٌ　طَرِيقٌ　حَالٌ　رُوحٌ

魂　状態　道　市場　酒　港

5　2段変化

格変化の基本は３段変化、すなわちダンマ(主格)、ファトハ(対格)、カスラ(属格)の３つによって単語の役割を示すことです。しかし３段変化のほかに例外的な格変化をするものがあります。そのなかでも重要なのが２段変化です。２段変化の特色は、次の３点にまとめることができます。

- 属格にはカスラではなくファトハが用いられる。
- 非限定であってもタンウィーンをとらない。
- 限定された場合は３段変化に戻る。言い換えれば、カスラが属格として用いられる。

صَحْرَاء「砂漠」を例に確認しておきましょう。

主格：	صَحْرَاءُ	対格：	صَحْرَاءَ	属格：	صَحْرَاءَ
	砂漠は		砂漠を		砂漠の
主格：	اَلصَّحْرَاءُ	対格：	اَلصَّحْرَاءَ	属格：	اَلصَّحْرَاءِ
	その砂漠は		その砂漠を		その砂漠の

これを見てわかるように２段変化といっても、機能上は主格、対格、属格の３つの格があります。２段変化は２つの格しかないと理解しないよう気をつけてください。

２段変化として扱われる名詞には以下のものがあります。

◇国名、都市名：

مِصْرُ	سُورِيَةُ	لُبْنَانُ	دِمَشْقُ	بَغْدَادُ
エジプト	シリア	レバノン	ダマスカス	バグダード

＊国名でもاَلْعِرَاقُ「イラク」、اَلْمَغْرِبُ「モロッコ」、اَلسُّودَانُ「スーダン」など定冠詞が付いているものは基本３段変化になります。またシリアは、سُورِيَّةُとシャッダを付けて発音したり、سُورِيَاと表記することもあります。

◇女性の名前：　　مَرْيَمُ　جَمِيلَةُ　فَاطِمَةُ

マルヤム　ジャミーラ　ファーティマ

◇男性の名前の一部：　أَحْمَدُ　إِبْرَاهِيمُ　عُمَرُ

アフマド　イブラヒーム　ウマル

＊مُحَمَّدٌ「ムハンマド」、حَسَنٌ「ハサン」、مَحْمُودٌ「マフムード」などの形をとる男性名は基本３段変化になります。

◇女性形を示すاءが語尾に付いた語：　صَحْرَاءُ　حَمْرَاءُ

砂漠　赤

第4課　人称代名詞と数

1　人称代名詞の独立形

人称代名詞には、独立形と結合形があります。まずは独立形から説明します。独立形は、おもに主語として用いられます。人称代名詞には性と数の区別があります。数は、単数(1つ、1人)、双数(2つ、2人)、複数(3つ以上、3人以上)の3種類に区別されます。ただし、1人称については性の区別がありません。なお、下の訳語には人の例のみを示します。

	単数		双数		複数	
3人称男性	هُوَ	彼	هُمَا	彼ら2人	هُمْ	彼ら
3人称女性	هِيَ	彼女	هُمَا	彼女ら2人	هُنَّ	彼女ら
2人称男性	أَنْتَ	あなた(男性)	أَنْتُمَا	あなた方2人(男性)	أَنْتُمْ	あなた方(男性)
2人称女性	أَنْتِ	あなた(女性)	أَنْتُمَا	あなた方2人(女性)	أَنْتُنَّ	あなた方(女性)
1人称	أَنَا	私			نَحْنُ	私たち

＊1人称には双数形はありません。「私たち2人」を表現する場合には1人称の複数形を用います。

＊独立形には定冠詞は付いていませんが、限定名詞として扱われます。

＊男性複数形は、そのなかに女性を含む場合にも用いられます。一方、女性複数形は、女性のみを示す時に用いられます。

2　「私は学生です」

アラビア語には主語と述語を連結するための連結詞（英語のbe動詞に相当するもの）がありません。「私は...です」という場合、「私」と「...」を表す語を並べます。述部にくる語は主語の性や数に一致した形になります。文末にはピリオドをおきます。またアラビア語には、大文字と小文字の区別がありませんので、文頭に用いる場合、あるいは固有名詞として用いる場合でも、

文字の大きさに違いはありません。なお、このように人称代名詞をはじめとして名詞が文頭にくる文を名詞先行文と呼びます。

أَنَا طَالِبٌ.	私は学生です。(男性)	أَنَا طَالِبَةٌ.	私は学生です。(女性)
هُوَ مُعَلِّمٌ.	彼は教師です。	هِيَ مُعَلِّمَةٌ.	彼女は教師です。

疑問文をつくる場合、文頭にهَلْやأَを、そして文末には疑問符(؟)を置きます。答えにはنَعَمْ「はい」、لاَ「いいえ」が用いられます。

أَهُوَ طَالِبٌ؟/ هَلْ هُوَ طَالِبٌ؟	彼は学生ですか。
نَعَمْ، هُوَ طَالِبٌ.	はい、彼は学生です。
لاَ، هُوَ أُسْتَاذٌ.	いいえ、彼は教授です。

＊ピリオド(.)、疑問詞(؟)、コンマ(،)、感嘆符(!)などの句読法は、基本的に近代になって取り入れられたものです。

3　人称代名詞の結合形

人称代名詞の結合形は名詞の後ろに付け加え、所属先(…の)を示します。また後述のように前置詞とともに用いられたり、動詞に添えて目的語としての役割を果たします。また独立形と同じように1人称には性の区別がありません。

	単数	双数	複数
3人称男性	هُ	هُمَا	هُمْ
3人称女性	هَا	هُمَا	هُنَّ
2人称男性	كَ	كُمَا	كُمْ
2人称女性	كِ	كُمَا	كُنَّ
1人称	ي(نِي)ِ		نَا

＊1人称のنِيは動詞の目的語として用いられます。

所属先(...の)を示す場合、人称代名詞の結合形は名詞の語尾に書き加えられます。格変化は1人称単数(私の)を除いて、もとの名詞の語尾に示されます。人称代名詞の結合形が付けられた名詞は限定名詞として扱われますが、定冠詞を付けてはいけません。

主格　بَيْتُكَ　あなたの家は

対格　بَيْتَكَ　あなたの家を

属格　بَيْتِكَ　あなたの家の

1人称単数の人称代名詞の結合形が付いた場合、主格、対格、属格はともに同じ形になりますから注意が必要です。

بَيْتِي　私の家は、私の家を、私の家の

3人称に用いられる هُ、هُمَا、هُمْ、هُنَّは、その前がカスラやカスラの長母音、また2重母音の場合、それぞれهِ、هِمَا、هِمْ、هِنَّに変化します。

بَيْتِهِ　彼の家の　　بَيْتِهِنَّ　彼女らの家の

أَبٌ「父」、أَخٌ「兄弟」、حَمٌ「舅、義理の父」、فُو「口」、ذُو「持ち主」は人称代名詞の結合形が付いた場合、または属格関係によって限定名詞となった場合、特別な格変化をします。أَبٌを例にしてみます。

	結合形		属格関係	
主格	أَبُوكَ	あなたの父は	أَبُو زَيْدٍ	ザイドの父は
対格	أَبَاكَ	あなたの父を	أَبَا زَيْدٍ	ザイドの父を
属格	أَبِيكَ	あなたの父の	أَبِي زَيْدٍ	ザイドの父の

* فُوは فُوكَ (主格)、فَاكَ (対格)、فِيكَ (属格)になります。また結合形の1人称(私の) については、أَبِي、أَخِي、حَمِي、فِيَّで3つの格(主格、対格、属格)に対応します。ذُوの使い方については第21課参照。

4　双数形

アラビア語ではそれぞれの名詞に２つ、２人以上を示す双数形があります。双数形は単語の語尾を一定の原則で変化させてつくります。主格として用いる場合は語尾にانを付け加え、اَنِと発音します。一方、対格と属格の場合はينを付け加え、يْنِと発音します。対格と属格が同じ語尾になります。قَلَمٌ「ペン」とجَامِعَةٌ「大学」で見てみましょう。

	非限定	限定	
主格	قَلَمَانِ	اَلْقَلَمَانِ	２本のペンは
	جَامِعَتَانِ	اَلْجَامِعَتَانِ	２つの大学は
対格	قَلَمَيْنِ	اَلْقَلَمَيْنِ	２本のペンを
	جَامِعَتَيْنِ	اَلْجَامِعَتَيْنِ	２つの大学を
属格	قَلَمَيْنِ	اَلْقَلَمَيْنِ	２本のペンの
	جَامِعَتَيْنِ	اَلْجَامِعَتَيْنِ	２つの大学の

هُمَا مُعَلِّمَانِ.　彼ら2人は先生です。　هُمَا مُعَلِّمَتَانِ.　彼女ら2人は先生です。

＊女性形を示すاَءُで終わる単語の双数はءがوに変化します。

صَحْرَاءُ　砂漠：صَحْرَاوَانِ（主格）　صَحْرَاوَيْنِ（対格、属格）

双数形の語尾は、非限定の場合でも定冠詞によって限定されている場合でもどちらも同じです。ただし他の属格名詞とともに属格関係を形成した場合には語尾のنが省略されます。

主格	مُعَلِّمَا ٱلْمَدْرَسَةِ	その学校の２人の先生(男性)は
対格	مُعَلِّمَيِ ٱلْمَدْرَسَةِ	その学校の２人の先生(男性)を
属格	مُعَلِّمَيِ ٱلْمَدْرَسَةِ	その学校の２人の先生(男性)の

نを省略するとمُعَلِّمِيْ ٱلْمَدْرَسَةِとなり、يْと定冠詞الのلْが連続することになります。アラビア語ではスクーンとスクーンが連続することを避けるため、こうした場合、先行する文字にスクーンに代わって母音を付けますので、対格、属格ではمُعَلِّمِيと最後のيにカスラの母音記号が付いています。

5　規則複数形

アラビア語には2つ、2人を示す双数形がありますから、複数形とは3つ、3人以上の数を示すかたちです。

複数形の基本は規則男性複数形と規則女性複数形です。規則男性複数形は主格で用いる場合は単数の語尾にونを付け加え、ُونَと発音します。対格、属格にはينを付け加え、ِينَと発音します。注意すべき点は、双数形同様に、対格と属格が同じ語尾になること、また表記のうえで双数形と規則男性複数形は対格、属格がともにينと全く同じ形になる点です。ですから母音記号の違いに注意する必要があります。一方、規則女性複数形は、男性単数形の語尾にاتを書き加えます。そして主格ではَاتٌ、対格、属格ではَاتٍと発音し、こちらも対格と属格が同じ語尾になります。

	男性非限定	男性限定	女性非限定	女性限定
主格	مُعَلِّمُونَ	اَلْمُعَلِّمُونَ	مُعَلِّمَاتٌ	اَلْمُعَلِّمَاتُ
対格	مُعَلِّمِينَ	اَلْمُعَلِّمِينَ	مُعَلِّمَاتٍ	اَلْمُعَلِّمَاتِ
属格	مُعَلِّمِينَ	اَلْمُعَلِّمِينَ	مُعَلِّمَاتٍ	اَلْمُعَلِّمَاتِ

هُمْ مُعَلِّمُونَ.　彼らは先生です。　هُنَّ مُعَلِّمَاتٌ.　彼女らは先生です。

規則男性複数形は双数形同様、他の属格名詞とともに属格関係を形成した場合、語尾のنが省略されます。

主格	مُعَلِّمُو ٱلْمَدْرَسَةِ	その学校の先生たちは
対格	مُعَلِّمِي ٱلْمَدْرَسَةِ	その学校の先生たちを
属格	مُعَلِّمِي ٱلْمَدْرَسَةِ	その学校の先生たちの

6　双数形・規則男性複数形と人称代名詞の結合形

双数形や規則男性複数形に人称代名詞の結合形が用いられる場合、語尾のنが省略されます。

主格　مُعَلِّمَاكُمْ　あなた方の２人の先生は

　　　مُعَلِّمُوكُمْ　あなた方の先生たちは

対格　مُعَلِّمَيْكُمْ　あなた方の２人の先生を

　　　مُعَلِّمِيكُمْ　あなた方の先生たちを

属格　مُعَلِّمَيْكُمْ　あなた方の２人の先生の

　　　مُعَلِّمِيكُمْ　あなた方の先生たちの

双数形、規則男性複数形に人称代名詞の結合形の１人称単数が用いられた場合、次のようになります。規則男性複数形の場合は３格とも同じ形です。

主格	مُعَلِّمَايَ	私の２人の先生は	مُعَلِّمِيَّ	私の先生たちは
対格	مُعَلِّمَيَّ	私の２人の先生を	مُعَلِّمِيَّ	私の先生たちを
属格	مُعَلِّمَيَّ	私の２人の先生の	مُعَلِّمِيَّ	私の先生たちの

３人称の ـهُ、هُمَا、هُمْ、هُنَّは、その前がカスラやカスラの長母音、また２重母音（ـَيْ）になった場合、それぞれ ـهِ、هِمَا、هِمْ、هِنَّに発音が変化します。

مُعَلِّمَيْهِ　彼の2人の先生を[の]（双数形、対格 [属格]）

مُعَلِّمِيهِمْ　彼らの先生たちを[の]（規則男性複数形、対格 [属格]）

第5課　不規則複数形

1　不規則複数形のパターン

アラビア語における数は、単数、双数、複数の3つに区別されます。そして複数形は、規則複数形と不規則複数形に分類することができます。規則複数形は第4課で学んだように、男性形、女性形、ともに単数形に一定の語尾変化を加えることによってつくることができます。この規則複数形が大部分の単語にあてはまれば問題はないのですが、アラビア語にはそのつど複数形を覚えなければならない多くの単語があります。これらの複数形、すなわち不規則複数形を覚えずして、アラビア語を理解することはまず不可能です。ここでは代表的な不規則複数形のパターンを説明します。

パターンを示す場合、アラビア語ではف、ع、لの3文字を用います。たとえばقَلَمٌ「ペン」であればفَعَلٌ型、طَالِبٌ「学生」であればفَاعِلٌ型、كِتَابٌ「本」であればفِعَالٌ型、مُعَلِّمُونَ「先生たち」であればمُفَعِّلُونَ型ということになります。このفとعとلの部分がそれぞれの単語によって変化します。

（　）内は単数形を示しています。

◇أَفْعَالٌ型：

أَقْلَامٌ (قَلَمٌ)	أَيَّامٌ (يَوْمٌ)	أَمْرَاضٌ (مَرَضٌ)	أَوْلَادٌ (وَلَدٌ)
ペン	日	病気	子供、少年
أَسْمَاءٌ (اِسْمٌ)	أَبْوَابٌ (بَابٌ)	أَمْطَارٌ (مَطَرٌ)	أَكْتَافٌ (كَتِفٌ)
名前	門、扉	雨	肩
أَطْفَالٌ (طِفْلٌ)	آمَالٌ (أَمَلٌ)	آثَارٌ (أَثَرٌ)	أَشْيَاءُ (شَيْءٌ)
子供	希望	痕跡、遺跡	物、事

＊شَيْءٌの複数形は本来、2段変化をする他のパターン（أَفْعِلَاءُ型）の変形ですが、形式上أَفْعَالٌのパターンと一致するため、ここに入れておきます。

◇فُعُولٌ型：

(دَرْسٌ) دُرُوسٌ	(عِلْمٌ) عُلُومٌ	(قَلْبٌ) قُلُوبٌ	(مَلِكٌ) مُلُوكٌ
授業、勉強	科学、学問	心、心臓	王様
(شَاهِدٌ) شُهُودٌ	(بَنْكٌ) بُنُوكٌ	(بَيْتٌ) بُيُوتٌ	(صَدْرٌ) صُدُورٌ
目撃者、証人	銀行	家	胸

◇فِعَالٌ型：

(بَحْرٌ) بِحَارٌ	(بَلَدٌ) بِلاَدٌ	(جَبَلٌ) جِبَالٌ	(رَجُلٌ) رِجَالٌ
海	国、町、村	山	男、男性

◇فُعُلٌ型：

(صَحِيفَةٌ) صُحُفٌ	(مَدِينَةٌ) مُدُنٌ	(كِتَابٌ) كُتُبٌ	(سَفِينَةٌ) سُفُنٌ
新聞	町、都市	本	船

◇فُعَلٌ型：

(غُرْفَةٌ) غُرَفٌ	(جُمْلَةٌ) جُمَلٌ	(صُورَةٌ) صُوَرٌ	(قَرْيَةٌ) قُرًى
部屋	文章	写真	村

＊ قُرًى[quran]はقُرَيٌّが変化したもので、主格、対格、属格ともにこの形で用いられます。

◇فَعَلَةٌ型：

(قَائِدٌ) قَادَةٌ	(سَيِّدٌ) سَادَةٌ	(بَائِعٌ) بَاعَةٌ
指導者、司令官	主人、氏	販売員

◇فُعَّالٌ型：

(بَاحِثٌ) بُحَّاثٌ	(زَائِرٌ) زُوَّارٌ	(كَاتِبٌ) كُتَّابٌ
研究者	訪問者、観光客	作家

عُمَّالٌ (عَامِلٌ)　سُيَّاحٌ (سَائِحٌ)　تُجَّارٌ (تَاجِرٌ)
労働者　観光客、ツーリスト　商人

＊سَائِحٌの複数形にはسُوَّاحٌが用いられることがありますが、口語とみなされています。

◇أَفْعُلٌ型：

أَرْجُلٌ (رِجْلٌ)　أَنْفُسٌ (نَفْسٌ)　أَعْيُنٌ (عَيْنٌ)
足　心、精神、自身　目

أَذْرُعٌ (ذِرَاعٌ)　أَيْمُنٌ (يَمِينٌ)　أَسْهُمٌ (سَهْمٌ)
腕　誓約　株式

◇أَفْعِلَةٌ型：

أَعْمِدَةٌ (عُمُودٌ)　أَطْعِمَةٌ (طَعَامٌ)　أَبْنِيَةٌ (بِنَاءٌ)
柱　食べ物　建物、ビル

◇فُعَلَاءُ型[2段変化]：

أُمَرَاءُ (أَمِيرٌ)　سُفَرَاءُ (سَفِيرٌ)　شُعَرَاءُ (شَاعِرٌ)
王子、司令官　大使　詩人

رُؤَسَاءُ (رَئِيسٌ)　وُزَرَاءُ (وَزِيرٌ)　عُلَمَاءُ (عَالِمٌ)
大統領、長　大臣　学者

◇أَفْعِلَاءُ型[2段変化]：أَطِبَّاءُ、أَحِبَّاءُの2語もこのパターンになります。

أَقْرِبَاءُ (قَرِيبٌ)　أَصْدِقَاءُ (صَدِيقٌ)　أَغْنِيَاءُ (غَنِيٌّ)
親類　友人　金持ち

أَنْبِيَاءُ (نَبِيٌّ)　أَطِبَّاءُ (طَبِيبٌ)　أَحِبَّاءُ (حَبِيبٌ)
預言者　医者　愛する人、親愛なる人

◇فُعْلَانٌ型：

قَضِيبٌ) قُضْبَانٌ)　رَغِيفٌ) رُغْفَانٌ)　بِلَادٌ) بُلْدَانٌ)

棒、竿　パン　国

◇فَوَاعِلُ型［２段変化］：

قَاعِدَةٌ) قَوَاعِدُ)　شَارِعٌ) شَوَارِعُ)　عَاصِفَةٌ) عَوَاصِفُ)

土台、基地、文法　通り　嵐

◇فَعَالِلُ型［２段変化］：

جَوْهَرَةٌ) جَوَاهِرُ)　تَرْجَمَةٌ) تَرَاجِمُ)　نَمُوذَجٌ) نَمَاذِجُ)

宝石　翻訳、通訳、人物紹介　模範、モデル

◇فَعَائِلُ型［２段変化］：

خَزِينَةٌ/ خِزَانَةٌ) خَزَائِنُ)　عَجِيبَةٌ) عَجَائِبُ)　رِسَالَةٌ) رَسَائِلُ)

宝庫、金庫　不思議なこと、驚異　手紙

◇مَفَاعِلُ型［２段変化］：

مَجْلِسٌ) مَجَالِسُ)　مَذْهَبٌ) مَذَاهِبُ)　مَدْرَسَةٌ) مَدَارِسُ)

議会　教義、学派、意見　学校

مَسْجِدٌ) مَسَاجِدُ)　مَكْتَبٌ/ مَكْتَبَةٌ) مَكَاتِبُ)　مَنْزِلٌ) مَنَازِلُ)

モスク、礼拝所　事務所、図書館、書店　家、住居

* مَكْتَبَةٌにはمَكْتَبَاتٌという規則女性複数形もあります。

◇فَعَالِيلُ型［２段変化］：

صُنْدُوقٌ) صَنَادِيقُ)　عُصْفُورٌ) عَصَافِيرُ)　شُبَّاكٌ) شَبَابِيكُ)

箱　小鳥　窓

(عُنْوَانٌ) عَنَاوِينُ
住所、題名

(فِنْجَانٌ) فَنَاجِينُ
カップ

(فِرْدَوْسٌ) فَرَادِيسُ
天国

◇فَوَاعِيلُ型[2段変化]：

(تَأْرِيخٌ/ تَارِيخٌ) تَوَارِيخُ
日付、歴史

(قَامُوسٌ) قَوَامِيسُ
辞書、事典

(جَامُوسٌ) جَوَامِيسُ
水牛

◇مَفَاعِيلُ型[2段変化]：

(مِنْدِيلٌ) مَنَادِيلُ
ハンカチ

(مَكْتُوبٌ) مَكَاتِيبُ
手紙

(مِفْتَاحٌ) مَفَاتِيحُ
鍵

(مِصْبَاحٌ) مَصَابِيحُ
ランプ

(مِيعَادٌ) مَوَاعِيدُ
(約束・予定の)時間

(مَوْضُوعٌ) مَوَاضِيعُ
主題

◇فَعَالِلَةٌ型[2段変化]：

(صَيْدَلِيٌّ) صَيَادِلَةٌ
薬剤師

(أُسْقُفٌ) أَسَاقِفَةٌ
司教

(أُسْتَاذٌ) أَسَاتِذَةٌ
教授

(دُكْتُورٌ) دَكَاتِرَةٌ
医者、博士

＊このパターンは、おもに職業を示す単語に用いられます。形式上 ة で終っていますが、あくまでも男性複数名詞として扱われます。

2　注意すべき複数形

• おもに親族名称：

(أُمٌّ) أُمَّهَاتٌ
母

(أَبٌ) آبَاءٌ
父

(أُخْتٌ) أَخَوَاتٌ
姉妹

(بِنْتٌ) بَنَاتٌ
娘

• ２つ以上の複数形をもつ単語：アラビア語では、１つの単語が２つ以上の複数形をもつこともあります。代表的な単語を示しておきます。

単数形		複数形	
اِبْنٌ	息子	أَبْنَاءٌ	بَنُونَ
اِمْرَأَةٌ	女、女性	نِسَاءٌ	نِسْوَةٌ
أَخٌ	兄弟	إِخْوَانٌ	إِخْوَةٌ
رَغِيفٌ	丸パン	أَرْغِفَةٌ	رُغْفَانٌ
نَهْرٌ	川	أَنْهُرٌ	أَنْهَارٌ
تِلْمِيذٌ	生徒、弟子	تَلَامِذَةٌ	تَلَامِيذُ
طَالِبٌ	学生	طَلَبَةٌ	طُلَّابٌ
قَائِدٌ	指導者、司令官	قَادَةٌ	قُوَّادٌ
شَهْرٌ	暦の月	أَشْهُرٌ	شُهُورٌ

また、一般的に「…する人」という意味で用いられる名詞には規則複数形をあてることができますが、その名詞が社会的に認知された職業や地位などを表すような一般名詞となっている場合、不規則複数があてられるのが普通です。

単数形		複数形
كَاتِبٌ	書く人、書き手	كَاتِبُونَ（規則複数形）
	作家	كُتَّابٌ（不規則複数形）
طَالِبٌ	求める人	طَالِبُونَ（規則複数形）
	学生	طَلَبَةٌ／طُلَّابٌ（不規則複数形）

第6課　形容詞

1　形容詞のパターン

代表的な形容詞のパターンを第5課の不規則複数形で紹介したفعلの3文字で示すとفَعِيلٌ型、فَاعِلٌ型、مَفْعُولٌ型、فُعَلَاءُ型となります。まず代表的なفَعِيلٌ型の形容詞とその反対語を示します。

طَوِيلٌ-قَصِيرٌ 短い　長い	كَبِيرٌ-صَغِيرٌ 小さい　大きい	كَثِيرٌ-قَلِيلٌ 少ない　多い
بَعِيدٌ-قَرِيبٌ 近い　遠い	جَدِيدٌ-قَدِيمٌ 古い　新しい	غَنِيٌّ-فَقِيرٌ 貧しい　裕福な
سَمِينٌ-نَحِيفٌ やせた　太った	ثَقِيلٌ-خَفِيفٌ 軽い　重い	قَوِيٌّ-ضَعِيفٌ 弱い　強い
نَظِيفٌ-وَسِخٌ 汚れた　清潔な	سَرِيعٌ-بَطِيءٌ 遅い　速い	جَمِيلٌ-قَبِيحٌ 醜い　美しい
رَخِيصٌ-غَالٍ 高価な　安い	* وَسِخٌとغَالٍはفَعِيلٌ型ではないのですが、 反対語を示すために入れてあります。	

2　形容詞の基本的用法

形容詞には、さまざまな役割があります。

まずは、先行する名詞を修飾する役割から見てみましょう。形容詞は、名詞の後に置かれ、「格変化、限定、非限定、性、数」において修飾する名詞と一致した形をとります。مُمْتَازٌ「際立った、素晴らしい」がمُعَلِّمٌ「教師」を修飾し、「素晴らしい教師」となる場合を以下のように示してみます。

	主格	対格	属格
男性単数非限定	مُعَلِّمٌ مُمْتَازٌ	مُعَلِّمًا مُمْتَازًا	مُعَلِّمٍ مُمْتَازٍ
限定	اَلْمُعَلِّمُ ٱلْمُمْتَازُ	اَلْمُعَلِّمَ ٱلْمُمْتَازَ	اَلْمُعَلِّمِ ٱلْمُمْتَازِ
女性単数非限定	مُعَلِّمَةٌ مُمْتَازَةٌ	مُعَلِّمَةً مُمْتَازَةً	مُعَلِّمَةٍ مُمْتَازَةٍ
限定	اَلْمُعَلِّمَةُ ٱلْمُمْتَازَةُ	اَلْمُعَلِّمَةَ ٱلْمُمْتَازَةَ	اَلْمُعَلِّمَةِ ٱلْمُمْتَازَةِ
男性双数非限定	مُعَلِّمَانِ مُمْتَازَانِ	مُعَلِّمَيْنِ مُمْتَازَيْنِ	مُعَلِّمَيْنِ مُمْتَازَيْنِ
限定	اَلْمُعَلِّمَانِ ٱلْمُمْتَازَانِ	اَلْمُعَلِّمَيْنِ ٱلْمُمْتَازَيْنِ	اَلْمُعَلِّمَيْنِ ٱلْمُمْتَازَيْنِ
女性双数非限定	مُعَلِّمَتَانِ مُمْتَازَتَانِ	مُعَلِّمَتَيْنِ مُمْتَازَتَيْنِ	مُعَلِّمَتَيْنِ مُمْتَازَتَيْنِ
限定	اَلْمُعَلِّمَتَانِ ٱلْمُمْتَازَتَانِ	اَلْمُعَلِّمَتَيْنِ ٱلْمُمْتَازَتَيْنِ	اَلْمُعَلِّمَتَيْنِ ٱلْمُمْتَازَتَيْنِ
男性複数非限定	مُعَلِّمُونَ مُمْتَازُونَ	مُعَلِّمِينَ مُمْتَازِينَ	مُعَلِّمِينَ مُمْتَازِينَ
限定	اَلْمُعَلِّمُونَ ٱلْمُمْتَازُونَ	اَلْمُعَلِّمِينَ ٱلْمُمْتَازِينَ	اَلْمُعَلِّمِينَ ٱلْمُمْتَازِينَ
女性複数非限定	مُعَلِّمَاتٌ مُمْتَازَاتٌ	مُعَلِّمَاتٍ مُمْتَازَاتٍ	مُعَلِّمَاتٍ مُمْتَازَاتٍ
限定	اَلْمُعَلِّمَاتُ ٱلْمُمْتَازَاتُ	اَلْمُعَلِّمَاتِ ٱلْمُمْتَازَاتِ	اَلْمُعَلِّمَاتِ ٱلْمُمْتَازَاتِ

مُمْتَازٌは、先行名詞がمُعَلِّمَةٌと女性形であればمُمْتَازَةٌと女性形になっています。またمُعَلِّمَانِと双数になればمُمْتَازَانِ、そしてمُعَلِّمُونَと複数形になるとمُمْتَازُونَと名詞の変化と同様に変化しています。その他、名詞の格変化、限定、非限定にも一致していることを確認しておきましょう。

形容詞は、修飾する名詞の格変化、限定・非限定、性、数に一致させて用いられます。定冠詞以外の限定の例を見ていきましょう。

◇人称代名詞の結合形が付いた名詞を修飾する場合：

كِتَابُكَ ٱلْجَمِيلُ　あなたのきれいな本は

◇属格名詞を伴う名詞を修飾する場合：

مُوَظَّفُ ٱلْجَامِعَةِ ٱلْجَدِيدُ　その大学の新しい職員は

形容詞が直前の名詞ではなく、属格名詞の前にある語を修飾していることに注意してください。なお、直前の名詞を修飾する場合と属格名詞の前にある語を修飾する場合には注意が必要です。

مُوَظَّفَةُ ٱلْجَامِعَةِ ٱلْجَدِيدَةُ　その大学の新しい女性職員は

مُوَظَّفَةُ ٱلْجَامِعَةِ ٱلْجَدِيدَةِ　その新しい大学の女性職員は

このように形容詞が直前の名詞を修飾しているのか、その前にある名詞を修飾しているのか、形容詞にはっきりと格変化を示す母音記号が付けられていない場合、あいまいになることがあります。次の例はたとえ母音記号が付けられていても形容詞がどの名詞を説明しているのか不明になり、文脈から判断せざるをえない場合です。

مِنْ مُوَظَّفَةِ ٱلْجَامِعَةِ ٱلْجَدِيدَةِ　その大学の新しい女性職員から
その新しい大学の女性職員から

* مِنْは前置詞「...から」です。前置詞の後には必ず属格がきますからこのような結果になるのです。

3　形容詞の不規則複数形

形容詞にも不規則複数形をもつもの、また2つ以上の複数形をもつものもあります。

◇فَعِيلٌ型形容詞の複数形：(　) 内は単数形。

قِصَارٌ (قَصِيرٌ)	طِوَالٌ (طَوِيلٌ)	صِغَارٌ (صَغِيرٌ)	كِبَارٌ (كَبِيرٌ)
短い	長い	小さい	大きい

(غَنِيٌّ) أَغْنِيَاءُ　(فَقِيرٌ) فُقَرَاءُ　(جَدِيدٌ) جُدَدٌ/ جُدُدٌ　(قَدِيمٌ) قُدَمَاءُ

裕福な　貧しい　新しい　古い

(قَوِيٌّ) أَقْوِيَاءُ　(ضَعِيفٌ) ضِعَافٌ

強い　弱い

◇مَفْعُولٌ型形容詞の複数形：基本は規則複数形

(مَحْظُوظٌ) مَحْظُوظُونَ　(مَشْغُولٌ) مَشْغُولُونَ

運がよい　忙しい

(مَشْهُورٌ) مَشْهُورُونَ/ مَشَاهِيرُ

有名な

◇فَاعِلٌ型形容詞の複数形：基本は規則複数形

(عَادِلٌ) عَادِلُونَ　(صَالِحٌ) صَالِحُونَ

公正な　健全な

(جَاهِلٌ) جُهَلَاءُ/ جُهَّالٌ　(عَاقِلٌ) عَاقِلُونَ/ عُقَلَاءُ

無知な　理知的な

4　特別な形容詞

形容詞を女性形にするには ة を語尾に加えればいいのですが、２段変化をする一部の形容詞には語尾変化のない特別の女性形があります。

男性形		女性形	
أَوَّلُ	最初の、１番目の（２段変化）	أُولَى	（語尾変化なし）
آخَرُ	他の（２段変化）	أُخْرَى	（語尾変化なし）

أَوْسَطُ　真ん中の（2段変化）　　　　وُسْطَى　（語尾変化なし）

اَلدَّرْسُ ٱلْأَوَّلُ　　最初の授業、第1課
اَلْحَرْبُ ٱلْعَالَمِيَّةُ ٱلْأُولَى　　第1次世界大戦（حَرْبٌは女性名詞）

سُؤَالٌ آخَرُ　　他の質問

مَدِينَةٌ أُخْرَى　　他の町

اَلشَّرْقُ ٱلْأَوْسَطُ　　中東

اَلْعُصُورُ ٱلْوُسْطَى　　中世

فَعْلَانُ型の形容詞も2段変化になります。なお、女性形はفَعْلَىとなり、語尾変化がなくこの形で3格すべてに対応します。

男性形		女性形	男性形		女性形
جَوْعَانُ	空腹の	جَوْعَى	غَضْبَانُ	怒った	غَضْبَى
شَبْعَانُ	満腹な	شَبْعَى	سَكْرَانُ	酔った	سَكْرَى
عَطْشَانُ	喉が渇いた	عَطْشَى	كَسْلَانُ	怠惰な	كَسْلَى

وَلَدٌ عَطْشَانُ　　喉が渇いている少年（非限定）
اَلْوَلَدُ ٱلْعَطْشَانُ　　喉が渇いている少年（限定）
بِنْتٌ عَطْشَى　　喉が渇いている少女（非限定）
اَلْبِنْتُ ٱلْعَطْشَى　　喉が渇いている少女（限定）

* فَعْلَى型の女性形をもつにもかかわらず、ةを加え、عَطْشَانَةٌ、كَسْلَانَةٌなどと女性形をつくる用法もしばしば見られます。ةが加えられた女性形は3段変化をします。

男性形のかたちでありながら女性形として用いられる特別な形容詞

عَجُوزٌ	年老いた	حَامِلٌ	妊娠している
سَاحِرَةٌ عَجُوزٌ	老魔法使い	اِمْرَأَةٌ حَامِلٌ	妊婦

＊حَامِلٌは本来「運んでいる」という意味ですが、この意味で用いられる場合、女性形はحَامِلَةٌとなります。また、اِمْرَأَةٌは定冠詞が付くとاَلْمَرْأَةُと ا が省略されます。

5　色の形容詞の複数形

色の形容詞は、単数形では男性形、女性形ともに２段変化をします。しかし、複数形になると３段変化となります。また複数形では男性形、女性形ともに同じ形になります。

単数形	女性形	複数形	
أَحْمَرُ	حَمْرَاءُ	حُمْرٌ	赤い
أَبْيَضُ	بَيْضَاءُ	بِيضٌ	白い
أَسْوَدُ	سَوْدَاءُ	سُودٌ	黒い
أَخْضَرُ	خَضْرَاءُ	خُضْرٌ	緑の
أَصْفَرُ	صَفْرَاءُ	صُفْرٌ	黄色の
أَزْرَقُ	زَرْقَاءُ	زُرْقٌ	青い
أَسْمَرُ	سَمْرَاءُ	سُمْرٌ	小麦色の、黄褐色の
أَشْقَرُ	شَقْرَاءُ	شُقْرٌ	ブロンドの

＊أَسْمَرُは肌の色に対してのみ用いられます。同様に、أَشْقَرُも髪の色や肌の色に対して用いられます。أَسْمَرُとأَشْقَرُについてはそれぞれسَمْرَاوَاتٌ、شَقْرَاوَاتٌという複数形が用いられることもあります。

＊双数形は、أَحْمَرَانِ（男性形）、حَمْرَاوَانِ（女性形）のパターンをとります。

名詞から派生した色を示す形容詞は基本３段変化をします。女性形は普通の形容詞と同じように語尾に ة を付けた形になります。

名詞		形容詞		女性形
بُرْتُقَالٌ	オレンジ	بُرْتُقَالِيٌّ	オレンジ色の	بُرْتُقَالِيَّةٌ
بُنٌّ	コーヒー豆	بُنِّيٌّ	コーヒー色の、茶色の	بُنِّيَّةٌ
وَرْدٌ	バラ	وَرْدِيٌّ	バラ色の、ピンクの	وَرْدِيَّةٌ
سَمَاءٌ	空	سَمَاوِيٌّ	空色の	سَمَاوِيَّةٌ

＊名詞から派生した形容詞については第13課のニスバ形容詞で再度扱います。

6　人間以外の生物や物の複数形

人間（…する人、…である人）やその職業、地位を意味する名詞を除いたすべての名詞は、複数形になると意味の上では複数であっても文法上は女性単数名詞として扱われます。

كِتَابٌ جَدِيدٌ	新しい本（単数）	كُتُبٌ جَدِيدَةٌ	新しい本（複数）
مَدْرَسَةٌ مَشْهُورَةٌ	有名な学校（単数）	مَدَارِسُ مَشْهُورَةٌ	有名な学校（複数）

人間（…する人、…である人）やその職業、地位を意味する名詞の複数形の場合、文法上そのまま男性複数形または女性複数形として扱われます。

مُعَلِّمٌ جَدِيدٌ	新しい教師（単数）
مُعَلِّمُونَ جُدُدٌ	新しい教師たち（複数）
رَئِيسٌ كَبِيرٌ	偉大な大統領（単数）
رُؤَسَاءُ كِبَارٌ	偉大な大統領たち（複数）
رَئِيسَةٌ كَبِيرَةٌ	偉大な女性大統領（単数）
رَئِيسَاتٌ كَبِيرَاتٌ	偉大な女性大統領たち（複数）

7　述語形容詞

単独で述部として用いられる場合は、主格、非限定の形をとり、主語の性と数に一致した形をとります。

أَنْتَ مُمْتَازٌ.　あなたは素晴らしい。（主語は男性、単数形）

أَنْتِ مُمْتَازَةٌ.　あなたは素晴らしい。（主語は女性、単数形）

人称代名詞以外の名詞でもそれが限定名詞であれば主語となることができます。ここでは限定名詞として定冠詞اَلْが付いたもの、属格名詞に先行するもの、人称代名詞の結合形が付いたものの３つを確認しておきましょう。

اَلرَّجُلُ طَوِيلٌ.　その男は背が高い。

مُوَظَّفُ ٱلْجَامِعَةِ جَدِيدٌ.　その大学の職員は新人です。

جَامِعَتُهَا وَاسِعَةٌ.　彼女の大学は広い。

述部に用いられた形容詞を否定するには否定詞غَيْرُを形容詞の前に置き、形容詞を属格にします。言い替えればغَيْرُと形容詞とで属格関係を形成することになります。

هُوَ غَيْرُ طَوِيلٍ.　彼は背が高くありません。

جَامِعَتُهَا غَيْرُ وَاسِعَةٍ.　彼女の大学は広くありません。

اَلْمُوَظَّفُونَ غَيْرُ جُدُدٍ.　その職員たちは新人ではありません。

第７課　前置詞

１　前置詞

アラビア語には名詞や形容詞と異なり、格変化をせずに常に一定の語尾をとる品詞があります。前置詞はその代表的なもので、名詞の前に置かれ、所有関係を示したり、動詞との関係を示すなど、重要な役割を果たします。また、前置詞の後ろにくる名詞は属格になります。

次の８つの前置詞は最も代表的なものです。これらは人称代名詞の結合形とはすべて連結して書かれます。しかし、それ以外の単語とはبِとلِの２つを除いて分離して書かれます。「単」「双」「複」は「単数形」「双数形」「複数形」を表します。（　）内は女性形です。

		１人称	２人称（女性形）	３人称（女性形）
مَعَ（…と一緒に）	単	مَعِي	مَعَكَ (مَعَكِ)	مَعَهُ (مَعَهَا)
	双		مَعَكُمَا	مَعَهُمَا
	複	مَعَنَا	مَعَكُمْ (مَعَكُنَّ)	مَعَهُمْ (مَعَهُنَّ)
عَنْ（…に関して）	単	عَنِّي	عَنْكَ (عَنْكِ)	عَنْهُ (عَنْهَا)
	双		عَنْكُمَا	عَنْهُمَا
	複	عَنَّا	عَنْكُمْ (عَنْكُنَّ)	عَنْهُمْ (عَنْهُنَّ)
مِنْ（…から）	単	مِنِّي	مِنْكَ (مِنْكِ)	مِنْهُ (مِنْهَا)
	双		مِنْكُمَا	مِنْهُمَا
	複	مِنَّا	مِنْكُمْ (مِنْكُنَّ)	مِنْهُمْ (مِنْهُنَّ)

前置詞		1人称	2人称	3人称
فِي (…の中で)	単	فِيَّ	(فِيكِ) فِيكَ	(فِيهَا) فِيهِ
	双		فِيكُمَا	فِيهِمَا
	複	فِينَا	(فِيكُنَّ) فِيكُمْ	(فِيهِنَّ) فِيهِمْ
إِلَى (…へ)	単	إِلَيَّ	(إِلَيْكِ) إِلَيْكَ	(إِلَيْهَا) إِلَيْهِ
	双		إِلَيْكُمَا	إِلَيْهِمَا
	複	إِلَيْنَا	(إِلَيْكُنَّ) إِلَيْكُمْ	(إِلَيْهِنَّ) إِلَيْهِمْ
عَلَى (…の上に)	単	عَلَيَّ	(عَلَيْكِ) عَلَيْكَ	(عَلَيْهَا) عَلَيْهِ
	双		عَلَيْكُمَا	عَلَيْهِمَا
	複	عَلَيْنَا	(عَلَيْكُنَّ) عَلَيْكُمْ	(عَلَيْهِنَّ) عَلَيْهِمْ
بِ (…を使って)	単	بِي	(بِكِ)بِكَ	(بِهَا)بِهِ
	双		بِكُمَا	بِهِمَا
	複	بِنَا	(بِكُنَّ) بِكُمْ	(بِهِنَّ) بِهِمْ
لِ (…のために)	単	لِي	(لَكِ) لَكَ	(لَهَا) لَهُ
	双		لَكُمَا	لَهُمَا
	複	لَنَا	(لَكُنَّ) لَكُمْ	(لَهُنَّ) لَهُمْ

*عَنْ、فِي、مِنْ、إِلَى、عَلَىの1人称の形に注意してください。

*إِلَىとعَلَىは人称代名詞の結合形が付く場合、إِلَيْ、عَلَيْとなり、2重母音(لَيْ)で発音されます。

＊人称代名詞の結合形هُ、هُمَا、هُمْ、هُنَّは、第4章で学んだ原則にしたがって音声変化することに注意してください。

فِيهِ その中で　　إِلَيْهِمْ 彼らへ　　عَلَيْهِنَّ 彼女たちの上に

＊لِは1人称単数 (لِي) を除いて人称代名詞の結合形と連結するとすべてファトハで読まれます。また、لِと定冠詞اَلْが連結するとلِلْと書かれます。

لِلْحُرِّيَّةِ 自由のために

اَللّٰهُ「アッラー」、اَللُّغَةُ「言語」、اَللَّيْلَةُ「夜」などにلِが続く場合は、لِلُّغَةِ、لِلّٰهِ、لِلَّيْلَةِのようにلَّとして1つにまとめます。

また、長母音の後に定冠詞اَلْのاに代表されるハムザトルワスルが続く場合、長母音は短母音に変化します。したがってفِي、عَلَى、إِلَىも短母音で発音されます。

فِي ٱلْبَيْتِ (fi- lbayti) 家で　　عَلَى ٱلطَّاوِلَةِ (Aala-TTāwilati) テーブルの上に

إِلَى ٱلْقَاهِرَةِ (ila-lqāhirati) カイロへ

2　前置詞لِと形容詞の用法

形容詞と名詞の関係が、あいまいになることを避けるために前置詞لِを用いることがあります。

كَاتِبَةُ مَقَالَةِ ٱلْجَرِيدَةِ ٱلْمَشْهُورَةِ　その有名な新聞の記事の書き手は

كَاتِبَةُ مَقَالَةِ ٱلْجَرِيدَةِ ٱلْمَشْهُورَةُ　その新聞の記事の有名な書き手は

↓

اَلْكَاتِبَةُ ٱلْمَشْهُورَةُ لِمَقَالَةِ ٱلْجَرِيدَةِ　その新聞の記事の有名な書き手は

形容詞が2つ連続して用いられる場合、最初の形容詞は直前の名詞を修飾しますが、2番目の形容詞は、直前または分離された名詞を説明します。この場合もلِを用いてはっきりさせることができます。

صَالَةُ ٱلْمَكْتَبَةِ ٱلْوَطَنِيَّةِ ٱلْقَدِيمَةِ　その古い国立の図書館のホールは

صَالَةُ ٱلْمَكْتَبَةِ ٱلْوَطَنِيَّةِ ٱلْقَدِيمَةُ　その国立の図書館の古いホールは

↓

اَلصَّالَةُ ٱلْقَدِيمَةُ لِلْمَكْتَبَةِ ٱلْوَطَنِيَّةِ　その国立の図書館の古いホールは

3　補助母音

補助母音とは母音の変化のことで、スクーンとスクーンの連続を避けるために用いられ、最初のスクーンを変化させます。補助母音にはダンマ、ファトハ、カスラの３つが用いられます。代表的な例をいくつか示します。

◇ダンマ：人称代名詞の結合形هُمْとكُمْの後にハムザトルワスルがきた場合

بَيْتُهُمُ ٱلْكَبِيرُ　彼らの大きな家は

بَيْتُكُمُ ٱلصَّغِيرُ　あなた方の小さな家は

◇ファトハ：前置詞مِنْの後にハムザトルワスルがきた場合

مِنَ ٱلْمَدْرَسَةِ　その学校から

◇カスラ：疑問詞هَلْや前置詞عَنْ、双数形の語尾が省略された場合、また定冠詞اَلْの後にハムザトルワスルがきた場合

هَلِ ٱلْبَيْتُ...　その家は...ですか

عَنِ ٱلْمَدْرَسَةِ　その学校に関して

أُسْتَاذَيِ ٱلْجَامِعَةِ　その大学の２人の教授を[の]

اَلِاسْمُ　その名前

このほか、後述する動詞の活用に伴う補助母音をはじめとして、多くの場面で補助母音が用いられます。

４　存在と所有の表現

「私は…です」では英語のbe動詞にあたる連結詞は用いませんでしたが、存在「…が…にある、いる」を表現する場合も同様です。次の２つの方法があります。

主語を先に示し、その後に前置詞句を続ける場合は名詞先行文の原則にしたがって主語が限定名詞になります。

أَنَا فِي ٱلْبَيْتِ.	私は家にいます。
فِنْجَانُ ٱلْقَهْوَةِ عَلَى ٱلْمَائِدَةِ.	コーヒーカップが食卓の上にあります。
كِتَابِي مَعَكَ.	私の本はあなたと一緒にあります（あなたが持っています）。

前置詞句を先行させ、その後に主語を置く場合は、名詞先行文の変形ですが、通常、主語は非限定になります。この表現方法は、存在表現の最も一般的なものです。

فِي ٱلْبَيْتِ رَجُلٌ.	家に男の人が（１人）います。
عَلَى ٱلْمَائِدَةِ فِنْجَانٌ.	食卓の上にカップがあります。
مَعَكَ كِتَابٌ.	あなたと一緒に本があります(あなたは本を持っています)。

最後の例で明らかなように、「…が…にある、いる」という存在表現と「…が…を持っている」という所有表現は同じ構文になります。アラビア語では、所有状態を示す場合、このように前置詞が用いられます。所有の状態を表現するための代表的な前置詞としてはلِやمَعَ、そして次に学ぶ名詞型前置詞عِنْدَ「…のもとに」があります。所有表現で注意すべき点は、日本語では「…を持っている」の目的語にあたる言葉が、アラビア語では「…がだれだれと一緒にある、だれだれに属している、だれだれのもとにある」というように存在表現の主語として表現されるということです。

هَلْ مَعَكَ قَلَمٌ؟

あなたはペンを持っていますか（ペンがあなたと一緒にありますか）。

هَلْ لَهُ وَلَدٌ؟　彼には男の子がいますか（男の子は彼に属していますか）。

عِنْدِي مِمْحَاةٌ.　私は消しゴムを持っています（消しゴムが私のもとにあります）。

5　名詞型前置詞

アラビア語にはさきに学んだ８つの主要な前置詞に加えて名詞から派生した前置詞があります。前述の存在と所有の表現で学んだعِنْدَがその代表例です。本来は名詞であったものをタンウィーンなしの対格の形にして前置詞として用いるものです。

- عِنْدَ：…のもとに、…に際して、…の時間に

عِنْدَ ٱلْمَغْرِبِ　日没の時間に

عِنْدَكُمْ جُنَيْنَةٌ جَمِيلَةٌ.　あなた方のところにはきれいな庭があります。

- لَدَى：…のもとに、…に際し、…の時間に

لَدَى مُغَادَرَتِهَا　彼女の出発時に

لَدَيْهِ بِنْتٌ.　彼のもとに娘が１人います（彼には娘が１人います）。

＊لَدَىに人称代名詞の結合形が用いられると、عَلَىやإِلَىと同じようにلَدَيْと２重母音になります。

- أَمَامَ：…の前に［場所］

أَمَامَ ٱلْبِنَاءِ　そのビルの前で　　أَمَامَهُ　その前で、彼の前で

- قُدَّامَ：…の前に［場所］

قُدَّامَ ٱلْبَابِ　扉の前に

• وَرَاءَ：...の後ろに、...の向こう側に［場所］

وَرَاءَ ٱلْمَتْحَفِ　博物館の裏側に　　وَرَاءَهُمْ　彼らの後ろで

• خَلْفَ：...の後ろに［場所］

خَلْفَ ٱلْمَكْتَبَةِ　図書館の裏に

• قَبْلَ：...の前に［時間］

قَبْلَ ٱلظُّهْرِ　午前に　　قَبْلَ ذٰلِكَ　その前に

• بَعْدَ：...の後で［時間、地位］

بَعْدَ ٱلظُّهْرِ　午後に　　بَعْدَ ٱلرَّئِيسِ　大統領の次に

بَعْدَ ذٰلِكَ　その後で　　بَعْدَ قَلِيلٍ　しばらくして

• بَيْنَ：...の間で［場所、時間］

بَيْنَ ٱلرُّؤَسَاءِ　首脳たちの間で　　بَيْنَهُمْ　彼らの間で

بَيْنَ يَدَيْكَ　あなたの前に（あなたの両手の間に）

بَيْنَ ٱلصَّيْفِ وَٱلشِّتَاءِ　夏と冬の間に

＊وَ「...と...」は接続詞です。وَと次の文字の間は間隔をあけません。

人称代名詞の結合形が１つでも用いられるとبَيْنَが繰り返されます。また、فِيمَا بَيْنَとمَا بَيْنَもしばしばبَيْنَと同じように用いられます。

بَيْنِي وَبَيْنَكَ　私とあなたの間で

فِيمَا بَيْنَهُمْ　彼らの間で、互いに

مَا بَيْنَ ٱلنَّهْرَيْنِ　メソポタミヤ（２つの川、チグリスとユーフラテスの間）

＊بَيْنَمَاになると接続詞となり「...している間に」を意味します。

بَيْنَمَا نَحْنُ فِي ٱلسُّوقِ　私たちが市場にいる間に

- تِجَاهَ：…に対して、…に向かって [場所]

تِجَاهَ ٱلْغَرْبِ　西側に対して

- تِلْقَاءَ：…に対して、…の正面に [場所]

تِلْقَاءَهُ　彼の正面に

- حِذَاءَ：…に対して、…の正面に [場所]

حِذَاءَهَا　彼女の正面に

- فَوْقَ：…の上に、…の上位に [場所、重要性、数]

فَوْقَ ٱلطَّاوِلَةِ　テーブルの上に

- تَحْتَ：…の下に [場所、重要性、数]

تَحْتَ ٱلسَّمَاءِ　空の下で

- نَحْوَ：…の方角へ、およそ [数]

نَحْوَ ٱلشَّرْقِ　東の方へ

- حَوْلَ：…の周りに [場所]、…に関して

حَوْلَ ٱلْمَدِينَةِ　その町の周辺で　حَوْلَ ٱلشَّرْقِ ٱلْأَوْسَطِ　中東に関して

- عَبْرَ：…を越えて、…の向こうに [場所、時間]

عَبْرَ ٱلْبَحْرِ　海の向こうに　عَبْرَ ٱلتَّارِيخِ　歴史を越えて

- دُونَ / مِنْ دُونِ / بِدُونِ：…なしに、…の側に、…の下に

دُونَ ذٰلِكَ　それなしで　دُونَ ٱلطَّرِيقِ　道路のこちら側に

دُونَ ٱلْمُسْتَوَى　レベル以下で

- أَثْنَاءَ：…中に、…の間に [時間]

أَثْنَاءَ ٱلدَّرْسِ　授業中に

- خِلَالَ：…の間、…を通して［時間］

خِلَالَ ٱلسَّنَةِ　その年の間

- طُولَ：…を通じて

طُولَ ٱلْيَوْمِ　一日中

- عِوَضًا عَنْ/عِوَضَ：…の代わりに

عِوَضًا عَنْ ذٰلِكَ　その代わりに

- بَدَلاً مِنْ/بَدَلَ：…の代わりに

بَدَلَ ٱلْبِنْتِ　その娘の代わりに　　بَدَلاً مِنْهُ　その代わりに、彼の代わりに

これらの名詞型前置詞は、本来の前置詞と組み合わせて用いられる場合があります。この場合、名詞型前置詞は属格に変化します。

مِنْ تَحْتِ	…の下から、下で	مِنْ فَوْقِ	…の上から、…より上に
مِنْ عَلَى	…の上から	مِنْ عِنْدِ	…のところから
مِنْ قَبْلِ	…以前に	مِنْ بَعْدِ	…以後に
مِنْ خِلَالِ	…を通じて	مِنْ دُونِ	…なしで
مِنْ بَيْنِ	…の中から	مِنْ بَيْنِهِمْ	彼らの中から

第８課　指示代名詞

1　指示代名詞

指示代名詞とは、「これ」「あれ」などの物や事を示す代名詞です。日本語では話し手や聞き手からの遠近によって「これ」「それ」「あれ」と３つに区別しますが、アラビア語では「これ」「あれ」の２つの区別になります。また、アラビア語の指示代名詞は名詞の性や数によってかたちが変化します。なお、場所を示す「ここ」「あそこ」も指示代名詞に含まれます。

指示代名詞は、双数形を除いて常に一定の形をとります。そして用いられた場にしたがって、主格、対格、属格の働きをします。双数には主格と（　）内で示した対格、属格の区別があることに注意してください。

	これ：近称	あれ：遠称
単数男性	هٰذَا	ذَاكَ／ذٰلِكَ
単数女性	هٰذِهِ	تِلْكَ
双数男性	هٰذَانِ (هٰذَيْنِ)	ذَانِكَ (ذَيْنِكَ)
双数女性	هٰتَانِ (هٰتَيْنِ)／هَاتَانِ (هَاتَيْنِ)	تَانِكَ (تَيْنِكَ)
複数	هٰؤُلَاءِ	أُولَائِكَ／أُولٰئِكَ

	ここ	あそこ
場所	هٰهُنَا／هُنَا	هُنَالِكَ／هُنَاكَ

＊أُولٰئِكَのوは発音に影響を与えません。したがってأُは、短母音で発音されます。

2　主語としての指示代名詞

指示代名詞は特定のものを示しますから、限定名詞として扱われます。ですから人称代名詞と同じように単独で「…は…である」型の文の主語となることができます。この意味で指示代名詞が主語となる文も名詞先行文ということができます。また主語と述部の性や数の一致についても人称代名詞の場合と同じ原則が適用されます。

هٰذَا كِتَابٌ.　これは本です。

هٰذِهِ جَامِعَةٌ عَرِيقَةٌ.　これは由緒ある大学です。

هٰذَانِ كِتَابَانِ جَدِيدَانِ.　これは２冊の新しい本です。

هَاتَانِ مَجَلَّتَانِ جَدِيدَتَانِ.　これは２冊の新しい雑誌です。

هٰؤُلَاءِ طُلَّابٌ جُدُدٌ.　これらは新入生たちです。

＊指示代名詞の複数形هٰؤُلَاءِ、أُولٰئِكَは、ともに人間に対してしか用いられません。物や他の生物を意味する名詞の複数形は文法上は女性単数名詞として扱われるからです。

3　指示代名詞の同格用法

指示代名詞の後に定冠詞の付いた限定名詞を用いる用法です。その名詞が指示代名詞と同格のものとみなされ、訳す場合には「この…」とします。なお、双数の場合、指示代名詞と限定名詞の格変化は同じになります。

هٰذَا ٱلْكِتَابُ　この本は（主格）　　هٰذَا ٱلْكِتَابَ　この本を（対格）

هٰذَا ٱلْكِتَابِ　この本の（属格）

هٰذَانِ ٱلصَّدِيقَانِ　この２人の友人は（主格）

هٰذَيْنِ ٱلصَّدِيقَيْنِ　この2人の友人を［の］（対格、属格）

指示代名詞の同格用法も当然、限定名詞として扱われますから名詞先行文の主語となります。

هٰذَا ٱلْكِتَابُ جَدِيدٌ.　この本は新しいです。

هٰذِهِ ٱلْمَجَلَّةُ جَدِيدَةٌ.　この雑誌は新しいです。

هٰذَا كِتَابٌ.「これは本です」のように、名詞先行文の基本は述部が非限定です。しかし「これがその本です」というように述部を限定名詞として用いたい場合はどうするのでしょう。

本を定冠詞が付いた限定名詞として用いると、هٰذَا ٱلْكِتَابُ「この本は」と同格用法となってしまいます。これを避けるためにهٰذَاとٱلْكِتَابُの間にٱلْكِتَابُに対応する人称代名詞の独立形هُوَを挿入します。

هٰذَا هُوَ ٱلْكِتَابُ.　これがその本です。

هٰذِهِ هِيَ ٱلْمَجَلَّةُ.　これがその雑誌です。

هٰؤُلَاءِ هُمُ ٱلطُّلَّابُ.　これらがその学生たちです。

名詞に人称代名詞の結合形が付いているものや、属格関係を形成した結果、限定名詞となったものはそのまま述部としても用いることができます。また、（　）内に示したように、人称代名詞の独立形をその前に置くこともできます。

هٰذَا (هُوَ) بَيْتُكُمْ.　これがあなた方の家です。

هٰذِهِ (هِيَ) جَامِعَتُنَا.　これが私たちの大学です。

هٰؤُلَاءِ (هُمْ) مُعَلِّمُوكَ.　これらがあなたの先生たちです。

هٰذَا (هُوَ) بَابُ ٱلْمَدْرَسَةِ.　これがその学校の門です。

定冠詞の付いていない限定名詞とは「人称代名詞の結合形が付いているもの」「属格関係のなかで先行する語となっているもの」「固有名詞」の３つを意味します。上述のようにهٰذَا بَيْتُكُمْ.は、「これがあなた方の家です」となりますが、هٰذَاとبَيْتُكُمْを同格として「あなた方のこの家」と言いたい場合は、هٰذَاを名詞

の後へもっていきます。

بَيْتُكُمْ هٰذَا　あなた方のこの家は　أُمُّهَا هٰذِهِ　彼女のこの母親は

طُلاَّبُكُمْ هٰؤُلاَءِ　あなた方のこの学生たちは

属格関係のなかで先行する語の場合はこうなります。

بَابُ ٱلْمَدْرَسَةِ هٰذَا　その学校のこの門は

حَدِيقَةُ ٱلْمَدِينَةِ هٰذِهِ　その町のこの公園は

كُتَّابُ بِلاَدِنَا هٰؤُلاَءِ　私たちの国のこの作家たちは

これら３つの例と次の例の区別がきちんとつくようにしておきましょう。

بَابُ هٰذِهِ ٱلْمَدْرَسَةِ　この学校の門は

حَدِيقَةُ هٰذِهِ ٱلْمَدِينَةِ　この町の公園は

كُتَّابُ بِلاَدِنَا هٰذِهِ　私たちのこの国の作家たちは

固有名詞の場合はこうなります。

مُحَمَّدٌ هٰذَا　このムハンマドは　دِمَشْقُ هٰذِهِ　このダマスカスは

第９課　「私は学生です」の過去と否定

1　كَانَ とلَيْسَ

كَانَはこれまで学んだ名詞先行文を過去形にするための動詞です。またلَيْسَは名詞先行文を否定文にするための動詞です。動詞は、主語の性、数に応じた活用をもっています。

◇كَانَの活用：

	単数	双数	複数
３人称男性	كَانَ	كَانَا	كَانُوا
３人称女性	كَانَتْ	كَانَتَا	كُنَّ
２人称男性	كُنْتَ	كُنْتُمَا	كُنْتُمْ
２人称女性	كُنْتِ	كُنْتُمَا	كُنْتُنَّ
１人称	كُنْتُ		كُنَّا

◇لَيْسَの活用：

	単数	双数	複数
３人称男性	لَيْسَ	لَيْسَا	لَيْسُوا
３人称女性	لَيْسَتْ	لَيْسَتَا	لَسْنَ
２人称男性	لَسْتَ	لَسْتُمَا	لَسْتُمْ
２人称女性	لَسْتِ	لَسْتُمَا	لَسْتُنَّ
１人称	لَسْتُ		لَسْنَا

＊３人称男性複数の最後のاは、次にくる単語とスペースをあけないで用いる接続詞

の و「そして」と区別するためのもので、発音には関係ありません。ا のこの用法は今後、動詞の活用語尾が複数を示す و になる場合に必ず出てきます。

まず、أَنَا طَالِبٌ.「私は学生です」の文を過去形と否定文になおしてみます。

كُنْتُ طَالِبًا. 私は学生でした。

لَسْتُ طَالِبًا. 私は学生ではありません。

このように كَانَ や لَيْسَ を主語の性、数に対応した形で活用させます。活用が示す主語は決まっていますから、強調の場合を除いて人称代名詞の独立形は省かれます。主語が人称代名詞以外の場合、كَانَ と لَيْسَ は主語の後ろに置かれます。また注意すべき点は、述部が名詞や形容詞の場合、それを主格から対格に変化させることです。

كَانَ を用いるとどこが変化するかをしっかり確認しておきましょう。

هٰذَا ٱلرَّجُلُ كَانَ كَرِيمًا. この男は寛大でした。

اَلْوُزَرَاءُ كَانُوا مَشْغُولِينَ. 大臣たちは忙しかった。

اَلْمُمَثِّلَاتُ كُنَّ مَشْغُولَاتٍ. その女優たちは忙しかった。

لَيْسَ を用いるとどこが変化するかをしっかり確認しておきましょう。

هٰذَا ٱلرَّجُلُ لَيْسَ كَرِيمًا. この男は寛大ではありません。

اَلْوُزَرَاءُ لَيْسُوا مَشْغُولِينَ. 大臣たちは忙しくありません。

اَلْمُمَثِّلَاتُ لَسْنَ مَشْغُولَاتٍ. その女優たちは忙しくありません。

لَيْسَ はしばしば前置詞 بِ を伴い、その場合、述部は属格になります。

اَلْمَلِكُ لَيْسَ بِكَرِيمٍ. 王様は寛大ではありません。

* بِ はこの場合、強調、確認の役割を果たします。

否定文の疑問詞にはأَが用いられ、هَلْは用いられません。答えにはلاَ（そうではないことを肯定する）、بَلَى（そうではないことを否定する）を用います。

أَلَسْتَ مُعَلِّمًا؟　あなたは教師ではないのですか。

لاَ، لَسْتُ مُعَلِّمًا.　はい、私は教師ではありません。

بَلَى، أَنَا مُعَلِّمٌ.　いいえ、私は教師です。

2　存在と所有の表現の過去と否定

第7課で学んだ、前置詞句を伴う名詞先行文の重要な構文ですが、この表現の過去と否定を確認しておきましょう。述部が前置詞句の場合、كَانَやلَيْسَを用いても述部はそのままの形を維持します。

كُنْتُ فِي ٱلْبَيْتِ.　私は家にいました。　لَسْتُ فِي ٱلْبَيْتِ.　私は家にいません。

كِتَابُكَ كَانَ مَعِي.　あなたの本は私が持っていました。

كِتَابُكَ لَيْسَ مَعِي.　あなたの本は私は持っていません。

前置詞句が主語に先行している場合、前置詞句の前にكَانَ、لَيْسَを置きます。

كَانَ فِي ٱلْبَيْتِ رَجُلٌ.　家に男の人がいました。

لَيْسَ فِي ٱلْبَيْتِ رَجُلٌ.　家に男の人はいません。

كَانَ عِنْدِي سَيَّارَةٌ جَمِيلَةٌ.　私はきれいな車を持っていました。

لَيْسَ عِنْدِي سَيَّارَةٌ جَمِيلَةٌ.　私はきれいな車を持っていません。

＊最後の２つの例のように、主語がسَيَّارَةٌという女性名詞であるにもかかわらず動詞がكَانَ、لَيْسَと男性形で用いられることがあります。文法的には動詞と主語が前置詞句（عِنْدِي）によって分断された場合、動詞は主語の性の影響を受けないので、誤りとはいえません。しかし主語の性と動詞の性は一致させることが大原則ですので、学習者は最後の例についても、كَانَ、لَيْسَの代わりに、كَانَتْ、لَيْسَتْを用いるよう注意してください。

كَانَの文を否定する場合、否定詞مَاをكَانَの前に置きます。

مَا كُنْتُ مُعَلِّمًا. 私は教師ではありませんでした。

مَا كُنْتُ فِي ٱلْبَيْتِ. 私は家にいませんでした。

مَا كَانَتْ عِنْدِي سَيَّارَةٌ. 私は車を持っていませんでした。

3　名詞先行文と動詞先行文

名詞先行文の場合、前述のように主語の後にكَانَやلَيْسَを置き、これを主語の性と数に一致させる必要があります。しかしアラビア語にはكَانَやلَيْسَのような動詞を先行させる用法があります。それが動詞先行文です。動詞先行文の原則は、次の3点です。

- 主語の数に影響されず、常に単数の活用が用いられます。
- 主語の性に一致させた活用が用いられます(ただし、動詞と主語が前置詞句によって分断された場合、動詞は主語の性の影響を受けません)。
- いったん主語が提示されたあと、その主語を維持したまま新たな文を続ける場合、動詞には主語の数と性に一致した活用が用いられます。

前述の名詞先行文のいくつかを動詞先行文で書き直してみます。

كَانَ هٰذَا ٱلرَّجُلُ كَرِيمًا. この男は寛大でした。

كَانَ ٱلْوُزَرَاءُ مَشْغُولِينَ. 大臣たちは忙しかったです。

لَيْسَتِ ٱلْمُمَثِّلَاتُ مَشْغُولَاتٍ. 女優たちは忙しくありません。

* لَيْسَتِは本来の活用لَيْسَتْに補助母音のカスラが付いた形です。

次の例はいったん主語が提示され、その主語を維持したまま新たな文が続いている場合です。

كَانَ ٱلطُّلَّابُ فِي ٱلْمَكْتَبَةِ وَكَانُوا مَشْغُولِينَ.

学生たちは図書館にいました。そして彼らは忙しかったです。

この原則はこれから扱うすべての動詞と主語の関係に適用されます。

第10課　3語根動詞と完了形

1　アラビア語の動詞の基本

アラビア語の大きな特徴は語根と呼ばれる3つの文字が動詞を形成し、大部分の単語はこの動詞の語形変化によって誕生しているという点です。したがって、ある単語の形を説明する場合に、しばしば基本となっている動詞を意味するためにفَعَلという3文字（فَعَلは「行為を行なう」ことを意味します）が用いられます。فَعَلによってパターンを示す方法は不規則複数形や形容詞、動詞の派生形など、さまざまなところで用いられます。本書ではこの3語根によって形成されている動詞を3語根動詞と呼び、また3語根のみで成立している動詞を3語根動詞の「原形」と呼びます。原形は、活用と意味の両面において、後に学ぶ動詞の派生形の土台を成しています。

2　3語根動詞の原形と辞書

3語根動詞の原形がさまざまな単語の土台になっていることを理解することは、辞書を引く場合、大変重要になります。というのは、この原形が辞書の見出し語になっているからです。後にさまざまな名詞のパターンや動詞の派生形などを学びますが、大部分の単語は、原形の見出し語のなかに見い出されるのです。言い替えれば、辞書を引くということは単語の3語根は何かということを認識する行為にほかならないのです。たとえば次の例は、右側にあげた動詞の見出し語のところに左側の単語が載っているということです。

単語	辞書の見出し語［原形］
مَدْرَسَةٌ（学校）、دَرْسٌ（レッスン）	دَرَسَ（勉強する）
مَكْتَبٌ（事務所）、كَاتِبٌ（作家）	كَتَبَ（書く）
عَالِمٌ（学者）、مُعَلِّمٌ（教師）	عَلِمَ（知る）
مَعْمَلٌ（工場）、عَامِلٌ（労働者）	عَمِلَ（働く）

◇重要な３語根動詞の原形：

ذَهَبَ	سَأَلَ	نَزَلَ	كَسَرَ	سَرَقَ	حَمَلَ
行く	尋ねる	下りる	壊す	盗む	運ぶ
شَكَرَ	بَلَغَ	وَصَلَ	ظَهَرَ	جَمَعَ	صَنَعَ
感謝する	達する	到着する	現れる	集める	作る
عَرَفَ	قَطَعَ	مَنَعَ	أَكَلَ	طَلَعَ	شَعَلَ
知る	切る	禁止する	食べる	登る	火をつける
فَتَحَ	وَلَدَ	هَرَبَ	سَبَحَ	دَرَسَ	جَعَلَ
開く	産む	逃げる	泳ぐ	勉強する	創る
لَعِبَ	سَمِعَ	فَهِمَ	حَزِنَ	شَرِبَ	مَرِضَ
遊ぶ	聞く	理解する	悲しむ	飲む	病気になる
رَكِبَ	ضَحِكَ	حَفِظَ	قَبِلَ	عَمِلَ	غَضِبَ
乗る	笑う	記憶する	受け入れる	働く	怒る
كَرُمَ	ثَقُلَ	حَسُنَ	كَثُرَ	كَبُرَ	صَغُرَ
寛大である	重たくなる	よくなる	多くなる	大きくなる	小さくなる

上に示したように、３語根動詞の原形にはفَعَلَ型（３語根すべてがファトハ。たとえばذَهَبَ「行く」)、فَعِلَ型（第２語根がカスラ。たとえばشَرِبَ「飲む」)、そして動詞としてはあまり多く用いられませんが、فَعُلَ型（第２語根がダンマ。たとえばكَبُرَ「大きくなる」)の３つの形があります。

３　３語根動詞の完了形

まず、ذَهَبَ「行く」を例に完了形の活用を示します。完了形の活用の特徴は、３人称男性単数を活用の基本とし、その後ろに、تَをはじめとする接尾辞

が加えられることです。

	単数	双数	複数
3人称男性	ذَهَبَ	ذَهَبَا	ذَهَبُوا
3人称女性	ذَهَبَتْ	ذَهَبَتَا	ذَهَبْنَ
2人称男性	ذَهَبْتَ	ذَهَبْتُمَا	ذَهَبْتُمْ
2人称女性	ذَهَبْتِ	ذَهَبْتُمَا	ذَهَبْتُنَّ
1人称	ذَهَبْتُ		ذَهَبْنَا

この活用を接尾辞のみを取り出して示すと以下のようになります。接尾辞の前の発音記号は第3語根の発音を示しています。

	単数	双数	複数
3人称男性	（なし）	ـَا	ـُوا
3人称女性	ـَتْ	ـَتَا	ـْنَ
2人称男性	ـْتَ	ـْتُمَا	ـْتُمْ
2人称女性	ـْتِ	ـْتُمَا	ـْتُنَّ
1人称	ـْتُ		ـْنَا

＊كَانَのところで説明したように、動詞の活用自体が主語を示していますから、主語が人称代名詞の場合、強調の場合を除いて主語は省かれます。その他、動詞先行文と名詞先行文に適用される諸原則も同じです。

ذَهَبَ إِلَى ٱلْمَكْتَبَةِ. 彼は図書館へ行きました。

اَلطُّلَّابُ فَهِمُوا قَوْلَهُ. 学生たちは彼の言うことを理解しました。

فَهِمَ ٱلطُّلَّابُ قَوْلَهُ. 学生たちは彼の言うことを理解しました。

ٱلْبَنَاتُ رَجَعْنَ مِنَ ٱلْمَدْرَسَةِ. 娘たちは学校から戻りました。

رَجَعَتِ ٱلْبَنَاتُ مِنَ ٱلْمَدْرَسَةِ. 娘たちは学校から戻りました。

دَخَلَتِ ٱلنِّسَاءُ إِلَى ٱلْغُرْفَةِ وَخَرَجْنَ مِنْهَا بَعْدَ قَلِيلٍ.

女性たちは部屋に入り、しばらくしてそこから出てきました。

完了形の否定にはمَاを用い、動詞の前に置きます。

مَا ذَهَبَ إِلَى ٱلْمَدْرَسَةِ. 彼は学校へ行きませんでした。

مَا كَانَتْ هٰذِهِ ٱلْمَرْأَةُ أُسْتَاذَةً. この女性は教授ではありませんでした。

ٱلْبَنَاتُ مَا شَرِبْنَ ٱلْقَهْوَةَ. 娘たちはコーヒーを飲みませんでした。

完了形が用いられるのは、過去のある時点に発生したこと、すでに完了した行為、現在に近い過去(その行為が現在まで影響を及ぼしている、英語の現在完了)を示す場合です。قَدْはしばしば完了形動詞の前に置かれ、文脈によって完了の確認や強調、現在との関連性の確認などの役割を果たします。

قَدْ وَصَلْتُ إِلَى ٱلْمَحَطَّةِ. 私は駅にすでに到着していました。

قَدْに強調詞のلَが付いたلَقَدْが完了形の前に使われることもあります。事実の強調などに使われます。またقَدْは後述の未完了形にも用いられますが、لَقَدْは完了形のみに用いられます。

لَقَدْ بَحَثْنَا ٱلْقَضِيَّةَ فِي ٱلِاجْتِمَاعِ. 私たちは会議でその問題を検討したのです。

4　3語根動詞の注意すべき活用

目的語として人称代名詞の結合形を用いる場合、以下の2つの活用に注意してください。3人称男性複数の活用ではاが省略され、2人称男性複数の活用ではوが書き加えられます。

شَرِبُوهُ. 彼らはそれを飲みました。

شَرِبْتُمُوهُ. あなた方はそれを飲みました。

第３語根がتの場合、１人称単数、２人称男女単数、２人称男性複数の活用語尾のتと重なるため、تは１つになってシャッダ記号が付きます。

سَكَتَ. 彼は黙りました。

سَكَتَّ. あなた(男性)は黙りました。 سَكَتِّ. あなた(女性)は黙りました。

سَكَتُّ. 私は黙りました。 سَكَتُّمْ. あなた方は黙りました。

第３語根がنの場合、１人称複数、３人称女性複数の活用語尾のنと重なるため、نは１つになってシャッダ記号が付きます。

سَكَنَ. 彼は住みました。

سَكَنَّا. 私たちは住みました。

سَكَنَّ. 彼女たちは住みました。

＊第３語根がث、د、ذ、ض、ط、ظの場合、１人称単数、２人称男女単数、２人称男性複数の活用ではبَعَثُّ「私は送った」、قَبَضتَّ「あなたはつかんだ」、عَقَدتُّمْ「あなた方は縛った」のように、第３語根はتに吸収されるとしてتにシャッダ記号を付けることがあります。しかし、本書ではこの方式を採用せずبَعَثْتُ、قَبَضْتَ、عَقَدْتُمْと母音記号をふっていますので、その母音記号通りに発音してください。

５　動詞と前置詞

動詞の中には常に一定の前置詞を伴って用いられるものがあります。動詞とこの前置詞の組み合わせをきちんと覚えることは文章を正確に理解するために大変重要なことです。辞書を引くときには動詞と前置詞の関係を確認するように注意しなければなりません。また同じ動詞が、伴う前置詞の違いによって異なる意味をもつこともあります。

• بَحَثَ「検討する」／بَحَثَ عَنْ「探す」

بَحَثَ ٱلْقَضِيَّةَ. 彼はその問題について検討しました。

بَحَثَ عَنِ ٱلْكِتَابِ. 彼はその本を探しました。

• حَصَلَ「起きる」／حَصَلَ عَلَى「取得する」

حَصَلَتْ حَوَادِثُ كَثِيرَةٌ. たくさんの出来事が起こりました。

حَصَلَ عَلَى ٱلشَّهَادَةِ. 彼は証明書を取得しました。

• نَظَرَ إِلَى「見る」／نَظَرَ فِي「検討する」

نَظَرَ إِلَى ٱلرَّجُلِ. 彼はその男を見つめました。

نَظَرَ فِي ٱلْأَمْرِ. 彼はそのことを検討しました。

6　疑問詞のまとめ

疑問文をつくる疑問詞هَلْとأَはすでに学びました。ここではその他の疑問詞をまとめておきます。これらの疑問詞は通常、文頭に置かれます。また、前置詞と一緒に用いられる場合もあります。

• مَنْ：だれ

مَنْ هٰذَا؟ これはだれですか。

مَنْ دَرَسَ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ؟ だれがアラビア語を勉強したのですか。

• أَيْنَ：どこ［場所］

أَيْنَ كُنْتَ؟ あなたはどこにいたのですか。

إِلَى أَيْنَ ذَهَبْتَ؟ あなたはどこへ行ったのですか。

مِنْ أَيْنَ أَنْتَ؟ あなたはどこ出身ですか。

• مَا：何［通常、名詞先行文に用いられます］

مَا هٰذَا؟ これは何ですか。　　مَا ٱسْمُهَا؟ 彼女の名前は何ですか。

• مَاذَا：何［通常、動詞先行文に用いれらます］

مَاذَا دَرَسْتَ؟ あなたは何を勉強しましたか。

• كَيْفَ：どうやって［方法、様子］

كَيْفَ ذَهَبْتَ إِلَى ٱلْمَطَارِ؟ あなたはどうやって空港へ行ったのですか。

كَيْفَ حَالُكَ؟ 元気ですか（あなた[男性]の状態はどうですか)。

• مَتَى：いつ［時間］

مَتَى وَصَلْتُمْ؟ あなた方はいつ到着したのですか。

• لِمَاذَا：どうして［原因、理由］

لِمَاذَا أَكَلْتَ ٱلْكَبَابَ؟ どうしてあなたはカバーブを食べたのですか。

• أَيٌّ：どの、どんな種類の、何の

この疑問詞はもともと名詞であるため、その役割に従って格変化をします。他の非限定名詞(通常、単数が多く用いられます)と属格関係をつくります。

أَيُّ كِتَابٍ هٰذَا؟ これは何の本ですか。

أَيَّ كِتَابٍ قَرَأْتَ؟ あなたはどの本を読んだのですか。

後ろにくる名詞が女性名詞の場合、أَيَّةٌとなりますが、この原則はしばしば無視され、أَيٌّのままで用いられることもあります。

إِلَى أَيَّةِ (أَيِّ) مَدْرَسَةٍ ذَهَبَتْ؟ 彼女はどの学校へ行ったのですか。

أَيٌّの後に限定名詞の複数形や人称代名詞の結合形(双数や複数)が用いられた場合、「…のうちのどれ（どちらか１つ)」を意味します。

فِي أَيِّ ٱلْبُلْدَانِ ٱلْعَرَبِيَّةِ عَمِلْتُمْ؟ あなた方はどのアラブ諸国で働いたのですか。

第11課　３語根動詞と未完了形

1　３語根動詞の未完了形

未完了形は、まだ終了していない行為、現在も引き続いて行なわれている行為や状態、習慣としている行為、そして近い未来を表現します。

完了形では主語を示すために接尾辞が用いられましたが、未完了形では接頭辞がおもにその役割を果たします。ただし２人称女性や双数、複数では接尾辞も用いられます。なお、第２語根の母音は動詞によって異なります。

まず、كَتَبَ「書く」を例に未完了形の活用を示します。

	単数	双数	複数
３人称男性	يَكْتُبُ	يَكْتُبَانِ	يَكْتُبُونَ
３人称女性	تَكْتُبُ	تَكْتُبَانِ	يَكْتُبْنَ
２人称男性	تَكْتُبُ	تَكْتُبَانِ	تَكْتُبُونَ
２人称女性	تَكْتُبِينَ	تَكْتُبَانِ	تَكْتُبْنَ
１人称	أَكْتُبُ		نَكْتُبُ

この活用を接頭辞と接尾辞で示してみると以下のようになります。

	単数	双数	複数
３人称男性	يَـــْـــُ	يَـــْـــَـانِ	يَـــْـــُـونَ
３人称女性	تَـــْـــُ	تَـــْـــَـانِ	يَـــْـــْـنَ
２人称男性	تَـــْـــُ	تَـــْـــَـانِ	تَـــْـــُـونَ
２人称女性	تَـــْـــِـينَ	تَـــْـــَـانِ	تَـــْـــْـنَ
１人称	أَ ـــْـــُ		نَـــْـــُ

３語根動詞の原形にはفَعَلَ型、فَعِلَ型、فَعُلَ型の３つの型があることは前章で説明しました。完了形の活用では、これらの動詞の第２語根の発音の違いは問題になりませんが、未完了形の活用ではいくつか注意すべき点があります。

◇فَعَلَ型：未完了形ではファトハ、カスラ、ダンマの３つが第２語根に出てきます。

原形	ذَهَبَ	行く	未完了形	يَذْهَبُ	第２語根	（ファトハ）
	فَتَحَ	開く		يَفْتَحُ		（ファトハ）
	جَلَسَ	座る		يَجْلِسُ		（カスラ）
	رَجَعَ	戻る		يَرْجِعُ		（カスラ）
	دَخَلَ	入る		يَدْخُلُ		（ダンマ）
	خَرَجَ	出る		يَخْرُجُ		（ダンマ）

◇فَعِلَ型：未完了形では第２語根はファトハになります。

原形	شَرِبَ	飲む	未完了形	يَشْرَبُ
	فَهِمَ	理解する		يَفْهَمُ

◇فَعُلَ型：未完了形でも第２語根はダンマになります。

原形	كَبُرَ	大きくなる	未完了形	يَكْبُرُ
	حَسُنَ	良くなる		يَحْسُنُ

このように動詞によって第２語根がファトハ、カスラ、ダンマに区別されます。第２語根の読み方を知るにはもちろん暗記が重要ですが、辞書によって確認することができます。درسの項目を引いて、درس darasa uとあれば、uが未完了形の第２語根の発音を示します。アラビア語―アラビア語辞書では、「دَرَسَ: ـُ」や「دَرَسَ يَدْرُسُ」と示してあるものもあります。

未完了形の否定には通常لَاを用いますが、مَاやلَيْسَが用いられる場合もあります。لَيْسَを用いる場合には、主語の性と数に対応した活用を選ばなければなりません。لَاやمَاは常にこの形で用いられます。

لَا يَشْرَبُ ٱلْقَهْوَةَ. 彼はコーヒを飲みません。

لَسْتُ أَعْرِفُ ذٰلِكَ. 私はそのことを知りません。

完了形のところでも触れましたが、قَدْは未完了形にも用いられ、可能性や推測の意味を示します。

قَدْ تَتْرُكُ وَطَنَهَا. 彼女は祖国を去るかもしれません。

قَدْ لَا يَفْهَمُ ٱلدَّرْسَ. 彼はその授業を理解しないかもしれない。

＊قَدْの後に否定詞لَاを置き、否定の可能性を示す場合があります。

2 未来

近い未来であれば未完了形を用いて表現することができます。

يَقْرَأُ هٰذَا ٱلْكِتَابَ غَدًا. 明日、彼はこの本を読みます。

はっきりと未来を示す場合、また将来への意志を表明するにはسَ（連結させて書き加えます）、あるいはسَوْفَ（動詞とは分離して前に書き加えます）を用います。そして通常سَが近い未来を示すのに対して、سَوْفَはより遠い将来を示すとされますが、明確な使用上の区別はありません。

سَوْفَ نَدْرُسُ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ مَعًا./ سَنَدْرُسُ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ مَعًا.

私たちは一緒にアラビア語を勉強するでしょう(勉強するつもりです／勉強することになるでしょう)。

لَسَوْفَは、سَوْفَに強調詞لَが付けられた形で、未来を強調する時に用いられます。また接続詞のوَ「そして」やفَ「それで」の後にこの強調詞がくる場合、لَは母音を失い、لْとなります。

لَسَوْفَ نَبْحَثُ عَنْهُ إِلَى ٱلْأَبَدِ. (本当に)我々は永遠にそれを探しつづけます。

وَلَسَوْفَ يَعْمَلُ فِي ٱلْبَلَدِيَّةِ.　そして(本当に)彼は市役所で働くはずです。

سَは肯定文でしか用いませんが、سَوْفَは否定文でも用いる場合があります。その場合、سَوْفَの後ろに否定詞لاَを置きます。

سَوْفَ لاَ يَتْرُكُ بَلَدَهُ.　彼は自分の国を去らないでしょう。

3　助動詞的なكَانَの用法

アラビア語の時制は、基本的に完了形、未完了形の２つで示されますが、この２つの活用がもつ時制は、すでに学んだように、かなり広い範囲に及んでいます。この時制をより限定するためにكَانَを助動詞的に用いる用法があります。كَانَの完了形の活用はすでに学びましたので、ここでは未完了形の活用を見てみましょう。

	単数	双数	複数
３人称男性	يَكُونُ	يَكُونَانِ	يَكُونُونَ
３人称女性	تَكُونُ	تَكُونَانِ	يَكُنَّ
２人称男性	تَكُونُ	تَكُونَانِ	تَكُونُونَ
２人称女性	تَكُونِينَ	تَكُونَانِ	تَكُنَّ
１人称	أَكُونُ		نَكُونُ

動詞先行文の場合、主語はكَانَと動詞の間に入ります。主語の後ろにくる動詞は主語の性、数に一致した活用をとります。

◇كَانَの未完了形を単独で用いる：「…になる」（「…は…である」の未来、推測）

يَكُونُ مُعَلِّمًا.　彼は教師になるでしょう。彼は教師なのでしょう。

أَكُونُ فِي ٱلْمَكْتَبَةِ غَدًا.　私は明日、事務所にいます。

◇كَانَの未完了形＋動詞完了形：未来完了

يَكُونُ مُحَمَّدٌ وَصَلَ إِلَى ٱلْمَحَطَّةِ.　ムハンマドは駅に着いているでしょう。

◇كَانَの完了形＋動詞完了形：過去完了

كَانَتِ ٱلْمُحَاضَرَةُ قَدْ بَدَأَتْ. その講演はすでに始まってしまっていました。

◇كَانَの完了形＋動詞未完了形：過去進行形、過去の習慣

كُنْتُ أَقْرَأُ ٱلْمَجَلَّةَ فِي ٱلْمَكْتَبَةِ. 私は図書館でその雑誌を読むことにしていました。

كَانَ ٱلطُّلاَّبُ يَقْرَأُونَ ٱلْجَرِيدَةَ. 学生たちはその新聞を読んでいました。

4 مُنْذُとその仲間

アラビア語の多くの単語は、名詞や形容詞のように格変化に伴う語尾変化をもっていますが、なかには一定の語尾でしか用いられない単語があります。主要な前置詞、そして代名詞や接続詞などがその代表的なものですが、ここでは常に語尾がダンマになる単語と表現を見てみましょう。

• مُنْذُ：…以来、前に、…したときから

前置詞として、また接続詞として用いられます。

عَرَفْتُهَا مُنْذُ سَنَةٍ. 私は1年前に彼女のことを知りました。

أَعْرِفُهَا مُنْذُ كُنْتُ طَالِبًا فِي ٱلْجَامِعَةِ. 私は私が大学生の時から彼女を知っています。

• قَبْلُ：以前に

しばしばقَبْلُは前置詞مِنْと組み合わされて用いられますが、意味も変わらず、ダンマがカスラに変化することもありません。一方、قَبْلَのように名詞型前置詞として用いられる場合には、その前にمِنْがくるとمِنْ قَبْلِと語尾変化をおこします。

مَا عَرَفْتُ ذٰلِكَ مِنْ قَبْلُ. 私は以前、そのことを知りませんでした。

قَبْلَ ٱلدَّرْسِ 授業の前に　　مِنْ قَبْلِ الدَّرْسِ 授業の前から

• بَعْدُ：その後で、後に

بَعْدُはفِيمَا بَعْدُやمِنْ بَعْدُという形で用いられます。注意する用法としては手紙文

に用いられるأَمَّا بَعْدُがあります。これは本文導入詞というべきものですが、「さて」とあえて訳す必要がない場合もあります。

سَوْفَ نَدْرُسُ ٱلْمَوْضُوعَ فِيمَا بَعْدُ. 私たちはその問題を後ほど検討するでしょう。

قَرَأَهَا آبَاؤُنَا مِنْ قَبْلُ وَنَقْرَأُهَا نَحْنُ مِنْ بَعْدُ.

以前、私たちの親たちがそれを読み、後に私たちがそれを読んでいます。

اَلسَّيِّدُ رَئِيسُ ٱلتَّحْرِيرِ ٱلْمُحْتَرَمُ أَمَّا بَعْدُ 編集長様、さて、……

• حَيْثُ：そこで

زَارَ ٱلْقَاهِرَةَ حَيْثُ دَرَسَ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ.

彼はカイロを訪れました。そこでアラビア語を勉強しました。

*حَيْثُの用法は多岐にわたりますが、その用法については第34課も参照してください。

5　حَتَّىの用法

完了形とともに用いられると、実際その行為が終了したこと、「その結果…した」という意味を示します。

دَرَسَتِ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ حَتَّى حَصَلَتْ عَلَى ٱلشَّهَادَةِ.

彼女はアラビア語を勉強し、その結果、証明書を取得しました。

前置詞、接続詞としての役割をもち、「…まで」「…までも」という意味を示します。

أَكَلْتُ ٱلسَّمَكَةَ حَتَّى رَأْسِهَا.

私は魚を頭のところまで食べました（頭は食べていない）。[前置詞]

أَكَلْتُ ٱلسَّمَكَةَ حَتَّى رَأْسَهَا.

私は魚を頭までも食べました（頭も食べた）。[接続詞]

第12課　アラビア語の文

アラビア語の文型は基本的に名詞先行文と動詞先行文の２つに分類できます。第９課でその原則について学びましたが、ここで再度要点を整理しておきましょう。

1　名詞先行文のまとめ

まず名詞先行文ですが、その基本は主語が先頭にくることです。そしてその主語は原則的に限定された名詞でなければなりません。限定された名詞とは次の６つを指します。

- 定冠詞のاَلْが付いているもの：اَلْكِتَابُ　その本
- 人称代名詞の結合形が付いているもの：كِتَابُهُ　彼の本
- 他の名詞と属格関係を形成しているもの：كِتَابُ ٱلطَّالِبِ　その学生の本
- 人称代名詞の独立形：أَنَا、أَنْتَ、أَنْتِ、هُوَ、هِيَ、نَحْنُなど
- 指示代名詞：هٰذَا、هٰذِهِ、هٰؤُلَاءِ、أُولٰئِكَなど
- 固有名詞：مُحَمَّدٌ　ムハンマド　　فَاطِمَةُ　ファーティマ
  دِمَشْقُ　ダマスカス　　اَلْقَاهِرَةُ　カイロ　　لُبْنَانُ　レバノン

＊アラブ人男性の名前にはمُحَمَّدٌのように語尾に非限定を示すタンウィーンが付いているものが多くあります。これは本来、普通名詞や形容詞であったものが名前として用いられているためです。たとえタンウィーンが付いていたとしても人名として用いられた名詞や形容詞は、固有名詞となり、その結果、限定名詞として扱われます。

以上が限定名詞として扱われるものであり、これらが名詞先行文の主語となりえます。

また、名詞先行文の述部は次のように分類されます。

◇形容詞の場合：非限定の主格で、主語の性や数と一致する形をとります。

هُوَ طَوِيلٌ. 彼は背が高い。 هِيَ طَوِيلَةٌ. 彼女は背が高い。

هُمْ طِوَالٌ. 彼らは背が高い。

اَلْكِتَابُ جَدِيدٌ. その本は新しいです。

اَلْكِتَابَانِ جَدِيدَانِ. その２冊の本は新しいです。

اَلْكُتُبُ جَدِيدَةٌ. それらの本は新しいです。

＊物の複数は文法上、女性単数扱いになります。

◇名詞の場合：主格で、非限定名詞の場合もあれば限定名詞の場合もあります。主語の性や数と一致する形をとります。

أَنْتَ مُعَلِّمٌ (اَلْمُعَلِّمُ، مُعَلِّمُهُ، مُعَلِّمُ ٱلْمَدْرَسَةِ).

あなたは教師です（まさに教師です、彼の教師です、その学校の教師です）。

أَنْتِ مُعَلِّمَةٌ. あなた（女性）は教師です。

أَنْتُمْ مُعَلِّمُونَ. あなた方は教師です。

◇動詞の場合：動詞は主語の性と数に一致した活用をとります。

اَلطَّالِبُ كَتَبَ رِسَالَةً. 学生は手紙を書きました。

اَلطُّلَّابُ كَتَبُوا رِسَالَةً. 学生たちは手紙を書きました。

اَلطَّالِبَاتُ كَتَبْنَ رِسَالَةً. 女子学生たちは手紙を書きました。

◇名詞先行文の場合：名詞先行文の述部が名詞先行文というのもわかりにくいかもしれませんが、アラビア語の特徴的な用法の１つです。もとの主語が話題提供の役割を果たし、述部の主語はもとの主語を置き換えたものになります。そして述部の名詞先行文の主語には、話題提供をしているもとの主語に対応する人称代名詞の結合形を必ず付け加えます。

اَلْكِتَابُ لَوْنُهُ جَمِيلٌ.　その本は(についていえば)、色がきれいです。

اَلطَّالِبَةُ صَدِيقَتُهَا عِرَاقِيَّةٌ.　その女子学生は(についていえば)、友人がイラク人です。

◇前置詞句や副詞の場合：

اَلطَّالِبُ فِي ٱلْبَيْتِ.　その学生は家にいます。

اَلطَّالِبَةُ هُنَاكَ.　その女子学生はそこにいます。

اَلْجَرِيدَةُ عِنْدَ ٱلْأُسْتَاذِ.　その新聞は教授のところにあります。

◇疑問詞の場合：名詞先行文の主語に述部が先行したものとしてみなされる場合があります。

مَنِ ٱلْفَائِزُ؟　勝利者はだれですか。　　كَيْفَ أَنْتَ؟　あなたはどうですか。

＊مَنِは疑問詞مَنْに補助母音のカスラが付いたものです。

名詞先行文の大原則は、主語が限定されていることですが、いくつかの条件のもとでは主語を非限定で用いることができます。その代表的な４つの条件を示しておきます。

◇限定名詞を伴った前置詞句や副詞が主語に先行する場合：

فِي ٱلْبَيْتِ طَالِبٌ.　その家に学生がいます。

هُنَاكَ طَالِبَةٌ.　(そこに)女子学生がいます。

عِنْدَ ٱلْأُسْتَاذِ جَرِيدَةٌ.　教授は新聞を持っています。

＊هُنَاكَはしばしば具体的な場所(そこ、あそこ)を示さず、「人がいる、物がある」というように単に存在を示すために用いられることがあります。

◇形容詞で修飾されている場合：

رَجُلٌ غَنِيٌّ ذَهَبَ إِلَى ٱلسُّوقِ.　１人の裕福な男が市場へ行きました。

否定詞または疑問詞の後に主語がくる場合：

لاَ طَبِيبٌ عِنْدَنَا. 私たちのところには医者がいません。

هَلْ أُسْتَاذٌ يَفْهَمُ هٰذَا؟ 教授はこれを理解しますか。

祈願を示す場合：

سَلاَمٌ عَلَيْكُمْ. あなた方の上に平安がありますように。

名詞先行文の語順は原則として主語、その後に述部ということになります。しかし次のような場合、述部が主語に先行することがあります（述部が動詞の場合については次の動詞先行文のところを参照してください）。

述部を強調する場合：

مَمْنُوعٌ ٱلتَّدْخِينُ. 喫煙は禁止されています。

وَاضِحٌ دَرْسُنَا. 私たちの授業はわかりやすいです。

主語が人称代名詞の結合形によって限定されていたとしても、その人称代名詞が述部の名詞を指している場合：

فِي ٱلدَّارِ صَاحِبُهَا. 家にはその(家の)持ち主がいます。

لِلْحُرِّيَّةِ ثَمَنُهَا. 自由にはその(自由の)代価があります。

* صَاحِبُهَاのهَاは述部にある女性名詞ٱلدَّارِを指しています。また、ثَمَنُهَاのهَاは同様にٱلْحُرِّيَّةِを指しています。

2 إِنَّとその姉妹

名詞先行文ではしばしば名詞先行文導入詞のإِنَّが主語の前に置かれます。強調の意味を有しますが、現代アラビア語では多くの場合、あえて「まさに」とか「本当に」などと訳す必要はありません。重要なことはإِنَّの後にくる主語は主格から必ず対格に変化することです。そして主語が人称代名詞の場合には結合形が用いられます。

إِنَّ ٱلرَّجُلَ طَوِيلٌ. その男は背が高いです。

إِنَّ ٱلْمُعَلِّمِينَ مَشْغُولُونَ. 先生たちは忙しいです。

إِنَّكُمْ ذَهَبْتُمْ إِلَى ٱلْإِسْكَنْدَرِيَّةِ بِٱلْقِطَارِ.
あなた方は列車でアレキサンドリアへ行きました。

قَالَ إِنَّهُ مَشْغُولٌ طُولَ ٱلْيَوْمِ. 彼は一日中、忙しいと言いました。

*قَالَ「彼は言った」は通常、その後ろにإِنَّに導かれた名詞先行文が目的語として用いられます。

人称代名詞の結合形の1人称単数（私）にはإِنِّيとإِنَّنِيのどちらか、複数（私たち）にはإِنَّاとإِنَّنَاのどちらかを用います。またإِنَّを用いた文の述部に強調のلَが付け加えられることがあります。لَを前置詞のلِと混同して、その後にある名詞や形容詞を属格にしないように注意してください。

إِنَّ ٱلْوَلَدَ لَشُجَاعٌ. その男の子は本当に勇敢です。

إِنَّにمَاが付いたإِنَّمَاは「...以外のものではない、...にすぎない」を意味し、إِنَّの役割がなくなり、その後ろに名詞先行文がきた場合、その主語は対格でなく主格になりますから注意が必要です。

إِنَّمَا خَالِدٌ خَبَّازٌ فِي ٱلْقَرْيَةِ. ハーリドは村のパン屋にすぎません。

前述のようにإِنَّは名詞先行文導入詞と呼ばれ、主語は必ず対格になります。إِنَّと同様に対格で主語を示す品詞がいくつかあり、それらをإِنَّの姉妹（仲間）と呼びます。

- لٰكِنَّ／وَلٰكِنَّ：しかし

يَسْكُنُ حَسَنٌ فِي حَلَبَ وَلٰكِنَّ أُخْتَهُ تَسْكُنُ فِي دِمَشْقَ.
ハサンはアレッポに住んでいます。しかし彼の姉はダマスカスに住んでいます。

اَلسُّؤَالُ قَصِيرٌ وَلٰكِنَّهُ صَعْبٌ. 質問は短いです。しかしそれは難しいです。

＊ هُ はاَلسُّؤَالُに対応する人称代名詞の結合形で、主語を示しています。

＊ لٰكِنَّ／وَلٰكِنَّの後ろは上例のように名詞または人称代名詞がつづきます。後ろに動詞や前置詞がつづくときはلٰكِنْを用います。その場合、主語は主格になります。

نَذْهَبُ ٱلْيَوْمَ لٰكِنْ يَذْهَبُ عَلِيٌّ غَدًا.

私たちは今日行きますが、アリーは明日行きます。

• أَنَّ：قَالَ「言う」以外の動詞の後に用いられ、通常、目的語となる名詞先行文を導きます。しかし、أَنَّ以下の文全体が動詞の主語の役割を果たす場合もあります。

ذَكَرْتُ أَنَّ حَبِيبَتَهُ لُبْنَانِيَّةٌ.

私は彼の恋人はレバノン人であると述べました。(أَنَّ以下がذَكَرْتُの目的語)

بَلَغَنِي أَنَّهَا نَجَحَتْ فِي ٱلِامْتِحَانِ.

彼女がその試験に合格したということが私に届きました(私は、彼女がその試験に合格したことを知りました)。

＊ この文章では名詞節(أَنَّهَا以下)がبَلَغَの主語になっています。このような場合、名詞節に対応する動詞には３人称男性単数形が常に用いられます。

• لِأَنَّ：なぜなら

لِمَاذَا تَدْرُسُونَ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ؟ — لِأَنَّ ٱلْخَطَّ ٱلْعَرَبِيَّ جَمِيلٌ جِدًّا.

なぜ、あなた方はアラビア語を勉強してるのですか。

—なぜならアラビア書道がとても美しいからです。

مَا حَضَرَتِ ٱلطَّالِبَةُ ٱلدَّرْسَ لِأَنَّهَا كَانَتْ مَرِيضَةً.

その女子学生は病気だったので、授業に出席しませんでした。

• لَعَلَّ：おそらく

لَعَلَّ مُحَاضَرَةَ ٱلْيَوْمِ مُفِيدَةٌ. おそらく今日の講義は有益でしょう。

名詞先行文の基本は主語が限定されていることですが、第７課で学んだように所有表現では主語が非限定となり、かつ前置詞句が主語に先行します。所有表現以外にも「ある、いる」といった存在を示す場合、同様なことが起こります。また述部にはهُنَا「ここ」、هُنَاكَ「あそこ」が用いられることがあります。名詞先行文導入詞がこうした文に用いられる場合、名詞先行文導入詞の主語は前置詞句によって分離されることになりますが、対格を用いる原則に変わりはありません。

قَالَ إِنَّ عَلَى ٱلطَّاوِلَةِ مَجَلَّةً. 彼はテーブルの上に雑誌があると言いました。

ذَكَرْتُ أَنَّ هُنَاكَ رَجُلاً. 私はあそこに男がいると述べました。

3　動詞先行文のまとめ

動詞先行文では主語は限定、非限定のどちらでも用いることができます。注意すべき点は、動詞は主語の数の違いに左右されず、常に単数の活用で用いられることです。ただし主語の性とは一致させなければなりません。

ذَهَبَ ٱلْمُوَظَّفُ (ٱلْمُوَظَّفَانِ، ٱلْمُوَظَّفُونَ) إِلَى ٱلْعَمَلِ.

職員（２人の職員、職員たち）は仕事に行きました。

ذَهَبَتِ ٱلْمُوَظَّفَةُ (ٱلْمُوَظَّفَتَانِ، ٱلْمُوَظَّفَاتُ) إِلَى ٱلْعَمَلِ.

女性職員（２人の女性職員、女性職員たち）は仕事に行きました。

動詞先行文においてもいったん主語が明示された場合、動詞は主語の数と性に一致させなければなりません。

ذَهَبَتِ ٱلْمُوَظَّفَاتُ إِلَي ٱلْعَمَلِ صَبَاحًا وَرَجَعْنَ مِنْهُ مَسَاءً.

女性職員たちは朝、仕事に行きました。そして夕方、そこから戻ってきました。

4　名詞先行文と動詞先行文の転換

主語が限定名詞である名詞先行文は、基本的に動詞先行文に転換することができます。

اَلطَّالِبُ ذَهَبَ إِلَى ٱلْجَامِعَةِ. その学生は大学へ行きました。

ذَهَبَ الطَّالِبُ إِلَى ٱلْجَامِعَةِ. その学生は大学へ行きました。

こうした動詞を含む名詞先行文と動詞先行文に意味上の大きな違いはないといわれます。どちらを使うかは表現者の姿勢や意図によりますが、一般的には動詞先行文が好まれます。名詞先行文は、何について語るのか、テーマが先に示されるのに対して、動詞先行文ではまず行為を示すことになります。

ذَهَبَ طَالِبٌ إِلَى ٱلْجَامِعَةِ. （ある１人の）学生が大学へ行きました。

動詞先行文の主語が非限定名詞の場合、動詞先行文から名詞先行文への転換はできません。طَالِبٌ ذَهَبَ إِلَى ٱلْجَامِعَةِとすると、「大学へ行った学生」という意味になります（第18課で学ぶ関係代名詞の用法）。

第13課　能動分詞

３語根動詞の原形が、意味においても、また形式においてもアラビア語の単語の土台を形成していることはすでに説明しました。ここでは３語根動詞の原形から派生したパターンで最も重要な能動分詞を学びます。

1　能動分詞のパターン

能動分詞とは、動詞を一定のパターンで変化させたもので、動詞に加えて形容詞、名詞としての役割を果たします。３語根動詞の原形のパターンによって次のように分類されます。

◇فَاعِلٌ型：

能動分詞の代表的なパターンです。３語根動詞の原形がفَعَلَ型とفَعِلَ型で、おもに他動詞として目的語を必要とする動詞や一部の自動詞にあてはまります。（　）内は原形を示します。

كَاتِبٌ (كَتَبَ)　　ذَاهِبٌ (ذَهَبَ)　　فَاتِحٌ (فَتَحَ)

書いている　　行きつつある　　開けている

شَارِبٌ (شَرِبَ)　　قَاعِدٌ (قَعَدَ)　　رَاكِبٌ (رَكِبَ)

飲んでいる　　腰をおろしている　　乗っている

◇فَعِيلٌ型、فَعِلٌ型、فَعَلٌ型、فَعْلٌ型、فَعْلَانُ型、فُعَالٌ型など：

فَعِلَ型、فَعُلَ型の動詞で、おもに自動詞として目的語を必要としない動詞、あるいは状態や様子を示す動詞にあてはまります。

ضَعِيفٌ (ضَعُفَ)　　جَمِيلٌ (جَمُلَ)　　كَبِيرٌ (كَبُرَ)

弱い　　美しい　　大きい

فَرِحٌ (فَرِحَ)　　تَعِبٌ (تَعِبَ)　　حَسَنٌ (حَسُنَ)

うれしい　　疲れた　　よい

صَعْبٌ (صَعُبَ)　　سَهْلٌ (سَهُلَ)　　عَذْبٌ (عَذُبَ)

困難な　　簡単な　　甘い

سَكْرَانُ (سَكِرَ)　　كَسْلَانُ (كَسِلَ)　　شُجَاعٌ (شَجُعَ)

酔った　　怠惰な　　勇敢な

＊ فَرِحَには فَارِحٌ、فَرْحَانُのパターンも用いられます。

فَعَّالٌ型や فَعِيلٌ型：
能動分詞の強調形のパターンです。能力を強調したり、専門職を示すときに用います。

طَبَّاخٌ (طَبَخَ)　　خَيَّاطٌ (خَاطَ)　　خَبَّازٌ (خَبَزَ)

料理人　　仕立屋　　パン屋

سَمِيعٌ (سَمِعَ)　　عَلِيمٌ (عَلِمَ)　　خَبِيرٌ (خَبَرَ)

何でも聞いている　　何でも知っている　　よく知っている、専門家

＊上述した能動分詞を見るとこれまで形容詞と呼んできた単語の多くは、おもに自動詞の能動分詞のパターンにあてはまることがわかります。文法書によってはこうした形容詞を「能動分詞に似た形容詞」と表現し、能動分詞と別に取り上げる場合もあります。

＊ فَعْلَانُ型の能動分詞には原則的に２段変化が適用されますが、辞書によっては、 تَعْبَانٌ「疲れている」や زَعْلَانٌ「不快に感じている」のように一部の単語にタンウィーンを付け、基本３段変化として示している場合もあります。

2　能動分詞の機能

能動分詞は、形容詞や名詞として働くほか、動詞としての機能を有するなど、非常に重要な役割を果たします。

◇形容詞としての機能：形容詞の原則にしたがって用いられます。

رَجُلٌ عَادِلٌ　公正な男

اَلطَّالِبَةُ ٱلْقَاعِدَةُ عَلَى ٱلْكُرْسِيِّ　椅子にすわっている女子学生

◇名詞としての機能：「その行為を行なう人、行なっている人」を意味します。

هُوَ كَاتِبُ ٱلْقِصَّةِ.　彼はその物語の書き手です。

行為者を意味する名詞として用いる場合には通常、規則複数が用いられます。しかし、それが職業や具体的な社会的地位を示す場合、能動分詞は通常、不規則複数形をもっています。

أَنْتُمْ كَاتِبُو هٰذِهِ ٱلرِّسَالَةِ.　あなた方はこの手紙の書き手です。(行為者)

أَنْتُمْ كُتَّابُ بِلاَدِنَا.　あなた方は私たちの国の作家です。(職業)

◇動詞としての機能：

未完了形同様、現在の状態、現在進行形や近い未来を示します。また完了形同様に現在完了(ある時点で終了し、その影響が現在にも及んでいる行為)を示すこともできます。また、能動分詞は目的語をとることもできます。

اَلْبِنْتُ ٱلسَّاكِنَةُ فِي تِلْكَ ٱلْغُرْفَةِ مِنْ تُونِسَ.

あの部屋に住んでいる少女はチュニジア出身です。(現在の状態)

هُوَ كَاتِبٌ قِصَّةً قَصِيرَةً.　彼は短い物語を書いています。(現在進行形)

＊目的語をとる場合、目的語は通常、非限定の形をとります。目的語が限定名詞の場合はكَاتِبُ ٱلْقِصَّةِと属格関係を構成します。

أَنَا ذَاهِبٌ إِلَى ٱلْمَسْجِدِ.　私はモスクへ行くところです。(現在進行形)

كَانَتْ رَاكِبَةً حِصَانًا.　彼女は馬に乗っていました。(過去進行形)

كُنَّا دَارِسِينَ لُغَةً أَجْنَبِيَّةً.　私たちは外国語を勉強していました。(過去進行形)

هُنَّ ذَاهِبَاتٌ إِلَى ٱلْمَسْجِدِ غَدًا.　彼女たちは明日モスクへ行きます。(未来)
هُوَ حَاصِلٌ عَلَى شَهَادَةِ ٱلدُّكْتُورَاةِ.　彼は博士号を取得しています。(現在完了)

3　ニスバ形容詞

能動分詞のさまざまなパターンが形容詞として機能することを見てきましたが、形容詞には名詞から派生するもう1つ重要なパターンがあります。ニスバ形容詞と呼ばれるこのパターンは通常、単数名詞の最後の文字の母音をカスラにしてيّを書き加えたものです。ةで終わっている名詞の場合は、ةを省いた形を同様に変化させます。ニスバは「関連」という意味ですが、ニスバ形容詞は派生した名詞との関連、関係を示す形容詞、また「…に関係する人」という名詞として働きます。形容詞として説明される多くの単語にこのパターンが見い出されます。

名詞		ニスバ形容詞	
إِسْلَامٌ	イスラーム	إِسْلَامِيٌّ	イスラームの、イスラームに関わる人
جَامِعَةٌ	大学	جَامِعِيٌّ	大学の、大学に関わる人

次のように語根にもともとあったوが復活したり、他の文字がوに転換した形に注意しましょう。

أَبٌ	父	أَبَوِيٌّ	父としての
أَخٌ	兄弟	أَخَوِيٌّ	兄弟としての
دَمٌ	血	دَمَوِيٌّ	血を流した
دُنْيَا	現世	دُنْيَوِيٌّ	現世の
سَمَاءٌ	空	سَمَاوِيٌّ	空の
سَنَةٌ	年	سَنَوِيٌّ	年の
لُغَةٌ	言語	لُغَوِيٌّ	言語の、言語学者

يَدٌ　手　　　يَدَوِيٌّ　手の、手製の

一部の不規則複数形や固有名詞化した複数形からも例外的にニスバ形容詞がつくられる場合があります。

単数形		複数形	ニスバ形容詞とその用例		
اِمْرَأَةٌ	女性	نِسَاءٌ	نِسَائِيٌّ	مَجَلَّةٌ نِسَائِيَّةٌ	女性誌
طَالِبٌ	学生	طُلَّابٌ	طُلَّابِيٌّ	حَرَكَةٌ طُلَّابِيَّةٌ	学生運動
عَامِلٌ	労働者	عُمَّالٌ	عُمَّالِيٌّ	نِقَابَةٌ عُمَّالِيَّةٌ	労働組合
دَوْلَةٌ	国家	دُوَلٌ	دُوَلِيٌّ	اَلْعَلَاقَاتُ ٱلدُّوَلِيَّةُ	国際関係
جَزِيرَةٌ	島	جَزَائِرُ	جَزَائِرِيٌّ	طَالِبٌ جَزَائِرِيٌّ	アルジェリアの学生

＊ دُوَلِيٌّについては、原則にしたがって変化させたدَوْلِيٌّを用いるのが正しいとする学者もいます。そのためاَلْعَلَاقَاتُ ٱلدَّوْلِيَّةُと発音されることもありますが、本書ではدُوَلِيٌّを用います。また最後の例は、定冠詞を付けてاَلْجَزَائِرُとすると「アルジェリア」という国名になります。

通常「…人」という単語はこのニスバ形容詞によってつくられたものです。また、これらの「…人」という名詞には規則複数形が用いられます。

名詞	ニスバ形容詞		複数
اَلْيَابَانُ	يَابَانِيٌّ	日本人、日本の	يَابَانِيُّونَ
اَلْعِرَاقُ	عِرَاقِيٌّ	イラク人、イラクの	عِرَاقِيُّونَ
سُورِيَةُ	سُورِيٌّ	シリア人、シリアの	سُورِيُّونَ
مِصْرُ	مِصْرِيٌّ	エジプト人、エジプトの	مِصْرِيُّونَ
فِلَسْطِينُ	فِلَسْطِينِيٌّ	パレスチナ人、パレスチナの	فِلَسْطِينِيُّونَ
أَمْرِيكَا	أَمْرِيكِيٌّ	アメリカ人、アメリカの	أَمْرِيكِيُّونَ

＊اَلْعِرَاقُやاَلْيَابَانُのように定冠詞が付いている国名は前述のاَلْجَزَائِرُ「アルジェリア」同様、定冠詞をとってニスバ形容詞をつくります。

ニスバ形容詞の語尾にةを付けると抽象的概念を表す名詞にもなります。特に「…主義」と訳される名詞はこの方法によってつくられたものです。

名詞	ニスバ形容詞	抽象概念名詞
قَوْمٌ 民族	قَوْمِيٌّ 民族的な	قَوْمِيَّةٌ 民族主義
وَطَنٌ 祖国	وَطَنِيٌّ 祖国の	وَطَنِيَّةٌ 国民主義、愛国主義
إِنْسَانٌ 人間	إِنْسَانِيٌّ 人間の、人間的な	إِنْسَانِيَّةٌ 人間性、人道主義
صَهْيُونُ シオン（山）	صَهْيُونِيٌّ シオンの、シオニスト	صَهْيُونِيَّةٌ シオニズム

4　複合形容詞

形容詞と名詞を属格関係で結び、１つの形容詞として機能させる用法です。

◇形容詞＋定冠詞の付いた限定名詞属格：全体で１つの形容詞として機能します。性、数、格の原則は、限定名詞ではなく、形容詞の方に適用されます。

هُوَ جَمِيلُ ٱلْوَجْهِ.　彼は美しい顔をしています。

هِيَ جَمِيلَةُ ٱلْوَجْهِ.　彼女は美しい顔をしています。

هُمَا جَمِيلَا ٱلْوَجْهِ.　彼ら２人は美しい顔をしています。

هُمْ جَمِيلُو ٱلْوَجْهِ.　彼らは美しい顔をしています。

◇先行する名詞を修飾する形容詞として働く場合：

رَأَيْتُ رَجُلاً جَمِيلَ ٱلْوَجْهِ. 私は美しい顔をした１人の男を見ました。

تَحَدَّثْتُ إِلَى مُمَثِّلَةٍ جَمِيلَةِ ٱلْوَجْهِ. 私は美しい顔をした１人の女優に話しかけました。

＊先行する名詞が限定名詞の場合、それを修飾する複合形容詞の形容詞の部分に定冠詞が付きます。

رَأَيْتُ ٱلرَّجُلَ ٱلْجَمِيلَ ٱلْوَجْهِ. 私は美しい顔をしたその男を見ました。

تَحَدَّثْتُ إِلَى ٱلْمُمَثِّلَةِ ٱلْجَمِيلَةِ ٱلْوَجْهِ. 私は美しい顔をしたその女優に話しかけました。

第14課　動名詞、場所や道具を示す名詞

1　動名詞とそのパターン

動名詞とは、動詞から時制の概念を取り除き、行為や状態のみを意味するものです。たとえば、ذَهَبَ「行く」の動名詞ذَهَابٌは「行くこと」を意味します。原形の動名詞のパターンは44に及ぶといわれ、規則性もありませんから辞書で確認しておくことが必要です。たとえば、ذهبの項目を辞書で調べ、ذهب dhahaba a（ذهاب dhahābu）、またはذَهَبَ a（ذَهَاب）となっている場合、（　）内のذهابが動名詞を示します。またアラビア語―アラビア語の辞書では「ذَهَبَ يَذْهَبُ ذَهَابًا」「ذَهَبَ: ـَ ذَهَابًا」と、動名詞を対格で示しています。主要な動名詞のパターンは以下の通りです。（　）内は原形を示しています。

◇فَعْلٌ型：	نَشْرٌ (نَشَرَ)	حَمْدٌ (حَمِدَ)	نَقْلٌ (نَقَلَ)
	広めること、発表	称賛	運搬
	ضَرْبٌ (ضَرَبَ)	رَسْمٌ (رَسَمَ)	تَرْكٌ (تَرَكَ)
	打つこと	描くこと、絵	去ること、捨てること
◇فِعْلٌ型：	ذِكْرٌ (ذَكَرَ)	فِعْلٌ (فَعَلَ)	حِفْظٌ (حَفِظَ)
	述べること	行為、動詞	保存
◇فُعْلٌ型：	شُكْرٌ (شَكَرَ)	شُرْبٌ (شَرِبَ)	حُزْنٌ (حَزِنَ)
	感謝	飲むこと	悲しみ
◇فَعْلَةٌ型：	عَوْدَةٌ (عَادَ)	نَعْمَةٌ (نَعِمَ)	رَحْمَةٌ (رَحِمَ)
	帰還	幸福、快適	哀れみ、同情
◇فِعْلَةٌ型：	خِدْمَةٌ (خَدَمَ)	عِصْمَةٌ (عَصَمَ)	نِشْدَةٌ (نَشَدَ)
	奉仕、貢献	保護	探求

◇فَعَلٌ型：	(سَكَنَ) سَكَنٌ 住むこと	(عَمِلَ) عَمَلٌ 働くこと、仕事	(مَرِحَ) مَرَحٌ 陽気になること
◇فَعَالٌ型：	(سَمَحَ) سَمَاحٌ 許すこと、許可	(سَمِعَ) سَمَاعٌ 聞くこと	(ذَهَبَ) ذَهَابٌ 行くこと
◇فَعَالَةٌ型：	(شَهِدَ) شَهَادَةٌ 証言、証明書	(سَلِمَ) سَلَامَةٌ 安全、無事	(ضَخُمَ) ضَخَامَةٌ 巨大さ
◇فِعَالٌ型：	(لَقِيَ) لِقَاءٌ 出会い	(بَنَى) بِنَاءٌ 建設、建物	(نَظَمَ) نِظَامٌ システム、制度、体制
◇فِعَالَةٌ型：	(قَرَأَ) قِرَاءَةٌ 読書	(كَتَبَ) كِتَابَةٌ 書くこと、執筆	(زَارَ) زِيَارَةٌ 訪問
	(تَجَرَ) تِجَارَةٌ 商業、貿易	(زَرَعَ) زِرَاعَةٌ 農業	(صَنَعَ) صِنَاعَةٌ 工業、産業
◇فُعَالٌ型：	(سَأَلَ) سُؤَالٌ 質問	(سَعَلَ) سُعَالٌ 咳	(صَرَخَ) صُرَاخٌ 叫び
◇فُعُولٌ型：	(رَجَعَ) رُجُوعٌ 帰還	(حَضَرَ) حُضُورٌ 出席	(جَلَسَ) جُلُوسٌ 着席
	(حَصَلَ) حُصُولٌ 取得、発生	(دَخَلَ) دُخُولٌ 入ること	(خَرَجَ) خُرُوجٌ 出ること
◇فُعُولَةٌ型：	(عَذُبَ) عُذُوبَةٌ 甘さ、うまさ	(صَعُبَ) صُعُوبَةٌ 困難	(سَهُلَ) سُهُولَةٌ 簡単

◇عِلَةٌ型：　ثِقَةٌ (وَثِقَ)　　صِفَةٌ (وَصَفَ)　　هِبَةٌ (وَهَبَ)

信用　　質、属性　　贈り物

1つの動詞には、意味は同じであるにもかかわらず複数の動名詞がある場合があります。また動詞のもつ意味が2つ以上あるがゆえに動名詞が複数になる場合もあります。

دَرَسَ　(学ぶ)　　دَرْسٌ (授業)／دِرَاسَةٌ (学習)

وَصَلَ　(到着する)　　وُصُولٌ (到着)

(結びつく)　　وَصْلٌ (連絡)／صِلَةٌ (関係)

その他、動名詞にはمで始まるم型動名詞があります。[　] 内は通常用いられる動名詞です。

◇مَفْعَلٌ型：مَعْرَضٌ (عَرَضَ)　提示すること [عَرْضٌ]

◇مَفْعِلٌ型：مَوْقِعٌ (وَقَعَ)　　発生すること、落ちること [وُقُوعٌ]

* مَفْعِلٌ型の動名詞は、原形の第1語根が弱文字と呼ばれるوとيの2文字のいずれかで始まっている動詞にみられます。

2　動名詞の格変化と否定

動名詞には一般名詞同様、主格、対格、属格の3つの格変化があります。

اَلْعَمَلُ فِي هٰذِهِ ٱلشَّرِكَةِ صَعْبٌ. この会社で働くことは難しいです。(主格)

تَرَكَ ٱلْعَمَلَ.　　彼は働くことをやめました。(対格)

جَاءَ إِلَى ٱلْقَاهِرَةِ لِلْعَمَلِ فِي هٰذِهِ ٱلشَّرِكَةِ.

彼はこの会社で働くためにカイロへ来ました。(属格)

* 前置詞のلِ+動名詞は「...するために、...の目的で」と訳します。

動詞を否定する場合は、「欠如、無」を示す名詞عَدَمٌで、動名詞と属格関係を形成します。

عَدَمُ ٱلْحُضُورِ　　　出席しないこと、欠席

عَدَمُ ٱلذَّهَابِ إِلَى ٱلْعَمَلِ　仕事へ行かないこと

3　主語や目的語を伴う動名詞

動名詞の重要な点は、必要があれば主語や目的語をとることができるということです。この場合、主語や目的語は動名詞との属格関係や人称代名詞の結合形によって示されます。

◇属格関係を形成する場合：

- 主語を示す

هَلْ عَلِمْتَ بِوُصُولِ ٱلْوَفْدِ؟

あなたは代表団の到着（代表団が到着したこと）を知りましたか。

- 目的語を示す場合

تَرَكَتْ بَعْدَ شُرْبِ ٱلْقَهْوَةِ.

彼女はコーヒーを飲んだ後、立ち去りました。

- 主語と目的語の両者を同時に示す

「…が…したこと」という意味で主語と目的語が同時に示される場合、主語を属格にして動名詞の後に付け、その後ろに目的語を対格で置きます。

سَمِعْنَا عَنْ نَشْرِ ٱلْأُسْتَاذِ ٱلْكِتَابَ.

私たちは教授の本の出版（教授が本を出版したこと）について耳にしました。

この場合、前置詞لِを目的語の前に置く形もよく用いられます。

سَمِعْنَا عَنْ نَشْرِ ٱلْأُسْتَاذِ لِلْكِتَابِ.

私たちは教授が本を出版したことを耳にしました。

◇主語や目的語として属格名詞の代わりに人称代名詞の結合形が付く場合：

- 主語を示す

هَلْ عَلِمْتَ بِوُصُولِهِ؟　あなたは彼の到着を知りましたか。

- 目的語を示す

تَرَكَتْ بَعْدَ شُرْبِهَا.　彼女はそれを飲んだ後、立ち去りました。

- 主語と目的語の両者を同時に示す

سَمِعْنَا عَنْ نَشْرِهِ إِيَّاهُ.　私たちは彼がそれを出版したことについて耳にしました。

このように人称代名詞の結合形が連続する場合、両者をつなげて書くことはせず、目的語となる結合形の前に必ず代名詞إِيَّاを置きます。もちろん前置詞لを用いることも可能です。

سَمِعْنَا عَنْ نَشْرِهِ لَهُ.　私たちは彼がそれを出版したことについて耳にしました。

上の例のように、إِيَّاは人称代名詞の結合形が連続する場合に用いられますが、その他にも重要な用法があります。ここでその使い方を整理しておきましょう。代名詞إِيَّاは、常に人称代名詞の結合形とともに用いられ対格の役割を果たします。

	単数	双数	複数
3人称男性	إِيَّاهُ	إِيَّاهُمَا	إِيَّاهُمْ
3人称女性	إِيَّاهَا	إِيَّاهُمَا	إِيَّاهُنَّ
2人称男性	إِيَّاكَ	إِيَّاكُمَا	إِيَّاكُمْ
2人称女性	إِيَّاكِ	إِيَّاكُمَا	إِيَّاكُنَّ
1人称	إِيَّايَ		إِيَّانَا

مَنَحَ「…に…を与える」などのように２つの目的語をとる動詞に用いられま

す。２つの目的語を人称代名詞の結合形で言い替える場合、間接目的語（...に）と直接目的語（...を）を区別するために直接目的語にإِيَّاが用いられます。また直接目的語のみを結合形で言い替える場合にも用いられます。

مَنَحْتُ ٱلْمُوَظَّفَ ٱلْفُرْصَةَ. 私はその職員にチャンスを与えました。

مَنَحْتُهُ ٱلْفُرْصَةَ. 私は彼にチャンスを与えました。

مَنَحْتُهُ إِيَّاهَا. 彼は彼にそれ(チャンス)を与えました。

مَنَحْتُ ٱلْمُوَظَّفَ إِيَّاهَا. 私はその職員にそれ(チャンス)を与えました。

直接目的語が連続する場合は、後方の直接目的語にإِيَّاが用いられます。

ضَرَبْتُ زَيْدًا وَفَاطِمَةَ. 私はザイドとファーティマを叩きました。

ضَرَبْتُهُ وَإِيَّاهَا. 私は彼と彼女を叩きました。

直接目的語となった人称代名詞の結合形が、強調のために動詞の前に出る場合は次のようになります。

نَعْبُدُكَ. 私たちはあなたを崇めます。

إِيَّاكَ نَعْبُدُ وَإِيَّاكَ نَسْتَعِينُ

私たちはあなたこそを崇め、あなたにこそ助けを求めます。（『コーラン』、開扉の章より）

４　回数を示す動名詞

動名詞にةを加えることによって具体的な行為の回数を表すことができます。通常、原形については動名詞のパターンをفَعْلٌとし、それにةを付けます。

شُرْبٌ 飲むこと： شَرْبَةٌ １回飲む行為、ひと飲み

ضَحْكٌ 笑うこと： ضَحْكَةٌ １回笑う行為

شَرْحٌ 薄く切ること： شَرْحَةٌ １回薄く切る行為、ひと切れ

أَكْلٌ　食べること：　أَكْلَةٌ　1回食べる行為、ひと口

رَبْطٌ　結ぶこと：　رَبْطَةٌ　1回結ぶ行為、ひと結び

回数を示す名詞は多くの場合、副詞として働くため、対格で用いられます。

أَكَلَتْهُ أَكْلَةً وَاحِدَةً.　彼女はそれをひと口食べました。（1回の場合、通常、数詞を伴います）＊وَاحِدٌ「1」

شَرِبْتُهُ شَرْبَتَيْنِ.　私はそれをふた口飲みました。（双数）

ضَحِكَ ضَحْكَاتٍ.　彼は何度も笑いました。（複数）

この種の動名詞は、一定の意味をもつ一般名詞として用いられる場合があります。

شَرْبَةٌ 飲み薬　أَكْلَةٌ 食べ物　رَبْطَةٌ リボン、束

5　集合名詞と個別名詞

ةは概念を示す集合名詞から具体的な個別の名詞をつくるときにも用いられます。

لَيْلٌは「夜」、昼に対する夜の概念を示す集合名詞ですが、これをلَيْلَةٌとすることによって具体的な一夜、数えられる夜という意味を示すことができます。集合名詞は文法上、男性単数名詞として扱われます。一方、個別名詞は女性単数名詞として扱われ、その複数形には女性規則複数形や不規則複数形が用いられます。

لَيْلٌ　夜：　لَيْلَةٌ　一夜　لَيْلَاتٌ／لَيَالٍ（複数形）

تُفَّاحٌ　りんご：　تُفَّاحَةٌ　1個　تُفَّاحَاتٌ（複数形）

زَيْتُونٌ　オリーブ：　زَيْتُونَةٌ　1粒、1本　زَيْتُونَاتٌ（複数形）

集合名詞は材質を示す時にも用いられます。

وَرَقٌ　材料としての紙、葉：　وَرَقَةٌ　1枚の紙、葉

خَشَبٌ 材料としての木、薪：خَشَبَةٌ １つの木片

بَيْتٌ مِنْ خَشَبٍ 木製の家

集合名詞のなかには個別名詞と同じように複数形をもつものもあります。

خَشَبٌ 薪：أَخْشَابٌ（複数）　وَرَقٌ 書類、文書：أَوْرَاقٌ（複数）

集合名詞のなかには複数形をもちながらも、個別名詞をもたないものもあります。この種の名詞は、通常「…の１杯、…の１滴」のように属格表現によって個別の意味を示します。

زَيْتٌ 油、石油：زُيُوتٌ（複数形）　مَاءٌ 水、液体：مِيَاهٌ（複数形）

نُقْطَةُ زَيْتٍ 油の１滴　فِنْجَانُ مَاءٍ コップ１杯の水

アラビア語には人間の集団を意味する集合名詞があります。代表的なものはعَرَبٌ「アラブ人」です。この種の集合名詞は、ニスバ形容詞の形を用いて個別名詞（単数）を示すことができます。

عَرَبٌ アラブ人：عَرَبِيٌّ（単数）

بَدْوٌ 遊牧民：بَدَوِيٌّ（単数）　＊دの発音が異なる。

اَلْأَمْرِيكَانُ アメリカ人：أَمْرِيكِيٌّ／أَمْرِيكَانِيٌّ（単数）

اَلْإِنْكِلِيزُ／اَلْإِنْجِلِيزُ イギリス人：إِنْكِلِيزِيٌّ／إِنْجِلِيزِيٌّ（単数）

この単数形が女性形になった場合、その複数形には規則女性複数形が用いられます。（女性単数／女性複数）

عَرَبِيَّةٌ/ عَرَبِيَّاتٌ　بَدَوِيَّةٌ/ بَدَوِيَّاتٌ　أَمْرِيكِيَّةٌ/ أَمْرِيكِيَّاتٌ

また男性形についても規則男性複数形が用いられる場合もあります。

أَمْرِيكِيٌّ/ أَمْرِيكِيُّونَ

6　場所や道具を示す名詞

完了形や未完了形を一定のパターンで変化させ、場所や道具を示す名詞をつくることができます。

◇場所を示す名詞：

場所を示す名詞のパターンは、未完了形の第２語根の母音記号や原形の形と関連がありますが、いずれもمが語頭にきます。（　）内は未完了形あるいは原形を示しています。

• مَفْعَلٌ型：未完了形第２語根がファトハかダンマ

مَدْخَلٌ (يَدْخُلُ)　　مَكْتَبٌ (يَكْتُبُ)　　مَلْعَبٌ (يَلْعَبُ)

入り口　　事務所　　競技場

• مَفْعِلٌ型：未完了形第２語根がカスラ、原形の第１語根がو

مَجْلِسٌ (يَجْلِسُ)　مَنْزِلٌ (يَنْزِلُ)　مَوْعِدٌ (وَعَدَ)　مَوْلِدٌ (وَلَدَ)

議会　　住居　　約束の時間［場所］　　誕生日、生誕祭

◇道具を示す名詞：

主要なパターンは以下の通り。（　）内は原形を示します。

• مِفْعَالٌ型：مِحْرَاثٌ (حَرَثَ)　مِفْتَاحٌ (فَتَحَ)　مِيزَانٌ (وَزَنَ)

鋤、鍬　　鍵　　秤

• مِفْعَلَةٌ型：مِطْرَقَةٌ (طَرَقَ)　مِكْنَسَةٌ (كَنَسَ)

金槌、ハンマー　　ほうき、掃除機

• فَعَّالَةٌ型：بَرَّادَةٌ (بَرُدَ)　ثَلاَّجَةٌ (ثَلَجَ)　غَسَّالَةٌ (غَسَلَ)　دَرَّاجَةٌ (دَرَجَ)

冷蔵庫［シリア］　冷蔵庫［エジプト］　洗濯機　自転車

• その他： فَأْسٌ (فَأَسَ)　　صَارُوخٌ (صَرَخَ)　　هَاتِفٌ (هَتَفَ)

斧　　ロケット、ミサイル　　電話

سِكِّينٌ (سَكَنَ)　　شَوْكَةٌ (شَاكَ)　　مِنْجَلٌ (نَجَلَ)

ナイフ　　フォーク　　鎌

7　名詞の縮小形

縮小形は、単に小さいことを示すだけでなく、愛しさや、またその逆に軽蔑の念を示すときに用いられます。(　)内はもとになっている名詞です。

• فُعَيْلٌ型：最も基本的なパターンです。

حُسَيْنٌ (حَسَنٌ)　　رُجَيْلٌ (رَجُلٌ)　　كُلَيْبٌ (كَلْبٌ)　　كُتَيِّبٌ (كِتَابٌ)

フセイン[男性名]　　小さな男　　小犬　　小冊子

* كِتَابٌの縮小形كُتَيِّبٌにはシャッダが付いているので注意してください。

もともとةやاء、ىが付いている単語は縮小形でもة、اء、ىが残ります。

قُلَيْعَةٌ (قَلْعَةٌ)　　شُجَيْرَةٌ (شَجَرَةٌ)　　صُحَيْرَاءُ (صَحْرَاءُ)

小さな砦　　小さな木　　小さな砂漠

سُلَيْمَى (سَلْمَى)

スライマー[女性名]、可愛いサルマー

ةが付いていない女性名詞は縮小形ではةが付けられます。

شُمَيْسَةٌ (شَمْسٌ)　　أُمَيْمَةٌ (أُمٌّ)　　دُوَيْرَةٌ (دَارٌ)

小さな太陽　　愛しい母　　小さな館

• فُعَيْلِلٌ型：もとになっている名詞が4文字の基本パターンです。

مُسَيْلِمٌ (مُسْلِمٌ)　　مُسَيْلِمَةٌ (مُسْلِمَةٌ)

小さなムスリム　　小さな女性ムスリム

• その他のパターン：

سُلَيْطِينٌ (سُلْطَانٌ)	أُبَيْطِرٌ (إِمْبِرَاطُورٌ)	عُصَيْفِيرٌ (عُصْفُورٌ)	بُنَيَّةٌ (اِبْنَةٌ／بِنْتٌ)
小さなスルタン	小さな皇帝	かわいい小鳥	愛しい娘
بُنَيٌّ (اِبْنٌ)	أُخَيَّةٌ (أُخْتٌ)	أُخَيٌّ (أَخٌ)	أُبَيٌّ (أَبٌ)
愛しい息子	愛しい姉妹	愛しい兄弟	愛しい父

＊بُنَيٌّに人称代名詞の結合形の１人称が付くとبُنَيَّ「私の愛する息子」となります。よく手紙の書き出し部分などで用いられます。

• 前置詞の縮小形：(　) 内はもとの前置詞

قُبَيْلَ (قَبْلَ)	…の直前に	بُعَيْدَ (بَعْدَ)	…の直後に
قُبَيْلَ ٱلْوُصُولِ	到着の直前に	بُعَيْدَ ٱلْمُغَادَرَةِ	出発の直後に

第15課　比較級

1　比較級のパターン

比較級は形容詞を一定のパターンに変化させてつくることができます。فَعِيلٌ型とفَاعِلٌ型はأَفْعَلُのパターンへ変化させます。

كَبِيرٌ	大きい	أَكْبَرُ	より大きい
عَادِلٌ	公正な	أَعْدَلُ	より公正な

第２語根と第３語根が同じ場合はシャッダ記号を用いて一文字で表記します。

جَدِيدٌ	新しい	أَجَدُّ	より新しい
قَلِيلٌ	少ない	أَقَلُّ	より少ない
هَامٌّ	重要な	أَهَمُّ	より重要な

قَوِيٌّ「強い」のように語尾がيٌّで終っている場合は、ىَに変化させます。

قَوِيٌّ	強い	أَقْوَى	より強い
غَنِيٌّ	裕福な	أَغْنَى	より裕福な

比較級のパターンは２段変化をします。上の例でもわかるように、非限定の場合でもタンウィーンをとっていないことに注意してください。なお、限定された場合は３段変化になります。

	非限定	限定
主格	أَكْبَرُ	اَلْأَكْبَرُ
対格	أَكْبَرَ	اَلْأَكْبَرَ
属格	أَكْبَرَ	اَلْأَكْبَرِ

2　比較級の用法

名詞先行文の述部として、比較の対象を前置詞مِنْを用いて示し、「…よりも…です」という構文を形成します。形容詞として働きながらも性と数の区別がないことに注意してください。

هُوَ أَطْوَلُ مِنْكَ.　彼はあなた(男性)よりも背が高いです。

اَلْمَلِكَةُ أَعْدَلُ مِنَ ٱلْمَلِكِ.　女王は国王よりも公正です。

اَلطُّلَّابُ أَطْوَلُ مِنَ ٱلطَّالِبَاتِ.　男子学生たちは女子学生たちよりも背が高いです。

هٰذَا أَهَمُّ مِنْ ذٰلِكَ.　このことはあのことよりも重要です。

先行する名詞を説明する形容詞として用いられる場合も、先行する名詞の性に関係なくأَفْعَلُの形を維持します。ただし先行する名詞の格変化には一致します。

هٰذَا بَيْتٌ أَكْبَرُ مِنْ ذٰلِكَ.　これはそれよりもっと大きな家です。

وَجَدْتُ مَدْرَسَةً أَكْبَرَ مِنْ تِلْكَ.　私はそれよりもっと大きな学校を見つけました。

بَحَثْتُ عَنْ بَيْتٍ أَكْبَرَ مِنْ هٰذَا.　私はこれよりも大きな家を探しました。

そのほか「…において、より…だ」の形をとるものもあります。そして「…において」を示すには非限定名詞の対格が用いられます。

- أَفْعَلُ＋非限定名詞の対格：

أَفْعَلُの部分にはأَقَلُّ「より少ない」、أَشَدُّ「より激しい」、أَعْظَمُ「より巨大な」、أَكْبَرُ「より大きい」、أَكْثَرُ「より多い」などの程度や分量を示す比較級が用いられます。

أَنَا أَكْثَرُ مِنْهُ فَقْرًا.　私は彼よりも貧しいです(貧しさにおいて彼よりも多い)。

هُوَ أَشَدُّ مِنْهَا سُرُورًا.　彼は彼女よりも喜んでいます(喜びにおいて彼女よりも激しい)。

色についても同様の構文が用いられます。右側に示した名詞を非限定、対格で用います。

形容詞		名詞		
أَحْمَرُ	赤い	حُمْرَةٌ	赤	
أَخْضَرُ	緑の	خُضْرَةٌ	緑	
أَصْفَرُ	黄色い	صُفْرَةٌ	黄色	
أَزْرَقُ	青い	زُرْقَةٌ	青	*زَرَقٌという形もある。
أَسْمَرُ	小麦色の	سُمْرَةٌ	小麦色	
أَشْقَرُ	ブロンドの	شُقْرَةٌ	ブロンド	*شَقَرٌという形もある。
أَبْيَضُ	白い	بَيَاضٌ	白	
أَسْوَدُ	黒い	سَوَادٌ	黒	

لَوْنُ هٰذَا ٱلْكِتَابِ أَشَدُّ سَوَادًا مِنْ ذٰلِكَ ٱلْكِتَابِ.

この本の色はあの本よりも黒いです(黒さにおいてあの本よりも激しい)。

خَيْرٌ「善い」とشَرٌّ「悪い、あくどい」はそのままの形で比較級として用いることができます。

اَلصَّلَاةُ خَيْرٌ مِنَ ٱلنَّوْمِ. 礼拝は眠りに勝ります。

هُوَ شَرٌّ مِنْكَ. 彼はあなた(男性)よりも悪いです。

3 最上級の用法

比較級のパターンは次の場合、最上級のパターンとしても用いることができます。独立して、定冠詞によって限定された形容詞として用いられる場合と、先行する限定名詞の後に用いられる場合があります。最上級(比較級)に

は数と性の区別があります。

	単数	複数
男性	أَفْعَلُ	أَفَاعِلُ／أَفْعَلُونَ
女性	فُعْلَى	فُعْلَيَاتٌ

هٰذَا هُوَ ٱلْأَكْبَرُ. これ(男性名詞)が最大のものです。

هٰذِهِ هِيَ ٱلْكُبْرَى. これ(女性名詞)が最大のものです。

هٰذَا هُوَ ٱلِابْنُ ٱلْأَكْبَرُ. これが長男です。

هٰذِهِ هِيَ ٱلْمَدِينَةُ ٱلْكُبْرَى فِي مِصْرَ. これがエジプトで最大の町です。

هٰؤُلَاءِ هُمُ ٱلْأَسَاتِذَةُ ٱلْأَكَابِرُ. これらが一番偉い教授たちです。

また、最上級には比較級の後に非限定の属格名詞を置き、比較級を限定する形をとる代表的な用法があります。この場合、最上級(比較級)に性や数の区別はありませんが、主語と属格名詞の数は一致した形をとります。

دِمَشْقُ أَقْدَمُ مَدِينَةٍ فِي ٱلْعَالَمِ. ダマスカスは世界で最も古い町です。

اَلرِّيَاضُ وَدُبَيُّ أَحْدَثُ مَدِينَتَيْنِ. リヤドとドバイは最も近代的な2つの町です。

هُمْ أَفْضَلُ رِجَالٍ. 彼らは最もすぐれた人たちです。

هُنَّ أَفْضَلُ نِسَاءٍ. 彼女たちは最もすぐれた女性たちです。

もう1つの用法は、比較級の後ろに限定された複数名詞や人称代名詞の結合形を用いて比較級を限定する方法です。この場合、比較級には性や数の区別を付ける方法と付けない方法があります。また、この用法では前置詞 مِنْ（ここでは所属を示す役割を果たします）と組み合わせて「最も…のうちの1つ、あるいはいくつか」を示す表現も多く用いられます。

بَيْرُوتُ أَجْمَلُ ٱلْمُدُنِ.

ベイルートは（いろいろな町のなかで）最も美しい町です。

دِجْلَةُ وٱلْفُرَاتُ مِنْ أَطْوَلِ ٱلْأَنْهَارِ.

チグリスとユーフラテスは最長の川に数えられます。

زَيْنَبُ أَفْضَلُ بَنَاتِهِ. ザイナブは彼の娘のうちで最もすぐれています。

هُوَ مِنْ أَفْضَلِهِمْ. 彼は彼らのうちで最もすぐれた１人です。

هُمْ أَفْضَلُ ٱلرِّجَالِ./ هُمْ أَفْضَلُو ٱلرِّجَالِ. 彼らは最もすぐれた男たちです。

هُنَّ أَفْضَلُ ٱلنِّسَاءِ./ هُنَّ فُضْلَيَاتُ ٱلنِّسَاءِ.

彼女たちは最もすぐれた女性たちです。

فُعْلَى型（最上級で用いられる比較級の女性形）には、最上級の意味をもたない、通常の形容詞として用いられるものもあります。

بَرِيطَانِيَا ٱلْعُظْمَى 大英帝国 *بِرِيطَانِيَاとبがカスラで読まれることもある。

اَلدُّوَلُ ٱلْكُبْرَى 大国

صَغِيرٌとكَبِيرٌは、人間に対して用いられた場合、後ろに人称代名詞の結合形や属格名詞を置くことによって、比較級の形をとらないで最上級の意味を示すことがあります。

كَبِيرُهُمْ 彼らのうちの最年長者 صَغِيرُهُمْ 彼らのうちの最年少者

كَبِيرُ ٱلْمَسْؤُولِينَ 最高責任者 كِبَارُ ٱلْمَسْؤُولِينَ 最高責任者たち

أَكْثَرُは最上級の用法では「大部分の、ほとんどの…」の意味で用いられます。

قَرَأْتُ أَكْثَرَ كُتُبِهِ. 私は彼の本をほとんど読みました。

第16課　副詞的表現

アラビア語の副詞は、فَقَطْ「…だけ」、هُنَاكَ「あそこで」、هُنَا「ここ」、أَمْسِ「昨日」など、その数はきわめて少ないのですが、名詞や形容詞が対格をとることで副詞的役割を果たします。ここでは副詞的役割を果たす語や状況説明文を中心に見ていきます。

1　名詞の副詞的用法

名詞の副詞的用法は通常、名詞を非限定、対格で用います。

سَافَرْتُ بَحْرًا.　私は海路で旅立ちました。

أَدْرُسُ فِي ٱلْبَيْتِ عَادَةً.　私はふだん、家で勉強します。

هٰذَا جَمِيلٌ جِدًّا.　これはとても美しいです。

زُرْتُ تَدْمُرَ أَوَّلاً.　私はまずパルミラを訪れました。

2　時間を示す対格

時間を示す場合には通常、前置詞のفِي「…に」を用いますが、名詞を対格にして副詞として用いることもできます。

صَبَاحًا 朝に（فِي ٱلصَّبَاحِ）　　لَيْلاً 夜に（فِي ٱللَّيْلِ）

اَلْيَوْمَ 今日（فِي هٰذَا ٱلْيَوْمِ）　　اَلْمَسَاءَ 今晩（فِي هٰذَا ٱلْمَسَاءِ）

سَاعَةَ ٱلْوُصُولِ 到着時に（فِي سَاعَةِ ٱلْوُصُولِ）

غَدًا 明日（فِي ٱلْغَدِ）　　اَلْآنَ 今、現在　　أَمْسِ 昨日（例外的にカスラ）

＊فِيの代わりに、عِنْدَ／لَدَى「…に際して」が用いられることもあります。

これらの表現を互いに組み合わせて用いることもできます。また、指示代名詞と組み合わせることもできます。

اَلْيَوْمَ فِي ٱلصَّبَاحِ/اَلْيَوْمَ صَبَاحًا/صَبَاحَ ٱلْيَوْمِ　今朝

اَلْيَوْمَ فِي ٱلْمَسَاءِ/اَلْيَوْمَ مَسَاءً/مَسَاءَ ٱلْيَوْمِ　今晩

هٰذِهِ ٱلسَّنَةَ　今年に　　تِلْكَ ٱللَّيْلَةَ　その夜に

時間に関係する前置詞、名詞にئِذٍを加えて副詞として用いる方法があります。おもに次のような形で用いられます。

بَعْدَئِذٍ	その後で	عِنْدَئِذٍ	そのときに、そこで	سَاعَتَئِذٍ	その時間に
حِينَئِذٍ	そのときに	وَقْتَئِذٍ	そのときに	يَوْمَئِذٍ	その日に

3　形容詞の副詞的用法

形容詞は、比較級の形も含め、対格の形で副詞としての役割を果たすことができます。

دَرَسْتِ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ كَثِيرًا.

あなた(女性)はアラビア語をたくさん勉強しました。

هَلْ فَهِمْتُمْ جَيِّدًا؟　みなさんはよくわかりましたか。

عُرِفَتْ بَغْدَادُ قَدِيمًا بِٱسْمِ دَارِ ٱلسَّلَامِ.

バグダッドは古くはダールッサラーム(平和の館)という名で知られていました。

دَرَسْنَا أَكْثَرَ مِنْكُمْ.　私たちはあなた方よりもたくさん勉強しました。

وَصَفَ ٱلْقَلْعَةَ أَجْمَلَ وَصْفٍ.　彼はその城を最も美しく描写しました。

4　能動分詞と状況説明

能動分詞の重要な用法で、能動分詞を主語の性と数に一致させた非限定、対格の形で用いて、どのような状態で行為が行なわれたのかを示します。この場合、能動分詞は目的語をとることができます。

رَجَعَ ٱلْوَلَدُ إِلَى بَيْتِهِ ضَاحِكًا.　少年は笑いながら家へ戻ってきました。

كَتَبَتِ ٱلْبَنَاتُ ٱلْمَقَالَةَ ضَاحِكَاتٍ.　娘たちは笑いながらその記事を書きました。

وَصَلَ ٱلْوَزِيرُ حَامِلاً رِسَالَةً مِنَ ٱلرَّئِيسِ إِلَى ٱلْمَلِكِ.
大臣は大統領から国王への一通の手紙を携えて到着しました。

5　وَと状況構文

能動分詞の用法に加えて、通常は接続詞として用いられるوَの状況文導入詞としての役割について学びます。まず能動分詞を用いた例を確認しておきます。

رَجَعَتِ ٱلْبِنْتُ إِلَى بَيْتِهَا ضَاحِكَةً.　娘は笑いながら家へ戻ってきました。

この文章を「وَ＋人称代名詞の独立形＋動詞の未完了形」を用いて書き換えることができます。

رَجَعَتِ ٱلْبِنْتُ إِلَى بَيْتِهَا وَهِيَ تَضْحَكُ.

「وَ＋人称代名詞の独立形」はしばしば省略され、動詞の未完了形が直接続きます。

رَجَعَتِ ٱلْبِنْتُ إِلَى بَيْتِهَا تَضْحَكُ.

状況文に動詞を含まない場合、「وَ＋人称代名詞の独立形(または他の主語)＋形容詞(または名詞)」というかたちになります。

سَكَنَتْ فِي ٱلْقَاهِرَةِ وَهِيَ صَغِيرَةٌ.　彼女は小さいころカイロに住んでいました。

خَرَجْتُ مِنَ ٱلْبَيْتِ وَٱلشَّمْسُ سَاطِعَةٌ.　私は日が昇るときに家を出ました。

述部に非限定の名詞や形容詞がくる場合、「وَ＋人称代名詞の独立形」はしばしば省略されます。そして名詞や形容詞は対格となります。

عَادَ إِلَى بَلَدِهِ أُسْتَاذًا.=عَادَ إِلَى بَلَدِهِ وَهُوَ أُسْتَاذٌ.
彼は教授として彼の国へ戻りました。

「وَ+前置詞句」の場合はこうなります。

عَادَ إِلَى بَلَدِهِ وَعِنْدَهُ أَمْوَالٌ كَثِيرَةٌ. 彼は多くの財産をもって国へ戻りました。

上記のように先行する文における動詞が完了形であっても状況文に用いられた動詞は未完了形です。このように時制の違いがあっても、状況文は意味のうえでは先行文の時制と一致します。すなわち先行文で起こったことと状況文で起こったことは同時ということになります。一方、状況文に完了形が用いられる場合、その動詞はقَدْを伴い、人称代名詞の独立形が省略されます。この場合、状況が先行文の時制の時点まで続いていたことを意味します。

سَافَرَ إِلَى سُورِيَةَ وَقَدْ تَعَلَّمَ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ.

彼はアラビア語を学び、シリアへ旅立ちました。

6　動名詞の副詞的用法

目的と理由を示す動名詞の場合、動名詞を非限定、対格で用います。

ذَهَبْتُ إِلَى ٱلْمَكْتَبَةِ بَحْثًا عَنْ تِلْكَ ٱلْمَجَلَّةِ.

私はその雑誌を探すために図書館へ行きました。

一定の前置詞を必要とせずに目的語をとる他動詞については、動名詞のあとに前置詞のلِを置きます。

يَرْحَلُ ٱلْبَدْوُ طَلَبًا لِلْمَاءِ. 遊牧民は水を求めて移動します。

強調や行為の内容や種類(どのような形で、どのような程度で)を示す動名詞の場合、用いられた動詞に対応する動名詞を非限定、対格で用います。同族目的語と呼ばれる動名詞の用法です。強調の意味を含んできますが、単に音声上のバランスをとるための場合もあります。

ضَرَبْتُهُ ضَرْبًا. 私は彼を（強く）叩きました。

وَصَفَ ٱلْكَاتِبُ مَنَاظِرَ ٱلْمَدِينَةِ وَصْفًا جَمِيلاً.

作家は町の景色を美しく描写しました。

كُلٌّ「すべて」やبَعْضٌ「若干」と属格関係を形成する場合、كُلٌّやبَعْضٌを程度を示す名詞として対格で用い、動名詞は属格となってكُلٌّやبَعْضٌを限定します。

أَعْلَمُ ذٰلِكَ كُلَّ ٱلْعِلْمِ.　私はそのことについてはすべて熟知しています。

أَعْلَمُ ذٰلِكَ بَعْضَ ٱلْعِلْمِ.　私はそのことについてはいくらか知っています。

7　主題提示の形式

أَمَّا...فَ...「…に関していえば…、…についてはどうかというと…」というように主題を提示し、それに関する説明を加える重要な構文です。主題提示のためには通常、名詞（主格）がأَمَّاの後に置かれます。それに関する説明文は、فَの後に展開されます。

主題提示のための名詞がفَ以下の説明文の主語になっている場合、فَで導かれる説明文は、主題提示の名詞に対応する人称代名詞で始まります。このとき名詞先行文導入詞であるإِنَّを伴うこともあります。

أَمَّا ٱللُّغَةُ ٱلْعَرَبِيَّةُ فَهِيَ (فَإِنَّهَا) لُغَةُ ٱلْقُرْآنِ.

アラビア語についていえば、それはコーランの言葉です。

فَで導かれる説明文が「…は…である」という形式をとり、述部が非限定の場合には人称代名詞を省略することも可能です。

وَالِدُهُ كُوَيْتِيٌّ أَمَّا وَالِدَتُهُ فَسُورِيَّةٌ.

彼の父はクウェート人です。彼の母についていえば、彼女はシリア人です。

説明文が動詞で始まる場合、人称代名詞は省略されるのが普通です。そしてその動詞が完了形の場合にはقَدْが付け加えられます。

أَمَّا ٱلْجَامِعَاتُ ٱلْعَامَّةُ فَسَوْفَ تَقْبَلُ قَرَارَ ٱلْحُكُومَةِ.

公立大学に関しては、政府の決定を受け入れるでしょう。

أَمَّا ٱلسُّعُودِيَّةُ فَقَدْ أَيَّدَتْ سِيَاسَةَ ٱلْجَامِعَةِ ٱلْعَرَبِيَّةِ.

サウジアラビアについていえば、アラブ連盟の政策を支持しました。

主題提示のための名詞が説明文中で目的語や前置詞の対象となっている場合、説明文中ではその名詞に対応する人称代名詞の結合形が用いられます。

أَمَّا هٰذِهِ ٱلْحَقِيقَةُ فَقَدْ عَرَفْتُهَا مِنْ قَبْلُ.

この真実に関していえば、私は以前それを知っていました。

أَمَّا ٱلْجَامِعُ ٱلْأُمَوِيُّ فَفِيهِ مِئْذَنَةُ ٱلْعَرُوسِ.

ウマイヤモスクについていえば、そこに花嫁の光塔があります。

أَمَّاで示された主題提示のための名詞がفَ以下で他の名詞と意味上、属格関係をつくる場合があります。この場合、意味上の属格語となる主題提示のための名詞に代わって、それに対応する人称代名詞の結合形が用いられます。

أَمَّا ٱلْكِتَابُ فَلَوْنُهُ جَمِيلٌ. その本についていえば、色がきれいです。

أَمَّا أَنْهُرُ لُبْنَانَ فَمِيَاهُهَا غَزِيرَةٌ. レバノンの川について言えば、水は豊かです。

主題提示が副詞の場合もあります。

أَمَّا ٱلْيَوْمَ فَأَصْبَحَ حَاجًّا مُحْتَرَمًا.

今はどうかといえば、彼は尊敬されるハッジ（巡礼者）になったのです。

أَمَّا...فَがそのまま省略される場合もあります。

(أَمَّا) اَلْكِتَابُ (فَ) لَوْنُهُ جَمِيلٌ. その本についていえば、色がきれいです。

＊最後の例文は、第12課（名詞先行文と動詞先行文のまとめ）でも触れましたが、名詞先行文がその述部に名詞先行文をとる例です。

第17課　受動態

1　受動態の活用

受動態は、主語が不明、あるいは意図的に不明にしておきたい場合、または一般的に知られていることを述べるために主語を明らかにする必要がない場合に用いられます。したがって「この本は彼によって書かれた」という表現はアラビア語では、「彼がこの本を書いた」と能動態で表現され、受動態は用いられません。受動態の活用は次の通りです。ضَرَبَ「叩く」を例にしてみましょう。

◇完了形：第１語根をダンマ、第２語根をカスラに変化させ、後は原形の活用にしたがいます。

	単数	双数	複数
３人称男性	ضُرِبَ	ضُرِبَا	ضُرِبُوا
３人称女性	ضُرِبَتْ	ضُرِبَتَا	ضُرِبْنَ
２人称男性	ضُرِبْتَ	ضُرِبْتُمَا	ضُرِبْتُمْ
２人称女性	ضُرِبْتِ	ضُرِبْتُمَا	ضُرِبْتُنَّ
１人称	ضُرِبْتُ		ضُرِبْنَا

◇未完了形：接頭辞をダンマ、第２語根をファトハに変化させ、後は原形の活用にしたがいます。

	単数	双数	複数
３人称男性	يُضْرَبُ	يُضْرَبَانِ	يُضْرَبُونَ
３人称女性	تُضْرَبُ	تُضْرَبَانِ	يُضْرَبْنَ

2人称男性	تُضْرَبُ	تُضْرَبَانِ	تُضْرَبُونَ
2人称女性	تُضْرَبِينَ	تُضْرَبَانِ	تُضْرَبْنَ
1人称	أُضْرَبُ		نُضْرَبُ

2　受動態の用法

通常、能動態で目的語に用いられた単語が主語となります。

ضُرِبَ ٱلْوَلَدُ. 少年は叩かれました。

كُتِبَتْ هٰذِهِ ٱلْمَقَالَةُ بِهٰذَا ٱلْقَلَمِ. この記事はこのペンで書かれました。

「…に…を与える」型の動詞(付与動詞)は通常、動詞、間接目的語(…に)、直接目的語（…を）という語順をとります。これを受動態にする場合には、間接目的語を主語とし、直接目的語はそのまま対格のままで用いられます。

مُنِحَتِ ٱلتِّلْمِيذَةُ كِتَابًا. その女子生徒は本を１冊与えられました。

付与動詞には直接目的語を動詞の直後に用いる用法もあります。この場合、前置詞لِを用いて間接目的語を示し、語順は、動詞、直接目的語、前置詞لِ、間接目的語となります。そしてこれを受動態にする場合には直接目的語が主語となり、لِ以下に変更を加える必要はありません。

مُنِحَ كِتَابٌ لِلتِّلْمِيذَةِ. １冊の本がその女子生徒に付与されました。

動詞のなかには常に一定の前置詞を伴って目的語をとるものがあります。目的語は前置詞の後ろにきますから、当然、属格になっています。これを受動態にする場合、目的語は前置詞を伴ったままの形で主語として用いられ、さらに動詞はその主語の性や数にかかわりなく、３人称男性単数の形で用い

られます。

نُظِرَ فِي هٰذِهِ ٱلْمُشْكِلَةِ ٱلصَّعْبَةِ. この難しい問題は検討されました。

سُمِحَ لَكُمْ بِٱلذَّهَابِ إِلَى ٱلسِّينَمَا. 映画館へ行くことがあなた方に許されました。

3　受動分詞

受動分詞は、能動分詞と同じように、形容詞や名詞としての役割をもっています。形容詞としては「...された」、名詞としては「...された人」の意味で用いられます。

パターンはفَعَلَ型、فَعِلَ型の動詞ともمَفْعُولٌという形をとりますが、例外的にفَعِيلٌという形が用いられることもあります（فَعُلَ型の動詞は原則的に自動詞であるため、受動分詞をもちません）。

以下の(　)内は原形を示します。

مَكْتُوبٌ (كَتَبَ)	مَشْرُوعٌ (شَرَعَ)	مَكْسُورٌ (كَسَرَ)
書かれた	法的に認められた	壊された
مَرْبُوطٌ (رَبَطَ)	مَحْمُولٌ (حَمَلَ)	مَشْرُوبٌ (شَرِبَ)
結ばれた	運ばれた	飲まれた
جَرِيحٌ／مَجْرُوحٌ (جَرَحَ)	قَتِيلٌ／مَقْتُولٌ (قَتَلَ)	
怪我を負わされた、怪我をした	殺された	

وَلَدٌ مَجْرُوحٌ 怪我をした男の子　　بِنْتٌ مَجْرُوحَةٌ 怪我をした女の子

فَعِيلٌ型の受動分詞には性の区別がありません。

وَلَدٌ جَرِيحٌ 怪我をした男の子　　بِنْتٌ جَرِيحٌ 怪我をした女の子

また「...された人」という本来の動詞の意味で用いられる場合には規則複数形が用いられますが、一定の意味を示す単語として確立している場合は通常مَفَاعِيلُ型の不規則複数形が用いられます。

مَعْرُوفٌ　知られている（人）　[複数形はمَعْرُوفُونَ]

مَقْبُولٌ　受け入れられた（人）　[複数形はمَقْبُولُونَ]

مَكْتُوبٌ　手紙　[複数形はمَكَاتِيبُ]

مَشْرُوعٌ　計画、プロジェクト　[複数形はمَشَارِيعُ]

受動分詞は「...できる、...に値する」という潜在的可能性を示すこともあります。

مَسْمُوعٌ　聞かれた、聞くに値する　اَلْآرَاءُ ٱلْمَسْمُوعَةُ　傾聴に値する意見

مَقْبُولٌ　受け入れられた、受け入れるに値する　رَدٌّ مَقْبُولٌ　妥当な返答

受動分詞も状況説明や複合形容詞として用いられます。

مَاتَ مَقْتُولاً.　彼は殺害されました（殺された状態で死んでいた）。

رَأَيْتُ رَجُلاً مَجْرُوحَ ٱلرِّجْلَيْنِ.　私は両足に怪我をした男を見ました。

前述したように一定の前置詞を伴う動詞の受動態では、受動態の主語となる名詞の性や数に関係なく、動詞には３人称男性単数が用いられます。受動分詞の場合にも修飾する名詞の性と数に関係なく、男性単数の受動分詞が前置詞を伴って用いられます。ただし、前置詞には修飾する名詞に対応する人称代名詞の結合形を添えます。

اَلْمُشْكِلَةُ ٱلْمَنْظُورُ فِيهَا　検討された問題は

فِي ٱلْجَرِيدَةِ ٱلْمَبْحُوثِ عَنْهَا　探されていた（だれかが探していた）新聞に

طُلاَّبًا مَرْغُوبًا فِيهِمْ　好ましい（望まれていた）学生たちを

受動分詞も目的語をとることがあります。

اَلتِّلْمِيذَةُ مَمْنُوحَةٌ كِتَابًا.　その女子生徒は本を１冊付与されています。

第18課　関係代名詞

1　関係代名詞

能動分詞や受動分詞が形容詞として働くのと同様に、動詞先行文や名詞先行文も先行詞を修飾する形容詞として働きます。関係代名詞は先行詞とそれを修飾する文を結ぶ役割を果たします。

関係代名詞には、先行詞の性と数に対応した形があります。単数、複数については先行詞の格変化に影響されませんが、双数については先行詞の格変化に対応した形があります。

	男性	女性
単数	اَلَّذِي	اَلَّتِي
双数	اَللَّذَانِ (اَللَّذَيْنِ)	اَللَّتَانِ (اَللَّتَيْنِ)
複数	اَلَّذِينَ	اَللَّوَاتِي / اَللاَّتِي / اَللاَّئِي

＊双数の（　）内は、先行詞が対格と属格の場合です。女性複数には３つの形がありますが、اَللَّوَاتِيが一般的に用いられます。

2　関係代名詞の用法

関係代名詞は、先行詞が限定されている場合に用いられます。その先行詞は、関係節（先行詞を修飾する関係代名詞によって導かれる文）の主語や目的語など、さまざまな役割を果たします。

◇先行詞が関係節の主語の場合：

اَلْقَائِدُ ٱلَّذِي فَتَحَ ٱلْأَنْدَلُسَ هُوَ طَارِقُ بْنُ زِيَادٍ.

アンダルスを征服した司令官は、ターリク・ブヌ・ズィヤードです。

＊هُوَは、主題提示の説明文を導く人称代名詞です。

تَحَدَّثْتُ إِلَى ٱلرَّجُلِ ٱلَّذِي كَانَ يَقْرَأُ ٱلْجَرِيدَةَ فِي ٱلْحَدِيقَةِ.

私は公園で新聞を読んでいた男に話しかけました。

تَعَرَّفْتُ عَلَى ٱلطَّالِبَةِ ٱلَّتِي (هِيَ) مِنَ ٱلْأُرْدُنِّ.

私はヨルダン出身の女子学生と知り合いました。

＊関係節が人称代名詞で始まる名詞先行文の場合、人称代名詞は省略されるのが普通です。

◇先行詞が関係節の動詞の目的語の場合：

関係節の動詞には先行詞に対応する人称代名詞の結合形を付け加えます。一定の前置詞を伴う動詞の場合も同様に、先行詞に対応する人称代名詞の結合形をその前置詞に付け加えます。

قَرَأْتُ ٱلْمَقَالَةَ ٱلَّتِي كَتَبَهَا صَدِيقِي.

私は私の友人が書いた論説を読みました。

هٰذِهِ هِيَ ٱلْجَرِيدَةُ ٱلَّتِي كُنْتُ أَبْحَثُ عَنْهَا.

これが私が探していた新聞です。

◇先行詞が関係節の主語と属格関係を形成する場合：

関係節の主語には先行詞に対応する人称代名詞の結合形を付け加えます。

- 関係節が動詞先行文

قَرَأْتُ عَنْ حَيَاةِ ٱلْكَاتِبِ ٱلَّذِي هَاجَرَ أَهْلُهُ مِنْ فِلَسْطِينَ.

私は家族がパレスチナから移住した作家の人生について読みました。

＊ أَهْلُهُ = أَهْلُ ٱلْكَاتِبِ：先行詞と関係節の主語が属格関係を形成

- 関係節が名詞先行文

أَعْرِفُ ٱلْأَسَاتِذَةَ ٱلَّذِينَ جَامِعَتُهُمْ فِي ٱلْقُدْسِ.

私は大学がエルサレムにある教授たちを知っています。

＊ جَامِعَتُهُمْ = جَامِعَةُ ٱلْأَسَاتِذَةِ：先行詞と関係節の主語が属格関係を形成

◇先行詞が関係節の動詞の目的語と属格関係を形成する場合：
関係節の目的語には先行詞に対応する人称代名詞の結合形を付け加えます。

قَابَلْتُ ٱلْأُسْتَاذَ ٱلَّذِي صَادَفْتَ ٱبْنَهُ فِي ٱلسُّوقِ.

私はあなたが市場で偶然出会ったその息子の教授と会いました。

＊ اِبْنَهُ = اِبْنَ ٱلْأُسْتَاذِ：先行詞と関係節の目的語が属格関係を形成

双数には主格と対格、属格の区別がありますから、先行詞の格変化に注意しなければなりません。

أَيْنَ ٱلْقَلَمَانِ ٱللَّذَانِ كَانَا عَلَى ٱلطَّاوِلَةِ؟

テーブルの上にあった２本の鉛筆はどこにありますか。

كُنْتُ أَبْحَثُ عَنِ ٱلْمَرْأَتَيْنِ ٱللَّتَيْنِ ذَهَبَتَا مَعِي فِي ٱلرِّحْلَةِ.

私は私と一緒に旅行に行った２人の婦人を探していました。

３　関係代名詞の省略

関係代名詞はこれまで見てきたように先行詞が限定名詞である時に用いられます。一方、先行詞が非限定の場合、関係代名詞は省かれます。

هُوَ قَائِدٌ فَتَحَ ٱلْأَنْدَلُسَ.　彼がアンダルスを征服した司令官です。

دِمَشْقُ مَدِينَةٌ فِيهَا جَوَامِعُ كَبِيرَةٌ وَكَنَائِسُ جَمِيلَةٌ.

ダマスカスは大きなモスクや美しい教会がある町です。

فِي ٱلْمَكْتَبَةِ مَجَلَّاتٌ عَالَمِيَّةٌ يَقْرَأُهَا ٱلطُّلَّابُ.

図書館には学生たちが読む世界的な雑誌があります。

مَا دَرَسْتُ شَيْئًا يُذْكَرُ.　私は語るに値することを何も学びませんでした。

＊受動態未完了形は受動分詞と同じように「…に値する」「…することができる」という潜在的可能性を示すことができます。

4　関係代名詞と分詞の関係

関係代名詞は、先行詞を説明する形容詞としての役割を果たす文を導くわけですから、能動分詞や受動分詞を用いて書き換えることもできます。

اَلْقَائِدُ ٱلَّذِي فَتَحَ ٱلْأَنْدَلُسَ / اَلْقَائِدُ ٱلْفَاتِحُ ٱلْأَنْدَلُسَ

アンダルスを征服した司令官は

اَلْمَقَالَةُ ٱلَّتِي نُشِرَتْ فِي ٱلْجَرِيدَةِ / اَلْمَقَالَةُ ٱلْمَنْشُورَةُ فِي ٱلْجَرِيدَةِ

新聞に発表された論説は

اَلشَّهَادَةُ ٱلَّتِي حُصِلَ عَلَيْهَا / اَلشَّهَادَةُ ٱلْمَحْصُولُ عَلَيْهَا

取得された証明書は

5　先行詞を含む関係代名詞

関係代名詞は先行詞を伴わずに「人、人々」の意味で用いられることがあります。この場合、関係代名詞は用いられた場所にしたがって、それぞれ主格、対格、属格として働きます。

حَضَرَ ٱلَّذِي نَجَحَ فِي ٱلِٱمْتِحَانِ.

試験に合格した人（男性、単数）が出席しました。

اَلَّذِينَ سَافَرُوا إِلَى ٱلْمَغْرِبِ رَجَعُوا أَمْسِ.

モロッコへ旅立った人々（男性、複数）が昨日、戻ってきました。

مَاの場合は「こと、もの」、مَنْの場合は「人」の意味をすでに含み、先行詞を必要としません。そして用いられた場所にしたがって、それぞれ主格、対格、属格として働きます。

مَا قَرَأْتَهُ مُفِيدٌ.　あなたが読んだものはためになります。

هَلْ تَعْرِفُ مَا وَجَدْتُهُ؟　あなたは私が見つけたものを知っていますか。

هٰذَا مَا كُنْتُ أَبْحَثُ عَنْهُ.　これが私が探していたものです。

＊これまで学んだ関係代名詞と同様に、先行詞に対応する人称代名詞の結合形をهُとして付け加えてありますが、مَاの場合はこれを省略しても構いません。上の例では、قَرَأْتُ مَا、وَجَدْتُ مَاとしても構いません。しかし前置詞を伴う場合はهُを省くことはできません。ですから最後の例ではهُは省略できません。

＊مَاは３人称男性単数として扱われますが、مَنْの場合は、男性単数、または複数として扱われます。

مَنْ يَدْرُسُ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ　アラビア語を勉強している人は（人を、人の）

مَنْ يَعْرِفُونَ ٱلْحَقِيقَةَ　その真実を知っている人々は（人々を、人々の）

関係代名詞مَاは、しばしば前置詞مِنْを伴い、مَاが示すものの種類や内容を具体的に示す場合があります。

قَرَأْتُ مَا صَدَرَ مِنْ رِوَايَاتٍ جَدِيدَةٍ.

私は出版された新しい小説を読みました。

＊مَا صَدَرَで「出版されたもの」を示します。それをمِنْ以下で具体的に説明する用法です。厳密に訳せば、「新しい小説に属するもののなかで出版されたもの」となります。前置詞مِنْはこのように所属を示す役割を果たします。

تَحَدَّثْتُ عَمَّا رَأَيْتُهُ مِنَ ٱلْعَجَائِبِ.

私は私が見たさまざまな不思議なことについて話をしました。

＊前置詞عَنْの後ろに関係代名詞のمَاがくるとعَمَّاと表されます。

وَصَفَ لَنَا مَا فِي سُورِيَةَ مِنَ ٱلْآثَارِ.

彼はシリアにある遺跡について私たちに説明しました。

第19課　接続形・要求形・命令形

1　接続形

接続形と要求形は、動詞の未完了形の一形態ですが、それぞれ重要な働きをもっています。活用の面では、未完了形の活用と接頭辞は同じですが、語尾に違いが出てきますからきちんと区別できるようにしておきましょう。

接続形は、おもに能力、希望、目的、義務を示す場合、また未来の否定を示す場合などに用いられます。

	単数	双数	複数
3人称男性	يَذْهَبَ	يَذْهَبَا	يَذْهَبُوا
3人称女性	تَذْهَبَ	تَذْهَبَا	يَذْهَبْنَ
2人称男性	تَذْهَبَ	تَذْهَبَا	تَذْهَبُوا
2人称女性	تَذْهَبِي	تَذْهَبَا	تَذْهَبْنَ
1人称	أَذْهَبَ		نَذْهَبَ

* 3人称男性・女性単数、2人称男性単数、1人称単数、複数の語尾は未完了形ではダンマでしたが、接続形ではファトハです。また、未完了形の2人称女性単数の語尾にあったنが省かれます。
* 未完了形の双数形と複数形の語尾にあったنが省かれ、その結果、複数形では発音に関係のないاが書き加えられています。
* 受動態の活用にもこの原則が適用されます。

2　接続形を伴う重要動詞

希望や可能性、義務を示す重要動詞には次のようなものがあります。ここでは代表的な動詞とその主な活用を示しておきます。(　)内は複数形の活用。

• اِسْتَطَاعَ أَنْ：…できる

	完了形	未完了形
3人称男性	اِسْتَطَاعَ (اِسْتَطَاعُوا)	يَسْتَطِيعُ (يَسْتَطِيعُونَ)
3人称女性	اِسْتَطَاعَتْ (اِسْتَطَعْنَ)	تَسْتَطِيعُ (يَسْتَطِعْنَ)
2人称男性	اِسْتَطَعْتَ (اِسْتَطَعْتُمْ)	تَسْتَطِيعُ (تَسْتَطِيعُونَ)
2人称女性	اِسْتَطَعْتِ (اِسْتَطَعْتُنَّ)	تَسْتَطِيعِينَ (تَسْتَطِعْنَ)
1人称	اِسْتَطَعْتُ (اِسْتَطَعْنَا)	أَسْتَطِيعُ (نَسْتَطِيعُ)

هَلْ تَسْتَطِيعُ أَنْ تَحْضُرَ ٱلِاجْتِمَاعَ غَدًا؟　あなたは明日、会議に出席できますか。

نَعَمْ، أَسْتَطِيعُ أَنْ أَحْضُرَهُ.　はい、私はそれに出席できます。

• أَرَادَ أَنْ：…を望む、…を欲する、…したい

	完了形	未完了形
3人称男性	أَرَادَ (أَرَادُوا)	يُرِيدُ (يُرِيدُونَ)
3人称女性	أَرَادَتْ (أَرَدْنَ)	تُرِيدُ (يُرِدْنَ)
2人称男性	أَرَدْتَ (أَرَدْتُمْ)	تُرِيدُ (تُرِيدُونَ)
2人称女性	أَرَدْتِ (أَرَدْتُنَّ)	تُرِيدِينَ (تُرِدْنَ)
1人称	أَرَدْتُ (أَرَدْنَا)	أُرِيدُ (نُرِيدُ)

هَلْ تُرِيدِينَ أَنْ تَشْرَبِي شَيْئًا؟　あなたは何か飲みたいのですか。

نَعَمْ، أُرِيدُ أَنْ أَشْرَبَ عَصِيرًا.　はい、私はジュースを飲みたいのです。

• يَجِبُ أَنْ：...しなければならない、...すべきだ、...することが必要だ
この表現では、يَجِبُの主語はأَنْ以下全体と考えられ、そのためيَجِبُは常に3人称男性単数の形で用いられます。أَنْ以下に用いる接続形で主語を区別することができますが、よりはっきりさせるために、يَجِبُとأَنْの間に前置詞عَلَىを置いて主語を明示する方法も用いられます。

يَجِبُ أَنْ تَدْرُسَ. あなた(または彼女)は勉強しなければなりません。

يَجِبُ عَلَيْكَ أَنْ تَدْرُسَ. あなたは勉強しなければなりません。

يَجِبُ عَلَى ٱلطَّالِبِ أَنْ يَدْرُسَ. その学生は勉強しなければなりません。

3　接続形の用法

◇أَنْ＋接続形：動名詞「...すること」

أُرِيدُ أَنْ أَذْهَبَ إِلَى دِمَشْقَ.

私はダマスカスへ行きたいです。(أَنْ أَذْهَبَをاَلذَّهَابَと書き換えることが可能です)

أَسْتَطِيعُ أَنْ أَعْمَلَ طُولَ الْيَوْمِ.

私は一日中働くことができます。(أَنْ أَعْمَلَをاَلْعَمَلَと書き換えることも可能です)

◇أَلاَّ (أَنْ+لاَ)＋接続形：動名詞の否定「...しないこと」

طَلَبَ مِنْكِ أَلاَّ تَذْهَبِي إِلَى بَارِيسَ.

彼はあなた(女性)にパリへ行かないよう求めました。(أَلاَّ تَذْهَبِيをعَدَمَ ٱلذَّهَابِと書き換えることも可能です)

◇لَنْ＋接続形：未来の否定

لَنْ أَفْتَحَ ٱلْبَابَ. 私はその扉を開けないでしょう。

＊لَنْは単に未来の否定というよりも「...するつもりはない、...すべきではない」という強い意思を伴う場合に用いられます。通常の未来の否定であればلاَ＋未完了形か、سَوْفَ لاَの形を用いればよいでしょう。

◇لِ／كَيْ／لِكَيْ／لِأَنْ＋接続形：「…するために」（لِは動詞に付けて書きますが、その他は離して書きます）

أَذْهَبُ إِلَى دِمَشْقَ لِأَدْرُسَ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ.

私はアラビア語を勉強するためにダマスカスへ行きます。

◇كَيْلاَ／لِكَيْلاَ／لِئَلاَّ＋接続形：「…しないために」

أَقْفَلْتُ بَابَ ٱلْغُرْفَةِ كَيْلاَ يَدْخُلَهَا ٱلْأَوْلاَدُ.

私は子供たちがそこへ入らないように部屋の扉に鍵をかけました。

◇حَتَّى＋接続形：「…するために、…する目的で」

ذَهَبْتُ إِلَى مَيْدَانِ ٱلتَّحْرِيرِ حَتَّى أَزُورَ ٱلْمَتْحَفَ.

私はその博物館を訪れるためにタハリール広場へ行きました。

4　要求形

要求形は、要求や命令、否定命令、過去の否定などを示す場合に用いられます。ذَهَبَ「行く」を例にしてみましょう。

	単数	双数	複数
3人称男性	يَذْهَبْ	يَذْهَبَا	يَذْهَبُوا
3人称女性	تَذْهَبْ	تَذْهَبَا	يَذْهَبْنَ
2人称男性	تَذْهَبْ	تَذْهَبَا	تَذْهَبُوا
2人称女性	تَذْهَبِي	تَذْهَبَا	تَذْهَبْنَ
1人称	أَذْهَبْ		نَذْهَبْ

＊３人称の男性単数と女性単数、２人称の男性単数、１人称の単数と複数の語尾がスクーンになります。

＊その他の活用は、接続形と同じです。

5　要求形の用法

◇単独：間接命令「…に…をさせなさい、…に…を義務づける、…は…をすべきである」（3人称で用いられる場合が多い）

عِنْدَمَا يَحْضُرُ يَكْتُبْ رِسَالَةً. 彼が来たときに、彼に手紙を書かせなさい。

＊名詞型前置詞عِنْدَにمَاが付くと「…した時」「…する時」の意味になります。

◇لِ＋要求形：間接命令（この形が一般的に用いられます）

عِنْدَمَا يَحْضُرُ لِيَكْتُبْ رِسَالَةً. 彼が来たときに、彼に手紙を書かせなさい。

◇فَ＋لِ（فَلْとなります）＋要求形：間接命令（前文との因果関係が強くなる）

عِنْدَمَا يَحْضُرُ فَلْيَكْتُبْ رِسَالَةً.

彼が来たら（そうしたら）彼に手紙を書かせなさい。

◇فَ＋لِ（فَلْとなります）＋１人称要求形：間接要求（複数の場合は、誘い）

فَلْأَذْهَبْ إِلَى ٱلسُّوقِ وَحْدِي. 私にひとりで市場へ行かせてください。

فَلْنَذْهَبْ إِلَى ٱلسُّوقِ. さあ、市場へ行きましょう。

◇لاَ＋２人称要求形：否定命令、否定要求

لاَ تَذْهَبِي إِلَى ٱلسُّوقِ وَحْدَكِ.

ひとりで市場へ行ってはいけません。行かないでください。（女性１人に対して）

◇لَمْ＋要求形：過去の否定（مَا＋完了形を用いた過去の否定にはある種の強調が含まれているといわれます）

لَمْ يَكْتُبِ ٱلرِّسَالَةَ. 彼はその手紙を書きませんでした。

◇لَمَّا+要求形＝لَمْ＋要求形＋بَعْدُ：「いまだに…していない」

أَمَرْتُهُ بِأَنْ يَذْهَبَ إِلَى ٱلشَّرِكَةِ وَ لَمَّا يَذْهَبْ (لَمْ يَذْهَبْ بَعْدُ).

私は彼に会社へ行くよう命じました。そして彼はまだ行っていません。

6　要求形の強調

要求形には強調のنを用いたنَّ またはنْ で語尾が終わる強調形があります。この強調文はしばしば、やはり強調詞であるلَとともに用いられます。この用法は、コーランや古典アラビア語によく見られるものです。現代アラビア語ではそれほど多く用いられませんが、公式演説や説教などで使用されることがあります。

نَّ またはنْ を用いた要求形の活用は以下の通りです。كَتَبَ「書く」を例にします。(　)内がنْ 型の活用です。

	単数	双数	複数
3人称男性	يَكْتُبَنَّ (يَكْتُبَنْ)	يَكْتُبَانِّ	يَكْتُبُنَّ (يَكْتُبُنْ)
3人称女性	تَكْتُبَنَّ (تَكْتُبَنْ)	تَكْتُبَانِّ	يَكْتُبْنَانِّ
2人称男性	تَكْتُبَنَّ (تَكْتُبَنْ)	تَكْتُبَانِّ	تَكْتُبُنَّ (تَكْتُبُنْ)
2人称女性	تَكْتُبِنَّ (تَكْتُبِنْ)	تَكْتُبَانِّ	تَكْتُبْنَانِّ
1人称	أَكْتُبَنَّ (أَكْتُبَنْ)		نَكْتُبَنَّ (نَكْتُبَنْ)

＊双数と女性複数にはنْ 型は用いられません。またنْ 型の後にハムザトルワスルがくる場合、最後のنْは省略されます。

لَا تَقْتُلَنَّ. / لَا تَقْتُلَنْ.　絶対に殺してはいけません。

لَيَكْتُبَنَّ ٱلرِّسَالَةَ. / لَيَكْتُبَ ٱلرِّسَالَةَ.　必ず彼に手紙を書かせなさい。

7　كَانَの接続形と要求形

كَانَの接続形のつくり方は、基本動詞と同じです。要求形は、接続形と大きく変わることはありませんが、語尾がスクーンになる箇所と弱文字のوが省略されている箇所がありますから注意が必要です。

◇接続形：

	単数	双数	複数
3人称男性	يَكُونَ	يَكُونَا	يَكُونُوا
3人称女性	تَكُونَ	تَكُونَا	يَكُنَّ
2人称男性	تَكُونَ	تَكُونَا	تَكُونُوا
2人称女性	تَكُونِي	تَكُونَا	تَكُنَّ
1人称	أَكُونَ		نَكُونَ

يَقْرَأُ لِيَكُونَ كَاتِبًا. 彼は作家になるために読んでいます。

◇要求形：

	単数	双数	複数
3人称男性	يَكُنْ	يَكُونَا	يَكُونُوا
3人称女性	تَكُنْ	تَكُونَا	يَكُنَّ
2人称男性	تَكُنْ	تَكُونَا	تَكُونُوا
2人称女性	تَكُونِي	تَكُونَا	تَكُنَّ
1人称	أَكُنْ		نَكُنْ

لَمْ يَكُنْ طَالِبًا مُجْتَهِدًا. 彼は真面目な学生ではありませんでした。

8　命令形

要求形を土台にしてつくります。２人称の接頭辞を取り、その代わりにاを付けます。そして要求形の第２語根がファトハとカスラの場合にはاをカスラで、ダンマの場合にはそのままダンマで読みます。なお、命令形に用いられるこのاはハムザトルワスルです。すなわち文頭にきたときのみ発音され、他の場合は発音は省略され、ワスラ記号が付きます。

◇第２語根がファトハの場合：

要求形	命令形		
تَفْتَحْ	اِفْتَحْ	開きなさい	(男性単数)
تَفْتَحِي	اِفْتَحِي		(女性単数)
تَفْتَحُوا	اِفْتَحُوا		(男性複数)
تَفْتَحْنَ	اِفْتَحْنَ		(女性複数)

◇第２語根がカスラの場合：

要求形	命令形		
تَجْلِسْ	اِجْلِسْ	座りなさい	(男性単数)
تَجْلِسِي	اِجْلِسِي		(女性単数)
تَجْلِسُوا	اِجْلِسُوا		(男性複数)
تَجْلِسْنَ	اِجْلِسْنَ		(女性複数)

◇第２語根がダンマの場合：

要求形	命令形		
تَكْتُبْ	اُكْتُبْ	書きなさい	(男性単数)
تَكْتُبِي	اُكْتُبِي		(女性単数)
تَكْتُبُوا	اُكْتُبُوا		(男性複数)
تَكْتُبْنَ	اُكْتُبْنَ		(女性複数)

كَانَの命令形は要求法の接頭辞のみを取り去ってつくります。

要求形	命令形		
تَكُنْ	كُنْ	…でありなさい	(男性単数)

تكُونِي	كُونِي	(女性単数)
تكُونُوا	كُونُوا	(男性複数)
تكُنَّ	كُنَّ	(女性複数)

＊男性複数形は事実上、男女が一緒にいる場合にも用いられます。女性複数形は女性のみの場合に用いられます。

9 間投詞

命令形にはしばしば間投詞が用いられます。代表的なものは、يَاとأَيُّهَاです。

• يَا：

おもに固有名詞や称号などが後にきます。そしてその名詞は、定冠詞なしの主格になりますが、タンウィーンをとりません。

يَا وَلَدُ. おい、そこの男の子よ。　يَا بِنْتُ. ねえ、そこの娘よ。

يَا مُحَمَّدُ. おい、ムハンマドよ。

يَا أُسْتَاذُ مُحَمَّدُ. ムハンマド教授。/ムハンマドさん。

يَا سَيِّدُ أَحْمَدُ. アフマドさん。

＊尊敬される職業や地位を表わすأُسْتَاذٌ「教授」、مُعَلِّمٌ「教師」、سَيِّدٌ「主人」などの名詞は相手の職業にかかわりなく、相手に対する敬意を示すために用いられることがあります。またしばしば具体的な名前を省き、يَا أُسْتَاذُやيَا مُعَلِّمُやيَا سَيِّدُのように単独で用いられます。

アッラーに対しては例外的に定冠詞が付いた形で用いられます。また定冠詞のハムザの読み方にはハムザを発音する場合とワスラ記号を付けて発音を省略する場合の2通りがあります。

يَا اَللّٰهُ./ يَا ٱللّٰهُ. おお、アッラーよ。

名詞が他の名詞と属格関係を形成し、または人称代名詞の結合形が付くことによって限定された場合、その名詞は対格になります。

يَا أَمِيرَ ٱلْمُؤْمِنِينَ. おお、信徒の長よ。

يَا أُمَّ مُحَمَّدٍ. ねえ、ムハンマドの母よ。

يَا أَبَا كَرِيمٍ. おい、カリームの父よ。

يَا صَدِيقَيَّ. おお、私の２人の友人よ。

يَاの後に非限定、対格の名詞を用いると、呼びかけている相手が不特定であることを示します。

يَا وَلَدًا. 男の子よ（だれでもいいから）。

次の形に注意しましょう。

يَا رَبِّ. 我が主よ。

＊何かを求めて叫ぶような場合、人称代名詞の結合形、１人称のيは省略されることがあります。

يَا أَبَتِ. 我が父よ。　　يَا أُمَّاهْ. 我が母よ。

• أَيُّهَا :

多くの場合、一般名詞が後にきます。そしてその名詞は定冠詞が付いた主格になります。それが女性名詞の場合にはأَيَّتُهَاが用いられます。またيَاと一緒に用いられることもあります。أَيُّهَاは特に演説のはじめに用いられますが、あえて訳す必要がない場合もあります。

أَيُّهَا ٱلسَّيِّدَاتُ وَٱلسَّادَةُ. 紳士淑女よ。/皆さん。

أَيُّهَا ٱلطُّلَّابُ. 学生のみなさん。　　أَيَّتُهَا ٱلْبِنْتُ. 娘よ。

يَا أَيُّهَا ٱلرَّئِيسُ. 大統領閣下。

• 他の間投詞：

هَا. さあ、ほら。　　هُوَ ذَا. さあ…だ(ほら…がいる、ある)。

一部の名詞は対格で間投詞としての役割を果たします。

أَهْلاً وَسَهْلاً ようこそ（歓迎）　　عَجَبًا びっくり（驚嘆）

مَهْلاً ゆっくり（躊躇）　　مَرْحَبًا ようこそ（歓迎）

سَمْعًا وَطَاعَةً かしこまりました（服従）

また、宗教的表現は日常生活のさまざまな場面で感情（驚嘆や失望）を示す間投詞として用いられます。

اَللّٰهُمَّ. おお、アッラーよ。

اَللّٰهُ أَكْبَرُ. アッラーは（他の何よりも）偉大なり。(驚嘆、鼓舞)

تَٱللّٰهِ./بِٱللّٰهِ./وَٱللّٰهِ. アッラーにかけて。(責任感)

إِنْ شَاءَ ٱللّٰهُ. アッラーがお望みになるのなら。(将来への期待、意志)

مَا شَاءَ ٱللّٰهُ. アッラーがお望みになっていること。(驚嘆)

مَعَاذَ ٱللّٰهِ./أَعُوذُ بِٱللّٰهِ. アッラーのもとへ逃避する。(失望、拒否)

أَسْتَغْفِرُ ٱللّٰهَ. アッラーに赦しを求める。(自分への賛辞を断わる、謙遜)

لَا حَوْلَ وَلَا قُوَّةَ إِلَّا بِٱللّٰهِ.

アッラーのところ以外には権威も力もありません。(驚嘆や不安、鼓舞)

بِسْمِ ٱللّٰهِ ٱلرَّحْمٰنِ ٱلرَّحِيمِ. 慈悲深く慈愛あつきアッラーの御名において。

『コーラン』では第９章（悔悟の章）を除くすべての章はこの最後の例文で始まっています。イスラームでは、行為はすべてアッラーの御名をもって始まります。ですからムスリムはあらゆる行為を行なう前にこの言葉を唱えるのです。またこの表現は、手紙やさまざまな文書の冒頭に記述されます。日本語の「さあ始めましょう、いただきます」などもこの表現で言い表わすこと

ができます。

اَلْحَمْدُ لِلّٰهِ. アッラーに称えあれ（すべての称賛はアッラーのもの）。

これも非常によく用いられる表現です。やはりイスラームでは、行為はすべてアッラーへの称賛をもって終わります。「これで終わります、ごちそうさまでした」などに相当する表現です。また挨拶の كَيْفَ حَالُكَ؟「ご機嫌いかがですか」という言葉に対する返事としても用いられ、「おかげさまで元気です」という意味を表わします。

اَللّٰهにはしばしば تَعَالَى「至高なる」や عَزَّ وَجَلَّ「力強く大いなる」という表現が付け加えられます。

• 敬称としての سَيِّدٌ「主人」、سَيِّدَةٌ「夫人」、أُسْتَاذٌ「教授」など：

これらの職業や地位を表わす名詞は、間投詞を用いない場合でもさまざまな場で敬称として人名の前に用いられます。その場合、これらの名詞は人名（固有名詞ですからたとえタンウィーンの発音記号が付いている場合でも限定名詞としてみなされます）と同格の名詞として扱われるため必ず定冠詞が付いた限定名詞となります。

اَلسَّيِّدُ عَادِلٌ	アーディルさんは	（主格）
اَلسَّيِّدَ عَادِلاً	アーディルさんを	（対格）
اَلسَّيِّدِ عَادِلٍ	アーディルさんの	（属格）
اَلسَّيِّدَةُ فَاطِمَةُ	ファーティマさんは	（主格）
اَلسَّيِّدَةَ فَاطِمَةَ	ファーティマさんを	（対格）
اَلسَّيِّدَةِ فَاطِمَةَ	ファーティマさんの	（属格）

اَلآنِسَةُ جَمِيلَةُ	ジャミーラさんは	اَلْأُسْتَاذُ سَعِيدٌ	サイード教授は
اَلْمُعَلِّمَةُ سَمِيرَةُ	サミーラ先生は	اَلْمَلِكُ حُسَيْنٌ	フサイン国王は
اَلْأَمِيرُ حَسَنٌ	ハサン王子は		

اَلسَّيِّدَةُは既婚の女性に用いられ、一方、未婚の女性にはاَلآنِسَةُが用いられます。اَلسَّيِّدُには既婚、未婚の区別はありません。

男性の名前にはعَادِلٌ、سَعِيدٌ、حَسَنٌなどのように分詞（形容詞）の構造をとっているものが多く、これらは基本３段変化の原則に則って活用します。人名は固有名詞であるがゆえに限定名詞として扱われる点に十分注意しなければなりません。たとえばعَادِلٌ「公正な」は、形容詞として用いられることが多いわけですが、人名として用いられると限定名詞として扱われますから、もし「小さなアーディルは」と表現する場合、عَادِلٌ اَلصَّغِيرُというようにصَغِيرٌ「小さい」には必ず定冠詞が付くことになります。عَادِلٌ صَغِيرٌとすると「アーディルは小さい」という名詞先行文を形成することになります。女性の名前は２段変化として扱います。人名の格変化については第35課でもまとめてあります。

第20課　条件法

1　条件詞

代表的な条件詞には、次の３つがあります。どれを用いる場合でも、条件を述べる条件節とその結果を示す応答節に用いる動詞の時制の使い分けに注意しなければなりません。

لَوْ：「もし…であったなら」と事実と反する仮定を示します。

إِنْ：可能性や見込みに関係なく純粋な仮定を示します。

إِذَا：仮説、またはある程度の可能性や見込みを示し、時間の重点は未来に置かれます。

• لَوْ：

まずはلَوْの例を見てみましょう。条件詞は条件節の冒頭に置かれます。そして条件節と応答節の両方に完了形が用いられます。また応答節には動詞の前に必ずلَが置かれますから前置詞のلِと間違えないよう注意する必要があります。

لَوْ ذَهَبْتُ لَقَابَلْتُهُ.　もし私が行っていれば、彼に会ったでしょう。

لَوْ طَلَبْتَ مِنِّي ذٰلِكَ لَسَاعَدْتُكَ.

もしあなたがそれを私に頼んでいれば、私はあなたを援助したのですが。

否定文では条件節に「条件詞＋لَمْ＋要求形」、応答節に「لَ＋مَا＋完了形」を用います。

لَوْ لَمْ تَدْرُسِ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ لَمَا سَافَرَتْ إِلَى سُورِيَةَ.

彼女はアラビア語を勉強していなければ、シリアへ旅立たなかったでしょう。

条件節が名詞先行文で動詞を含まない場合にはكَانَがلَوْの後に用いられます。この原則は後述のإِنْやإِذَاの場合にもあてはまります。

لَوْ لَمْ يَكُنْ أُسْتَاذًا مُخْلِصًا لَمَا سَاعَدَكُمْ.

もし彼が誠実な教授でなければ、彼はあなた方を助けなかったでしょう。

لَوْの後ろに動詞が用いられない場合、لَوْ كَانَの代わりにلَوْ أَنَّが用いられることがあります。この場合、أَنَّの原則にしたがって、主語には対格、または人称代名詞の結合形を用いなければなりません。

لَوْ أَنَّ ٱللُّغَةَ ٱلْيَابَانِيَّةَ صَعْبَةٌ جِدًّا لَمَا دَرَسْتُهَا.

日本語が大変難しいのであれば、私はそれを勉強しなかったでしょう。

否定条件「もし…がなければ(いなければ)」を示す場合、لَوْ لاَとして、その後ろには通常、名詞が主格で用いられます。

لَوْ لاَ دِمَشْقُ لَمَا كَانَتْ طُلَيْطِلَةُ.

ダマスカスがなければ、トレドは存在しなかったでしょう。

＊「詩人たちの長」と呼ばれたエジプトの詩人أَحْمَدُ شَوْقِي（アフマド・シャウキー 1868～1932）の詩の一節です。もしダマスカスのウマイヤ朝がなければ、アラブ人はアンダルス（イベリア半島）まで達せず、そこに彼らの華やかな文明を築かなかったであろうとウマイヤ朝とイスラーム文明を称賛しています。

لَوْ＋未完了形で、応答節に感嘆詞や願望の動詞などが用いられると「…だったら」という期待感を表します。

كَمْ أَنَا مَسْرُورٌ لَوْ أَسْمَعُ صَوْتَكَ.

あなたの声をきけるなら、どれほど私はうれしいでしょうか。

＊كَمْは感嘆詞。感嘆詞の場合、応答節が条件節に先行することがあります。

تَمَنَّيْتُ لَوْ أَذْهَبُ إِلَى ٱلْمَسْرَحِ.

私は劇場へ行けたらなあと願いました。

＊願望の動詞の場合、条件節は応答節の後ろにきます。

• إِنْ :

原則的には条件節と応答節に要求形が用いられますが、完了形を両者に用いてもかまいません。ただし条件節が否定文の場合には「لَمْ＋要求形」を用います。一方、応答節の否定には種々の形があります。

إِنْ يَدْرُسْ يَنْجَحْ. もし彼が勉強すれば、合格します。

إِنْ ذَهَبْتُ قَابَلْتُهُ. もし私が行けば、彼に会うでしょう。

完了形と要求形を組み合わせる用法もあります。

إِنْ يَدْرُسْ نَجَحَ. ／إِنْ دَرَسَ يَنْجَحْ.

条件節が名詞先行文の場合、كَانَを用いることはلَوْと同じです。

إِنْ كُنْتُ مَلِكًا حَكَمْتُ بِعَدَالَةٍ. もし私が王であれば、公正に統治します。

条件節に「كَانَ＋未完了形」、あるいは完了形の組み合わせを用いて時制の区別をすることもあります。

إِنْ كَانَ يَرْغَبُ فِي ذٰلِكَ... もし彼がそれを望んでいたのなら…

إِنْ كَانَ صَدِيقُكَ قَدْ سَاعَدَهُ... もしあなたの友人が彼を援助していたのなら…

• إِذَا :

إِذَاは、إِنْに比べて予測や期待感を示し、「…する時は」と訳すこともできます。原則的にإِنْと同様のバリエーションで用いますが、条件節に要求形を用いることはあまりありません。ただし条件節が否定文の場合には「لَمْ＋要求形」を用います。応答節には種々の形があること、كَانَの用いられ方もإِنْと同じです。

إِذَا ذَهَبْتُ قَابَلْتُهُ. もし私が行けば（行くときには）、彼に会うでしょう。

「突然のإِذَا」と呼ばれる用法があります。条件詞の役割はなく、إِذَاの後にبِがきて、その後ろに必ず名詞先行文がつづきます。その主語は前置詞بِがきたために属格になります。しかしبِを伴わないこともあり、その場合は主格がきます。「なんとそこには…がいた（あった）、なんと（ふいに）…が…した」の

意味を表わします。

خَرَجْتُ فَإِذَا بِمُحَمَّدٍ (مُحَمَّدٌ) بِٱلْبَابِ.

私が出ると、扉のところにムハンマドがいました。

2　応答節のفَ

条件詞がإِنْとإِذَاの場合、次の条件で応答節にはفَが用いられます。

◇応答節が名詞先行文：

إِنْ حَفِظَ ذٰلِكَ فَإِنَّهُ ذَكِيٌّ.　もし彼がそれを暗記したら、彼は賢い人です。

◇応答節が命令形：

إِنِ ٱحْتَرَمَكَ فَٱحْتَرِمْهُ.

もし彼があなたを尊敬するのなら、彼を尊敬しなさい。

◇応答節が否定文：

إِنْ رَفَضُوا ٱقْتِرَاحَكَ فَلاَ يَنْجَحُونَ.

もし彼らがあなたの提案を拒否すれば、彼らは成功しないでしょう。

◇応答節が未来形(سَまたはسَوْفَが付く)：

إِنْ لَمْ يَحْضُرْ فَسَوْفَ نُؤَجِّلُ ٱلِاجْتِمَاعَ.

彼が出席しなければ、私たちはその会議を延期するでしょう。

◇応答節がقَدْで始まる：

إِنْ يَسْرِقْ فَقَدْ سَرَقَ أَخٌ لَهُ مِنْ قَبْلُ.

もし彼が盗んだのなら、彼の兄も以前に盗んだことがあったのです。(『コーラン』ユースフの章、77節)

◇応答節が否定詞لَنْで始まる(لَنْの後ろは接続形)：

إِنْ لَمْ تَكْتُبْ إِلَيْهِ رِسَالَةً فَلَنْ يُقَابِلَكَ.

もしあなたが彼に手紙を書かないのなら、彼はあなたに会わないでしょう。

◇応答節がلَيْسَで始まる：

إِنْ يَتْرُكْ عَمَلَهُ فَلَيْسَ لَهُ مُسْتَقْبَلٌ.

もし彼が仕事を捨てるのなら、彼に未来はないでしょう。

3　条件節と応答節の逆転

応答節が条件節に先行した場合、応答節に適用される原則は無視されます。

سَأَبْعَثُ لَكَ بِبِطَاقَةٍ إِذَا وَصَلْتُ إِلَى بَيْرُوتَ.

ベイルートに到着したら、あなたへカードを送ります。

سَلِّمِي عَلَيْهَا إِذَا زُرْتِ بَيْتَهَا.

彼女の家を訪ねたら、彼女によろしくいってください。

سَوْفَ أُعَالِجُكَ إِنْ مَرِضْتَ.　あなたが病気になったら、私が治療しましょう。

逆転条件文では条件詞が一定の単語を伴って用いられることがあります。

- وَلَوْ：たとえ…であっても

لَنْ أُرَحِّبَ بِهِ وَلَوْ كَانَ مَلِكًا.

彼が国王であったとしても、私は彼を歓迎しないでしょう。

- وَإِنْ：もし…だとしても、…にもかかわらず

سَوْفَ أُتَابِعُ دِرَاسَةَ ٱلْفَلْسَفَةِ وَإِنْ تَرَكْتُ ٱلْجَامِعَةَ.

もし大学を去ったとしても、私は哲学の勉強を続けます。

- حَتَّى إِذَا：たとえ…だとしても

سَيَسْتَقْبِلُكَ حَتَّى إِذَا كُنْتَ مُنَافِسًا لَهُ.

たとえあなたが彼のライバルだとしても、彼はあなたを迎えるでしょう。

- إِلاَّ إِذَا：…しない限りは

لَنْ يُسْمَحَ لَكَ بِٱلْمُغَادَرَةِ إِلاَّ إِذَا أَكْمَلْتَ عَمَلَكَ.

あなたの仕事を終えないかぎり、去ることは許されません。

４　その他の条件法

その他の条件法では条件節や応答節には原則として要求形が用いられますが、完了形や命令形が用いられることもあります。なお、応答節にはفَが用いられることもあります。

• 命令形：条件節に命令形を置き、応答節には要求形を用います。

أُدْرُسْ تَنْجَحْ.　勉強しなさい。そうすれば合格するでしょう。

• مَنْ：…する人、だれでも…すれば

مَنْ دَرَسَ نَجَحَ. ／مَنْ يَدْرُسْ يَنْجَحْ.

勉強する人は合格するでしょう。

• مَا：…するもの(こと)、…するものは何でも

مَا تَزْرَعْ تَحْصِدْهُ.

あなたが植えたものをあなたは収穫するでしょう。

• مَتَى مَا／مَتَامَا：いつでも

مَتَى مَا أَتَيْتَ رَحَّبْتُ بِكَ.　あなたが来れば、いつでも私は歓迎します。

• أَيْنَمَا／حَيْثُمَا：どこでも

أَيْنَمَا تَجْلِسْ أَكُنْ مَسْرُورًا.　あなたがどこに座ろうと私は嬉しいです。

حَيْثُمَا تَكْثُرِ ٱلسِّلَعُ تَنْخَفِضِ ٱلْأَسْعَارُ.

どこでも商品が多くなれば値段が下がります。

• كَيْفَمَا：どんなに…しても

كَيْفَمَا حَاوَلْتَ لَنْ تَنْجَحَ.

たとえあなたがどんなに努力したとしても成功しないでしょう。

• كُلَّمَنْ／كُلُّ مَنْ：…する人はだれでも

كُلُّمَنْ يَقْرَأْ هٰذَا يَنْجَحْ.　これを読む人はだれでも成功します。

• كُلَّمَا：…するときはいつでも、…するたびに

كُلَّمَا ذَهَبْتُ إِلَى بَيْتِهِ وَجَدْتُ كُتُبًا مُمْتِعَةً.

私は彼の家へ行くたびに面白い本を見つけた。

＊كُلَّمَاについては事実の確認に重点が置かれます。

• أَيُّمَنْ：だれが…しようとも

أَيُّمَنْ جَاءَ فَأَكْرِمْهُ. たとえだれが来たとしてもその人を歓待しなさい。

• أَيُّ：どれであろうとも

أَيُّ دَرْسٍ تَحْفَظْهُ يَنْفَعْكَ. どんな授業であれ、暗記すればあなたのためになります。

• مَهْمَا：たとえ…であろうが、いつでも

مَهْمَا تَكْذِبْ أَعْرِفِ ٱلْحَقِيقَةَ. たとえあなたが嘘をつこうが私は真実を知ります。

مَهْمَا يَكُنْ مِنْ أَمْرٍ ことがどうであれ　　مَهْمَا يَكُنِ ٱلْحَالُ 状況がどうであれ

• مَا لَمْ：もし…でなければ、…でない限り（応答節は否定文の形で条件節に先行します）

لَا أَحْضُرُ ٱلدَّرْسَ مَا لَمْ تَحْضُرْهُ أَنْتَ.

あなたが出席しないのなら、私も授業に出席しません。

第21課　分量や程度を表す名詞

1　分量や程度を表す名詞

分量や程度を示す名詞 كُلٌّ「すべて」、جَمِيعٌ「全部」、مُعْظَمٌ「大部分」、بَعْضٌ「若干」は、おもに他の名詞と属格関係を形成して用いられます。

◇كُلٌّ「すべて」の使い方：

- كُلٌّ＋限定複数名詞の属格：「すべての…」

  دَرَسَ كُلُّ ٱلطُّلَّابِ هٰذِهِ ٱللُّغَةَ.　すべての学生がこの言葉を勉強しました。

- كُلٌّ＋非限定名詞単数の属格：「各…、それぞれの…」

  فَتَحَ كُلُّ طَالِبٍ ٱلْكِتَابَ.　各学生は本を開きました。

- كُلٌّ مِنْ＋限定名詞の属格：「各、それぞれ」

  اِجْتَمَعَ وَزِيرُ ٱلْخَارِجِيَّةِ بِكُلٍّ مِنَ ٱلرَّئِيسَيْنِ.

  外務大臣は両大統領とそれぞれ会談しました。

- كُلٌّ＋限定名詞単数の属格：「そのものすべて、全体」

  كُلَّ سَنَةٍ　毎年　　كُلَّ ٱلسَّنَةِ　一年中、その年ずっと

  كُلَّ يَوْمٍ　毎日　　كُلَّ ٱلْيَوْمِ　一日中　　كُلَّ سَاعَةٍ　毎時間

  كُلَّ ٱلسَّاعَةِ　1時間中

  قَرَأْتُ كُلَّ ٱلْكِتَابِ فِي مَكْتَبَةِ ٱلْجَامِعَةِ.

  私はその本を最初から最後まで大学図書館で読みました。

- 限定単独：「すべて」

  شَرِبَ ٱلْكُلَّ.　彼は全部飲みました。

تَحَدَّثَ إِلَى ٱلْكُلِّ.　彼はみんなに話しかけました。

• 置き換え用法

限定名詞の後にكُلٌّを用いて言い直す用法です。この場合、كُلٌّの格変化は先行する名詞の格変化に一致します。またكُلٌّには先行する名詞に対応する人称代名詞の結合形を加えます。

قَرَأْتُ ٱلدَّرْسَ كُلَّهُ.　私はその課全体を読みました。

＊قَرَأْتُ كُلَّ ٱلدَّرْسِ.と書き換えることも可能です。

كَتَبَ رِسَالَةً إِلَى أَصْدِقَائِهِ كُلِّهِمْ.　彼は彼の友人すべてに手紙を書きました。

＊كَتَبَ رِسَالَةً إِلَى كُلِّ أَصْدِقَائِهِ.と書き換えることも可能です。

先行名詞なしでも人称代名詞の結合形が付くことがしばしばあります。

كُلُّهُمْ فِي ٱلْفَصْلِ.　彼ら全員が教室にいます。

◇جَمِيعٌ「全部」の使い方：

• جَمِيعٌ＋限定名詞複数の属格：「すべての…」

حَضَرَ جَمِيعُ ٱلْأَسَاتِذَةِ ٱلِاجْتِمَاعَ.

すべての教授たちがその会議に出席しました。

• جَمِيعٌ＋人称代名詞の結合形：置き換え用法

حَضَرَ ٱلْأَسَاتِذَةُ جَمِيعُهُمُ ٱلِاجْتِمَاعَ.

教授たちは全員その会議に出席しました。

• 限定単独：「すべて」（通常、人間に対して用いられます）

تَحَدَّثَ إِلَى ٱلْجَمِيعِ.　彼はみんなに話しかけました。

اَلْجَمِيعُ شَرِبُوا ٱلْقَهْوَةَ.　みんながコーヒーを飲みました。

• جَمِيعًا：「すべて」

حَضَرَ ٱلْأَسَاتِذَةُ جَمِيعًا ٱلِاْجْتِمَاعَ. 教授たちは全員その会議に出席しました。

◇مُعْظَمٌ「大部分」の使い方：

• مُعْظَمٌ＋限定名詞複数の属格：「ほとんどの…」

بَدَأَتِ ٱلدُّرُوسُ فِي مُعْظَمِ ٱلْجَامِعَاتِ.

ほとんどの大学で授業が始まりました。

• مُعْظَمٌ＋人称代名詞の結合形：「ほとんど」（置き換え用法）

اَلطَّالِبَاتُ مُعْظَمُهُنَّ مِنَ ٱلدُّوَلِ ٱلْآسِيَوِيَّةِ.

女子学生たち、そのほとんどはアジア諸国出身です。

◇بَعْضٌ「若干」の使い方：

• بَعْضٌ＋限定名詞複数の属格：「…のいくつかの、何人かの」

قَرَأْتُ بَعْضَ ٱلدُّرُوسِ. 私はいくつかの課を読みました。

تَوَجَّهَ بَعْضُ ٱلْوُزَرَاءِ إِلَى ٱلْبَرْلَمَانِ. 何人かの大臣は国会へ向かいました。

• بَعْضٌ＋人称代名詞の結合形：「…のいくつか、何人かの、…の部分」

كَانَ بَعْضُهُمْ أَجَانِبَ. 彼らのなかの何人かは外国人でした。

كُلٌّ、جَمِيعٌ、مُعْظَمٌ、بَعْضٌと動詞や形容詞の関係については、これまで同様、複数の原則や動詞先行文と名詞先行文の原則にしたがいます。

شَمِلَتْ بَعْضُ ٱلدُّرُوسِ كَلِمَاتٍ جَدِيدَةً.

いくつかの課は新しい単語を含んでいました。

بَعْضُ ٱلطَّالِبَاتِ ذَهَبْنَ إِلَى ٱلْمَتْحَفِ.

何人かの女子学生は博物館へ行きました。

.ذَهَبَ بَعْضُ ٱلطَّالِبَاتِ إِلَى ٱلْمَتْحَفِ　何人かの女子学生は博物館へ行きました。

最後の文は２番目の文の動詞先行文にあたります。意味上の主語は女子学生ですから.ذَهَبَتْ بَعْضُ ٱلطَّالِبَاتِ إِلَى ٱلْمَتْحَفِというように３人称女性単数の活用を用いるのが普通ですが、この例のようにذَهَبَと男性単数が用いられることがあります。その理由は、بَعْضٌという名詞自体が男性単数名詞であることです。このため、動詞先行文の場合、بَعْضٌの後にくる主語の性に関わりなく、動詞は３人称男性単数の活用が用いられることになるのです。特に、後ろにくる名詞が人間に関わるもの（職業や地位など）を示す場合、この用法が用いられます。ただ名詞先行文になった場合はその前の例で示したように本来の主語の性に一致した活用が用いられます。

مَا、مَنْとكُلٌّの組み合わせの場合、مَاやمَنْ以下全体でكُلٌّを限定する節として考えます。

- كُلَّ مَا：「…したことのすべて」

.تَحَدَّثْتُ عَنْ كُلِّ مَا عَرَفْتُ

私はわかったことすべてについて話をしました。

- كُلَّ مَنْ：「…した人のすべて」

.سَأَلْتُ كُلَّ مَنْ قَابَلْتُهُ عَنِ ٱلنَّتَائِجِ

私は会った人すべてにその結果について尋ねました。

2　「両者」を示すكِلَاとكِلْتَا

كِلَاは「両者、双方それぞれ」を示す名詞です。كِلَاの後ろにくる名詞（双数、属格）と属格関係を形成します。あるいは人称代名詞の結合形の双数を伴って用いられます。注意すべきは、名詞先行文で用いられた場合でも述部には動詞を含め、単数形が用いられることです。

كِلَاの後に人称代名詞の結合形がきた場合、كِلَاは用いられた役割にしたがって格変化をします。

	男性形	女性形
主格	كِلاَ	كِلْتَا
対格、属格	كِلَيْ	كِلْتَيْ

دَرَسَ كِلاَهُمَا فِي ٱلْجَامِعَةِ. 彼らは２人とも大学で勉強しました。

وُلِدَتْ كِلْتَاهُمَا فِي حَلَبَ. 彼女たちは２人ともアレッポで生まれました。

قَابَلْتُ كِلَيْهِمَا. 私は彼ら２人と面会しました。

أَرْسَلْتُهُ إِلَى كِلْتَيْهِمَا. 私は彼女たち２人にそれを送りました。

كِلاَが他の名詞と属格関係を形成した場合、كِلاَは格変化をしません。言い換えれば、主格の形のみが用いられますから注意が必要です。

كِلاَ ٱلطَّالِبَيْنِ دَرَسَ فِي ٱلْجَامِعَةِ. その学生は２人とも大学で勉強しました。

قَابَلْتُ كِلاَ ٱلطَّالِبَيْنِ وَ كِلْتَا ٱلطَّالِبَتَيْنِ.

私は２人の男子学生と２人の女子学生と面会しました。

أَرْسَلْتُهُ إِلَى كِلاَ ٱلْمُهَنْدِسَيْنِ. 私はその２人の技師にそれを送りました。

* 最初の例文のように名詞先行文においても動詞の単数形が用いられている点に注意してください。稀に「両者一緒に」という意味で用いられる場合があります。その場合、述部には双数形あるいは複数形が用いられます。

كِلاَهُمَا ذَهَبَا. 両者は一緒に出かけました。

كِلاَهُمَا ذَاهِبَانِ. 両者は一緒に出かけています。

كِلاَنَا ذَهَبْنَا. 私たち２人は一緒に出かけました。

كِلاَに人称代名詞の結合形が付いた形は名詞の双数形の後ろに置かれ、先行する双数名詞に対する同格語（置き換え語）として用いられる場合があります。この場合、كِلاَの格変化は、先行する双数名詞の格変化と一致します。

رَأَيْتُ ٱلرَّجُلَيْنِ كِلَيْهِمَا.　私は２人の男を両方とも見ました。

قَرَأْتُ ٱلْجُمْلَتَيْنِ كِلْتَيْهِمَا.　私はその２つの文章を両方とも読みました。

3　نَفْسٌの用法

نَفْسٌ（複数形はنُفُوسٌ）は「精神、魂」を意味する単語で、この意味で用いられる限りでは女性名詞として扱われます。しかしこの単語には「同じ…、…そのもの、…自身」を意味する重要な用法があります。その場合、複数形はأَنْفُسٌとなります。

◇「同じ…」の表現：

常に単数形のنَفْسٌと他の属格名詞（単数、複数を問わず）で属格関係を形成します。現代アラビア語で非常に多く用いられる表現で、この場合、نَفْسٌの性は後ろにくる属格語の性と一致するとみなされます。またنَفْسٌは用いられた場に応じて格変化をします。

هٰذَا نَفْسُ ٱلْكِتَابِ.　これは同じ本です。

هٰذِهِ نَفْسُ ٱلْبِنْتِ.　これは同じ娘です。

هٰؤُلَاءِ نَفْسُ ٱلْوُزَرَاءِ.　これらは同じ大臣たちです。

رَأَيْتُ نَفْسَ ٱلرَّجُلِ.　私は同じ男を見ました。

دَرَسْنَا فِي نَفْسِ ٱلْجَامِعَةِ.　私たちは同じ大学で学びました。

فِي نَفْسِ ٱلْوَقْتِ شَرِبْنَا ٱلْقَهْوَةَ.　同時に私たちはコーヒーを飲みました。

◇「同じ…、…そのもの」の表現（同格用法）：

定冠詞が付いた限定名詞の後ろにその名詞と同格のنَفْسٌを用います。この場合نَفْسٌには先行する名詞に対応する人称代名詞の結合形を必ず付け加え、また先行名詞の数に対応した変化をします。

كُنَّا نَعْمَلُ فِي ٱلشَّرِكَةِ نَفْسِهَا.　私たちは同じ会社で働いていました。

وَجَدْتُ ٱلْكِتَابَ نَفْسَهُ. 私は同じ本を見つけました。

فِي ٱلْوَقْتِ نَفْسِهِ ٱجْتَمَعَ ٱلرَّئِيسُ بِٱلْمَلِكِ. 同時に大統領は国王と会いました。

تَحَدَّثْتُ إِلَى ٱلصُّحُفِيِّينَ أَنْفُسِهِمْ. 私はまさにその新聞記者たちに話しかけました。

◇「...自身」の表現：

「同格用法」と同じように用いる場合と、先行名詞なしで直接نَفْسٌに人称代名詞の結合形を加える場合があります。後者の場合もنَفْسٌは人称代名詞の結合形の数に対応した変化をします。

بِنَفْسِي 私自身で、私ひとりで　　لِأَنْفُسِنَا 私たち自身のために

عَيَّنَ نَفْسَهُ رَئِيسًا لِلْجَامِعَةِ. 彼は自分自身を大学の学長に任命しました。

تَكَلَّمُوا عَنْ أَنْفُسِهِمْ. 彼らは自分自身について話しました。

4　كَとمِثْلٌの用法

• مِثْلٌ：

مِثْلٌは「似たようなもの(人)」を意味する名詞ですが、他の属格語（単数、複数を問わず)と属格関係を形成したり、あるいは人称代名詞の結合形を伴って用いられ、通常「このような...、あのような...」と訳されます。مِثْلٌの性は後ろにくる属格語の性と一致するとみなされます。またمِثْلٌは用いられた状況にしたがって格変化をします。

سَيَفْشَلُ مِثْلُ هٰذَا ٱلطَّالِبِ فِي ٱلِٱمْتِحَانِ.

このような学生は試験に失敗するでしょう。

لَا أُحِبُّ مِثْلَ هٰذِهِ ٱلدُّرُوسِ. 私はこのような勉強は嫌いです。

أَنَا مِثْلُكَ. 私はあなたと同じです。

مِثْلٌと属格語によって形成された属格関係に、他の名詞が先行する場合があ

ります。この場合、「...のような」と訳されます。مِثْلٌの格変化は、先行名詞の格変化に一致します。

أُحِبُّ لَوْنًا مِثْلَ هٰذَا ٱللَّوْنِ. 私はこの色のような色が好きです。

أَبْحَثُ عَنْ قَلَمٍ مِثْلِ هٰذَا. これに似たペンを探しています。

「...のように」と訳される場合は、前置詞として常に対格で用いられます。

كَانَ يَتَصَرَّفُ مِثْلَ عَرَبِيٍّ. 彼はアラブ人のように振舞っていました。

• كَ :

مِثْلَと同じ意味で用いられる前置詞にكَがあります。両者の違いは、كَには人称代名詞の結合形を用いることができない点です。

كَانَ يَتَصَرَّفُ مِثْلَ عَرَبِيٍّ./ كَانَ يَتَصَرَّفُ كَعَرَبِيٍّ.

彼はアラブ人のように振舞っていました。

كَانَ يَتَكَلَّمُ مِثْلَكَ. 彼はあなたのように話していました。

◇「...として」を示すكَ（مِثْلَにはこの意味はありません）

زَارَ مَقَرَّ ٱلْأُمَمِ ٱلْمُتَّحِدَةِ كَمُمَثِّلٍ لِلرَّئِيسِ.

彼は大統領の代理として国連本部を訪問しました。

◇節を導くمِثْلَمَاとكَمَاは「...のように」という意味になります。

اُكْتُبْ كَمَا (مِثْلَمَا) تُرِيدُ. あなたが好きなように書きなさい。

◇接続詞としてのكَمَاは「そしてまた」という意味になります。

اِجْتَمَعَ ٱلرَّئِيسُ بِٱلْوَزِيرِ كَمَا ٱسْتَقْبَلَ ٱلْمَلِكَ.

大統領は大臣と会いました。また同様に国王を迎えました。

◇كَأَنَّ（كَと名詞先行文を導くأَنَّがつながったもの）は「まるで...のように」という意味になります。

كَانَ يَتَصَرَّفُ كَأَنَّهُ عَرَبِيٌّ.

彼はあたかもアラブ人であるかのように振舞っていました。

5 ذُوの用法

ذُوは、他の名詞と属格関係を形成し「…の所有者」の意味を表します。これに加えて、この属格関係が全体として形容詞として機能する重要な用法があります。

هُوَ ذُو عِلْمٍ. 彼は知識の持ち主です。/彼は学識のある人です。

هُوَ أُسْتَاذٌ ذُو عِلْمٍ. 彼は学識のある教授です。

最初の例は、ذُو عِلْمٍが「知識の所有者、学識のある」という名詞または形容詞として主語に対する述部を形成していますが、２番目の例では、ذُو عِلْمٍがأُسْتَاذٌを修飾する形容詞として用いられています。もし先行する名詞が限定されている場合は、ذُو以下も限定された形容詞として働いていることを示すために、次のようにذوと属格関係を形成している属格名詞に定冠詞اَلْを付けます。

هٰذَا هُوَ ٱلْأُسْتَاذُ ذُو ٱلْعِلْمِ. こちらがその学識のある教授です。

ذُوは主語や先行する名詞の性、数、格変化にしたがって、次のように格変化をします。双数女性形については（　）内のかたちもあります。

		男性形	女性形
単数	主格	ذُو	ذَاتُ
	対格	ذَا	ذَاتَ
	属格	ذِي	ذَاتِ
双数	主格	ذَوَا	ذَوَاتَا (ذَاتَا)
	対格	ذَوَيْ	ذَوَاتَيْ (ذَاتَيْ)
	属格	ذَوَيْ	ذَوَاتَيْ (ذَاتَيْ)

複数	主格	ذَوُو	ذَوَاتُ
	対格	ذَوِي	ذَوَاتِ
	属格	ذَوِي	ذَوَاتِ

عَلَّمَتْنِي مُعَلِّمَةٌ ذَاتُ خِبْرَةٍ. 経験のある先生が私を教えてくれました。

أُحِبُّ ٱلْمُعَلِّمَةَ ذَاتَ ٱلْخِبْرَةِ. 私は経験のある先生が好きです。

اِسْتَشَرْتُ ٱلْمُعَلِّمَةَ ذَاتَ ٱلْخِبْرَةِ. 私は経験のある先生に相談しました。

تَكَلَّمَ مَعَ أَسَاتِذَةٍ ذَوِي قُدْرَةٍ. 彼は能力のある教授たちと話しました。

أُمَّةٌ عَرَبِيَّةٌ وَاحِدَةٌ ذَاتُ رِسَالَةٍ خَالِدَةٍ
永遠のメッセージをもった1つのアラブ国家

＊最後の例は、アラブ復興社会党＝バアス党（حِزْبُ ٱلْبَعْثِ ٱلْعَرَبِيِّ ٱلِاشْتِرَاكِيِّ）の有名なスローガンです。

女性単数の対格ذَاتَは、しばしば時を示す名詞とともに用いられ、通常、副詞として過去のある時を示します。

ذَاتَ يَوْمٍ ある日　ذَاتَ مَرَّةٍ あるとき　ذَاتَ مَسَاءٍ ある晩

＊それぞれ前置詞فِيを付けて用いられることもあります。その場合は次のようになります。فِي ذَاتِ يَوْمٍ/ فِي ذَاتِ مَرَّةٍ/ فِي ذَاتِ مَسَاءٍ

ذَاتٌは、その後に人称代名詞の結合形を伴って、نَفْسٌと同じように「…自身」を意味することがあります。

بِذَاتِهِ それ自身で　فِي ٱلْيَوْمِ ذَاتِهِ まさにその日に、同日に

6　定冠詞اَلْの役割

すでに見てきたように、定冠詞اَلْは単語を限定したり特定したりする場合に用いられますが、その役割はそれだけにとどまりません。定冠詞اَلْが付いているからといってそれが特定のものを示しているとは限らない場合もあります。اَلْの役割は次の５つに分類されます。

◇限定のاَلْ：

特定化(「非限定で提示された後にそれを特定する」「その言葉をいっただけでそれが何(だれ)を指しているのか頭のなかで特定できる」「今、現在、存在しているものとしての特定」)

اِشْتَرَيْتُ كِتَابًا وَبِعْتُ ٱلْكِتَابَ.

私は１冊の本を買いました。そしてその本を売りました。

حَضَرَ ٱلْأَمِيرُ.　王子（首長、長）がやって来た。

اَلْيَوْمَ أَكْمَلْتُ لَكُمْ دِينَكُمْ.

本日（今、我々がそこにいる日）私はあなた方にあなた方の宗教を確立しました。(『コーラン』、食卓の章、３節)

◇包括的なاَلْ：

「分類された属性に所属する個体すべてを示すاَلْ」「すべての特徴を示すاَلْ」

وَخُلِقَ ٱلْإِنْسَانُ ضَعِيفًا.

人間は弱く(弱いものとして)創られたのです。(『コーラン』、婦人の章、28節)

＊「人間に分類されるものはすべて＝人間というものはだれでも」を示しています。

أَنْتَ ٱلرَّجُلُ.　あなたは真の男です。

＊「あなたには男というものが有するすべての特徴があります」を意味しています。

◇分類された属性の一般的資質を示すاَلْ：

一般的にはそうであっても現実が常にそうとはかぎらないので、この用法

の場合には「すべて」を意味しません。

اَلْإِنْسَانُ حَيَوَانٌ نَاطِقٌ.　人間は(一般的には、普通)理性的な動物です。

＊現実には理性的でない人もいることが前提となっています。

اَلرَّجُلُ أَطْوَلُ مِنَ ٱلْمَرْأَةِ.　男性は(普通)女性よりも背が高い。

＊現実には男性よりも背が高い女性は存在することが前提となっています。

◇固有名詞の一部としてのاَلْ：

これらの名詞はاَلْを省略することはできません。

اَللَّاتُ　アッラート(イスラーム以前のアラビア半島で信仰されていた女神の１人)

اَلْقَاهِرَةُ　カイロ(اَلْمَدِينَةُ ٱلْقَاهِرَةُ「勝利の町」のاَلْمَدِينَةُが省略されて固有名詞化したもの)

◇威厳のاَلْ：

歴代のカリフや国王の名前に用いられ、威厳や権威を与える役割を果たします。اَلْを付けるかどうかは書き手の意思や内容によります。

اَلْحَسَنُ　シーア派の第２代イマームであるハサン

اَلْحُسَيْنُ　シーア派の第３代イマームであるフサイン

＊音声上の問題からمُحَمَّدٌやمَحْمُودٌなどにはاَلْは付きません。またاَلْが付くのは形容詞（分詞）型の名前であり、動詞型の名前、たとえばيَزِيدُには詩における音韻の統一のためなどを除いて、威厳のاَلْは付きません。

第22課　動詞の派生形：第２形、第３形、第４形

1　動詞の派生形と３語根動詞の原形

これまで学んできたようにアラビア語の最大の特徴の１つは、大部分の単語が動詞から派生したさまざまなパターンによって形づくられていることです。ですから、動詞とこのパターンの関係を理解することがアラビア語の学習にとって非常に重要なことになります。すでに第10課で述べたように、３語根動詞の原形は多くの場合、これらさまざまなパターンのもとになっており、辞書の見出し語の基礎になっています。辞書を引くということは、言い換えれば、単語のなかからそのもとになっている語根、多くの場合、それは原形になりますが、それを見つけ出すことにほかなりません。そしてこのパターンの考え方は動詞にもあてはめることができます。それが動詞の派生形です。

派生形は、これまで学んだ３語根動詞の原形を一定の方法によって変化させたものです。通常、派生形はII、III、IVなどのローマ数字を用いて辞書のなかで示されています。また派生形は、他のさまざまなパターンと同じように原形の意味と密接な関係をもち、分詞や動名詞を生み出す独自のパターンをもっています。

動詞の派生形はそのパターンにしたがって14の形に分類されます。しかしそのうち５つはまず用いられることがないパターンですから、事実上９つのパターンを学ぶことになります。

まず14のパターンをこれまで同様にفَعَلَの型を用いて示します。なお、３語根動詞の原形は、派生形ではありませんが、便宜上第１形として扱い、したがって派生形は第２形から第15形までとなります。

	完了形	未完了形	能動分詞	受動分詞	動名詞
第２形	فَعَّلَ	يُفَعِّلُ	مُفَعِّلٌ	مُفَعَّلٌ	تَفْعَالٌ/ تَفْعِلَةٌ/ تَفْعِيلٌ
第３形	فَاعَلَ	يُفَاعِلُ	مُفَاعِلٌ	مُفَاعَلٌ	مُفَاعَلَةٌ/ فِعَالٌ

第4形	أَفْعَلَ	يُفْعِلُ	مُفْعِلٌ	مُفْعَلٌ	إِفْعَالٌ
第5形	تَفَعَّلَ	يَتَفَعَّلُ	مُتَفَعِّلٌ	مُتَفَعَّلٌ	تَفَعُّلٌ
第6形	تَفَاعَلَ	يَتَفَاعَلُ	مُتَفَاعِلٌ	مُتَفَاعَلٌ	تَفَاعُلٌ
第7形	اِنْفَعَلَ	يَنْفَعِلُ	مُنْفَعِلٌ	مُنْفَعَلٌ	اِنْفِعَالٌ
第8形	اِفْتَعَلَ	يَفْتَعِلُ	مُفْتَعِلٌ	مُفْتَعَلٌ	اِفْتِعَالٌ
第9形	اِفْعَلَّ	يَفْعَلُّ	مُفْعَلٌّ		اِفْعِلَالٌ
第10形	اِسْتَفْعَلَ	يَسْتَفْعِلُ	مُسْتَفْعِلٌ	مُسْتَفْعَلٌ	اِسْتِفْعَالٌ
第11形	اِفْعَالَّ	يَفْعَالُّ			اِفْعِيلَالٌ
第12形	اِفْعَوْعَلَ	يَفْعَوْعِلُ			اِفْعِيعَالٌ
第13形	اِفْعَوَّلَ	يَفْعَوِّلُ			اِفْعِوَّالٌ
第14形	اِفْعَنْلَلَ	يَفْعَنْلِلُ			اِفْعِنْلَالٌ
第15形	اِفْعَنْلَى	يَفْعَنْلِي			اِفْعِنْلَاءٌ

第９形に受動分詞はありません。なお、前述の通り、派生形第11形から第15形の５つのパターンは、現代アラビア語ではまず使われることがありませんから、ここでは完了形、未完了形、動名詞のパターンのみを挙げておきます。また原形が必ずしも第２形から第10形までのすべての派生形をもつわけではありません。たとえば、عَلِمَ「知る」は普通、第２形、第４形、第５形、第６形、第10形の５つの派生形をもっています。

2　派生形第2形

第２形は、原形の第２語根をファトハにしてシャッダを付けた形です。原形の第２語根がカスラであろうが、ダンマであろうが、すべてファトハに

します。そして完了形の活用においては原形の活用と同様の接尾辞を用います。一方、未完了形の活用においては、第２形の接頭辞は常にダンマ、第２語根は常にカスラの形になります（第３形、第４形も同じです）。

またすべての派生形についていえることですが、活用の基本は接続形や要求形、そして受動態も含め、あくまでも原形の活用が土台になっています。まず、عَلِمَ「知る」の第２形عَلَّمَ「…に…を教える」を例に活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	عَلَّمَ	يُعَلِّمُ	يُعَلِّمَ	يُعَلِّمْ
３人称女性	عَلَّمَتْ	تُعَلِّمُ	تُعَلِّمَ	تُعَلِّمْ
２人称男性	عَلَّمْتَ	تُعَلِّمُ	تُعَلِّمَ	تُعَلِّمْ
２人称女性	عَلَّمْتِ	تُعَلِّمِينَ	تُعَلِّمِي	تُعَلِّمِي
１人称	عَلَّمْتُ	أُعَلِّمُ	أُعَلِّمَ	أُعَلِّمْ
（双数）				
３人称男性	عَلَّمَا	يُعَلِّمَانِ	يُعَلِّمَا	يُعَلِّمَا
３人称女性	عَلَّمَتَا	تُعَلِّمَانِ	تُعَلِّمَا	تُعَلِّمَا
２人称男女	عَلَّمْتُمَا	تُعَلِّمَانِ	تُعَلِّمَا	تُعَلِّمَا
（複数）				
３人称男性	عَلَّمُوا	يُعَلِّمُونَ	يُعَلِّمُوا	يُعَلِّمُوا
３人称女性	عَلَّمْنَ	يُعَلِّمْنَ	يُعَلِّمْنَ	يُعَلِّمْنَ
２人称男性	عَلَّمْتُمْ	تُعَلِّمُونَ	تُعَلِّمُوا	تُعَلِّمُوا
２人称女性	عَلَّمْتُنَّ	تُعَلِّمْنَ	تُعَلِّمْنَ	تُعَلِّمْنَ
１人称	عَلَّمْنَا	نُعَلِّمُ	نُعَلِّمَ	نُعَلِّمْ

＊これまで同様、双数の場合、２人称では男女ともに同じ活用をします。したがって今後、派生形の活用を示す場合、双数では、２人称男女をひとつにまとめて表記することにします。

◇命令形：要求形（２人称）から接頭辞を取り去った形です。原形のように語頭に ا を加えることはありません。

男性単数　عَلِّمْ　教えなさい　女性単数　عَلِّمِي

双数　عَلِّمَا

男性複数　عَلِّمُوا　女性複数　عَلِّمْنَ

◇分詞：能動分詞と受動分詞はどちらもمで始まり、能動分詞では第２語根をカスラに、受動分詞はファトハにします。分詞のこのつくり方は、すべての派生形にあてはまります。

能動分詞　مُعَلِّمٌ　教えている、教える人、教師

受動分詞　مُعَلَّمٌ　教えられている

◇動名詞：　تَعْلِيمٌ　教えること、教育

このパターンが最も代表的な第２形の動名詞ですが、他のパターンをもつ動詞もあります。

تَقْدِمَةٌ/تَقْدِيمٌ　提出（قَدَّمَ　提出する）　تَجْرِبَةٌ　実験、経験（جَرَّبَ　実験する）

تَرْحَابٌ/تَرْحِيبٌ　歓迎（رَحَّبَ　歓迎する）

また、派生形第２形から第10形までの動名詞の複数形は、基本的に規則女性複数形のパターンをとります。

تَعْلِيمٌ（単数）：تَعْلِيمَاتٌ（複数）

しかし、第２形の一部の動名詞には不規則複数形をとるものもあります。

تَقَارِيرُ/تَقْرِيرٌ　決定、報告（قَرَّرَ　決定する）

◇受動態：原形と同様に、完了形では第１語根がダンマ、第２語根がカスラ、未完了形では接頭辞がダンマ、第2語根がファトハになります。

عُلِّمَ （完了形）　يُعَلَّمُ （未完了形）

３　派生形第２形の主要な意味

◇自動詞の他動詞化：

كَثَّرَ　…を増やす（كَثُرَ　多くある）

قَرَّبَ　…を近づける（قَرُبَ　近くある）

رَجَّعَ　…を戻す、くり返す（رَجَعَ　戻る）

◇評価：

صَدَّقَ　…を真実と判断する、信じる（صَدَقَ　真実を語る）

كَذَّبَ　…を嘘つきと呼ぶ、信用しない（كَذَبَ　嘘をつく）

◇目的語を２つとる他動詞：

ذَكَّرَ　…に…を思い出させる（ذَكَرَ　…を思い出す）

شَرَّبَ　…に…を飲ませる（شَرِبَ　…を飲む）

سَمَّعَ　…に…を聞かせる（سَمِعَ　…を聞く）

عَلَّمَ　…に…を教える（عَلِمَ　知る）

＊目的語を２つとるということは、第14課で学んだإِيَّاが直接目的語に用いられる場合があるということです。このことは、派生形第４形にもあてはまります。

عَلَّمْتُ ٱلطَّالِبَ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ.　私はその学生にアラビア語を教えました。

عَلَّمْتُ ٱلطَّالِبَ إِيَّاهَا.　私はその学生にそれ（アラビア語）を教えました。

عَلَّمْتُهُ إِيَّاهَا.　私は彼にそれ（アラビア語）を教えました。

◇強調や反復：

قَتَّلَ　…を惨殺する（قَتَلَ　…を殺す）

كَسَّرَ　…を粉砕する（كَسَرَ　…を壊す）

◇名詞から派生した第２形：

عَيَّدَ　祭りを祝う（عِيدٌ　祭り）　مَرَّضَ　看護する（مَرِيضٌ　病気である）

سَمَّى　名づける（اِسْمٌ　名前）　جَنَّدَ　徴兵する（جُنْدٌ　兵士）

خَيَّمَ　テントをはる（خَيْمَةٌ　テント）

سَلَّمَ عَلَى　…に挨拶する（اَلسَّلَامُ عَلَيْكُمْ　アッサラーム　アライクム）

◇第２形の重要動詞：

دَرَّسَ	教える	دَمَّرَ	破壊する	حَدَّثَ	…に話す	حَرَّكَ	動かす
حَضَّرَ	準備する	سَجَّلَ	記録する	طَوَّرَ	発展させる	عَبَّرَ عَنْ	表明する
غَيَّرَ	変化させる	فَتَّشَ	検査する	فَجَّرَ	爆破する	فَرَّقَ	分ける
قَدَّمَ	提出する	كَلَّمَ	…に話す	وَزَّعَ عَلَى	…に配る	وَضَّحَ	明らかにする

４　派生形第３形

第３形は、原形の第１語根をファトハの長母音にし、第２、第３語根をファトハにした形です。كَتَبَ「書く」の第３形كَاتَبَ「…に書く」を例に活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	كَاتَبَ	يُكَاتِبُ	يُكَاتِبَ	يُكَاتِبْ
３人称女性	كَاتَبَتْ	تُكَاتِبُ	تُكَاتِبَ	تُكَاتِبْ
２人称男性	كَاتَبْتَ	تُكَاتِبُ	تُكَاتِبَ	تُكَاتِبْ

2人称女性	كَاتَبْتِ	تُكَاتِبِينَ	تُكَاتِبِي	تُكَاتِبِي
1人称	كَاتَبْتُ	أُكَاتِبُ	أُكَاتِبَ	أُكَاتِبْ
（双数）				
3人称男性	كَاتَبَا	يُكَاتِبَانِ	يُكَاتِبَا	يُكَاتِبَا
3人称女性	كَاتَبَتَا	تُكَاتِبَانِ	تُكَاتِبَا	تُكَاتِبَا
2人称男女	كَاتَبْتُمَا	تُكَاتِبَانِ	تُكَاتِبَا	تُكَاتِبَا
（複数）				
3人称男性	كَاتَبُوا	يُكَاتِبُونَ	يُكَاتِبُوا	يُكَاتِبُوا
3人称女性	كَاتَبْنَ	يُكَاتِبْنَ	يُكَاتِبْنَ	يُكَاتِبْنَ
2人称男性	كَاتَبْتُمْ	تُكَاتِبُونَ	تُكَاتِبُوا	تُكَاتِبُوا
2人称女性	كَاتَبْتُنَّ	تُكَاتِبْنَ	تُكَاتِبْنَ	تُكَاتِبْنَ
1人称	كَاتَبْنَا	نُكَاتِبُ	نُكَاتِبَ	نُكَاتِبْ

◇命令形：第２形と同じつくり方になります。

男性単数	كَاتِبْ	…に書きなさい	女性単数	كَاتِبِي
双数	كَاتِبَا			
男性複数	كَاتِبُوا		女性複数	كَاتِبْنَ

◇分詞：次のパターンになります。

能動分詞　مُكَاتِبٌ　書いている（人）

受動分詞　مُكَاتَبٌ　書かれた

◇動名詞：مُكَاتَبَةٌ　…に書くこと

このパターンが最も代表的な第３形の動名詞ですが、他のパターンをもつ

動詞もあります。

مُقَاتَلَةٌ/ قِتَالٌ　戦闘（قَاتَلَ　…を殺そうとする）

سَفَرٌ　旅（سَافَرَ　旅をする）＊例外的に原形の動名詞を用います

◇受動態：完了形の場合、第１語根がダンマになりますが、そのとき ا が و に変化するので注意が必要です。

كُوتِبَ（完了形）　يُكَاتَبُ（未完了形）

5　派生形第３形の主要な意味

◇試み（…に…しようとする）：

قَاتَلَ　…を殺そうとする、…と戦う（قَتَلَ　殺す）

◇参加（…を…に巻き込む）：

ضَارَبَ　一方がもう一方を叩く、叩きあう（ضَرَبَ　叩く）

◇自動詞の他動詞化：

بَاعَدَ　…を遠ざける（بَعُدَ　離れている）

◇原形で必要とした前置詞の省略：

كَاتَبَهُ　彼へ書く（كَتَبَ إِلَيْهِ）　جَالَسَهَا　彼女と一緒に座る（جَلَسَ إِلَيْهَا）

قَاوَمَهُمْ　彼らに反対して立ち上がる、抵抗する（قَامَ عَلَيْهِمْ）

◇第３形の重要動詞：

حَافَظَ عَلَى　保護する　خَالَفَ　違反する、反対する　دَافَعَ عَنْ　守る

رَاجَعَ　参照する　رَاقَبَ　監視する　سَاعَدَ　援助する　شَاهَدَ　見る

طَالَبَ بِ　要求する　قَابَلَ　面会する　قَارَنَ　比較する

قَاطَعَ　ボイコットする　نَاقَشَ　議論する

6　派生形第4形

第4形の完了形は、原形の前に أَ を置き、第1語根をスクーンにした形です。第4形に用いられる أ は表記上も、発音上も省略されないハムザ(ハムザトルカトウ)です。しかし、印刷技術の問題でハムザが落ちている場合がありますから注意が必要です。حَضَرَ「来る、出席する」の第4形 أَحْضَرَ「持って来る」を例に活用を確認しておきましょう。

(単数)	完了形	未完了形	接続形	要求形
3人称男性	أَحْضَرَ	يُحْضِرُ	يُحْضِرَ	يُحْضِرْ
3人称女性	أَحْضَرَتْ	تُحْضِرُ	تُحْضِرَ	تُحْضِرْ
2人称男性	أَحْضَرْتَ	تُحْضِرُ	تُحْضِرَ	تُحْضِرْ
2人称女性	أَحْضَرْتِ	تُحْضِرِينَ	تُحْضِرِي	تُحْضِرِي
1人称	أَحْضَرْتُ	أُحْضِرُ	أُحْضِرَ	أُحْضِرْ
(双数)				
3人称男性	أَحْضَرَا	يُحْضِرَانِ	يُحْضِرَا	يُحْضِرَا
3人称女性	أَحْضَرَتَا	تُحْضِرَانِ	تُحْضِرَا	تُحْضِرَا
2人称男女	أَحْضَرْتُمَا	تُحْضِرَانِ	تُحْضِرَا	تُحْضِرَا
(複数)				
3人称男性	أَحْضَرُوا	يُحْضِرُونَ	يُحْضِرُوا	يُحْضِرُوا
3人称女性	أَحْضَرْنَ	يُحْضِرْنَ	يُحْضِرْنَ	يُحْضِرْنَ
2人称男性	أَحْضَرْتُمْ	تُحْضِرُونَ	تُحْضِرُوا	تُحْضِرُوا
2人称女性	أَحْضَرْتُنَّ	تُحْضِرْنَ	تُحْضِرْنَ	تُحْضِرْنَ
1人称	أَحْضَرْنَا	نُحْضِرُ	نُحْضِرَ	نُحْضِرْ

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取り、その代わりに أَ を置きます。

男性単数	أَحْضِرْ	持って来なさい	女性単数	أَحْضِرِي
双数	أَحْضِرَا			
男性複数	أَحْضِرُوا		女性複数	أَحْضِرْنَ

◇分詞：次のパターンになります。

能動分詞　مُحْضِرٌ　持って来る（人）

受動分詞　مُحْضَرٌ　持って来られる

◇動名詞：次のパターンになります。 إِحْضَارٌ　持って来ること

◇受動態：أُحْضِرَ （完了形）　يُحْضَرُ （未完了形）

7　派生形第４形の主要な意味

◇自動詞の他動詞化：

أَظْهَرَ　示す、見せる（ظَهَرَ　現われる）

أَحْضَرَ　出席させる、持って来る（حَضَرَ　出席する、やって来る）

أَكْمَلَ　完成させる、仕上げる（كَمُلَ　完成している）

◇目的語を２つとる他動詞：

أَسْمَعَ　…に…を聞かせる（سَمِعَ　…を聞く）

أَسْكَنَ　…を…に住まわせる（سَكَنَ　…に住む）

أَخْبَرَ بِ　…に…を知らせる（خَبَرَ　知る）

◇名詞から派生した第４形：

أَصْبَحَ　朝になる、…になる（صَبَاحٌ　朝）

أَصْبَحَ أُسْتَاذًا كَبِيرًا. 彼は偉大な教授になりました。（述部は非限定、対格）

第４形はほとんど他動詞ですが、自動詞も一部あります。

أَسْلَمَ　イスラーム教徒になる（سَلِمَ　安全である）
＊もとは他動詞として、自分自身を神に捧げるという意味。

أَقْبَلَ عَلَى　…に近づく（قَبِلَ　受け入れる）

◇第４形の重要動詞：

أَخْفَقَ فِي　失敗する　أَدْخَلَ　取り入れる　أَرْشَدَ　導く　أَشْرَفَ عَلَى　監督する
أَصْدَرَ　出版する　أَعْلَنَ　表明する　أَقْدَمَ عَلَى　思いきって実行する
أَقْنَعَ　説得する　أَنْتَجَ　生産する　أَنْذَرَ بِ　…について警告する

8　感嘆文

代表的な感嘆文は、مَا を主語として派生形第４形（常に完了形、３人称男性単数）を用い、称賛の対象となるものを対格にして、動詞の目的語とします。

أَجْمَلَ　…を美しくする（جَمُلَ　美しくある）

مَا أَجْمَلَ هٰذِهِ ٱلْمَدِينَةَ!　なんとこの町は美しいのでしょうか。

مَا أَجْمَلَهَا!　彼女はなんと美しいのでしょうか。

مَا أَعْجَبَ هٰذَا!　これはなんと不思議なことでしょうか。

مَا أَكْبَرَ ٱلْجَامِعَةَ ٱلْقَدِيمَةَ!　その古い大学はなんと大きいのでしょうか。

また第４形の命令形（常に男性単数）を使う場合もあります。この場合には前置詞の بِ を伴います。

مَا أَحْسَنَ مُحَمَّدًا!/ أَحْسِنْ بِمُحَمَّدٍ!　ムハンマドはなんとよい人なのでしょうか。

مَا أَجْمَلَ مَرْيَمَ!/ أَجْمِلْ بِمَرْيَمَ!　マルヤムはなんと美しいのでしょうか。

مَا أَصْعَبَهُ!/ أَصْعِبْ بِهِ!　それはなんと難しいのでしょうか。

9　分詞や動名詞の用法

派生形になっても、状況説明、目的や理由、内容や種類など、能動分詞と動名詞の働きは変わることはありません。

قَبَّلْتُهَا مُرَحِّبًا بِهَا.

私は彼女を歓迎しながら彼女にキスをしました。（状況説明）

نُسَجِّلُ ٱسْمَكَ تَقْدِيرًا لِخِدْمَاتِكَ ٱلْكَثِيرَةِ.

私たちはあなたの多くの貢献を評価してあなたの名前を記録します。（目的、理由）

أَعْلَنَ رَغْبَتَهُ إِعْلَانًا وَاضِحًا.

彼は彼の望みをわかりやすく表明しました。（内容や種類）

سَاعَدْتُهُ مُسَاعَدَةً كَبِيرَةً.　私は彼を大いに援助しました。（内容や種類）

第23課　動詞の派生形：第５形、第６形、第７形、第８形

1　派生形第５形

第５形は、第２形に接頭辞تَـを付けた形です。未完了形の活用では、接頭辞と第２語根がファトハで発音されます。كَلَمَ「傷つける」の第２形はكَلَّمَ「…に話す」です。ここでは第５形تَكَلَّمَ「話す」を例にその活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	تَكَلَّمَ	يَتَكَلَّمُ	يَتَكَلَّمَ	يَتَكَلَّمْ
３人称女性	تَكَلَّمَتْ	تَتَكَلَّمُ	تَتَكَلَّمَ	تَتَكَلَّمْ
２人称男性	تَكَلَّمْتَ	تَتَكَلَّمُ	تَتَكَلَّمَ	تَتَكَلَّمْ
２人称女性	تَكَلَّمْتِ	تَتَكَلَّمِينَ	تَتَكَلَّمِي	تَتَكَلَّمِي
１人称	تَكَلَّمْتُ	أَتَكَلَّمُ	أَتَكَلَّمَ	أَتَكَلَّمْ
（双数）				
３人称男性	تَكَلَّمَا	يَتَكَلَّمَانِ	يَتَكَلَّمَا	يَتَكَلَّمَا
３人称女性	تَكَلَّمَتَا	تَتَكَلَّمَانِ	تَتَكَلَّمَا	تَتَكَلَّمَا
２人称男女	تَكَلَّمْتُمَا	تَتَكَلَّمَانِ	تَتَكَلَّمَا	تَتَكَلَّمَا
（複数）				
３人称男性	تَكَلَّمُوا	يَتَكَلَّمُونَ	يَتَكَلَّمُوا	يَتَكَلَّمُوا
３人称女性	تَكَلَّمْنَ	يَتَكَلَّمْنَ	يَتَكَلَّمْنَ	يَتَكَلَّمْنَ
２人称男性	تَكَلَّمْتُمْ	تَتَكَلَّمُونَ	تَتَكَلَّمُوا	تَتَكَلَّمُوا
２人称女性	تَكَلَّمْتُنَّ	تَتَكَلَّمْنَ	تَتَكَلَّمْنَ	تَتَكَلَّمْنَ
１人称	تَكَلَّمْنَا	نَتَكَلَّمُ	نَتَكَلَّمَ	نَتَكَلَّمْ

◇命令形：要求形（２人称）から接頭辞を取り去ります。

男性単数 تَكَلَّمْ 話しなさい　女性単数 تَكَلَّمِي

双数 تَكَلَّمَا

男性複数 تَكَلَّمُوا　女性複数 تَكَلَّمْنَ

◇分詞：次のパターンになります。

能動分詞 مُتَكَلِّمٌ 話している（人）

受動分詞 مُتَكَلَّمٌ 話されている

◇動名詞：次のパターンになります。

تَكَلُّمٌ 話をすること

◇受動態：تُكُلِّمَ（完了形）　يُتَكَلَّمُ（未完了形）

２　派生形第５形の主要な意味

◇第２形の再帰形（動詞の行為や作用が自らに向けられることを示す）：

تَكَسَّرَ 粉砕される、粉々になる（كَسَّرَ 粉砕する）

تَسَلَّمَ 渡される、受け取る（سَلَّمَ 渡す）

تَعَلَّمَ 教えられる、習う、学ぶ（عَلَّمَ 教える）

تَقَرَّرَ 決定される、決まる（قَرَّرَ 決定する）

تَكَلَّمَ 話す（كَلَّمَ ...に話す）

◇名詞から派生した第５形：

تَمَصَّرَ エジプト人になる、エジプト人のように振舞う（مِصْرُ エジプト）

تَنَصَّرَ キリスト教徒になる、キリスト教徒のように振舞う（نَصْرَانِيٌّ キリスト教徒）

تَهَوَّدَ ユダヤ教徒になる、ユダヤ教徒のように振舞う（يَهُودِيٌّ ユダヤ教徒）

◇自分自身をある存在とみなす：

تَكَبَّرَ　自らを偉大とみなす、威張る（كَبِيرٌ　偉大な）

تَنَبَّأَ　自分自身を預言者と称する（نَبِيٌّ　預言者）

◇第５形の重要動詞：

تَجَنَّبَ 避ける　تَحَرَّكَ 動く　تَحَدَّثَ 語る　تَحَمَّلَ 耐える

تَطَوَّرَ 発展する　تَغَيَّرَ 変化する　تَفَرَّجَ عَلَى 見物する　تَفَرَّقَ 分かれる

تَفَضَّلَ بِ 好意をもって…する　تَفَقَّدَ 調査する　تَقَدَّمَ 進歩する

3　派生形第6形

第６形は、第３形に接頭辞 تَ を付けた形です。

كَاتَبَ「…に書く」の第６形 تَكَاتَبَ「互いに書く」を例にその活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
3人称男性	تَكَاتَبَ	يَتَكَاتَبُ	يَتَكَاتَبَ	يَتَكَاتَبْ
3人称女性	تَكَاتَبَتْ	تَتَكَاتَبُ	تَتَكَاتَبَ	تَتَكَاتَبْ
2人称男性	تَكَاتَبْتَ	تَتَكَاتَبُ	تَتَكَاتَبَ	تَتَكَاتَبْ
2人称女性	تَكَاتَبْتِ	تَتَكَاتَبِينَ	تَتَكَاتَبِي	تَتَكَاتَبِي
1人称	تَكَاتَبْتُ	أَتَكَاتَبُ	أَتَكَاتَبَ	أَتَكَاتَبْ
（双数）				
3人称男性	تَكَاتَبَا	يَتَكَاتَبَانِ	يَتَكَاتَبَا	يَتَكَاتَبَا
3人称女性	تَكَاتَبَتَا	تَتَكَاتَبَانِ	تَتَكَاتَبَا	تَتَكَاتَبَا
2人称男女	تَكَاتَبْتُمَا	تَتَكَاتَبَانِ	تَتَكَاتَبَا	تَتَكَاتَبَا

（複数）

3人称男性	تَكَاتَبُوا	يَتَكَاتَبُونَ	يَتَكَاتَبُوا	يَتَكَاتَبُوا
3人称女性	تَكَاتَبْنَ	يَتَكَاتَبْنَ	يَتَكَاتَبْنَ	يَتَكَاتَبْنَ
2人称男性	تَكَاتَبْتُمْ	تَتَكَاتَبُونَ	تَتَكَاتَبُوا	تَتَكَاتَبُوا
2人称女性	تَكَاتَبْتُنَّ	تَتَكَاتَبْنَ	تَتَكَاتَبْنَ	تَتَكَاتَبْنَ
1人称	تَكَاتَبْنَا	نَتَكَاتَبُ	نَتَكَاتَبَ	نَتَكَاتَبْ

◇命令形：第５形同様、要求形（２人称）から接頭辞を取り去ります。

男性単数　تَكَاتَبْ　互いに書きなさい　　女性単数　تَكَاتَبِي

双数　تَكَاتَبَا

男性複数　تَكَاتَبُوا　　女性複数　تَكَاتَبْنَ

◇分詞：次のパターンになります。

能動分詞　مُتَكَاتِبٌ　互いに書いている（人）

受動分詞　مُتَكَاتَبٌ　互いに書かれた

◇動名詞：次のパターンになります。تَكَاتُبٌ　互いに書くこと

◇受動態：派生形第３形の受動態と同じように、完了形ではاがوに変化するので注意が必要です。

تُكُوتِبَ（完了形）　　يُتَكَاتَبُ（未完了形）

4　派生形第６形の主要な意味

◇第３形を相互行為にする：

تَكَاتَبَ　互いに書く、文通する（كَاتَبَ　…に書く）

تَرَاسَلَ　互いに手紙を交換する、文通する（رَاسَلَ　…に手紙を送る）

تَعَاوَنَ　助け合う、協力し合う（عَاوَنَ　…を援助する）

تَقَاتَلَ　交戦する、殺し合う（قَاتَلَ　…と戦う）

◇状態や地位を装う：

تَظَاهَرَ　装う、ふりをする（ظَاهِرٌ　はっきりした）

تَجَاهَلَ　知らないふりをする、無視する（جَاهِلٌ　無知の）

◇第６形の重要動詞：

تَدَاخَلَ 交錯する　　تَشَابَكَ もつれ合う　　تَشَاجَرَ 言い争う

تَدَارَسَ 一緒に検討する　　تَهَاتَفَ 互いに歓呼の声をあげる

「相互に…する」という意味をもつことから、第６形の主語は通常、双数または複数、あるいは集合名詞になります。もし主語が単数の場合には、前置詞مَعَ「…と一緒に」を伴うか、別の主語を添えることになります。

يَتَرَاسَلُ ٱلصَّدِيقَانِ.　２人の友人は手紙を交換し合っています。

تَعَاوَنُوا فِي بِنَاءِ ٱلْمَدْرَسَةِ.　彼らは学校を建設することで助け合いました。

تَقَاتَلَ ٱلْقَوْمُ.　人々は互いに殺し合いました。

تَعَاوَنَ مَعَهُمْ فِي ذٰلِكَ.　彼はそのことで彼らと協力しました。

تَشَاجَرَ أَحْمَدُ وَسَمِيرَةُ.　アフマドとサミーラは言い争いました。

5　派生形第７形

第７形は、原形の語頭にاِنْを付けた形です。このاِنْのاは「ハムザトルワスル」ですから、発音上省略される場合があります。また原形の第１語根がأ、و、ي、ر、ل、نの動詞には原則として第７形はありません。未完了形では接頭辞がファトハで、また第２語根はカスラで読まれます。قَطَعَ「断つ」の第７形

اِنْقَطَعَ「断たれる、途切れる」を例にその活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
3人称男性	اِنْقَطَعَ	يَنْقَطِعُ	يَنْقَطِعَ	يَنْقَطِعْ
3人称女性	اِنْقَطَعَتْ	تَنْقَطِعُ	تَنْقَطِعَ	تَنْقَطِعْ
2人称男性	اِنْقَطَعْتَ	تَنْقَطِعُ	تَنْقَطِعَ	تَنْقَطِعْ
2人称女性	اِنْقَطَعْتِ	تَنْقَطِعِينَ	تَنْقَطِعِي	تَنْقَطِعِي
1人称	اِنْقَطَعْتُ	أَنْقَطِعُ	أَنْقَطِعَ	أَنْقَطِعْ
（双数）				
3人称男性	اِنْقَطَعَا	يَنْقَطِعَانِ	يَنْقَطِعَا	يَنْقَطِعَا
3人称女性	اِنْقَطَعَتَا	تَنْقَطِعَانِ	تَنْقَطِعَا	تَنْقَطِعَا
2人称男女	اِنْقَطَعْتُمَا	تَنْقَطِعَانِ	تَنْقَطِعَا	تَنْقَطِعَا
（複数）				
3人称男性	اِنْقَطَعُوا	يَنْقَطِعُونَ	يَنْقَطِعُوا	يَنْقَطِعُوا
3人称女性	اِنْقَطَعْنَ	يَنْقَطِعْنَ	يَنْقَطِعْنَ	يَنْقَطِعْنَ
2人称男性	اِنْقَطَعْتُمْ	تَنْقَطِعُونَ	تَنْقَطِعُوا	تَنْقَطِعُوا
2人称女性	اِنْقَطَعْتُنَّ	تَنْقَطِعْنَ	تَنْقَطِعْنَ	تَنْقَطِعْنَ
1人称	اِنْقَطَعْنَا	نَنْقَطِعُ	نَنْقَطِعَ	نَنْقَطِعْ

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取り、その代わりにاِを置きます。

男性単数	اِنْقَطِعْ	断たれなさい	女性単数	اِنْقَطِعِي
双数	اِنْقَطِعَا			
男性複数	اِنْقَطِعُوا		女性複数	اِنْقَطِعْنَ

◇分詞：次のパターンになります。

能動分詞 مُنْقَطِعٌ 断たれている　受動分詞 مُنْقَطَعٌ

＊これはあくまでもパターンで、第７形の受動分詞は実際にはほとんど用いられません。

◇動名詞：次のパターンになります。 اِنْقِطَاعٌ 断たれていること、断絶

◇受動態：受動分詞と同様、ほとんど用いられません。

اُنْقُطِعَ（完了形）　يُنْقَطَعُ（未完了形）

6　派生形第７形の主要な意味

◇他動詞の自動詞化、またはその受け身：

اِنْكَسَرَ　壊れる、壊される（كَسَرَ　壊す）　اِنْصَرَفَ 離れる（صَرَفَ　そらす）

اِنْعَقَدَ　会議などがもたれる、開かれる（عَقَدَ　会議などをもつ、開く）

اِنْسَحَبَ 引き下がる、撤退する（سَحَبَ　引く）

第７形は受動態の意味をもっています。ことに現代アラビア語では第７形を受動態と同じように用いることが一般的になっています。しかし本来、受動態は、行為者が不明であることが前提になっているとき、あるいは意図的に行為者を示したくないときに用いられます。それに対して第７形は、行為者の問題は別として単に事実を述べる場合に用いられます。

اِنْقَطَعَتِ ٱلْكَهْرَبَاءُ.　電気が切れた。　（第７形）

قُطِعَتِ ٱلْكَهْرَبَاءُ.　電気が切られた。　（受動態）

◇第７形の重要動詞：

اِنْخَفَضَ 低下する　اِنْدَفَعَ 突進する　اِنْفَتَحَ 開かれる

اِنْفَصَلَ عَنْ ...から分離する　اِنْقَلَبَ ひっくり返る　اِنْكَشَفَ 暴かれる

7　派生形第8形

第８形は、原形の前にاِを置き、第１語根と第２語根の間にتَを入れた形です。اِとتَにはさまれた第１語根はスクーンで読まれます。第７形同様、このاِは「ハムザトルワスル」です。また未完了形では接頭辞がファトハで、また第２語根がカスラで読まれます。جَمَعَ「集める」の第８形اِجْتَمَعَ「集まる」を例にその活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
3人称男性	اِجْتَمَعَ	يَجْتَمِعُ	يَجْتَمِعَ	يَجْتَمِعْ
3人称女性	اِجْتَمَعَتْ	تَجْتَمِعُ	تَجْتَمِعَ	تَجْتَمِعْ
2人称男性	اِجْتَمَعْتَ	تَجْتَمِعُ	تَجْتَمِعَ	تَجْتَمِعْ
2人称女性	اِجْتَمَعْتِ	تَجْتَمِعِينَ	تَجْتَمِعِي	تَجْتَمِعِي
1人称	اِجْتَمَعْتُ	أَجْتَمِعُ	أَجْتَمِعَ	أَجْتَمِعْ
（双数）				
3人称男性	اِجْتَمَعَا	يَجْتَمِعَانِ	يَجْتَمِعَا	يَجْتَمِعَا
3人称女性	اِجْتَمَعَتَا	تَجْتَمِعَانِ	تَجْتَمِعَا	تَجْتَمِعَا
2人称男女	اِجْتَمَعْتُمَا	تَجْتَمِعَانِ	تَجْتَمِعَا	تَجْتَمِعَا
（複数）				
3人称男性	اِجْتَمَعُوا	يَجْتَمِعُونَ	يَجْتَمِعُوا	يَجْتَمِعُوا
3人称女性	اِجْتَمَعْنَ	يَجْتَمِعْنَ	يَجْتَمِعْنَ	يَجْتَمِعْنَ
2人称男性	اِجْتَمَعْتُمْ	تَجْتَمِعُونَ	تَجْتَمِعُوا	تَجْتَمِعُوا
2人称女性	اِجْتَمَعْتُنَّ	تَجْتَمِعْنَ	تَجْتَمِعْنَ	تَجْتَمِعْنَ
1人称	اِجْتَمَعْنَا	نَجْتَمِعُ	نَجْتَمِعَ	نَجْتَمِعْ

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取り、その代わりにاِを置きます。

男性単数　اِجْتَمِعْ　集まりなさい　　女性単数　اِجْتَمِعِي

双数　اِجْتَمِعَا

男性複数　اِجْتَمِعُوا　　女性複数　اِجْتَمِعْنَ

◇分詞：次のパターンになります。

能動分詞　مُجْتَمِعٌ　集まっている（人）　　受動分詞　مُجْتَمَعٌ　集められた

◇動名詞：次のパターンになります。اِجْتِمَاعٌ　集まること、集会、会議

◇受動態：اُجْتُمِعَ（完了形）　　يُجْتَمَعُ（未完了形）

第１語根と第２語根の間に入るتَは一定の条件のもとで次のように変化します。

- 第１語根がص、ض、طの場合：تَはطَに変化します。

اِصْطَنَعَ　制作する（صَنَعَ　作る）　　اِضْطَرَبَ　混乱する（ضَرَبَ　叩く）

اِطَّلَعَ عَلَى　目を通す、調査する（طَلَعَ　登る）

- 第１語根がت、ث、د、ظの場合：تَはそれぞれの文字に吸収されてシャッダ記号が付きます。

اِتَّبَعَ　従う（تَبِعَ　追う）　　اِثَّأَرَ　復讐する（ثَأَرَ　復讐する）

اِدَّعَى　言い張る（دَعَا　呼びかける）　　اِظَّلَمَ　虐げられる（ظَلِمَ　暗くなる）

＊第１語根がثの場合、ثがتに吸収される場合もあります。

اِثَّبَتَ/اِتَّبَتَ　きちんと定まる（ثَبَتَ　きちんと定まる）

- 第１語根がزの場合：تَはدَに変化します。

اِزْدَادَ　増加する（زَادَ　超える）

• 第１語根がذの場合：تはذに吸収されますが、表記上はدになり、その上にシャッダ記号が付くことがあります。

اِدَّكَرَ / اِذَّكَرَ　思い出す（ذَكَرَ　覚えている、述べる）

• 第１語根がوの場合：وはتに吸収されてシャッダ記号が付きます。

اِتَّصَلَ　連絡する（وَصَلَ　着く）

• 第１語根がأの場合：أَخَذَ「取る」については、أがتに吸収されて、تの上にシャッダ記号が付きます。

اِتَّخَذَ　採用する（أَخَذَ　取る）

＊第１語根がأで始まるその他の動詞については変化がありませんが、ハムザの書き方に注意しなければなりません（ハムザの表記については第36課を参照）。

اِئْتَمَرَ　審議する、命を遂行する（أَمَرَ　命令する）

8　派生形第８形の主要な意味

他の派生形に比べ、第８形のもつ意味は多岐にわたっています。原形と同じ意味、あるいは強調的な意味をもつこともあります。

◇他動詞の自動詞化（主語が人間でない場合は、受け身で訳した方がいい場合もあります）：

اِجْتَمَعَ　集まる、会う（جَمَعَ　集める）　　اِرْتَفَعَ　上昇する（رَفَعَ　持ち上げる）

اِنْتَقَلَ　移る（نَقَلَ　運ぶ）　　اِعْتَمَدَ عَلَى　…に依存する（عَمَدَ　支える）

اِنْتَقَلَ صَدِيقِي إِلَى بَيْتٍ جَدِيدٍ.

私の友人は新しい家に引っ越しました。

اِنْتَقَلَتِ ٱلْعَاصِمَةُ إِلَى ٱلْمَدِينَةِ ٱلْجَدِيدَةِ.

首都はその新しい町に移りました（移されました）。

◇自分自身のために行なう（意図、強調）：

اِسْتَمَعَ إِلَى ...に耳を傾ける（سَمِعَ 聞く）　اِكْتَسَبَ 儲ける（كَسَبَ 得る）

اِكْتَشَفَ 発見する（كَشَفَ 暴く）

◇抽象化：

اِفْتَتَحَ 会議や大会などを開く（فَتَحَ 開く）

اِخْتَتَمَ 会議や大会などを終える（خَتَمَ 閉じる、封印する）

◇相互行為（第６形の意味）：

اِخْتَصَمَ （互いに）言い争う（خَصَمَ 議論でうち負かす）

اِلْتَقَى （互いに）出会う（لَقِيَ 会う、出会う）

◇原形と同じ意味：

اِجْتَذَبَ 引っぱる（جَذَبَ）

◇第８形の重要動詞：

اِبْتَسَمَ 微笑む　اِحْتَرَمَ 尊敬する　اِسْتَنَدَ إِلَى 寄りかかる

اِشْتَرَكَ فِي 参加する　اِعْتَبَرَ みなす　اِعْتَذَرَ عَنْ 謝罪する

اِعْتَرَفَ بِ 承認する　اِقْتَصَرَ عَلَى ...にとどまる、限定される

اِنْتَبَهَ إِلَى 用心する　اِنْتَخَبَ 選出する　اِنْتَقَمَ مِنْ 復讐する

第24課　動詞の派生形：第９形、第10形

１　派生形第９形

第９形は、原形の前に「ハムザトルワスル」のاを置き、第３語根にシャッダ記号を付けた形です。この形は、色や身体的障害を示す分詞（形容詞）からつくられます。そのため第９形の数には限りがあり、形容詞で表すことのほうが多い傾向があります。أَحْمَرُ「赤い」の第９形اِحْمَرَّ「赤くなる」を例にその活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	اِحْمَرَّ	يَحْمَرُّ	يَحْمَرَّ	يَحْمَرِرْ
３人称女性	اِحْمَرَّتْ	تَحْمَرُّ	تَحْمَرَّ	تَحْمَرِرْ
２人称男性	اِحْمَرَرْتَ	تَحْمَرُّ	تَحْمَرَّ	تَحْمَرِرْ
２人称女性	اِحْمَرَرْتِ	تَحْمَرِّينَ	تَحْمَرِّي	تَحْمَرِّي
１人称	اِحْمَرَرْتُ	أَحْمَرُّ	أَحْمَرَّ	أَحْمَرِرْ
（双数）				
３人称男性	اِحْمَرَّا	يَحْمَرَّانِ	يَحْمَرَّا	يَحْمَرَّا
３人称女性	اِحْمَرَّتَا	تَحْمَرَّانِ	تَحْمَرَّا	تَحْمَرَّا
２人称男女	اِحْمَرَرْتُمَا	تَحْمَرَّانِ	تَحْمَرَّا	تَحْمَرَّا
（複数）				
３人称男性	اِحْمَرُّوا	يَحْمَرُّونَ	يَحْمَرُّوا	يَحْمَرُّوا
３人称女性	اِحْمَرَرْنَ	يَحْمَرِرْنَ	يَحْمَرِرْنَ	يَحْمَرِرْنَ
２人称男性	اِحْمَرَرْتُمْ	تَحْمَرُّونَ	تَحْمَرُّوا	تَحْمَرُّوا

2人称女性　تَحْمَرِرْنَ　تَحْمَرِرْنَ　تَحْمَرِرْنَ　اِحْمَرَرْتُنَّ

1人称　نَحْمَرِرْ　نَحْمَرَّ　نَحْمَرُّ　اِحْمَرَرْنَا

◇命令形：要求形（2人称）の接頭辞を取り、その代わりにاを置きます。

男性単数　اِحْمَرِرْ　赤くなりなさい　　女性単数　اِحْمَرِّي

双数　اِحْمَرَّا

男性複数　اِحْمَرُّوا　　女性複数　اِحْمَرِرْنَ

◇分詞：次のパターンになります。受動分詞はありません。

能動分詞　مُحْمَرٌّ　赤くなっている

◇動名詞：次のパターンになります。اِحْمِرَارٌ　赤くなること

◇受動態：受動分詞と同様にありません。

2　派生形第9形の主要な意味

◇...の状態になる（特に色や障害をもつ状態）：

派生形第4形أَصْبَحَ「...になる」の述部に形容詞を用いたときと同じ意味になります。

اِحْمَرَّ　赤くなる（أَحْمَرُ　赤い）＝أَصْبَحَ أَحْمَرَ

اِسْوَدَّ　黒くなる（أَسْوَدُ　黒い）＝أَصْبَحَ أَسْوَدَ

اِحْوَلَّ　斜視になる（أَحْوَلُ　斜視の）＝أَصْبَحَ أَحْوَلَ

اِعْوَجَّ　曲がったようになる（أَعْوَجُ　曲がった）＝أَصْبَحَ أَعْوَجَ

＊派生形第4形の動詞أَصْبَحَの述部は非限定、対格になります（أَصْبَحَや述部が対格になるその他の動詞については第31課の「كَانَとその姉妹の重要動詞」でまとめてあります）。

＊色や身体的障害を示す形容詞は2段変化です。

3　派生形第10形

原形の最初にاِسْتَـを置いた形です。اِسْتَـのاِは「ハムザトルワスル」です。未完了形では、接頭辞の最初の文字がファトハで、第2語根がカスラで読まれます。قَبِلَ「受け入れる」の第10形اِسْتَقْبَلَ「迎える」を例にその活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
3人称男性	اِسْتَقْبَلَ	يَسْتَقْبِلُ	يَسْتَقْبِلَ	يَسْتَقْبِلْ
3人称女性	اِسْتَقْبَلَتْ	تَسْتَقْبِلُ	تَسْتَقْبِلَ	تَسْتَقْبِلْ
2人称男性	اِسْتَقْبَلْتَ	تَسْتَقْبِلُ	تَسْتَقْبِلَ	تَسْتَقْبِلْ
2人称女性	اِسْتَقْبَلْتِ	تَسْتَقْبِلِينَ	تَسْتَقْبِلِي	تَسْتَقْبِلِي
1人称	اِسْتَقْبَلْتُ	أَسْتَقْبِلُ	أَسْتَقْبِلَ	أَسْتَقْبِلْ
（双数）				
3人称男性	اِسْتَقْبَلَا	يَسْتَقْبِلَانِ	يَسْتَقْبِلَا	يَسْتَقْبِلَا
3人称女性	اِسْتَقْبَلَتَا	تَسْتَقْبِلَانِ	تَسْتَقْبِلَا	تَسْتَقْبِلَا
2人称男女	اِسْتَقْبَلْتُمَا	تَسْتَقْبِلَانِ	تَسْتَقْبِلَا	تَسْتَقْبِلَا
（複数）				
3人称男性	اِسْتَقْبَلُوا	يَسْتَقْبِلُونَ	يَسْتَقْبِلُوا	يَسْتَقْبِلُوا
3人称女性	اِسْتَقْبَلْنَ	يَسْتَقْبِلْنَ	يَسْتَقْبِلْنَ	يَسْتَقْبِلْنَ
2人称男性	اِسْتَقْبَلْتُمْ	تَسْتَقْبِلُونَ	تَسْتَقْبِلُوا	تَسْتَقْبِلُوا
2人称女性	اِسْتَقْبَلْتُنَّ	تَسْتَقْبِلْنَ	تَسْتَقْبِلْنَ	تَسْتَقْبِلْنَ
1人称	اِسْتَقْبَلْنَا	نَسْتَقْبِلُ	نَسْتَقْبِلَ	نَسْتَقْبِلْ

◇命令形：要求形（２人称）から接頭辞を取り、その代わりにاِを置きます。

男性単数 اِسْتَقْبِلْ 迎えなさい 女性単数 اِسْتَقْبِلِي

双数 اِسْتَقْبِلَا

男性複数 اِسْتَقْبِلُوا 女性複数 اِسْتَقْبِلْنَ

◇分詞：次のパターンになります。

能動分詞 مُسْتَقْبِلٌ 迎えている 受動分詞 مُسْتَقْبَلٌ 迎えられる

◇動名詞：次のパターンになります。اِسْتِقْبَالٌ 迎えること、出迎え

◇受動態：أُسْتُقْبِلَ（完了形） يُسْتَقْبَلُ（未完了形）

４ 派生形第10形の主要な意味

◇意志や決断：

اِسْتَوْطَنَ 入植する、住み着く（وَطَنَ بِ …に住む）

◇原形および第４形の再帰形：

اِسْتَعْمَلَ 使う（عَمِلَ 働く／أَعْمَلَ 働かせる）

اِسْتَرْجَعَ 取り戻す（رَجَعَ 帰る／أَرْجَعَ 戻す）

اِسْتَفَادَ مِنْ …から利益を受ける（أَفَادَ …に利益をもたらす）

اِسْتَخْدَمَ 雇う（خَدَمَ 仕える）

◇原形および第４形の要求：

اِسْتَأْذَنَ 許可を求める（أَذِنَ 許可する）

اِسْتَنْجَدَ 助けを求める（نَجَدَ 助ける）

اِسْتَحْضَرَ　召喚する（حَضَرَ　出席する）

اِسْتَغْفَرَ　過ちに対して赦しを求める（غَفَرَ　赦す）

اِسْتَأْجَرَ　お金を払って借りる（آجَرَ　お金をとって貸す）

اِسْتَعَارَ　借りる（أَعَارَ　貸す）

اِسْتَعْلَمَ　尋ねる、問いただす（عَلِمَ　知る／أَعْلَمَ　知らせる）

◇判断：

اِسْتَغْرَبَ　疑問に思う（غَرُبَ　奇妙である）

اِسْتَصْعَبَ　困難と判断する（صَعُبَ　困難である）

◇指名、任命：

اِسْتَخْلَفَ　…を後継者に指名する（خَلَفَ　後継者となる、後を継ぐ）

اِسْتَوْزَرَ　…を大臣に指名する（وَزَرَ　大臣になる）

◇名詞から派生した第10形：

اِسْتَحْجَرَ　石に変わる（حَجَرٌ　石）

◇第10形の重要動詞：

اِسْتَأْنَفَ	再開する	اِسْتَخْرَجَ	抽出する	اِسْتَسْلَمَ	降伏する
اِسْتَطْرَدَ	話を続ける	اِسْتَعْرَضَ	検討する	اِسْتَعْمَرَ	植民地化する
اِسْتَفْسَرَ	問い合わせる	اِسْتَمْتَعَ بِ	…を楽しむ	اِسْتَنْتَجَ	結論を出す
اِسْتَهْدَفَ	標的とする				

5　派生形第11形～第15形

現代アラビア語ではまず用いられることがない形ですが、その形と代表的な動詞を示しておきます。これらの形はすべて強調の意味をもっています。

- 第11形：

اِحْمَارَّ　赤くなる（完了形）　يَحْمَارُّ（未完了形）

- 第12形：

اِحْدَوْدَبَ　弓形に曲がる（完了形）　يَحْدَوْدِبُ（未完了形）

- 第13形：

اِعْلَوَّطَ　密着する（完了形）　يَعْلَوِّطُ（未完了形）

- 第14形：

اِحْلَنْلَكَ　漆黒色である（完了形）　يَحْلَنْلِكُ（未完了形）

اِسْحَنْكَكَ　暗くある（完了形）　يَسْحَنْكِكُ（未完了形）

- 第15形：

اِعْلَنْدَى　頑丈である（完了形）　يَعْلَنْدِي（未完了形）

第25課　否定と除外

1　全面否定の否定詞لَا

これまで見てきた否定には、形容詞を否定するغَيْرٌ（第６課)、「私は学生です」などの文を否定するلَيْسَ（第９課)、過去のことを否定するلَمْやمَا（第10課と第19課)、現在のことを否定するلَا（第11課)、未来を否定するلَنْ（第19課)がありました。

ここでは全面否定のلَاの用法を見てみましょう。非限定名詞(対格、タンウィーンなし)を伴い、その名詞がもつ意味や性質の全面的な否定を表します。

لَا بُدَّ مِنْ ذٰلِكَ.　　＊بُدٌّ「逃げ道」

それから逃げ道はまったくありません(絶対にそうでなくてはなりません)。

لَا شَكَّ فِي هٰذَا.　　＊شَكٌّ「疑い」

このことにまったく疑問の余地はありません。

لَا أَحَدَ فِي ٱلْغُرْفَةِ.　部屋にはだれもいません。　　＊أَحَدٌ「だれか」

＊أَحَدٌが疑問文や否定文に用いられると代名詞として働き「だれか…ですか、だれも…でない」の意味になります。

لَا إِلٰهَ إِلَّا ٱللّٰهُ.

アッラー以外に神はなし(神はアッラーだけで他に神はいません)。

＊ムスリムの行なう信仰告白の１つです。これにمُحَمَّدٌ رَسُولُ ٱللّٰهِ.「ムハンマドはアッラーの使徒です」を加えてاَلشَّهَادَتَانِ「２つの宣誓」といいます。イスラームに入信する時に必ず唱える言葉です。

2　除外詞إِلَّاとその仲間

「…を除いて」を意味するإِلَّاとその仲間であるغَيْرٌ、سِوَى、مَا خَلَا、مَا عَدَاの使い方を見ていきます。

• إِلاَّ :

إِلاَّについては除外の対象となっているものとそれが所属する母集団(何から除外されるのかを示すもの)の関係に注意しましょう。母集団が明示されている場合、除外の対象は肯定文では常に対格をとります。

أَكَلَ ٱلطُّلاَّبُ إِلاَّ مُحَمَّدًا.　ムハンマド以外の学生たちは食べました。

حَضَرَ ٱلرُّؤَسَاءُ ٱلِاجْتِمَاعَ إِلاَّ ٱلرَّئِيسَ ٱلْعِرَاقِيَّ.

会議にはイラク大統領を除いた首脳たちが出席しました。

اِجْتَمَعْتُ بِكُلِّ ٱلْأَصْدِقَاءِ إِلاَّ مُحَمَّدًا.

ムハンマドを除いたすべての友人たちと私は会いました。

一方、否定文の場合、対格または母集団の格変化に一致した格変化をとることができます。

مَا حَضَرَ ٱلرُّؤَسَاءُ ٱلِاجْتِمَاعَ إِلاَّ ٱلرَّئِيسَ ٱلْعِرَاقِيَّ (ٱلرَّئِيسُ ٱلْعِرَاقِيُّ).

イラク大統領を除いて、首脳たちは会議に出席しませんでした。

لَمْ أَجْتَمِعْ بِكُلِّ ٱلْأَصْدِقَاءِ إِلاَّ مُحَمَّدًا (بِمُحَمَّدٍ).

私はムハンマドを除いてすべての友人たちに会いませんでした。

＊إِلاَّが文頭に出ている場合も同様です。

否定文ではしばしばأَحَدٌを形式上の母集団とすることがあります。

مَا وَجَدْتُ أَحَدًا إِلاَّ مُحَمَّدًا.　私はムハンマドを除いてだれも見つけませんでした。

母集団が示されていない場合、إِلاَّは「…しか、…だけ」を意味する制限の役割を果たし、この語はその文における役割にしたがった格変化をとります。通常、この形は否定文で用いられます。

مَا أَكَلَ إِلاَّ مُحَمَّدٌ.　ムハンマドしか食べませんでした。

مَا وَجَدْتُ إِلاَّ مُحَمَّدًا.　私はムハンマドしか見つけませんでした。

مَا ٱجْتَمَعْتُ إِلاَّ بِمُحَمَّدٍ. 私はムハンマドとしか会いませんでした。

これらの形式の文は、فَقَطْ「…だけ」を用いて肯定文で書き直すこともできます。

أَكَلَ مُحَمَّدٌ فَقَطْ. ムハンマドだけが食べました。

وَجَدْتُ مُحَمَّدًا فَقَطْ. 私はムハンマドだけを見つけました。

اِجْتَمَعْتُ بِمُحَمَّدٍ فَقَطْ. 私はムハンマドとだけ会いました。

命令文（否定命令も含む）の後のوَإِلاَّは、命令文や義務を示す表現の後に用いられ、「さもなくば、もしそうしないと」を意味します。

أُدْرُسْ وَإِلاَّ تَكُونُ مِنَ ٱلْفَاشِلِينَ.

勉強しなさい。さもなくば、落第者の１人になるでしょう。

يَجِبُ أَنْ تَسْتَيْقِظَ ٱلْآنَ وَإِلاَّ تَأَخَّرْتَ عَنِ ٱلْمَدْرَسَةِ.

あなたは今、起きなくてはなりません。さもないと学校に遅れます。

• غَيْرٌ :

إِلاَّと同じように用いられますが、غَيْرٌは本来「他のもの（人）、…と違ったもの（人）」を示す名詞であり、除外の対象と常に属格関係を形成します。そしてغَيْرٌは文中の役割にしたがった格変化をとります。

أَكَلَ ٱلطُّلاَّبُ غَيْرَ مُحَمَّدٍ. ムハンマドを除いて、学生たちは食べました。

مَا أَكَلَ غَيْرُ مُحَمَّدٍ. ムハンマドだけが食べました。

مَا وَجَدْتُ غَيْرَ مُحَمَّدٍ. 私はムハンマドだけを見つけました。

اِجْتَمَعَ ٱلطُّلاَّبُ وَغَيْرُ ٱلطُّلاَّبِ بِرَئِيسِ ٱلْجَامِعَةِ.

学生たち、そして他の人々（学生ではない人々）も学長と会議をもちました。

دَرَسْتُمُ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ وَغَيْرَهَا مِنَ ٱللُّغَاتِ ٱلْهَامَّةِ.

あなた方はアラビア語とその他の重要な言語を学習しました。

هَلْ طَلَبْتِ مِنَ ٱلْبَائِعِ غَيْرَ ذٰلِكَ؟

あなたは店員にそれと違うものを頼みましたか。

إِلاَّとغَيْرَはその後にأَنَّを伴って「…であることを除いて、しかし」という意味でもよく用いられます。

كَانَ غَنِيًّا إِلاَّ(غَيْرَ) أَنَّهُ كَانَ مَرِيضًا. 彼は裕福でしたが、病気でした。

غَيْرٌは第6課で見ましたが、形容詞（分詞）と属格関係を形成し、使用される場にしたがった格変化をとることで、否定詞としての役割も果たします。形容詞は、غَيْرٌとの関係で属格になる以外は、通常の形容詞と同じように、限定または非限定、性、数の面で主語に一致した形をとります。

هُوَ غَيْرُ طَوِيلٍ. 彼は背が高くありません。

كَانَتْ غَيْرَ قَصِيرَةٍ. 彼女は背が低くはありませんでした。

هُمْ غَيْرُ مُجْتَهِدِينَ. 彼らは真面目ではありません。

غَيْرٌで否定された形容詞が先行する名詞を修飾する場合、غَيْرٌの格変化はその名詞の格変化に一致します。

قَرَأْتُ كِتَابًا غَيْرَ سَمِيكٍ. 私は厚くない本を読みました。

سَافَرْتُ إِلَى ٱلدُّوَلِ غَيْرِ ٱلإِسْلاَمِيَّةِ. 私は非イスラーム諸国へ旅に出ました。

- سِوًى：「…以外、他の」

غَيْرٌと同じく名詞で、使用法もغَيْرٌと同じですが、سِوًى自体は後ろに属格の語がくるとسِوَىとなり、常に一定の格変化しかとりません。ただしその後ろに人称代名詞の結合形がくる場合は、語尾のىはاに変化します。

مَا جَاءَ ٱلْمُعَلِّمُونَ سِوَى ٱلْمُعَلِّمَيْنِ. その2人の教師しか来ませんでした。

تَحَدَّثْتُ إِلَى رَجُلٍ سِوَى ٱلْوَزِيرِ.

私はその大臣とは別の男に話しかけました。

مَا وَجَدْتُ سِوَاكَ. 私はあなたしか見つけませんでした。

كُنْتُ أَنْتَظِرُهَا وَلٰكِنْ حَضَرَ سِوَاهَا.

私は彼女を待っていました。しかし別の人がやって来ました。

- مَا عَدَا／مَا خَلاَ：

常にこの形で用いられ、後ろにくる名詞は対格になります。

يَمُوتُ ٱلنَّاسُ مَا عَدَا ٱلشُّهَدَاءَ. 殉教者を除いて人々は死ぬのです。

مَاがはずれたخَلاَやعَدَاの形でも用いられることがあります。ただしこの場合、後ろにくる名詞は属格になります。

جَاءَ ٱلْمُتَسَابِقُونَ عَدَا خَالِدٍ.

ハーリドを除いてランナー（競争者）たちがやって来ました。

3　返答詞

نَعَمْやلاَ、またبَلَىの基本的用法については第４課と第９課で説明しましたが、これらの他の用法や返答に用いられる代表的な他の語を紹介しておきます。

- نَعَمْ：

一般的には肯定文と肯定疑問文で述べられた内容を確認する（はい、その通り）ときに用いられますが、否定疑問文でも肯定的な返答が前提となっている場合にはنَعَمْが用いられます。

أَلَيْسَ كَذٰلِكَ؟	そうではありませんか、そうですよね。
نَعَمْ، يَا سَيِّدِي.	はい（ご主人様）、その通りです。
أَلَمْ تَكْتُبْ لَهَا رِسَالَةً؟	あなたは彼女に手紙を書かなかったのですね。
نَعَمْ.	はい（書きませんでした）。

- أَجَلْ：

نَعَمْと同じように肯定文と肯定疑問文で述べられた内容を確認する（はい、その通り）ときに用いられます。否定文や否定疑問文では用いられません。

また「確かに、もちろん」の意味で文頭に用いられることもあります。

هَلْ حَفِظْتَ ٱلدَّرْسَ؟　あなたはそのレッスンを暗記しましたか。

أَجَلْ.　はい、暗記しました。

أَجَلْ كُنْتُ مُشْتَاقًا إِلَى أَهْلِي.　確かに、私は家族が恋しかったのです。

- بَلَى：否定疑問文に対して、そうではないと否定するときに用いますが、否定要求や否定命令にも用いられます。

أَلَسْتَ مُعَلِّمًا؟　あなたは教師ではないのですか。

بَلَى (أَنَا مُعَلِّمٌ).　いいえ（私は教師です）。

لاَ تَذْهَبْ إِلَى ٱلسُّوقِ وَحْدَكَ.　1人で市場へ行ってはいけません。

بَلَى يَا أُمِّي.　いいえ、お母さん（私は行きます）。

- كَلاَّ：لاَよりも強い否定を意味します。

أَلاَ تُرِيدُ أَنْ تُقَابِلَهُ؟　あなたは彼と会いたくはないのですか。

كَلاَّ.　とんでもない（まったく会いたくはありません）。

أَلَمْ تَشْرَبْ مَاءً؟　あなたは水を飲まなかったのですか。

كَلاَّ، بَلْ شَرِبْتُ عَصِيرًا.

飲むわけがありません。私はジュースを飲んだのです。

第26課　くぼみ動詞（不規則動詞１）

１　不規則動詞

３語根動詞の原形は、派生形動詞をはじめ、大部分の単語の土台を形成しています。基本的な３語根動詞は、３つの語根に一定の接頭辞や接尾辞が付いてその活用やさまざまなパターンを示します。そして活用やパターンを形成する過程で語根に相当する文字が表記上、消滅することはありません。

ところが動詞のなかには、活用や単語形成の過程において、語根が表記上変化するものがあります。

たとえば第９課で紹介したكَانَ「…でした」やلَيْسَ「…ではない」も活用の過程で語根の表記に変化が生じる動詞の１つです。كَانَはもともとكَوَنَという語根をもつ動詞です。そして第２語根にあたるوَが、完了形、未完了形、接続形、要求形の活用で消滅することも含めて、微妙に変化します。

このように、語根が活用や単語形成の過程で消滅したり、あるいは表記上の変化を伴う動詞を不規則動詞と呼びます。

不規則動詞は次のように大別されます。

- くぼみ動詞：第２語根がوかيの動詞
- 同化動詞：第１語根がوかيの動詞
- ダブル動詞：第２、第３語根が同じ動詞
- 弱動詞：第３語根がوかىかيの動詞
- ハムザ動詞：語根のなかにハムザを含む動詞
- ２重不規則動詞：３語根のなかにأ、و、ي(ى)を２つ以上を含む動詞

不規則動詞の最大の特徴は、その語根にأ、و、ي (ى)の３文字のいずれかを含んでいることです。まずはくぼみ動詞から順番に説明していきましょう。

２　くぼみ動詞の特徴

くぼみ動詞は、第２語根にوまたはيをもつ動詞です。この動詞の活用には次のような原則があります。

◇第３語根に母音が付く場合：

• 完了形：弱文字は長母音のا に変化します。

قَامَ 彼は立ち上がりました（قَوَمَのوがا に変化）

كَانَتْ 彼女は…でした（كَوَنَتْのوがا に変化）

غَابُوا 彼らは欠席しました（غَيَبُواのيがا に変化）

• 未完了形：第３語根に母音が付く場合、第２語根の発音はa、i、uのいずれかです。そこで３語根動詞の原形の場合と同じように辞書でこれを確認する必要があります。決定された第２語根の発音にしたがって、第１語根は長母音に変化します。[a] [i] [u]は第２語根の発音を表します。

未完了形	完了形（語根）
يَنَالُ 彼は得る（يَنْيَلُのنの長母音化）	نَالَ（نَيِلَ）[a]
يَسِيرُ 彼は進む（يَسْيِرُのسの長母音化）	سَارَ（سَيَرَ）[i]
يَقُومُ 彼は立ち上がる（يَقْوُمُのقの長母音化）	قَامَ（قَوَمَ）[u]

◇第３語根が子音の場合：

完了形、未完了形ともに、弱文字は省略されます。そのうえ、完了形の場合、第２語根がوの動詞は第１語根がダンマになり、第２語根がيの動詞は第１語根がカスラになります。

أَقُلْ 私は言います（要求形أَقُولْのوが省略）

أَبِعْ 私は売ります（要求形أَبِيعْのيが省略）

قُلْتُ 私は言いました（قَوَلْتُのوが省略され、قَがقُに変化）

بِعْتُ 私は売りました（بَيَعْتُのيが省略され、بَがبِに変化）

＊第２語根و動詞のなかには、第１語根が例外的にカスラになる動詞もあります。
نِمْتُ「私は眠りました」は、نَوِمْتُのوが省略され、نَがنِに変化したものです。また。
خِفْتُ「私は恐れました」は、خَوِفْتُのوが省略され、خَがخِに変化したものです。

くぼみ動詞の活用には4種類あります。活用をまとめると以下のようになります。それぞれ上段は第3語根が母音、下段は第3語根が子音になる場合です。(受)は受動態の場合です。

	完了形	未完了形	能動分詞	受動分詞	完了(受)	未完了(受)
第2語根وَ	قَالَ	يَقُولُ	قَائِلٌ	مَقُولٌ	قِيلَ	يُقَالُ
	قُلْتُ	يَقُلْنَ			قِلْتُ	يُقَلْنَ
第2語根وِ	خَافَ	يَخَافُ	خَائِفٌ	مَخُوفٌ	خِيفَ	يُخَافُ
	خِفْتُ	يَخَفْنَ			خِفْتُ	يُخَفْنَ
第2語根يَ	سَارَ	يَسِيرُ	سَائِرٌ	مَسِيرٌ	سِيرَ	يُسَارُ
	سِرْتُ	يَسِرْنَ			سِرْتُ	يُسَرْنَ
第2語根يِ	نَالَ	يَنَالُ	نَائِلٌ	مَنِيلٌ	نِيلَ	يُنَالُ
	نِلْتُ	يَنَلْنَ			نِلْتُ	يُنَلْنَ

では、4種類のくぼみ動詞をひとつずつ見ていきましょう。

3　第2語根وَ動詞（くぼみ動詞1）

ここではقَالَ「言う」(語根はقَوَلَ)を例に、第2語根がوَのくぼみ動詞の活用を確認しておきましょう。

(単数)	完了形	未完了形	接続形	要求形
3人称男性	قَالَ	يَقُولُ	يَقُولَ	يَقُلْ
3人称女性	قَالَتْ	تَقُولُ	تَقُولَ	تَقُلْ
2人称男性	قُلْتَ	تَقُولُ	تَقُولَ	تَقُلْ
2人称女性	قُلْتِ	تَقُولِينَ	تَقُولِي	تَقُولِي
1人称	قُلْتُ	أَقُولُ	أَقُولَ	أَقُلْ

（双数）

3人称男性　قَالاَ　يَقُولاَنِ　يَقُولاَ　يَقُولاَ

3人称女性　قَالَتَا　تَقُولاَنِ　تَقُولاَ　تَقُولاَ

2人称男女　قُلْتُمَا　تَقُولاَنِ　تَقُولاَ　تَقُولاَ

（複数）

3人称男性　قَالُوا　يَقُولُونَ　يَقُولُوا　يَقُولُوا

3人称女性　قُلْنَ　يَقُلْنَ　يَقُلْنَ　يَقُلْنَ

2人称男性　قُلْتُمْ　تَقُولُونَ　تَقُولُوا　تَقُولُوا

2人称女性　قُلْتُنَّ　تَقُلْنَ　تَقُلْنَ　تَقُلْنَ

1人称　قُلْنَا　نَقُولُ　نَقُولَ　نَقُلْ

◇命令形：要求形（2人称）から接頭辞を取った形です。3語根動詞の原形のように語頭に ا を加えることはありません。

男性単数　قُلْ　言いなさい　女性単数　قُولِي

双数　قُولاَ

男性複数　قُولُوا　女性複数　قُلْنَ

◇分詞：

能動分詞　قَائِلٌ　言っている、言う人

＊第2語根はハムザに変化します。この原則はすべてのくぼみ動詞の能動分詞にあてはまります。

受動分詞　مَقُولٌ　言われている

◇動名詞：قَوْلٌ　言うこと、言ったこと

＊動詞によって複数のパターンをもつものもあります。

◇受動態：

完了形では、第３語根に母音が付く場合、弱文字はيに変化し、第１語根は長母音になります。（　）内はもとの形。

قِيلَ (قُوِلَ)

未完了形では、第３語根に母音が付く場合、弱文字はاに変化し、第１語根を長母音にします。

يُقَالُ (يُقْوَلُ)

第３語根が子音の場合、完了形、未完了形ともに弱文字は省略されます。また第１語根は、第３語根が母音の場合と同じ音（完了形ではカスラ、未完了形ではファトハ）を維持します。

قِلْتُ (قُوِلْتُ)　　يُقَلْنَ (يُقْوَلْنَ)

くぼみ動詞の受動態はこの原則にしたがって、第２語根がوであれ、يであれ、すべて以下のように共通の活用をします。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	قِيلَ	يُقَالُ	يُقَالَ	يُقَلْ
３人称女性	قِيلَتْ	تُقَالُ	تُقَالَ	تُقَلْ
２人称男性	قِلْتَ	تُقَالُ	تُقَالَ	تُقَلْ
２人称女性	قِلْتِ	تُقَالِينَ	تُقَالِي	تُقَالِي
１人称	قِلْتُ	أُقَالُ	أُقَالَ	أُقَلْ
（双数）				
３人称男性	قِيلاَ	يُقَالاَنِ	يُقَالاَ	يُقَالاَ
３人称女性	قِيلَتَا	تُقَالاَنِ	تُقَالاَ	تُقَالاَ
２人称男女	قِلْتُمَا	تُقَالاَنِ	تُقَالاَ	تُقَالاَ

（複数）

３人称男性	قِيلُوا	يُقَالُونَ	يُقَالُوا	يُقَالُوا
３人称女性	قِلْنَ	يُقَلْنَ	يُقَلْنَ	يُقَلْنَ
２人称男性	قِلْتُمْ	تُقَالُونَ	تُقَالُوا	تُقَالُوا
２人称女性	قِلْتُنَّ	تُقَلْنَ	تُقَلْنَ	تُقَلْنَ
１人称	قِلْنَا	نُقَالُ	نُقَالَ	نُقَلْ

◇くぼみ動詞１（第２語根و）のパターンに入るその他の動詞：

完了形	未完了形		動名詞	
زَارَ	يَزُورُ	訪れる	زِيَارَةٌ	訪問
سَاقَ	يَسُوقُ	運転する	سِيَاقَةٌ／سَوْقٌ	運転
صَامَ	يَصُومُ	断食する	صِيَامٌ／صَوْمٌ	断食
طَافَ	يَطُوفُ	回る	طَوَافٌ	周回
عَادَ	يَعُودُ	戻る	عَوْدَةٌ	復帰
قَادَ	يَقُودُ	率いる	قِيَادَةٌ	指揮
مَاتَ	يَمُوتُ	死亡する	مَوْتٌ	死

４　第２語根و動詞（くぼみ動詞２）

第２語根がوでも、その母音がファトハではなくカスラになる別のパターンの動詞もあります。خَافَ「恐れる」を例にその活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	خَافَ	يَخَافُ	يَخَافَ	يَخَفْ
３人称女性	خَافَتْ	تَخَافُ	تَخَافَ	تَخَفْ

2人称男性	خِفْتَ	تَخَافُ	تَخَافَ	تَخَفْ
2人称女性	خِفْتِ	تَخَافِينَ	تَخَافِي	تَخَافِي
1人称	خِفْتُ	أَخَافُ	أَخَافَ	أَخَفْ
（双数）				
3人称男性	خَافَا	يَخَافَانِ	يَخَافَا	يَخَافَا
3人称女性	خَافَتَا	تَخَافَانِ	تَخَافَا	تَخَافَا
2人称男女	خِفْتُمَا	تَخَافَانِ	تَخَافَا	تَخَافَا
（複数）				
3人称男性	خَافُوا	يَخَافُونَ	يَخَافُوا	يَخَافُوا
3人称女性	خِفْنَ	يَخَفْنَ	يَخَفْنَ	يَخَفْنَ
2人称男性	خِفْتُمْ	تَخَافُونَ	تَخَافُوا	تَخَافُوا
2人称女性	خِفْتُنَّ	تَخَفْنَ	تَخَفْنَ	تَخَفْنَ
1人称	خِفْنَا	نَخَافُ	نَخَافَ	نَخَفْ

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取った形です。

男性単数	خَفْ	恐れなさい	女性単数	خَافِي
双数	خَافَا			
男性複数	خَافُوا		女性複数	خَفْنَ

◇分詞：

能動分詞　خَائِفٌ　恐れている（人）

受動分詞　مَخُوفٌ　恐れられている

◇動名詞：خَوْفٌ　恐れ、恐怖　＊動詞によっては複数のパターンをもつ。

◇くぼみ動詞２（第２語根و）のパターンに入るその他の動詞：

完了形	未完了形		動名詞	
زَالَ	يَزَالُ	消滅する	زَوَالٌ	消滅
نَامَ	يَنَامُ	眠る	نَوْمٌ	睡眠

＊زَالَの未完了形については、否定詞とともに用いられ、لَا يَزَالُ「いまだに…している」という構文で用いられる場合のみ、このパターンになります。他の用法の場合には、くぼみ動詞１のパターンيَزُولُになります。

5　第2語根يَ動詞（くぼみ動詞3）

今度はوではなく第２語根がيَの動詞のパターンです。سَارَ「進む、歩む」を例にその活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
3人称男性	سَارَ	يَسِيرُ	يَسِيرَ	يَسِرْ
3人称女性	سَارَتْ	تَسِيرُ	تَسِيرَ	تَسِرْ
2人称男性	سِرْتَ	تَسِيرُ	تَسِيرَ	تَسِرْ
2人称女性	سِرْتِ	تَسِيرِينَ	تَسِيرِي	تَسِيرِي
1人称	سِرْتُ	أَسِيرُ	أَسِيرَ	أَسِرْ
（双数）				
3人称男性	سَارَا	يَسِيرَانِ	يَسِيرَا	يَسِيرَا
3人称女性	سَارَتَا	تَسِيرَانِ	تَسِيرَا	تَسِيرَا
2人称男女	سِرْتُمَا	تَسِيرَانِ	تَسِيرَا	تَسِيرَا
（複数）				
3人称男性	سَارُوا	يَسِيرُونَ	يَسِيرُوا	يَسِيرُوا

３人称女性	سِرْنَ	يَسِرْنَ	يَسِرْنَ	يَسِرْنَ
２人称男性	سِرْتُمْ	تَسِيرُونَ	تَسِيرُوا	تَسِيرُوا
２人称女性	سِرْتُنَّ	تَسِرْنَ	تَسِرْنَ	تَسِرْنَ
１人称	سِرْنَا	نَسِيرُ	نَسِيرَ	نَسِرْ

◇命令形：要求形（２人称）から接頭辞を取った形です。

男性単数	سِرْ	進みなさい	女性単数	سِيرِي
双数	سِيرَا			
男性複数	سِيرُوا		女性複数	سِرْنَ

◇分詞：能動分詞 سَائِرٌ 進んでいる　受動分詞 مَسِيرٌ 歩まされる

◇動名詞：مَسِيرٌ/سَيْرٌ 進行、歩行　＊動詞によっては複数のパターンをもつ。

◇くぼみ動詞３（第２語根ي）のパターンに入るその他の動詞：

完了形	未完了形		動名詞	
بَاتَ	يَبِيتُ	宿泊する	مَبِيتٌ/ بَيْتٌ	宿泊
بَاعَ	يَبِيعُ	売る	مَبِيعٌ/ بَيْعٌ	販売
خَابَ	يَخِيبُ	失望する	خَيْبَةٌ	失望
شَاعَ	يَشِيعُ	広まる	شُيُوعٌ/ شَيْعٌ	普及
صَاحَ	يَصِيحُ	叫ぶ	صِيَاحٌ/ صَيْحٌ	叫び
صَارَ	يَصِيرُ	…になる	مَصِيرٌ/ صَيْرٌ	進展
ضَاعَ	يَضِيعُ	失われる	ضَيَاعٌ/ ضَيْعٌ	喪失
طَارَ	يَطِيرُ	飛ぶ	طَيَرَانٌ	飛行
عَاشَ	يَعِيشُ	生活する	مَعِيشَةٌ/ عَيْشٌ	生活

غَابَ　يَغِيبُ　欠席する　غِيَابٌ/غَيْبَةٌ　不在
مَالَ　يَمِيلُ　傾く　مَيْلٌ　傾向

6　第2語根يِ動詞（くぼみ動詞4）

最後にカスラのيを第2語根にもつ動詞のパターンです。このパターンに入る動詞は非常に少なく、代表的なものはنَالَ「得る」（動名詞はنَيْلٌ）、هَابَ「恐れる」（動名詞はهَيْبَةٌ）などです。動詞の活用は、完了形、未完了形ともに、くぼみ動詞2（第2語根و）と同じです。ただ受動分詞のみがくぼみ動詞3（第2語根يَ）と同じパターンになりمَنِيلٌ、مَهِيبٌとなります。

なお、نَالَに関しては、語根がنَوَلまたはنَوَلのنَالَ「与える、授ける」という別の動詞がありますから注意が必要です。こちらはくぼみ動詞1（第2語根وَ）、すなわちقَالَと同じ活用をします。また能動分詞はنَائِلٌ、受動分詞はمَنُولٌ、動名詞はنَوْلٌまたはنَوَالٌとなります。

7　くぼみ動詞の派生形

3語根動詞と同様に不規則動詞にも派生形があります。

くぼみ動詞の場合、第2形、第3形、第5形、第6形、第9形については、弱文字وとيが消滅することなく、3語根動詞の派生形の原則に則って活用します。一方、第4形、第7形、第8形、第10形においては、これまで示したくぼみ動詞の活用上の不規則性が現われますが、弱文字がوであろうがيであろうが、結果として活用をはじめとして分詞や動名詞への変形では同じパターンになります。注意すべきは第4形、第10形の動名詞にةが付くことです。なお、不規則動詞の場合、1つの動詞がすべての派生形を成立させるとは限りません。ほとんどの場合、1つの動詞には、限られた派生形しか用いられません。したがって、以下に示した第2形から第10形までの派生形においても複数の動詞を例として用います。

◇第2語根و動詞：くぼみ動詞1とくぼみ動詞2

第2形قَوَّمَ「評価する」、第3形قَاوَمَ「抵抗する」、第4形أَقَامَ「滞在する、開催する」、第5形تَحَوَّلَ「変化する」、第6形تَحَاوَرَ「話し合う」、第7形اِنْحَازَ إِلَى「…に

味方する」、第８形 اِحْتَاجَ إِلَى「…を必要とする」、第９形 اِحْوَلَّ「斜視になる」、第10形 اِسْتَقَامَ「真直ぐになる」を例に、ポイントを示しておきます。

	完了形	未完了形	命令形	能動分詞	受動分詞	動名詞
第2形	قَوَّمَ	يُقَوِّمُ	قَوِّمْ	مُقَوِّمٌ	مُقَوَّمٌ	تَقْوِيمٌ
第3形	قَاوَمَ	يُقَاوِمُ	قَاوِمْ	مُقَاوِمٌ	مُقَاوَمٌ	مُقَاوَمَةٌ
第4形	أَقَامَ	يُقِيمُ	أَقِمْ	مُقِيمٌ	مُقَامٌ	إِقَامَةٌ
第5形	تَحَوَّلَ	يَتَحَوَّلُ	تَحَوَّلْ	مُتَحَوِّلٌ	مُتَحَوَّلٌ	تَحَوُّلٌ
第6形	تَحَاوَرَ	يَتَحَاوَرُ	تَحَاوَرْ	مُتَحَاوِرٌ	مُتَحَاوَرٌ	تَحَاوُرٌ
第7形	اِنْحَازَ	يَنْحَازُ	اِنْحَزْ	مُنْحَازٌ	مُنْحَازٌ	اِنْحِيَازٌ
第8形	اِحْتَاجَ	يَحْتَاجُ	اِحْتَجْ	مُحْتَاجٌ	مُحْتَاجٌ	اِحْتِيَاجٌ
第9形	اِحْوَلَّ	يَحْوَلُّ	اِحْوَلِلْ	مُحْوَلٌّ		اِحْوِلَالٌ
第10形	اِسْتَقَامَ	يَسْتَقِيمُ	اِسْتَقِمْ	مُسْتَقِيمٌ	مُسْتَقَامٌ	اِسْتِقَامَةٌ

＊第９形の受動分詞はありません。

◇第２語根ي動詞：くぼみ動詞３とくぼみ動詞４

第２形 مَيَّزَ「区別する」、第３形 سَايَرَ「…に合わせて進む」、第４形 أَمَازَ「区別する」、第５形 تَمَيَّزَ「区別される」、第６形 تَمَايَزَ「異なる」、第７形 اِنْبَاعَ「売られる」、第８形 اِمْتَازَ「際だつ」、第９形 اِبْيَضَّ「白くなる」、第10形 اِسْتَفَادَ「利益を得る」を例に、ポイントを示しておきます。

	完了形	未完了形	命令形	能動分詞	受動分詞	動名詞
第2形	مَيَّزَ	يُمَيِّزُ	مَيِّزْ	مُمَيِّزٌ	مُمَيَّزٌ	تَمْيِيزٌ
第3形	سَايَرَ	يُسَايِرُ	سَايِرْ	مُسَايِرٌ	مُسَايَرٌ	مُسَايَرَةٌ
第4形	أَمَازَ	يُمِيزُ	أَمِزْ	مُمِيزٌ	مُمَازٌ	إِمَازَةٌ

第5形	تَمَيَّزَ	يَتَمَيَّزُ	تَمَيَّزْ	مُتَمَيِّزٌ	مُتَمَيَّزٌ	تَمَيُّزٌ
第6形	تَمَايَزَ	يَتَمَايَزُ	تَمَايَزْ	مُتَمَايِزٌ	مُتَمَايَزٌ	تَمَايُزٌ
第7形	اِنْبَاعَ	يَنْبَاعُ	اِنْبَعْ	مُنْبَاعٌ	مُنْبَاعٌ	اِنْبِيَاعٌ
第8形	اِمْتَازَ	يَمْتَازُ	اِمْتَزْ	مُمْتَازٌ	مُمْتَازٌ	اِمْتِيَازٌ
第9形	اِبْيَضَّ	يَبْيَضُّ	اِبْيَضِضْ	مُبْيَضٌّ		اِبْيِضَاضٌ
第10形	اِسْتَفَادَ	يَسْتَفِيدُ	اِسْتَفِدْ	مُسْتَفِيدٌ	مُسْتَفَادٌ	اِسْتِفَادَةٌ

＊第９形の受動分詞はありません。

８　くぼみ動詞の派生形の活用

第２形、第３形、第５形、第６形、第９形は３語根動詞の派生形と同じパターンになりますので、ここでは第４形、第７形、第８形、第10形についてその活用をさらによく見ていきましょう。

■第４形の活用：أَقَامَ「滞在する、開催する」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	أَقَامَ	يُقِيمُ	يُقِيمَ	يُقِمْ
３人称女性	أَقَامَتْ	تُقِيمُ	تُقِيمَ	تُقِمْ
２人称男性	أَقَمْتَ	تُقِيمُ	تُقِيمَ	تُقِمْ
２人称女性	أَقَمْتِ	تُقِيمِينَ	تُقِيمِي	تُقِيمِي
１人称	أَقَمْتُ	أُقِيمُ	أُقِيمَ	أُقِمْ
（双数）				
３人称男性	أَقَامَا	يُقِيمَانِ	يُقِيمَا	يُقِيمَا
３人称女性	أَقَامَتَا	تُقِيمَانِ	تُقِيمَا	تُقِيمَا

２人称男女	أَقَمْتُمَا	تُقِيمَانِ	تُقِيمَا	تُقِيمَا
（複数）				
３人称男性	أَقَامُوا	يُقِيمُونَ	يُقِيمُوا	يُقِيمُوا
３人称女性	أَقَمْنَ	يُقِمْنَ	يُقِمْنَ	يُقِمْنَ
２人称男性	أَقَمْتُمْ	تُقِيمُونَ	تُقِيمُوا	تُقِيمُوا
２人称女性	أَقَمْتُنَّ	تُقِمْنَ	تُقِمْنَ	تُقِمْنَ
１人称	أَقَمْنَا	نُقِيمُ	نُقِيمَ	نُقِمْ

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取り、أَ を加えた形です。

男性単数	أَقِمْ	滞在しなさい	女性単数	أَقِيمِي
双数	أَقِيمَا			
男性複数	أَقِيمُوا		女性複数	أَقِمْنَ

◇分詞：能動分詞 مُقِيمٌ 滞在している　受動分詞 مُقَامٌ 開催された

◇動名詞：次のパターンになります。إِقَامَةٌ 滞在

◇受動態：

	第３語根が母音		第３語根が子音	
完了形	أُقِيمَ	（３人称男性単数）	أُقِمْنَ	（３人称女性複数）
未完了形	يُقَامُ	（３人称男性単数）	يُقَمْنَ	（３人称女性複数）

◇第４形の重要動詞：

完了形	未完了形		動名詞	
أَرَادَ	يُرِيدُ	望む、欲する	إِرَادَةٌ	望み、意思
أَدَارَ	يُدِيرُ	運営する、経営する	إِدَارَةٌ	経営、事務

أَشَارَ　يُشِيرُ　…を指し示す（إِلَى、عَلَىを伴う）　إِشَارَةٌ　合図、表示

أَضَافَ　يُضِيفُ　加える（إِلَىを伴う）　إِضَافَةٌ　追加

＊أَضَافَの動名詞إِضَافَةٌは、إِضَافَةً إِلَى ذٰلِكَ「それに加えて、さらに」の形でよく用いられます。

■第７形の活用：اِنْحَازَ إِلَى「…側に味方する」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	اِنْحَازَ	يَنْحَازُ	يَنْحَازَ	يَنْحَزْ
３人称女性	اِنْحَازَتْ	تَنْحَازُ	تَنْحَازَ	تَنْحَزْ
２人称男性	اِنْحَزْتَ	تَنْحَازُ	تَنْحَازَ	تَنْحَزْ
２人称女性	اِنْحَزْتِ	تَنْحَازِينَ	تَنْحَازِي	تَنْحَازِي
１人称	اِنْحَزْتُ	أَنْحَازُ	أَنْحَازَ	أَنْحَزْ
（双数）				
３人称男性	اِنْحَازَا	يَنْحَازَانِ	يَنْحَازَا	يَنْحَازَا
３人称女性	اِنْحَازَتَا	تَنْحَازَانِ	تَنْحَازَا	تَنْحَازَا
２人称男女	اِنْحَزْتُمَا	تَنْحَازَانِ	تَنْحَازَا	تَنْحَازَا
（複数）				
３人称男性	اِنْحَازُوا	يَنْحَازُونَ	يَنْحَازُوا	يَنْحَازُوا
３人称女性	اِنْحَزْنَ	يَنْحَزْنَ	يَنْحَزْنَ	يَنْحَزْنَ
２人称男性	اِنْحَزْتُمْ	تَنْحَازُونَ	تَنْحَازُوا	تَنْحَازُوا
２人称女性	اِنْحَزْتُنَّ	تَنْحَزْنَ	تَنْحَزْنَ	تَنْحَزْنَ
１人称	اِنْحَزْنَا	نَنْحَازُ	نَنْحَازَ	نَنْحَزْ

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取り、اِ を加えた形です。

男性単数	اِنْحَزْ	…側に味方しなさい	女性単数	اِنْحَازِي
双数	اِنْحَازَا			
男性複数	اِنْحَازُوا		女性複数	اِنْحَزْنَ

◇分詞：

能動分詞　مُنْحَازٌ　…側に味方している（اَلدُّوَلُ غَيْرُ ٱلْمُنْحَازَةِ「非同盟諸国」）

受動分詞　مُنْحَازٌ　味方された（能動分詞と同じ形）

◇動名詞：弱文字وがيに変化します。

اِنْحِيَازٌ　…側に味方すること（سِيَاسَةُ عَدَمِ ٱلاِنْحِيَازِ「非同盟主義」）

◇受動態：

	第３語根が母音		第３語根が子音	
完了形	أُنْحِيزَ	（３人称男性単数）	أُنْحِزْنَ	（３人称女性複数）
未完了形	يُنْحَازُ	（３人称男性単数）	يُنْحَزْنَ	（３人称女性複数）

＊第７形の性質上、受動分詞も受動態もほとんど用いられません。

■第８形の活用：اِحْتَاجَ إِلَى「…を必要とする」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	اِحْتَاجَ	يَحْتَاجُ	يَحْتَاجَ	يَحْتَجْ
３人称女性	اِحْتَاجَتْ	تَحْتَاجُ	تَحْتَاجَ	تَحْتَجْ
２人称男性	اِحْتَجْتَ	تَحْتَاجُ	تَحْتَاجَ	تَحْتَجْ
２人称女性	اِحْتَجْتِ	تَحْتَاجِينَ	تَحْتَاجِي	تَحْتَاجِي
１人称	اِحْتَجْتُ	أَحْتَاجُ	أَحْتَاجَ	أَحْتَجْ

（双数）

3人称男性	اِحْتَاجَا	يَحْتَاجَانِ	يَحْتَاجَا	يَحْتَاجَا
3人称女性	اِحْتَاجَتَا	تَحْتَاجَانِ	تَحْتَاجَا	تَحْتَاجَا
2人称男女	اِحْتَجْتُمَا	تَحْتَاجَانِ	تَحْتَاجَا	تَحْتَاجَا

（複数）

3人称男性	اِحْتَاجُوا	يَحْتَاجُونَ	يَحْتَاجُوا	يَحْتَاجُوا
3人称女性	اِحْتَجْنَ	يَحْتَجْنَ	يَحْتَجْنَ	يَحْتَجْنَ
2人称男性	اِحْتَجْتُمْ	تَحْتَاجُونَ	تَحْتَاجُوا	تَحْتَاجُوا
2人称女性	اِحْتَجْتُنَّ	تَحْتَجْنَ	تَحْتَجْنَ	تَحْتَجْنَ
1人称	اِحْتَجْنَا	نَحْتَاجُ	نَحْتَاجَ	نَحْتَجْ

◇命令形：要求形（2人称）の接頭辞を取り、اِを加えた形です。

男性単数	اِحْتَجْ	必要としなさい	女性単数	اِحْتَاجِي
双数	اِحْتَاجَا			
男性複数	اِحْتَاجُوا		女性複数	اِحْتَجْنَ

◇分詞：

能動分詞　مُحْتَاجٌ　…を必要としている

受動分詞　مُحْتَاجٌ　必要とされた（能動分詞と同じ形）

◇動名詞：弱文字وがيに変化します。　اِحْتِيَاجٌ　必要（とすること）

◇受動態：

	第3語根が母音		第3語根が子音	
完了形	أُحْتِيجَ	（3人称男性単数）	أُحْتِجْنَ	（3人称女性複数）

未完了形　يُحْتَاجُ （３人称男性単数）　يُحْتَجْنَ （３人称女性複数）

زَادَ「超える」の第８形は、派生形第８形の原則とは異なり、اِزْدَادَ「増える」となります。重要な動詞ですから活用を示しておきます。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	اِزْدَادَ	يَزْدَادُ	يَزْدَادَ	يَزْدَدْ
３人称女性	اِزْدَادَتْ	تَزْدَادُ	تَزْدَادَ	تَزْدَدْ
２人称男性	اِزْدَدْتَ	تَزْدَادُ	تَزْدَادَ	تَزْدَدْ
２人称女性	اِزْدَدْتِ	تَزْدَادِينَ	تَزْدَادِي	تَزْدَادِي
１人称	اِزْدَدْتُ	أَزْدَادُ	أَزْدَادَ	أَزْدَدْ
（双数）				
３人称男性	اِزْدَادَا	يَزْدَادَانِ	يَزْدَادَا	يَزْدَادَا
３人称女性	اِزْدَادَتَا	تَزْدَادَانِ	تَزْدَادَا	تَزْدَادَا
２人称男女	اِزْدَدْتُمَا	تَزْدَادَانِ	تَزْدَادَا	تَزْدَادَا
（複数）				
３人称男性	اِزْدَادُوا	يَزْدَادُونَ	يَزْدَادُوا	يَزْدَادُوا
３人称女性	اِزْدَدْنَ	يَزْدَدْنَ	يَزْدَدْنَ	يَزْدَدْنَ
２人称男性	اِزْدَدْتُمْ	تَزْدَادُونَ	تَزْدَادُوا	تَزْدَادُوا
２人称女性	اِزْدَدْتُنَّ	تَزْدَدْنَ	تَزْدَدْنَ	تَزْدَدْنَ
１人称	اِزْدَدْنَا	نَزْدَادُ	نَزْدَادَ	نَزْدَدْ

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取り、اِを加えた形です。

男性単数	اِزْدَدْ	増えなさい	女性単数	اِزْدَادِي
双数	اِزْدَادَا			
男性複数	اِزْدَادُوا		女性複数	اِزْدَدْنَ

◇分詞：能動分詞 مُزْدَادٌ 増加している

＊受動分詞と受動態はほとんど用いられません。

◇動名詞：弱文字وがيに変化します。اِزْدِيَادٌ 増加

第８形の重要動詞にはそのほか、اِشْتَاقَ إِلَى「…を切望する」、اِقْتَاتَ「食料として摂取する」などがあります。

■第10形の活用：اِسْتَفَادَ مِنْ「…から利益を得る」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	اِسْتَفَادَ	يَسْتَفِيدُ	يَسْتَفِيدَ	يَسْتَفِدْ
３人称女性	اِسْتَفَادَتْ	تَسْتَفِيدُ	تَستَفِيدَ	تَسْتَفِدْ
２人称男性	اِسْتَفَدْتَ	تَسْتَفِيدُ	تَسْتَفِيدَ	تَسْتَفِدْ
２人称女性	اِسْتَفَدْتِ	تَسْتَفِيدِينَ	تَسْتَفِيدِي	تَسْتَفِيدِي
１人称	اِسْتَفَدْتُ	أَسْتَفِيدُ	أَسْتَفِيدَ	أَسْتَفِدْ
（双数）				
３人称男性	اِسْتَفَادَا	يَسْتَفِيدَانِ	يَسْتَفِيدَا	يَسْتَفِيدَا
３人称女性	اِسْتَفَادَتَا	تَسْتَفِيدَانِ	تَسْتَفِيدَا	تَسْتَفِيدَا
２人称男女	اِسْتَفَدْتُمَا	تَسْتَفِيدَانِ	تَسْتَفِيدَا	تَسْتَفِيدَا
（複数）				
３人称男性	اِسْتَفَادُوا	يَسْتَفِيدُونَ	يَسْتَفِيدُوا	يَسْتَفِيدُوا

3人称女性	اِسْتَفَدْنَ	يَسْتَفِدْنَ	يَسْتَفِدْنَ	يَسْتَفِدْنَ
2人称男性	اِسْتَفَدْتُمْ	تَسْتَفِيدُونَ	تَسْتَفِيدُوا	تَسْتَفِيدُوا
2人称女性	اِسْتَفَدْتُنَّ	تَسْتَفِدْنَ	تَسْتَفِدْنَ	تَسْتَفِدْنَ
1人称	اِسْتَفَدْنَا	نَسْتَفِيدُ	نَسْتَفِيدَ	نَسْتَفِدْ

◇命令形：要求形（2人称）の接頭辞を取り、اِを加えた形です。

男性単数	اِسْتَفِدْ	…から利益を受けなさい	女性単数	اِسْتَفِيدِي
双数	اِسْتَفِيدَا			
男性複数	اِسْتَفِيدُوا		女性複数	اِسْتَفِدْنَ

◇分詞：

能動分詞　مُسْتَفِيدٌ　…から利益を得ている

受動分詞　مُسْتَفَادٌ　利益を得られた

◇動名詞：次のパターンになります。اِسْتِفَادَةٌ　利益を得ること

◇受動態：

	第3語根が母音		第3語根が子音	
完了形	أُسْتُفِيدَ	（3人称男性単数）	أُسْتُفِدْنَ	（3人称女性複数）
未完了形	يُسْتَفَادُ	（3人称男性単数）	يُسْتَفَدْنَ	（3人称女性複数）

◇第10形の重要動詞：

完了形	未完了形		動名詞	
اِسْتَشَارَ	يَسْتَشِيرُ	…にアドバイスを求める	اِسْتِشَارَةٌ	諮問
اِسْتَعَادَ	يَسْتَعِيدُ	取り戻す	اِسْتِعَادَةٌ	回復
اِسْتَطَاعَ	يَسْتَطِيعُ	…が可能である	اِسْتِطَاعَةٌ	可能

＊اِسْتَطَاعَは目的語をとる場合、目的語は動名詞（対格）か、أَنْ＋接続形になります。

أَسْتَطِيعُ ٱلِاجْتِمَاعَ بِكَ غَدًا. 私はあなたと明日、会うことができます。

أَسْتَطِيعُ أَنْ أَجْتَمِعَ بِكَ غَدًا. 私はあなたと明日、会うことができます。

9　أَنَّとإِنَّとأَنْ

第12課でإِنَّとその姉妹について学びましたが、ここでは文を名詞化する役割をもつ３つの品詞أَنَّとإِنَّとأَنْをまとめておきます。この３つはどれも文を名詞化し、その名詞化した文を主語や目的語として機能させますが、それぞれ用いられ方に違いがあります。

أَنَّとإِنَّはどちらも名詞節導入詞です。そしてどちらも主語となる名詞には主格でなく対格が用いられます。また名詞の代わりに、人称代名詞の結合形を主語として用いることができます。両者の違いはإِنَّがقَالَに用いられ、أَنَّはそれ以外の動詞に用いられることです。

قَالَ إِنَّ ٱلِامْتِحَانَ سَيَكُونُ صَعْبًا.

彼は試験は難しいものになるだろうと言いました。

قُلْتُ إِنَّهَا طَوِيلَةٌ. 私は彼女が背が高いと言いました。

ذَكَرْتَ أَنَّهَا سَافَرَتْ إِلَى إِيرَانَ.

あなたは彼女がイランへ旅立ったと語りました。

عَلِمْتُ أَنَّهُمْ قَدْ غَادَرُوا ٱلْبِلَادَ.

私は彼らがすでに国を去ってしまったことを知りました。

أَنْは動詞先行節を導きます。また動詞には通常、接続形が用いられますが、一定の条件のもとでは完了形が用いられることもあります。

طَلَبْتُ مِنْكَ أَنْ تُغَيِّرَ ٱلثِّيَابَ.

私はあなたに服を着替えるよう頼みました。

إِنَّとأَنَّは、事実、そしてすでに発生したこと、また発生していること、これから起こると認識されていることを示す場合に用いられます。一方、兆候や認識なしで発生しうること示すのがأَنْです。よく用いられる形としては「...することができる」「...することを望む」「...することを命じる」「...が望まれる、必要である、...すべきである」などです。

هَلْ تَعْرِفُونَ أَنَّ دِمَشْقَ أَقْدَمُ مَدِينَةٍ فِي ٱلْعَالَمِ؟

皆さんはダマスカスが世界最古の町であることを知っていますか。

أَظُنُّ أَنَّ ٱلْبَاحِثَةَ سَتَبْدَأُ عَمَلَهَا غَدًا صَبَاحًا.

私はその研究者が明朝、仕事を始めると思っています。

تَمَكَّنْتُ مِنْ أَنْ أُكْمِلَ هٰذَا ٱلتَّمْرِينَ ٱلصَّعْبَ.

私はこの難しいドリルを終えることができました。

前述の３つの例文のうち最初の２つはأَنَّ以下が目的語として機能しています。次の例は主語として機能している場合です。

أَعْجَبَنِي أَنَّ صَدِيقَكَ قَدْ نَجَحَ فِي ٱمْتِحَانِ ٱلدُّخُولِ.

あなたの友人が入学試験に受かって私はうれしいです（受かったことが私を驚嘆させました）。

また３番目の例文はأَنْ以下が目的語として機能している場合ですが、この例文のように動詞が一定の前置詞（この場合はمِنْ）を必要とする場合でも、このように用いることができます。ときにこういった前置詞はأَنَّやأَنْの前では省略されますが、それによって意味が異なるということはありません。

أَخْبَرَنِي أَنَّ ٱلرَّئِيسَ قَدْ وَصَلَ. ／أَخْبَرَنِي بِأَنَّ ٱلرَّئِيسَ قَدْ وَصَلَ.

彼は私に大統領が到着したと伝えました。

أَنَّとأَنْで導かれる文は名詞としての機能をもつわけですから動名詞に置き換えることが可能です。たとえば上の２つの例文は次のように動名詞を用いて表現することも可能です。

أَعْجَبَنِي نَجَاحُ صَدِيقِكَ فِي ٱمْتِحَانِ ٱلدُّخُولِ.

أَخْبَرَنِي بِوُصُولِ ٱلرَّئِيسِ.

また前述の「私はあなたに服を着替えるよう頼みました」も次のように書くことができます。

طَلَبْتُ مِنْكَ تَغْيِيرَ ٱلثِّيَابِ.

＊動名詞が他の名詞と属格関係を構成することによって、また人称代名詞の結合形を伴うことによって、主語や目的語を示すことができるということを確認してください。

- قَبْلَ أَنْ「...する前に」

أَنْ以下で示された行為が完了していようがいまいが、أَنْの後には常に接続形が用いられます。

سَيُغَادِرُ ٱلْبِلَادَ قَبْلَ أَنْ يَحْصُلَ عَلَى ٱلشَّهَادَةِ ٱلْجَامِعِيَّةِ.

彼は大学の証明書を取得する前に国を去るでしょう。

غَادَرَ ٱلْبِلَادَ قَبْلَ أَنْ يَحْصُلَ عَلَى ٱلشَّهَادَةِ ٱلْجَامِعِيَّةِ.

彼は大学の証明書を取得する前に国を去りました。

＊下の文の場合、国を去った後で証明書を取得した可能性もあります。

- بَعْدَ أَنْ「...した後で」

أَنْ以下で示された行為がまだ完了していない場合には、أَنْの後ろに接続形が、すでに完了し、それが事実としてある場合には完了形が用いられます。

سَيُغَادِرُ ٱلْبِلَادَ بَعْدَ أَنْ يَحْصُلَ عَلَى ٱلشَّهَادَةِ ٱلْجَامِعِيَّةِ.

彼は大学の証明書を取得した後で国を去るでしょう。

غَادَرَ ٱلْبِلَادَ بَعْدَ أَنْ حَصَلَ عَلَى ٱلشَّهَادَةِ ٱلْجَامِعِيَّةِ.

彼は大学の証明書を取得した後に国を去りました。

「前置詞مِنْ+定冠詞が付いた分詞（常に能動分詞または受動分詞の男性単数形）+أَنْまたはأَنَّ」の構文は、非常によく用いられるパターンです。意味は「…（分詞）のひとつは、（أَنْまたはأَنَّ以下）である」「（أَنْまたはأَنَّ以下）は…（分詞）である」となります。

مِنَ ٱلْمَعْرُوفِ أَنَّ دِمَشْقَ كَانَتْ حَاضِرَةَ ٱلْخِلَافَةِ ٱلْأُمَوِيَّةِ.

ダマスカスがウマイヤ朝の都であったことは知られています。

مِنَ ٱلْوَاجِبِ أَنْ تَبْحَثَ عَنِ ٱلْوَظِيفَةِ. あなたは仕事を探す必要があります。

• كَانَの述部を導くأَنْ：

كَانَ أَوَّلُ مَا فَعَلْتُهُ أَنْ أَرْسَلْتُ رِسَالَةً إِلَى وَالِدَتِي.

私が最初にしたことは母に手紙を送ることでした。

أَنَّとإِنَّの後に表現上の理由などで、すぐ主語となる名詞が用いられない場合、形式上の主語として本来の主語の性や数にかかわりなく、人称代名詞の結合形、3人称男性単数のهُを置くことがあります。そして本来の主語は対格でなく主格で示されます。

قَالَ إِنَّهُ بَعْدَ مُفَاوَضَاتٍ طَوِيلَةٍ تَحَقَّقَ ٱلسَّلَامُ.

彼は長い交渉の後で和平が実現したと言いました。

＊この文を.قَالَ إِنَّ ٱلسَّلَامَ تَحَقَّقَ بَعْدَ مُفَاوَضَاتٍ طَوِيلَةٍと書くことも可能です。

اِعْتَبَرْتُ أَنَّهُ مِنَ ٱلْوَاضِحِ أَنَّ ٱلسَّلَامَ سَيَتَحَقَّقُ.

私は和平が達成されるのは明らかなことであると判断した。

第27課　同化動詞（不規則動詞２）

１　同化動詞の特徴

同化動詞は、第１語根が弱文字のوまたはيで始まる動詞です。どちらも完了形の活用は３語根動詞の原形と同じです。しかし未完了形の場合、第１語根がوの動詞の大半は、وが省略されるので注意しなければなりません。

２　第１語根و動詞（同化動詞１）

３語根動詞の原形と同じように活用しますが、未完了形では第１語根のوが省略されます。代表的な動詞であるوَصَلَ「到着する」を例にその活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	وَصَلَ	يَصِلُ	يَصِلَ	يَصِلْ
３人称女性	وَصَلَتْ	تَصِلُ	تَصِلَ	تَصِلْ
２人称男性	وَصَلْتَ	تَصِلُ	تَصِلَ	تَصِلْ
２人称女性	وَصَلْتِ	تَصِلِينَ	تَصِلِي	تَصِلِي
１人称	وَصَلْتُ	أَصِلُ	أَصِلَ	أَصِلْ
（双数）				
３人称男性	وَصَلاَ	يَصِلاَنِ	يَصِلاَ	يَصِلاَ
３人称女性	وَصَلَتَا	تَصِلاَنِ	تَصِلاَ	تَصِلاَ
２人称男女	وَصَلْتُمَا	تَصِلاَنِ	تَصِلاَ	تَصِلاَ
（複数）				
３人称男性	وَصَلُوا	يَصِلُونَ	يَصِلُوا	يَصِلُوا

3人称女性	وَصَلْنَ	يَصِلْنَ	يَصِلْنَ	يَصِلْنَ
2人称男性	وَصَلْتُمْ	تَصِلُونَ	تَصِلُوا	تَصِلُوا
2人称女性	وَصَلْتُنَّ	تَصِلْنَ	تَصِلْنَ	تَصِلْنَ
1人称	وَصَلْنَا	نَصِلُ	نَصِلَ	نَصِلْ

◇命令形：要求形（2人称）から接頭辞を取った形です。

男性単数 صِلْ 到着しなさい　女性単数 صِلِي

双数 صِلَا

男性複数 صِلُوا　女性複数 صِلْنَ

◇分詞：能動分詞 وَاصِلٌ 到着している　受動分詞 مَوْصُولٌ 連結された

◇動名詞：وُصُولٌ 到着すること　وَصْلٌ 連結すること　صِلَةٌ 関係をもつこと

＊وَصَلَのように意味によって用いる動名詞が異なる場合があります。ただし、一般的に自動詞の場合は、فُعُولٌのパターンになることが多いです。

◇受動態：وُصِلَ（完了形）　يُوصَلُ（未完了形）

原形の原則にしたがえば、完了形の第2語根がカスラの場合には、未完了形ではその第2語根はファトハになるのですが（たとえば、شَرِبَであれば يَشْرَبُ）、第1語根و動詞のなかには、完了形の第2語根がカスラであっても、未完了形でその第2語根がカスラになるものがあります。

وَثِقَ بِ …を信頼する　يَثِقُ（未完了形）　ثِقْ（命令形）

وَرِثَ 相続する　يَرِثُ（未完了形）　رِثْ（命令形）

また、未完了形の第2語根がファトハになる動詞もあります。

وَدَعَ 預ける　يَدَعُ（未完了形）　دَعْ（命令形）

وَضَعَ　置く　　يَضَعُ（未完了形）　ضَعْ（命令形）

وَقَعَ　起こる、落ちる、位置する　يَقَعُ（未完了形）　قَعْ（命令形）

＊وَقَعَは、地理的に「…にある、位置する」という意味では、未完了形３人称男性、あるいは３人称女性の活用だけが用いられます。

未完了形でوが省略されずに、３語根動詞の原形のように活用するものもあります。その場合、第２語根はファトハかダンマです。

وَجِعَ　痛みを感じる　　يَوْجَعُ（未完了形）

وَبُلَ　健康に悪い　　يَوْبُلُ（未完了形）

◇派生形：

第２形وَصَّلَ「届ける」、第３形وَاصَلَ「継続する」、第４形أَوْصَلَ「結ぶ」、第５形تَوَصَّلَ「到達する」、第６形تَوَاصَلَ「継続する」、第８形اِتَّصَلَ「連絡する」、第10形اِسْتَوْصَلَ「入れ髪（自分の髪に他の人の髪を添えて結うこと）を求める」を例に、ポイントを示しておきます。

	完了形	未完了形	命令形	能動分詞	受動分詞
第2形	وَصَّلَ	يُوَصِّلُ	وَصِّلْ	مُوَصِّلٌ	مُوَصَّلٌ
第3形	وَاصَلَ	يُوَاصِلُ	وَاصِلْ	مُوَاصِلٌ	مُوَاصَلٌ
第4形	أَوْصَلَ	يُوصِلُ	أَوْصِلْ	مُوصِلٌ	مُوصَلٌ
第5形	تَوَصَّلَ	يَتَوَصَّلُ	تَوَصَّلْ	مُتَوَصِّلٌ	مُتَوَصَّلٌ
第6形	تَوَاصَلَ	يَتَوَاصَلُ	تَوَاصَلْ	مُتَوَاصِلٌ	مُتَوَاصَلٌ
第8形	اِتَّصَلَ	يَتَّصِلُ	اِتَّصِلْ	مُتَّصِلٌ	مُتَّصَلٌ
第10形	اِسْتَوْصَلَ	يَسْتَوْصِلُ	اِسْتَوْصِلْ	مُسْتَوْصِلٌ	مُسْتَوْصَلٌ

＊第７形、第９形はありません。

◇派生形の動名詞：

第2形	تَوْصِيلٌ	届けること、接合	第3形	مُوَاصَلَةٌ	継続
第4形	إِيصَالٌ	結合、領収書	第5形	تَوَصُّلٌ	到達
第6形	تَوَاصُلٌ	継続	第8形	اِتِّصَالٌ	連絡
第10形	اِسْتِيصَالٌ	入れ髪を求めること			

◇その他の第1語根و動詞とその重要な派生形：

完了形	未完了形	動名詞	派生形	派生形の動名詞
وَجَبَ	يَجِبُ	وُجُوبٌ	أَوْجَبَ	إِيجَابٌ
義務である		必要	義務づける	責務
وَجَدَ	يَجِدُ	وُجُودٌ	أَوْجَدَ	إِيجَادٌ
見つける		発見	創造する	創造
وُجِدَ	يُوجَدُ	وُجُودٌ		
存在する		存在		
وَحَدَ	يَحِدُ	حِدَةٌ	وَحَّدَ	تَوْحِيدٌ
１つである		孤独	統一する	結合
		وَحْدَةٌ	اِتَّحَدَ	اِتِّحَادٌ
		統一	１つになる	統一
وَدَعَ	يَدَعُ	وَدْعٌ	وَدَّعَ	تَوْدِيعٌ
預ける		預けること	見送る	見送り
وَرَدَ	يَرِدُ	وُرُودٌ	اِسْتَوْرَدَ	اِسْتِيرَادٌ
来る		到来	輸入する	輸入

完了形	未完了形	動名詞	派生形	派生形の動名詞
وَسِعَ	يَسَعُ	سَعَةٌ	وَسَّعَ	تَوْسِيعٌ
広くある		広大	広げる	拡張
			تَوَسَّعَ	تَوَسُّعٌ
			広がる	拡張
			اِتَّسَعَ	اِتِّسَاعٌ
			広がる	拡張
وَصَفَ	يَصِفُ	وَصْفٌ	اِتَّصَفَ	اِتِّصَافٌ
描く		描写	描かれる	描写されること
		صِفَةٌ		
		性質		
وَضَحَ	يَضِحُ	وُضُوحٌ	وَضَّحَ	تَوْضِيحٌ
明確である		明確さ	明確にする	解明
			أَوْضَحَ	إِيضَاحٌ
			明確にする	解明
			اِتَّضَحَ	اِتِّضَاحٌ
			明確になる	明解
وَقَعَ	يَقَعُ	وُقُوعٌ	وَقَّعَ	تَوْقِيعٌ
起こる		発生	署名する	署名
			تَوَقَّعَ	تَوَقُّعٌ
			予期する	予期

وَطَنَ	يَطِنُ	وَطْنٌ	اِسْتَوْطَنَ	اِسْتِيطَانٌ
住む		住むこと	入植する	入植
وَلَدَ	يَلِدُ	وِلاَدَةٌ	وَلَّدَ	تَوْلِيدٌ
産む		誕生	生み出す	生み出すこと
		مَوْلِدٌ		
		誕生		

وَدَعَ「預ける」の命令形دَعْを用いて「…に…をさせてください」という意味を示す重要な用法があります。通常دَعْに人称代名詞の結合形を付け、動詞の未完了形を続けます。

دَعْنِي أَفْعَلُ كَذٰلِكَ. 私にそうさせてください。

دَعْنَا نَتَكَلَّمُ. 私たちに話させてください。

＊ وَسِعَ「広くある」は「…する余裕がある、力がある」の意味をもち、しばしば否定文で用いられます。その場合、動名詞にはوُسْعٌが用いられます。

لَيْسَ فِي وُسْعِي أَنْ أَزُورَكَ. ／ لاَ يَسَعُنِي أَنْ أَزُورَكَ.

私はあなたを訪問することができません。

3　第１語根ي動詞（同化動詞２）

同化動詞の第１語根ي動詞はその数は大変少なく、活用は３語根動詞の原形に原則的に一致します。ただし受動態の未完了形や派生形などに一部、注意すべき点があります。يَسَرَ「楽である」を例にその活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	يَسَرَ	يَيْسَرُ	يَيْسَرَ	يَيْسَرْ
３人称女性	يَسَرَتْ	تَيْسَرُ	تَيْسَرَ	تَيْسَرْ

2人称男性	يَسَرْتَ	تَيْسَرُ	تَيْسَرَ	تَيْسَرْ
2人称女性	يَسَرْتِ	تَيْسَرِينَ	تَيْسَرِي	تَيْسَرِي
1人称	يَسَرْتُ	أَيْسَرُ	أَيْسَرَ	أَيْسَرْ
（双数）				
3人称男性	يَسَرَا	يَيْسَرَانِ	يَيْسَرَا	يَيْسَرَا
3人称女性	يَسَرَتَا	تَيْسَرَانِ	تَيْسَرَا	تَيْسَرَا
2人称男女	يَسَرْتُمَا	تَيْسَرَانِ	تَيْسَرَا	تَيْسَرَا
（複数）				
3人称男性	يَسَرُوا	يَيْسَرُونَ	يَيْسَرُوا	يَيْسَرُوا
3人称女性	يَسَرْنَ	يَيْسَرْنَ	يَيْسَرْنَ	يَيْسَرْنَ
2人称男性	يَسَرْتُمْ	تَيْسَرُونَ	تَيْسَرُوا	تَيْسَرُوا
2人称女性	يَسَرْتُنَّ	تَيْسَرْنَ	تَيْسَرْنَ	تَيْسَرْنَ
1人称	يَسَرْنَا	نَيْسَرُ	نَيْسَرَ	نَيْسَرْ

◇命令形：要求形（2人称）の接頭辞を取り、代わりにاِを用います。

男性単数	اِيسَرْ	楽にしなさい	女性単数	اِيسَرِي
双数	اِيسَرَا			
男性複数	اِيسَرُوا		女性複数	اِيسَرْنَ

＊本来の形はاِيْسَرْですが、وで始まる動詞と同じように弱文字が子音になるとその前にある母音（カスラまたはダンマの場合）の影響を受け、長母音化するのが特徴です。

◇分詞：能動分詞 يَاسِرٌ 容易な　受動分詞 مَيْسُورٌ 容易にできる

◇動名詞：次のパターンになります。يَسَرٌ/يَسْرٌ 容易さ

◇受動態：يُسِرَ（完了形）　　يُوسَرُ（未完了形）

◇派生形：

第２形يَسَّرَ「容易にする」、第３形يَاسَرَ「寛大になる」、第４形أَيْسَرَ「裕福になる」、第５形تَيَسَّرَ「容易になる」、第６形تَيَاسَرَ「賭けをする」、第８形اِتَّسَرَ「賭けをする」、第10形اِسْتَيْسَرَ「容易になる」を例に、ポイントを示しておきます。

	完了形	未完了形	命令形	能動分詞	受動分詞
第2形	يَسَّرَ	يُيَسِّرُ	يَسِّرْ	مُيَسِّرٌ	مُيَسَّرٌ
第3形	يَاسَرَ	يُيَاسِرُ	يَاسِرْ	مُيَاسِرٌ	مُيَاسَرٌ
第4形	أَيْسَرَ	يُوسِرُ	أَيْسِرْ	مُوسِرٌ	مُوسَرٌ
第5形	تَيَسَّرَ	يَتَيَسَّرُ	تَيَسَّرْ	مُتَيَسِّرٌ	مُتَيَسَّرٌ
第6形	تَيَاسَرَ	يَتَيَاسَرُ	تَيَاسَرْ	مُتَيَاسِرٌ	مُتَيَاسَرٌ
第8形	اِتَّسَرَ	يَتَّسِرُ	اِتَّسِرْ	مُتَّسِرٌ	مُتَّسَرٌ
第10形	اِسْتَيْسَرَ	يَسْتَيْسِرُ	اِسْتَيْسِرْ	مُسْتَيْسِرٌ	مُسْتَيْسَرٌ

＊第７形、第９形はありません。

＊وとيで始まる派生形第８形の動詞においてはتの吸収が起こります。

وَصَلَ → اِتَّصَلَ　　　يَسَرَ → اِتَّسَرَ
到着する　連絡する　　　楽をする　賭けをする

◇派生形の動名詞：

第2形 تَيْسِيرٌ 容易にすること　　第3形 مُيَاسَرَةٌ 寛大になること
第4形 إِيسَارٌ 裕福になること　　第5形 تَيَسُّرٌ 容易になること
第6形 تَيَاسُرٌ 賭けをすること　　第8形 اِتِّسَارٌ 賭けをすること
第10形 اِسْتِيسَارٌ 容易になること

◇その他の第１語根ي動詞とその重要な派生形：

完了形	未完了形	動名詞	派生形	派生形の動名詞
يَئِسَ	يَيْأَسُ	يَأْسٌ		
失望する		失望		
يَبِسَ	يَيْبَسُ	يَبْسٌ		
乾く		乾燥		
يَقِظَ	يَيْقَظُ	يَقَظٌ	أَيْقَظَ	إِيقَاظٌ
目を覚ます		覚醒	起こす	起こすこと
			اِسْتَيْقَظَ	اِسْتِيقَاظٌ
			起きる	起きること

第28課　ダブル動詞（不規則動詞３）

1　ダブル動詞の特徴

ダブル動詞は、第２語根と第３語根が同じ文字であるため、それら２つがシャッダ記号を付けて１つにまとめられた形をとっています。もとの第２語根がファトハ、カスラ、ダンマのどれになるかで３種類に分類され、さらに未完了形の活用では完了形で第２語根がファトハの動詞が２つに分類されるというやっかいな動詞です。しかし大部分の動詞はمَدَّ（原形はمَدَدَ、未完了形はيَمُدُّ）型の活用となります。それ以外のパターンについては特定の動詞にしか用いられないと考えてよいでしょう。مَدَّ（مَدَدَ）「伸ばす」を例にその活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	مَدَّ	يَمُدُّ	يَمُدَّ	يَمُدَّ (يَمْدُدْ)
３人称女性	مَدَّتْ	تَمُدُّ	تَمُدَّ	تَمُدَّ (تَمْدُدْ)
２人称男性	مَدَدْتَ	تَمُدُّ	تَمُدَّ	تَمُدَّ (تَمْدُدْ)
２人称女性	مَدَدْتِ	تَمُدِّينَ	تَمُدِّي	تَمُدِّي
１人称	مَدَدْتُ	أَمُدُّ	أَمُدَّ	أَمُدَّ (أَمْدُدْ)
（双数）				
３人称男性	مَدَّا	يَمُدَّانِ	يَمُدَّا	يَمُدَّا
３人称女性	مَدَّتَا	تَمُدَّانِ	تَمُدَّا	تَمُدَّا
２人称男女	مَدَدْتُمَا	تَمُدَّانِ	تَمُدَّا	تَمُدَّا
（複数）				
３人称男性	مَدُّوا	يَمُدُّونَ	يَمُدُّوا	يَمُدُّوا

3人称女性	مَدَدْنَ	يَمْدُدْنَ	يَمْدُدْنَ	يَمْدُدْنَ
2人称男性	مَدَدْتُمْ	تَمُدُّونَ	تَمُدُّوا	تَمُدُّوا
2人称女性	مَدَدْتُنَّ	تَمْدُدْنَ	تَمْدُدْنَ	تَمْدُدْنَ
1人称	مَدَدْنَا	نَمُدُّ	نَمُدَّ	نَمُدَّ (نَمْدُدْ)

＊要求形は接続形と同じパターンになりますが、（　）で示したように、３語根動詞の原形と同様の活用をする場合もあります。

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取った形です。なお、要求形がتَمْدُدْ／تَمْدُدْنَになるときは接頭辞を取り、それにاを加えます。

男性単数　مُدَّ／اُمْدُدْ　伸ばしなさい　女性単数　مُدِّي

双数　مُدَّا

男性複数　مُدُّوا　女性複数　اُمْدُدْنَ

◇分詞：

能動分詞　مَادٌّ　伸ばしている、広げている

受動分詞　مَمْدُودٌ　伸ばされた、広げられた

◇動名詞：次のパターンになります。مَدٌّ　伸ばすこと、供給

◇受動態：

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
3人称男性	مُدَّ	يُمَدُّ	يُمَدَّ	يُمَدَّ (يُمْدَدْ)
3人称女性	مُدَّتْ	تُمَدُّ	تُمَدَّ	تُمَدَّ (تُمْدَدْ)
2人称男性	مُدِدْتَ	تُمَدُّ	تُمَدَّ	تُمَدَّ (تُمْدَدْ)
2人称女性	مُدِدْتِ	تُمَدِّينَ	تُمَدِّي	تُمَدِّي
1人称	مُدِدْتُ	أُمَدُّ	أُمَدَّ	أُمَدَّ (أُمْدَدْ)

（双数）

3人称男性	مُدَّا	يُمَدَّانِ	يُمَدَّا	يُمَدَّا
3人称女性	مُدَّتَا	تُمَدَّانِ	تُمَدَّا	تُمَدَّا
2人称男女	مُدِدْتُمَا	تُمَدَّانِ	تُمَدَّا	تُمَدَّا

（複数）

3人称男性	مُدُّوا	يُمَدُّونَ	يُمَدُّوا	يُمَدُّوا
3人称女性	مُدِدْنَ	يُمْدَدْنَ	يُمْدَدْنَ	يُمْدَدْنَ
2人称男性	مُدِدْتُمْ	تُمَدُّونَ	تُمَدُّوا	تُمَدُّوا
2人称女性	مُدِدْتُنَّ	تُمْدَدْنَ	تُمْدَدْنَ	تُمْدَدْنَ
1人称	مُدِدْنَا	نُمَدُّ	نُمَدَّ	نُمَدَّ (نُمْدَدْ)

2　ダブル動詞の4つのパターン

ダブル動詞の活用には、次の4つのパターンがあります。しかし他動詞を中心とする多くのダブル動詞は、مَدَّ（مَدَدَ）の活用に見られるように、第2語根のもとの発音が完了形ではファトハ、未完了形ではダンマになります。そのほか3つのパターン、完了形ではファトハで未完了形ではカスラのتَمَّ（تَمَمَ）型、完了形ではカスラで未完了形ではファトハのوَدَّ（وَدِدَ）型、完了形と未完了形がともにダンマの لَبَّ（لَبُبَ）型の動詞は実際、多くは用いられません。

完了形（もとの形）		未完了形（もとの形）	動名詞	
مَدَّ (مَدَدَ)	伸ばす	يَمُدُّ (يَمْدُدُ)	مَدٌّ	延長
تَمَّ (تَمَمَ)	…が完了する	يَتِمُّ (يَتْمِمُ)	تَمَامٌ	完璧
وَدَّ (وَدِدَ)	望む	يَوَدُّ (يَوْدَدُ)	وُدٌّ	愛情
لَبَّ (لَبُبَ)	留まる	يَلُبُّ (يَلْبُبُ)	لَبٌّ	留まること

＊تَمَّ型の活用はおもに自動詞に見られるパターンです。またتَمَّは、事実上３人称男性単数（تَمَّ、يَتِمُّ）、または３人称女性単数（تَمَّتْ、تَتِمُّ）の活用でしか用いられません。

３　ダブル動詞の派生形

第２形مَدَّدَ「伸ばす」、第３形مَادَّ「遅らせる」、第４形أَمَدَّ「援助する」、第５形تَمَدَّدَ「伸びる」、第６形تَمَادَّ「引き合う」、第７形اِنْضَمَّ إِلَى「加わる」、第８形اِمْتَدَّ「伸びる」、第10形اِسْتَمَدَّ「引き出す」を例にポイントを示します。

	完了形	未完了形	命令形	能動分詞	受動分詞	動名詞
第２形	مَدَّدَ	يُمَدِّدُ	مَدِّدْ	مُمَدِّدٌ	مُمَدَّدٌ	تَمْدِيدٌ
第３形	مَادَّ	يُمَادُّ	مَادِدْ	مُمَادٌّ	مُمَادٌّ	مِدَادٌ
第４形	أَمَدَّ	يُمِدُّ	أَمْدِدْ／أَمِدَّ	مُمِدٌّ	مُمَدٌّ	إِمْدَادٌ
第５形	تَمَدَّدَ	يَتَمَدَّدُ	تَمَدَّدْ	مُتَمَدِّدٌ	مُتَمَدَّدٌ	تَمَدُّدٌ
第６形	تَمَادَّ	يَتَمَادُّ	تَمَادَدْ	مُتَمَادٌّ	مُتَمَادٌّ	تَمَادٌّ
第7形	اِنْضَمَّ	يَنْضَمُّ	اِنْضَمِمْ	مُنْضَمٌّ	مُنْضَمٌّ	اِنْضِمَامٌ
第８形	اِمْتَدَّ	يَمْتَدُّ	اِمْتَدِدْ	مُمْتَدٌّ	مُمْتَدٌّ	اِمْتِدَادٌ
第10形	اِسْتَمَدَّ	يَسْتَمِدُّ	اِسْتَمْدِدْ	مُسْتَمِدٌّ	مُسْتَمَدٌّ	اِسْتِمْدَادٌ

＊第９形はありません。

派生形第２形、第５形は３語根動詞の原形と同じように活用します。また第３形はほとんど用いられません。よく用いられる第４形、第７形、第８形、第10形の活用をきちんと学んでおく必要があります。

■第４形の活用：أَمَدَّ「援助する、…に…を供給する」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	أَمَدَّ	يُمِدُّ	يُمِدَّ	يُمِدَّ (يُمْدِدْ)
３人称女性	أَمَدَّتْ	تُمِدُّ	تُمِدَّ	تُمِدَّ (تُمْدِدْ)

2人称男性	أَمْدَدْتَ	تُمِدُّ	تُمِدَّ	(تُمْدِدْ) تُمِدَّ
2人称女性	أَمْدَدْتِ	تُمِدِّينَ	تُمِدِّي	تُمِدِّي
1人称	أَمْدَدْتُ	أُمِدُّ	أُمِدَّ	(أُمْدِدْ) أُمِدَّ
（双数）				
3人称男性	أَمَدَّا	يُمِدَّانِ	يُمِدَّا	يُمِدَّا
3人称女性	أَمَدَّتَا	تُمِدَّانِ	تُمِدَّا	تُمِدَّا
2人称男女	أَمْدَدْتُمَا	تُمِدَّانِ	تُمِدَّا	تُمِدَّا
（複数）				
3人称男性	أَمَدُّوا	يُمِدُّونَ	يُمِدُّوا	يُمِدُّوا
3人称女性	أَمْدَدْنَ	يُمْدِدْنَ	يُمْدِدْنَ	يُمْدِدْنَ
2人称男性	أَمْدَدْتُمْ	تُمِدُّونَ	تُمِدُّوا	تُمِدُّوا
2人称女性	أَمْدَدْتُنَّ	تُمْدِدْنَ	تُمْدِدْنَ	تُمْدِدْنَ
1人称	أَمْدَدْنَا	نُمِدُّ	نُمِدَّ	(نُمْدِدْ) نُمِدَّ

◇命令形：要求形（２人称）から接頭辞を取り、أَ を加えます。

男性単数 أَمْدِدْ／أَمِدَّ 供給しなさい　女性単数 أَمِدِّي

双数 أَمِدَّا

男性複数 أَمِدُّوا　女性複数 أَمْدِدْنَ

◇分詞：

能動分詞 مُمِدٌّ 供給している　受動分詞 مُمَدٌّ 供給された

◇動名詞：次のパターンになります。إِمْدَادٌ 援助、供給

◇受動態：

	第３語根が母音		第３語根が子音	
完了形	أُمِدَّ	（３人称男性単数）	أُمْدِدْنَ	（３人称女性複数）
未完了形	يُمَدُّ	（３人称男性単数）	يُمْدَدْنَ	（３人称女性複数）

■第７形の活用：اِنْضَمَّ إِلَى「…に加わる」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	اِنْضَمَّ	يَنْضَمُّ	يَنْضَمَّ	يَنْضَمَّ (يَنْضَمِمْ)
３人称女性	اِنْضَمَّتْ	تَنْضَمُّ	تَنْضَمَّ	تَنْضَمَّ (تَنْضَمِمْ)
２人称男性	اِنْضَمَمْتَ	تَنْضَمُّ	تَنْضَمَّ	تَنْضَمَّ (تَنْضَمِمْ)
２人称女性	اِنْضَمَمْتِ	تَنْضَمِّينَ	تَنْضَمِّي	تَنْضَمِّي
１人称	اِنْضَمَمْتُ	أَنْضَمُّ	أَنْضَمَّ	أَنْضَمَّ (أَنْضَمِمْ)
（双数）				
３人称男性	اِنْضَمَّا	يَنْضَمَّانِ	يَنْضَمَّا	يَنْضَمَّا
３人称女性	اِنْضَمَّتَا	تَنْضَمَّانِ	تَنْضَمَّا	تَنْضَمَّا
２人称男女	اِنْضَمَمْتُمَا	تَنْضَمَّانِ	تَنْضَمَّا	تَنْضَمَّا
（複数）				
３人称男性	اِنْضَمُّوا	يَنْضَمُّونَ	يَنْضَمُّوا	يَنْضَمُّوا
３人称女性	اِنْضَمَمْنَ	يَنْضَمِمْنَ	يَنْضَمِمْنَ	يَنْضَمِمْنَ
２人称男性	اِنْضَمَمْتُمْ	تَنْضَمُّونَ	تَنْضَمُّوا	تَنْضَمُّوا
２人称女性	اِنْضَمَمْتُنَّ	تَنْضَمِمْنَ	تَنْضَمِمْنَ	تَنْضَمِمْنَ
１人称	اِنْضَمَمْنَا	نَنْضَمُّ	نَنْضَمَّ	نَنْضَمَّ (نَنْضَمِمْ)

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取り、اِ を加えます。

男性単数　اِنْضَمِمْ／اِنْضَمَّ　加わりなさい　女性単数　اِنْضَمِّي

双数　اِنْضَمَّا

男性複数　اِنْضَمُّوا　女性複数　اِنْضَمِمْنَ

◇分詞：

能動分詞　مُنْضَمٌّ　加入している

受動分詞　مُنْضَمٌّ　（能動分詞と同じ形）

◇動名詞：次のパターンになります。اِنْضِمَامٌ　加入、参加

◇受動態：第７形の性質上、受動分詞も受動態もほとんど用いられません。

	第３語根が母音		第３語根が子音	
完了形	أُنْضُمَّ	（３人称男性単数）	أُنْضُمِمْنَ	（３人称女性複数）
未完了形	يُنْضَمُّ	（３人称男性単数）	يُنْضَمَمْنَ	（３人称女性複数）

■第８形の活用：اِمْتَدَّ「伸びる」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	اِمْتَدَّ	يَمْتَدُّ	يَمْتَدَّ	يَمْتَدَّ (يَمْتَدِدْ)
３人称女性	اِمْتَدَّتْ	تَمْتَدُّ	تَمْتَدَّ	تَمْتَدَّ (تَمْتَدِدْ)
２人称男性	اِمْتَدَدْتَ	تَمْتَدُّ	تَمْتَدَّ	تَمْتَدَّ (تَمْتَدِدْ)
２人称女性	اِمْتَدَدْتِ	تَمْتَدِّينَ	تَمْتَدِّي	تَمْتَدِّي
１人称	اِمْتَدَدْتُ	أَمْتَدُّ	أَمْتَدَّ	أَمْتَدَّ (أَمْتَدِدْ)
（双数）				
３人称男性	اِمْتَدَّا	يَمْتَدَّانِ	يَمْتَدَّا	يَمْتَدَّا

3人称女性	اِمْتَدَّتَا	تَمْتَدَّانِ	تَمْتَدَّا	تَمْتَدَّا
2人称男女	اِمْتَدَدْتُمَا	تَمْتَدَّانِ	تَمْتَدَّا	تَمْتَدَّا
（複数）				
3人称男性	اِمْتَدُّوا	يَمْتَدُّونَ	يَمْتَدُّوا	يَمْتَدُّوا
3人称女性	اِمْتَدَدْنَ	يَمْتَدِدْنَ	يَمْتَدِدْنَ	يَمْتَدِدْنَ
2人称男性	اِمْتَدَدْتُمْ	تَمْتَدُّونَ	تَمْتَدُّوا	تَمْتَدُّوا
2人称女性	اِمْتَدَدْتُنَّ	تَمْتَدِدْنَ	تَمْتَدِدْنَ	تَمْتَدِدْنَ
1人称	اِمْتَدَدْنَا	نَمْتَدُّ	نَمْتَدَّ	نَمْتَدَّ (نَمْتَدِدْ)

◇命令形：要求形（2人称）の接頭辞を取り、اِ を加えます。

男性単数	اِمْتَدِدْ／اِمْتَدَّ	伸びなさい	女性単数	اِمْتَدِّي
双数	اِمْتَدَّا			
男性複数	اِمْتَدُّوا		女性複数	اِمْتَدِدْنَ

◇分詞：

能動分詞　مُمْتَدٌّ　広がっている

受動分詞　مُمْتَدٌّ　（能動分詞と同じ形）

第８形の受動分詞は形としてはこうなりますが、実際用いられません。次の受動態の説明を参考にしてください。

◇動名詞：次のパターンになります。اِمْتِدَادٌ　広がり、伸長

◇受動態：

اِمْتَدَّは意味上、受動態として用いられませんので、同じダブル動詞の派生形第８形のاِحْتَلَّ「占領する、地位や場所を占める」でそのパターンを示します。

	第３語根が母音		第３語根が子音	
完了形	اُحْتُلَّ	（３人称男性単数）	اُحْتُلِلْنَ	（３人称女性複数）
未完了形	يُحْتَلُّ	（３人称男性単数）	يُحْتَلَلْنَ	（３人称女性複数）

なお、この動詞の受動分詞はمُحْتَلٌّ「占領された」になります。

■第10形の活用：اِسْتَمَدَّ「引き出す」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	اِسْتَمَدَّ	يَسْتَمِدُّ	يَسْتَمِدَّ	يَسْتَمِدَّ (يَسْتَمْدِدْ)
３人称女性	اِسْتَمَدَّتْ	تَسْتَمِدُّ	تَسْتَمِدَّ	تَسْتَمِدَّ (تَسْتَمْدِدْ)
２人称男性	اِسْتَمْدَدْتَ	تَسْتَمِدُّ	تَسْتَمِدَّ	تَسْتَمِدَّ (تَسْتَمْدِدْ)
２人称女性	اِسْتَمْدَدْتِ	تَسْتَمِدِّينَ	تَسْتَمِدِّي	تَسْتَمِدِّي
１人称	اِسْتَمْدَدْتُ	أَسْتَمِدُّ	أَسْتَمِدَّ	أَسْتَمِدَّ (أَسْتَمْدِدْ)
（双数）				
３人称男性	اِسْتَمَدَّا	يَسْتَمِدَّانِ	يَسْتَمِدَّا	يَسْتَمِدَّا
３人称女性	اِسْتَمَدَّتَا	تَسْتَمِدَّانِ	تَسْتَمِدَّا	تَسْتَمِدَّا
２人称男女	اِسْتَمْدَدْتُمَا	تَسْتَمِدَّانِ	تَسْتَمِدَّا	تَسْتَمِدَّا
（複数）				
３人称男性	اِسْتَمَدُّوا	يَسْتَمِدُّونَ	يَسْتَمِدُّوا	يَسْتَمِدُّوا
３人称女性	اِسْتَمْدَدْنَ	يَسْتَمْدِدْنَ	يَسْتَمْدِدْنَ	يَسْتَمْدِدْنَ
２人称男性	اِسْتَمْدَدْتُمْ	تَسْتَمِدُّونَ	تَسْتَمِدُّوا	تَسْتَمِدُّوا
２人称女性	اِسْتَمْدَدْتُنَّ	تَسْتَمْدِدْنَ	تَسْتَمْدِدْنَ	تَسْتَمْدِدْنَ

1人称　اِسْتَمْدَدْنَا　نَسْتَمِدُّ　نَسْتَمِدَّ　(نَسْتَمْدِدْ) نَسْتَمِدَّ

◇命令形：要求形（２人称）から接頭辞を取り、ا を加えます。

男性単数　اِسْتَمْدِدْ／اِسْتَمِدَّ　引き出しなさい　女性単数　اِسْتَمِدِّي

双数　اِسْتَمِدَّا

男性複数　اِسْتَمِدُّوا　女性複数　اِسْتَمْدِدْنَ

◇分詞：

能動分詞　مُسْتَمِدٌّ　引き出している

受動分詞　مُسْتَمَدٌّ　引き出された

◇動名詞：次のパターンになります。اِسْتِمْدَادٌ　調達

◇受動態：

	第３語根が母音		第３語根が子音	
完了形	أُسْتُمِدَّ	（３人称男性単数）	أُسْتُمْدِدْنَ	（３人称女性複数）
未完了形	يُسْتَمَدُّ	（３人称男性単数）	يُسْتَمْدَدْنَ	（３人称女性複数）

◇その他のダブル動詞とその重要な派生形：

完了形	未完了形	動名詞	派生形	派生形の動名詞
حَبَّ	يَحِبُّ	حُبٌّ	أَحَبَّ	حُبٌّ
好む		愛情	愛する	愛情
حَقَّ	يَحُقُّ	حَقٌّ	حَقَّقَ	تَحْقِيقٌ
権利がある		権利	実現する	実現
شَقَّ	يَشُقُّ	شَقٌّ	اِنْشَقَّ	اِنْشِقَاقٌ
裂く		亀裂	裂ける	分離

حَلَّ	يَحُلُّ	حَلٌّ	حَلَّلَ	تَحْلِيلٌ
解決する		解決	分析する	分析
			اِحْتَلَّ	اِحْتِلَالٌ
			占領する	占領
عَدَّ	يَعُدُّ	عَدٌّ	أَعَدَّ	إِعْدَادٌ
数える		計算	準備する	準備
			تَعَدَّدَ	تَعَدُّدٌ
			多数になる	多様
			اِسْتَعَدَّ لِ	اِسْتِعْدَادٌ
			準備ができている	準備
عَزَّ	يَعِزُّ	عِزٌّ	عَزَّزَ	تَعْزِيزٌ
力強くある		力	強化する	強化
قَرَّ	يَقِرُّ	قَرَارٌ	قَرَّرَ	قَرَارٌ
定着する		定着	決定する	決定
			قَرَّرَ	تَقْرِيرٌ
			報告する	報告
			أَقَرَّ	إِقْرَارٌ
			定着させる	定着
			اِسْتَقَرَّ	اِسْتِقْرَارٌ
			安定する	安定

مَرَّ بِ	يَمُرُّ	مُرُورٌ	اِسْتَمَرَّ	اِسْتِمْرَارٌ
通過する		通過	継続する	継続
هَمَّ	يَهُمُّ	هَمٌّ	اِهْتَمَّ بِ	اِهْتِمَامٌ
悩ませる		心配	関心を持つ	関心

* أَحَبَّの動名詞はحُبٌّが用いられます。またقَرَّرَは動詞の意味の違いによって動名詞の形が異なります。
* このほかمَدَّ（يَمُدُّ）型の動詞にはقَصَّ عَلَى「…に話して聞かせる」、دَلَّ عَلَى「示す」、رَدَّ「返す」、دَقَّ「ノックする」、جَرَّ「引っぱる」、شَكَّ فِي「…を疑う」、ضَرَّ「害する」、ظَنَّ「思う」などがあり、またوَدَّ（يَوَدُّ）型の動詞にはظَلَّ「留まる」があります。

第29課　弱動詞（不規則動詞４）

1　弱動詞

弱動詞は、第３語根に弱文字をもつ動詞です。و、ى、يのどれを含むかによって次の３つの種類に分類されます。

- 第３語根و動詞：دَعَا（دعو）　呼びかける
- 第３語根ى動詞：بَنَى　建てる
- 第３語根ي動詞：لَقِيَ　出会う

2　第３語根و動詞（弱動詞１）

完了形と未完了形の活用のポイントを以下にまとめます。

◇完了形の活用：

- ３人称男性単数の完了形ではوがاに転換する。
- ３人称女性単数と３人称女性双数では弱文字は省略される。
- ３人称男性複数のدَعَوْاの形に注意（اは読まない）。

◇未完了形の活用：

- ２人称女性単数のتَدْعِينَの形に注意。
- ３人称男性複数のيَدْعُونَ、２人称男性複数のتَدْعُونَの形に注意。
- 接続形は基本原則に則るが、要求形は単数と１人称複数では弱文字が省略される。

دَعَا（دعو）「呼びかける、祈願する、招待する」を例に活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	دَعَا	يَدْعُو	يَدْعُوَ	يَدْعُ
３人称女性	دَعَتْ	تَدْعُو	تَدْعُوَ	تَدْعُ
２人称男性	دَعَوْتَ	تَدْعُو	تَدْعُوَ	تَدْعُ

2人称女性	دَعَوْتِ	تَدْعِينَ	تَدْعِي	تَدْعِي
1人称	دَعَوْتُ	أَدْعُو	أَدْعُوَ	أَدْعُ
（双数）				
3人称男性	دَعَوَا	يَدْعُوَانِ	يَدْعُوَا	يَدْعُوَا
3人称女性	دَعَتَا	تَدْعُوَانِ	تَدْعُوَا	تَدْعُوَا
2人称男女	دَعَوْتُمَا	تَدْعُوَانِ	تَدْعُوَا	تَدْعُوَا
（複数）				
3人称男性	دَعَوْا	يَدْعُونَ	يَدْعُوا	يَدْعُوا
3人称女性	دَعَوْنَ	يَدْعُونَ	يَدْعُونَ	يَدْعُونَ
2人称男性	دَعَوْتُمْ	تَدْعُونَ	تَدْعُوا	تَدْعُوا
2人称女性	دَعَوْتُنَّ	تَدْعُونَ	تَدْعُونَ	تَدْعُونَ
1人称	دَعَوْنَا	نَدْعُو	نَدْعُوَ	نَدْعُ

◇命令形：要求形（2人称）の接頭辞を取り、代わりに اُ を付けた形です。

男性単数	اُدْعُ	呼びかけなさい	女性単数	اُدْعِي
双数	اُدْعُوَا			
男性複数	اُدْعُوا		女性複数	اُدْعُونَ

◇分詞：

- 能動分詞：دَاعٍ　呼びかける人、招待主

非限定と限定の場合で語尾変化が異なります。この能動分詞のパターンは弱動詞とその派生形のすべてにあてはまります。非限定の場合、第3語根の弱文字が消滅し、第2語根がカスラのタンウィーンになることで、主格と属格を示します。一方、対格では弱文字はすべてيに変化し、タンウィーンを取

ります。限定の場合、弱文字はどの格もيに変化し、第２語根のカスラと長母音を形成し、対格の場合はファトハとなります。

	単数（限定）	双数	複数
主格	دَاعٍ (اَلدَّاعِي)	دَاعِيَانِ	دَاعُونَ
対格	دَاعِيًا (اَلدَّاعِيَ)	دَاعِيَيْنِ	دَاعِينَ
属格	دَاعٍ (اَلدَّاعِي)	دَاعِيَيْنِ	دَاعِينَ

非限定でもةが付いて女性形になった場合には、３段変化になり、双数、複数も基本原則にしたがいます。

	単数（限定）	双数	複数
主格	دَاعِيَةٌ (اَلدَّاعِيَةُ)	دَاعِيَتَانِ	دَاعِيَاتٌ
対格	دَاعِيَةً (اَلدَّاعِيَةَ)	دَاعِيَتَيْنِ	دَاعِيَاتٍ
属格	دَاعِيَةٍ (اَلدَّاعِيَةِ)	دَاعِيَتَيْنِ	دَاعِيَاتٍ

• 受動分詞：مَدْعُوٌّ　招待された、招待客

◇動名詞：次のいずれかのパターンになります。

دَعْوَةٌ　招待　　دُعَاءٌ　祈願　　دَعْوَى　申し立て、請求

◇受動態：このパターンは弱動詞のすべてにあてはまります。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	دُعِيَ	يُدْعَى	يُدْعَى	يُدْعَ
３人称女性	دُعِيَتْ	تُدْعَى	تُدْعَى	تُدْعَ
２人称男性	دُعِيتَ	تُدْعَى	تُدْعَى	تُدْعَ
２人称女性	دُعِيتِ	تُدْعَيْنَ	تُدْعَيْ	تُدْعَيْ

1人称	دُعِيتُ	أُدْعَى	أُدْعَى	أُدْعَ
（双数）				
3人称男性	دُعِيَا	يُدْعَيَانِ	يُدْعَيَا	يُدْعَيَا
3人称女性	دُعِيَتَا	تُدْعَيَانِ	تُدْعَيَا	تُدْعَيَا
2人称男女	دُعِيتُمَا	تُدْعَيَانِ	تُدْعَيَا	تُدْعَيَا
（複数）				
3人称男性	دُعُوا	يُدْعَوْنَ	يُدْعَوْا	يُدْعَوْا
3人称女性	دُعِينَ	يُدْعَيْنَ	يُدْعَيْنَ	يُدْعَيْنَ
2人称男性	دُعِيتُمْ	تُدْعَوْنَ	تُدْعَوْا	تُدْعَوْا
2人称女性	دُعِيتُنَّ	تُدْعَيْنَ	تُدْعَيْنَ	تُدْعَيْنَ
1人称	دُعِينَا	نُدْعَى	نُدْعَى	نُدْعَ

3　第3語根ى動詞（弱動詞2）

完了形と未完了形の活用のポイントを以下にまとめます。

◇完了形の活用：

- 3人称男性単数では第3語根がيではなくىになる。
- 3人称女性単数と3人称女性双数では弱文字は省略される。
- 3人称男性複数のبَنَوْاの形に注意。

◇未完了形の活用：

- 2人称女性単数のتَبْنِينَの形に注意。
- 3人称男性複数のيَبْنُونَ、2人称男性複数のتَبْنُونَの形に注意。
- 接続形は基本原則に則るが、要求形は単数と1人称複数では弱文字が省略される。

بَنَى「建てる」を例に活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	بَنَى	يَبْنِي	يَبْنِيَ	يَبْنِ
３人称女性	بَنَتْ	تَبْنِي	تَبْنِيَ	تَبْنِ
２人称男性	بَنَيْتَ	تَبْنِي	تَبْنِيَ	تَبْنِ
２人称女性	بَنَيْتِ	تَبْنِينَ	تَبْنِي	تَبْنِي
１人称	بَنَيْتُ	أَبْنِي	أَبْنِيَ	أَبْنِ
（双数）				
３人称男性	بَنَيَا	يَبْنِيَانِ	يَبْنِيَا	يَبْنِيَا
３人称女性	بَنَتَا	تَبْنِيَانِ	تَبْنِيَا	تَبْنِيَا
２人称男女	بَنَيْتُمَا	تَبْنِيَانِ	تَبْنِيَا	تَبْنِيَا
（複数）				
３人称男性	بَنَوْا	يَبْنُونَ	يَبْنُوا	يَبْنُوا
３人称女性	بَنَيْنَ	يَبْنِينَ	يَبْنِينَ	يَبْنِينَ
２人称男性	بَنَيْتُمْ	تَبْنُونَ	تَبْنُوا	تَبْنُوا
２人称女性	بَنَيْتُنَّ	تَبْنِينَ	تَبْنِينَ	تَبْنِينَ
１人称	بَنَيْنَا	نَبْنِي	نَبْنِيَ	نَبْنِ

＊目的語が人称代名詞の結合形の場合、ىがاに変化します。

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取り、اِを付けた形です。

男性単数	اِبْنِ	建てなさい	女性単数	اِبْنِي
双数	اِبْنِيَا			
男性複数	اِبْنُوا		女性複数	اِبْنِينَ

◇分詞：

- 能動分詞：بَانٍ　建てる人、建設者

	単数（限定）	双数	複数
男性	بَانٍ (اَلْبَانِي)	بَانِيَانِ	بَانُونَ
女性	بَانِيَةٌ (اَلْبَانِيَةُ)	بَانِيَتَانِ	بَانِيَاتٌ

- 受動分詞：مَبْنِيٌّ　建てられた

◇動名詞：動詞によってさまざまなパターンがあります。代表的なパターンを示します。

بِنَاءٌ　建設、建物　　بِنَايَةٌ　建物

◇受動態：第３語根و動詞のدُعِيَのパターンと同じです。

4　第3語根ي動詞（弱動詞3）

完了形と未完了形の活用のポイントを以下にまとめます。

◇完了形の活用：

- ３人称男性複数を除いて、弱文字は省略されない。
- ３人称男性複数のلَقُواの形に注意。

◇未完了形の活用：

- ２人称女性単数のتَلْقَيْنَの形に注意。
- ３人称男性複数のيَلْقَوْنَ、２人称男性複数のتَلْقَوْنَの形に注意。
- 接続形は基本原則に則るが、要求形は単数と１人称複数で弱文字が省略される。

لَقِيَ「出会う、見つける」を例に活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
3人称男性	لَقِيَ	يَلْقَى	يَلْقَى	يَلْقَ

3人称女性	لَقِيَتْ	تَلْقَى	تَلْقَى	تَلْقَ
2人称男性	لَقِيتَ	تَلْقَى	تَلْقَى	تَلْقَ
2人称女性	لَقِيتِ	تَلْقَيْنَ	تَلْقَيْ	تَلْقَيْ
1人称	لَقِيتُ	أَلْقَى	أَلْقَى	أَلْقَ
（双数）				
3人称男性	لَقِيَا	يَلْقَيَانِ	يَلْقَيَا	يَلْقَيَا
3人称女性	لَقِيَتَا	تَلْقَيَانِ	تَلْقَيَا	تَلْقَيَا
2人称男女	لَقِيتُمَا	تَلْقَيَانِ	تَلْقَيَا	تَلْقَيَا
（複数）				
3人称男性	لَقُوا	يَلْقَوْنَ	يَلْقَوْا	يَلْقَوْا
3人称女性	لَقِينَ	يَلْقَيْنَ	يَلْقَيْنَ	يَلْقَيْنَ
2人称男性	لَقِيتُمْ	تَلْقَوْنَ	تَلْقَوْا	تَلْقَوْا
2人称女性	لَقِيتُنَّ	تَلْقَيْنَ	تَلْقَيْنَ	تَلْقَيْنَ
1人称	لَقِينَا	نَلْقَى	نَلْقَى	نَلْقَ

◇命令形：要求形（2人称）の接頭辞を取り、代わりに ا を付けた形です。

男性単数	اِلْقَ	出会いなさい	女性単数	اِلْقَيْ
双数	اِلْقَيَا			
男性複数	اِلْقَوْا		女性複数	اِلْقَيْنَ

◇分詞：

- 能動分詞：لَاقٍ　出会う人

	単数（限定）	双数	複数
男性	لَاقٍ (اَللَّاقِي)	لَاقِيَانِ	لَاقُونَ
女性	لَاقِيَةٌ (اَللَّاقِيَةُ)	لَاقِيَتَانِ	لَاقِيَاتٌ

• 受動分詞：مَلْقِيٌّ　見つけられた

◇動名詞：次のパターンになります。لَقْيٌ/لِقَاءٌ　出会い

◇受動態：第３語根وの動詞のدُعِيَのパターンと同じです。

５　弱動詞の派生形

完了形の場合、弱動詞の派生形は第３語根の弱文字が何であろうが、すべてيとして扱われます。言い替えれば、بَنَىの活用が適用されます。

未完了形の場合、第５形、第６形を除くすべてに、完了形と同じبَنَىの活用が適用されますが、第５形、第６形にはلَقِيَの活用が適用されます。

受動態については、弱動詞（原形）の受動態の活用が適用されます。

能動分詞の格変化は非限定と限定で語尾変化が異なりますが、受動分詞については語尾がىًで終わることに注意してください。

第２形سَمَّى「名づける」、第３形نَادَى「呼びかける」、第４形أَعْطَى「与える」、第５形تَمَنَّى「願う」、第６形تَلَاقَى「一緒になる」、第７形اِنْقَضَى「終わる」、第８形اِشْتَرَى「買う」、第10形اِسْتَدْعَى「呼び出す」を例に、ポイントを示しておきます。

	完了形	未完了形	命令形	能動分詞	受動分詞	動名詞
第2形	سَمَّى	يُسَمِّي	سَمِّ	مُسَمٍّ	مُسَمًّى	تَسْمِيَةٌ
第3形	نَادَى	يُنَادِي	نَادِ	مُنَادٍ	مُنَادًى	مُنَادَاةٌ
第4形	أَعْطَى	يُعْطِي	أَعْطِ	مُعْطٍ	مُعْطًى	إِعْطَاءٌ
第5形	تَمَنَّى	يَتَمَنَّى	تَمَنَّ	مُتَمَنٍّ	مُتَمَنًّى	تَمَنٍّ
第6形	تَلَاقَى	يَتَلَاقَى	تَلَاقَ	مُتَلَاقٍ	مُتَلَاقًى	تَلَاقٍ
第7形	اِنْقَضَى	يَنْقَضِي	اِنْقَضِ	مُنْقَضٍ	مُنْقَضًى	اِنْقِضَاءٌ

第8形　اِشْتَرَى　يَشْتَرِي　اِشْتَرِ　مُشْتَرٍ　مُشْتَرًى　شِرَاءٌ

第10形　اِسْتَدْعَى　يَسْتَدْعِي　اِسْتَدْعِ　مُسْتَدْعٍ　مُسْتَدْعًى　اِسْتِدْعَاءٌ

＊第９形はほとんど用いられません。

■第２形の活用：سَمَّى「…を…と名づける、…を…と呼ぶ」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	سَمَّى	يُسَمِّي	يُسَمِّيَ	يُسَمِّ
３人称女性	سَمَّتْ	تُسَمِّي	تُسَمِّيَ	تُسَمِّ
２人称男性	سَمَّيْتَ	تُسَمِّي	تُسَمِّيَ	تُسَمِّ
２人称女性	سَمَّيْتِ	تُسَمِّينَ	تُسَمِّي	تُسَمِّي
１人称	سَمَّيْتُ	أُسَمِّي	أُسَمِّيَ	أُسَمِّ
（双数）				
３人称男性	سَمَّيَا	يُسَمِّيَانِ	يُسَمِّيَا	يُسَمِّيَا
３人称女性	سَمَّتَا	تُسَمِّيَانِ	تُسَمِّيَا	تُسَمِّيَا
２人称男女	سَمَّيْتُمَا	تُسَمِّيَانِ	تُسَمِّيَا	تُسَمِّيَا
（複数）				
３人称男性	سَمَّوْا	يُسَمُّونَ	يُسَمُّوا	يُسَمُّوا
３人称女性	سَمَّيْنَ	يُسَمِّينَ	يُسَمِّينَ	يُسَمِّينَ
２人称男性	سَمَّيْتُمْ	تُسَمُّونَ	تُسَمُّوا	تُسَمُّوا
２人称女性	سَمَّيْتُنَّ	تُسَمِّينَ	تُسَمِّينَ	تُسَمِّينَ
１人称	سَمَّيْنَا	نُسَمِّي	نُسَمِّيَ	نُسَمِّ

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取ります。

男性単数	سَمِّ	名づけなさい	女性単数	سَمِّي
双数	سَمِّيَا			
男性複数	سَمُّوا		女性複数	سَمِّينَ

◇分詞：

このパターンは、すべての弱動詞の派生形の分詞にあてはまります。（ ）内は定冠詞が付いた場合を示します。

- 能動分詞：مُسَمٍّ　名づける人

	男性単数（限定）	男性複数	女性単数	女性複数
主格	مُسَمٍّ (اَلْمُسَمِّي)	مُسَمُّونَ	مُسَمِّيَةٌ	مُسَمِّيَاتٌ
対格	مُسَمِّيًا (اَلْمُسَمِّيَ)	مُسَمِّينَ	مُسَمِّيَةً	مُسَمِّيَاتٍ
属格	مُسَمٍّ (اَلْمُسَمِّي)	مُسَمِّينَ	مُسَمِّيَةٍ	مُسَمِّيَاتٍ

- 受動分詞：مُسَمًّى　名づけられた

	男性単数（限定）	男性複数	女性単数	女性複数
主格	مُسَمًّى (اَلْمُسَمَّى)	مُسَمَّوْنَ	مُسَمَّاةٌ	مُسَمَّيَاتٌ
対格	مُسَمًّى (اَلْمُسَمَّى)	مُسَمَّيْنَ	مُسَمَّاةً	مُسَمَّيَاتٍ
属格	مُسَمًّى (اَلْمُسَمَّى)	مُسَمَّيْنَ	مُسَمَّاةٍ	مُسَمَّيَاتٍ

◇動名詞：次のパターンになります。تَسْمِيَةٌ　名づけること、指名（ةが付く）

◇受動態：دَعَاの受動態دُعِيَで示した弱動詞（原形）と同じ活用になります。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	سُمِّيَ	يُسَمَّى	يُسَمَّى	يُسَمَّ
３人称女性	سُمِّيَتْ	تُسَمَّى	تُسَمَّى	تُسَمَّ

2人称男性	سُمِّيتَ	تُسَمَّى	تُسَمَّى	تُسَمَّ
2人称女性	سُمِّيتِ	تُسَمَّيْنَ	تُسَمَّيْ	تُسَمَّيْ
1人称	سُمِّيتُ	أُسَمَّى	أُسَمَّى	أُسَمَّ
（双数）				
3人称男性	سُمِّيَا	يُسَمَّيَانِ	يُسَمَّيَا	يُسَمَّيَا
3人称女性	سُمِّيَتَا	تُسَمَّيَانِ	تُسَمَّيَا	تُسَمَّيَا
2人称男女	سُمِّيتُمَا	تُسَمَّيَانِ	تُسَمَّيَا	تُسَمَّيَا
（複数）				
3人称男性	سُمُّوا	يُسَمَّوْنَ	يُسَمَّوْا	يُسَمَّوْا
3人称女性	سُمِّينَ	يُسَمَّيْنَ	يُسَمَّيْنَ	يُسَمَّيْنَ
2人称男性	سُمِّيتُمْ	تُسَمَّوْنَ	تُسَمَّوْا	تُسَمَّوْا
2人称女性	سُمِّيتُنَّ	تُسَمَّيْنَ	تُسَمَّيْنَ	تُسَمَّيْنَ
1人称	سُمِّينَا	نُسَمَّى	نُسَمَّى	نُسَمَّ

■第３形の活用：نَادَى「…に呼びかける」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
3人称男性	نَادَى	يُنَادِي	يُنَادِيَ	يُنَادِ
3人称女性	نَادَتْ	تُنَادِي	تُنَادِيَ	تُنَادِ
2人称男性	نَادَيْتَ	تُنَادِي	تُنَادِيَ	تُنَادِ
2人称女性	نَادَيْتِ	تُنَادِينَ	تُنَادِي	تُنَادِي
1人称	نَادَيْتُ	أُنَادِي	أُنَادِيَ	أُنَادِ

（双数）

3人称男性	نَادَيَا	يُنَادِيَانِ	يُنَادِيَا	يُنَادِيَا
3人称女性	نَادَتَا	تُنَادِيَانِ	تُنَادِيَا	تُنَادِيَا
2人称男女	نَادَيْتُمَا	تُنَادِيَانِ	تُنَادِيَا	تُنَادِيَا

（複数）

3人称男性	نَادَوْا	يُنَادُونَ	يُنَادُوا	يُنَادُوا
3人称女性	نَادَيْنَ	يُنَادِينَ	يُنَادِينَ	يُنَادِينَ
2人称男性	نَادَيْتُمْ	تُنَادُونَ	تُنَادُوا	تُنَادُوا
2人称女性	نَادَيْتُنَّ	تُنَادِينَ	تُنَادِينَ	تُنَادِينَ
1人称	نَادَيْنَا	نُنَادِي	نُنَادِيَ	نُنَادِ

◇命令形：要求形（2人称）の接頭辞を取ります。

男性単数	نَادِ	呼びかけなさい	女性単数	نَادِي
双数	نَادِيَا			
男性複数	نَادُوا		女性複数	نَادِينَ

◇分詞：弱動詞はすべて同じパターンになります。

	男性単数（限定）	男性複数	女性単数	女性複数
能動分詞	مُنَادٍ (اَلْمُنَادِي)	مُنَادُونَ	مُنَادِيَةٌ	مُنَادِيَاتٌ
受動分詞	مُنَادًى (اَلْمُنَادَى)	مُنَادَوْنَ	مُنَادَاةٌ	مُنَادَيَاتٌ

◇動名詞：次のパターンになります。مُنَادَاةٌ　呼びかけ

◇受動態：原形の派生形第3形と同様に、完了形の場合、第1語根にダンマが付くとاがوに変化します。

نُودِيَ（完了形）　يُنَادَى（未完了形）　يُنَادَى（接続形）　يُنَادَ（要求形）

■第４形の活用：أَعْطَى「…に…を与える」

(単数)	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	أَعْطَى	يُعْطِي	يُعْطِيَ	يُعْطِ
３人称女性	أَعْطَتْ	تُعْطِي	تُعْطِيَ	تُعْطِ
２人称男性	أَعْطَيْتَ	تُعْطِي	تُعْطِيَ	تُعْطِ
２人称女性	أَعْطَيْتِ	تُعْطِينَ	تُعْطِي	تُعْطِي
１人称	أَعْطَيْتُ	أُعْطِي	أُعْطِيَ	أُعْطِ
(双数)				
３人称男性	أَعْطَيَا	يُعْطِيَانِ	يُعْطِيَا	يُعْطِيَا
３人称女性	أَعْطَتَا	تُعْطِيَانِ	تُعْطِيَا	تُعْطِيَا
２人称男女	أَعْطَيْتُمَا	تُعْطِيَانِ	تُعْطِيَا	تُعْطِيَا
(複数)				
３人称男性	أَعْطَوْا	يُعْطُونَ	يُعْطُوا	يُعْطُوا
３人称女性	أَعْطَيْنَ	يُعْطِينَ	يُعْطِينَ	يُعْطِينَ
２人称男性	أَعْطَيْتُمْ	تُعْطُونَ	تُعْطُوا	تُعْطُوا
２人称女性	أَعْطَيْتُنَّ	تُعْطِينَ	تُعْطِينَ	تُعْطِينَ
１人称	أَعْطَيْنَا	نُعْطِي	نُعْطِيَ	نُعْطِ

◇命令形：要求形(２人称)の接頭辞を取り、أَを付けます。

男性単数	أَعْطِ	与えなさい	女性単数	أَعْطِي
双数	أَعْطِيَا			
男性複数	أَعْطُوا		女性複数	أَعْطِينَ

◇分詞：弱動詞はすべて同じパターンになります。

	男性単数（限定）	男性複数	女性単数	女性複数
能動分詞	مُعْطٍ (اَلْمُعْطِي)	مُعْطُونَ	مُعْطِيَةٌ	مُعْطِيَاتٌ
受動分詞	مُعْطًى (اَلْمُعْطَى)	مُعْطَوْنَ	مُعْطَاةٌ	مُعْطَيَاتٌ

◇動名詞：次のパターンになります。

إِعْطَاءٌ 与えること

◇受動態：弱動詞の原形と同じ活用なので、３人称男性単数のみを示します。

أُعْطِيَ（完了形） يُعْطَى（未完了形） يُعْطَى（接続形） يُعْطَ（要求形）

■第５形の活用：تَمَنَّى「望む、願う」

第５形は、完了形ではこれまで同様にبَنَىのパターンで活用しますが、未完了形ではلَقِيَのパターンで活用します。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	تَمَنَّى	يَتَمَنَّى	يَتَمَنَّى	يَتَمَنَّ
３人称女性	تَمَنَّتْ	تَتَمَنَّى	تَتَمَنَّى	تَتَمَنَّ
２人称男性	تَمَنَّيْتَ	تَتَمَنَّى	تَتَمَنَّى	تَتَمَنَّ
２人称女性	تَمَنَّيْتِ	تَتَمَنَّيْنَ	تَتَمَنَّيْ	تَتَمَنَّيْ
１人称	تَمَنَّيْتُ	أَتَمَنَّى	أَتَمَنَّى	أَتَمَنَّ

（双数）				
３人称男性	تَمَنَّيَا	يَتَمَنَّيَانِ	يَتَمَنَّيَا	يَتَمَنَّيَا
３人称女性	تَمَنَّتَا	تَتَمَنَّيَانِ	تَتَمَنَّيَا	تَتَمَنَّيَا
２人称男女	تَمَنَّيْتُمَا	تَتَمَنَّيَانِ	تَتَمَنَّيَا	تَتَمَنَّيَا

（複数）

3人称男性	تَمَنَّوْا	يَتَمَنَّوْنَ	يَتَمَنَّوْا	يَتَمَنَّوْا
3人称女性	تَمَنَّيْنَ	يَتَمَنَّيْنَ	يَتَمَنَّيْنَ	يَتَمَنَّيْنَ
2人称男性	تَمَنَّيْتُمْ	تَتَمَنَّوْنَ	تَتَمَنَّوْا	تَتَمَنَّوْا
2人称女性	تَمَنَّيْتُنَّ	تَتَمَنَّيْنَ	تَتَمَنَّيْنَ	تَتَمَنَّيْنَ
1人称	تَمَنَّيْنَا	نَتَمَنَّى	نَتَمَنَّى	نَتَمَنَّ

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取ります。

男性単数	تَمَنَّ	願いなさい	女性単数	تَمَنَّيْ
双数	تَمَنَّيَا			
男性複数	تَمَنَّوْا		女性複数	تَمَنَّيْنَ

◇分詞：弱動詞はすべて同じパターンになります。

	男性単数（限定）	男性複数	女性単数	女性複数
能動分詞	مُتَمَنٍّ (اَلْمُتَمَنِّي)	مُتَمَنُّونَ	مُتَمَنِّيَةٌ	مُتَمَنِّيَاتٌ
受動分詞	مُتَمَنًّى (اَلْمُتَمَنَّى)	مُتَمَنَّوْنَ	مُتَمَنَّاةٌ	مُتَمَنَّيَاتٌ

◇動名詞：次のパターンになります。

تَمَنٍّ (اَلتَّمَنِّي)　祈願、願い

＊（　）内は限定の場合です。能動分詞のパターンと同様に、限定されると語尾はي に変化します。

◇受動態：弱動詞の原形と同じ活用なので、３人称男性単数のみを示します。

تُمُنِّيَ（完了形）　يُتَمَنَّى（未完了形）　يُتَمَنَّى（接続形）　يُتَمَنَّ（要求形）

■第６形の活用：تَلاَقَى「出会う、一緒になる」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	تَلاَقَى	يَتَلاَقَى	يَتَلاَقَى	يَتَلاَقَ
３人称女性	تَلاَقَتْ	تَتَلاَقَى	تَتَلاَقَى	تَتَلاَقَ
２人称男性	تَلاَقَيْتَ	تَتَلاَقَى	تَتَلاَقَى	تَتَلاَقَ
２人称女性	تَلاَقَيْتِ	تَتَلاَقَيْنَ	تَتَلاَقَيْ	تَتَلاَقَيْ
１人称	تَلاَقَيْتُ	أَتَلاَقَى	أَتَلاَقَى	أَتَلاَقَ
（双数）				
３人称男性	تَلاَقَيَا	يَتَلاَقَيَانِ	يَتَلاَقَيَا	يَتَلاَقَيَا
３人称女性	تَلاَقَتَا	تَتَلاَقَيَانِ	تَتَلاَقَيَا	تَتَلاَقَيَا
２人称男女	تَلاَقَيْتُمَا	تَتَلاَقَيَانِ	تَتَلاَقَيَا	تَتَلاَقَيَا
（複数）				
３人称男性	تَلاَقَوْا	يَتَلاَقَوْنَ	يَتَلاَقَوْا	يَتَلاَقَوْا
３人称女性	تَلاَقَيْنَ	يَتَلاَقَيْنَ	يَتَلاَقَيْنَ	يَتَلاَقَيْنَ
２人称男性	تَلاَقَيْتُمْ	تَتَلاَقَوْنَ	تَتَلاَقَوْا	تَتَلاَقَوْا
２人称女性	تَلاَقَيْتُنَّ	تَتَلاَقَيْنَ	تَتَلاَقَيْنَ	تَتَلاَقَيْنَ
１人称	تَلاَقَيْنَا	نَتَلاَقَى	نَتَلاَقَى	نَتَلاَقَ

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取ります。

男性単数	تَلاَقَ	出会いなさい	女性単数	تَلاَقَيْ
双数	تَلاَقَيَا			
男性複数	تَلاَقَوْا		女性複数	تَلاَقَيْنَ

◇分詞：弱動詞はすべて同じパターンになります。

	男性単数（限定）	男性複数	女性単数	女性複数
能動分詞	مُتَلَاقٍ (اَلْمُتَلَاقِي)	مُتَلَاقُونَ	مُتَلَاقِيَةٌ	مُتَلَاقِيَاتٌ
受動分詞	مُتَلَاقًى (اَلْمُتَلَاقَى)	مُتَلَاقَوْنَ	مُتَلَاقَاةٌ	مُتَلَاقَيَاتٌ

◇動名詞：次のパターンになります。تَلَاقٍ (اَلتَّلَاقِي) 出会い

◇受動態：弱動詞の原形と同じ活用なので、３人称男性単数のみを示します。

تُلُوقِيَ（完了形） يُتَلَاقَى（未完了形） يُتَلَاقَى（接続形） يُتَلَاقَ（要求形）

■第７形の活用：اِنْقَضَى「終わる、姿を消す」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	اِنْقَضَى	يَنْقَضِي	يَنْقَضِيَ	يَنْقَضِ
３人称女性	اِنْقَضَتْ	تَنْقَضِي	تَنْقَضِيَ	تَنْقَضِ
２人称男性	اِنْقَضَيْتَ	تَنْقَضِي	تَنْقَضِيَ	تَنْقَضِ
２人称女性	اِنْقَضَيْتِ	تَنْقَضِينَ	تَنْقَضِي	تَنْقَضِي
１人称	اِنْقَضَيْتُ	أَنْقَضِي	أَنْقَضِيَ	أَنْقَضِ
（双数）				
３人称男性	اِنْقَضَيَا	يَنْقَضِيَانِ	يَنْقَضِيَا	يَنْقَضِيَا
３人称女性	اِنْقَضَتَا	تَنْقَضِيَانِ	تَنْقَضِيَا	تَنْقَضِيَا
２人称男女	اِنْقَضَيْتُمَا	تَنْقَضِيَانِ	تَنْقَضِيَا	تَنْقَضِيَا
（複数）				
３人称男性	اِنْقَضَوْا	يَنْقَضُونَ	يَنْقَضُوا	يَنْقَضُوا
３人称女性	اِنْقَضَيْنَ	يَنْقَضِينَ	يَنْقَضِينَ	يَنْقَضِينَ

2人称男性	اِنْقَضَيْتُمْ	تَنْقَضُونَ	تَنْقَضُوا	تَنْقَضُوا
2人称女性	اِنْقَضَيْتُنَّ	تَنْقَضِينَ	تَنْقَضِينَ	تَنْقَضِينَ
1人称	اِنْقَضَيْنَا	نَنْقَضِي	نَنْقَضِيَ	نَنْقَضِ

◇命令形：要求形（2人称）の接頭辞を取り、اِを付けます。

男性単数	اِنْقَضِ	終わりなさい	女性単数	اِنْقَضِي
双数	اِنْقَضِيَا			
男性複数	اِنْقَضُوا		女性複数	اِنْقَضِينَ

◇分詞：弱動詞はすべて同じパターンになります。

	男性単数 (限定)	男性複数	女性単数	女性複数
能動分詞	مُنْقَضٍ (اَلْمُنْقَضِي)	مُنْقَضُونَ	مُنْقَضِيَةٌ	مُنْقَضِيَاتٌ
受動分詞	مُنْقَضًى (اَلْمُنْقَضَى)	مُنْقَضَوْنَ	مُنْقَضَاةٌ	مُنْقَضَيَاتٌ

◇動名詞：次のパターンになります。اِنْقِضَاءٌ　終了

◇受動態：弱動詞の原形と同じ活用なので、3人称男性単数のみを示します。

أُنْقُضِيَ（完了形）　يُنْقَضَى（未完了形）　يُنْقَضَى（接続形）　يُنْقَضَ（要求形）

＊第7形の性質上、受動分詞、受動態はほとんど用いられません。

■第8形の活用：اِشْتَرَى「買う」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
3人称男性	اِشْتَرَى	يَشْتَرِي	يَشْتَرِيَ	يَشْتَرِ
3人称女性	اِشْتَرَتْ	تَشْتَرِي	تَشْتَرِيَ	تَشْتَرِ
2人称男性	اِشْتَرَيْتَ	تَشْتَرِي	تَشْتَرِيَ	تَشْتَرِ

２人称女性	اِشْتَرَيْتِ	تَشْتَرِينَ	تَشْتَرِي	تَشْتَرِي
１人称	اِشْتَرَيْتُ	أَشْتَرِي	أَشْتَرِيَ	أَشْتَرِ
（双数）				
３人称男性	اِشْتَرَيَا	يَشْتَرِيَانِ	يَشْتَرِيَا	يَشْتَرِيَا
３人称女性	اِشْتَرَتَا	تَشْتَرِيَانِ	تَشْتَرِيَا	تَشْتَرِيَا
２人称男女	اِشْتَرَيْتُمَا	تَشْتَرِيَانِ	تَشْتَرِيَا	تَشْتَرِيَا
（複数）				
３人称男性	اِشْتَرَوْا	يَشْتَرُونَ	يَشْتَرُوا	يَشْتَرُوا
３人称女性	اِشْتَرَيْنَ	يَشْتَرِينَ	يَشْتَرِينَ	يَشْتَرِينَ
２人称男性	اِشْتَرَيْتُمْ	تَشْتَرُونَ	تَشْتَرُوا	تَشْتَرُوا
２人称女性	اِشْتَرَيْتُنَّ	تَشْتَرِينَ	تَشْتَرِينَ	تَشْتَرِينَ
１人称	اِشْتَرَيْنَا	نَشْتَرِي	نَشْتَرِيَ	نَشْتَرِ

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取り、اِ を付けます。

男性単数	اِشْتَرِ	買いなさい	女性単数	اِشْتَرِي
双数	اِشْتَرِيَا			
男性複数	اِشْتَرُوا		女性複数	اِشْتَرِينَ

◇分詞：弱動詞はすべて同じパターンになります。

	男性単数（限定）	男性複数	女性単数	女性複数
能動分詞	مُشْتَرٍ (اَلْمُشْتَرِي)	مُشْتَرُونَ	مُشْتَرِيَةٌ	مُشْتَرِيَاتٌ
受動分詞	مُشْتَرًى (اَلْمُشْتَرَى)	مُشْتَرَوْنَ	مُشْتَرَاةٌ	مُشْتَرَيَاتٌ

◇動名詞：شِرَاءٌ　購入

＊اِشْتَرَىの動名詞は、第８形のパターンに則れば、اِشْتِرَاءٌとなりますが、実際この形は用いられず、代わりに原形の動名詞であるشِرَاءٌが用いられます。ただし他の第８形では、اِنْتَهَى「終わる、終える」の動名詞اِنْتِهَاءٌ「終了」のように本来のパターンにあてはまる形が用いられます。

◇受動態：弱動詞の原形と同じ活用なので、３人称男性単数のみを示します。

أُشْتُرِيَ（完了形）　يُشْتَرَى（未完了形）　يُشْتَرَى（接続形）　يُشْتَرَ（要求形）

دَعَا「呼ぶ」の第８形اِدَّعَى「主張する」はتがدに吸収される原則にしたがい、次のようになります。

完了形	未完了形	命令形	能動分詞	受動分詞	動名詞
اِدَّعَى	يَدَّعِى	اِدَّعِ	مُدَّعٍ	مُدَّعًى	اِدِّعَاءٌ

■第10形の活用：اِسْتَدْعَى「呼び出す、召還する」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	اِسْتَدْعَى	يَسْتَدْعِي	يَسْتَدْعِيَ	يَسْتَدْعِ
３人称女性	اِسْتَدْعَتْ	تَسْتَدْعِي	تَسْتَدْعِيَ	تَسْتَدْعِ
２人称男性	اِسْتَدْعَيْتَ	تَسْتَدْعِي	تَسْتَدْعِيَ	تَسْتَدْعِ
２人称女性	اِسْتَدْعَيْتِ	تَسْتَدْعِينَ	تَسْتَدْعِي	تَسْتَدْعِي
１人称	اِسْتَدْعَيْتُ	أَسْتَدْعِي	أَسْتَدْعِيَ	أَسْتَدْعِ
（双数）				
３人称男性	اِسْتَدْعَيَا	يَسْتَدْعِيَانِ	يَسْتَدْعِيَا	يَسْتَدْعِيَا
３人称女性	اِسْتَدْعَتَا	تَسْتَدْعِيَانِ	تَسْتَدْعِيَا	تَسْتَدْعِيَا
２人称男女	اِسْتَدْعَيْتُمَا	تَسْتَدْعِيَانِ	تَسْتَدْعِيَا	تَسْتَدْعِيَا

（複数）

3人称男性	اِسْتَدْعَوْا	يَسْتَدْعُونَ	يَسْتَدْعُوا	يَسْتَدْعُوا
3人称女性	اِسْتَدْعَيْنَ	يَسْتَدْعِينَ	يَسْتَدْعِينَ	يَسْتَدْعِينَ
2人称男性	اِسْتَدْعَيْتُمْ	تَسْتَدْعُونَ	تَسْتَدْعُوا	تَسْتَدْعُوا
2人称女性	اِسْتَدْعَيْتُنَّ	تَسْتَدْعِينَ	تَسْتَدْعِينَ	تَسْتَدْعِينَ
1人称	اِسْتَدْعَيْنَا	نَسْتَدْعِي	نَسْتَدْعِيَ	نَسْتَدْعِ

◇命令形：要求形（2人称）の接頭辞を取り、اِを付けます。

男性単数	اِسْتَدْعِ	呼び出しなさい	女性単数	اِسْتَدْعِي
双数	اِسْتَدْعِيَا			
男性複数	اِسْتَدْعُوا		女性複数	اِسْتَدْعِينَ

◇分詞：弱動詞はすべて同じパターンになります。

- 能動分詞：مُسْتَدْعٍ　呼び出す人

	単数（限定）	複数
男性	مُسْتَدْعٍ (اَلْمُسْتَدْعِي)	مُسْتَدْعُونَ
女性	مُسْتَدْعِيَةٌ (اَلْمُسْتَدْعِيَةُ)	مُسْتَدْعِيَاتٌ

- 受動分詞：مُسْتَدْعًى　呼び出される人

	単数（限定）	複数
男性	مُسْتَدْعًى (اَلْمُسْتَدْعَى)	مُسْتَدْعَوْنَ
女性	مُسْتَدْعَاةٌ (اَلْمُسْتَدْعَاةُ)	مُسْتَدْعَيَاتٌ

◇動名詞：次のパターンになります。اِسْتِدْعَاءٌ　召還

◇受動態：弱動詞の原形と同じ活用なので、３人称男性単数のみを示します。

أُسْتُدْعِيَ（完了形） يُسْتَدْعَى（未完了形） يُسْتَدْعَى（接続形） يُستَدْعَ（要求形）

◇その他の弱動詞とその重要な派生形：

完了形	未完了形	動名詞	派生形	派生形の動名詞
بَدَا	يَبْدُو	بُدُوٌّ	أَبْدَى	إِبْدَاءٌ
明確になる		明確	示す	表示
تَلاَ	يَتْلُو	تِلاَوَةٌ		
朗唱する		朗唱		
دَنَا	يَدْنُو	دُنُوٌّ	تَدَنَّى	تَدَنٍّ
近づく		接近	低下する	低下
رَبَا	يَرْبُو	رُبُوٌّ	رَبَّى	تَرْبِيَةٌ
育つ		成育	養育する	養育
رَجَا	يَرْجُو	رَجَاءٌ		
願う		願い		
شَكَا	يَشْكُو	شَكْوَى		
不平を言う		不平		
عَلاَ	يَعْلُو	عُلُوٌّ	اِعْتَلَى	اِعْتِلاَءٌ
高くある		高いこと	昇る	上昇
غَدَا	يَغْدُو	غُدُوٌّ	تَغَدَّى	غَدَاءٌ
…になる		…になること	昼食をとる	昼食

بَكَى　يَبْكِي　بُكَاءٌ

泣く　泣くこと

جَرَى　يَجْرِي　جَرْيٌ　أَجْرَى　إِجْرَاءٌ

流れる　流れること　行なう　遂行

رَمَى　يَرْمِي　رَمْيٌ

投げる　投げること

قَضَى　يَقْضِي　قَضَاءٌ　اِقْتَضَى　اِقْتِضَاءٌ

過ごす　過ごすこと　必要とする　必要

مَضَى　يَمْضِي　مُضِيٌّ　أَمْضَى　إِمْضَاءٌ

時が過ぎる　過ぎること　過ごす　過ごすこと

هَدَى　يَهْدِي　هُدًى　أَهْدَى　إِهْدَاءٌ

導く　導き　寄贈する　寄贈

بَقِيَ　يَبْقَى　بَقَاءٌ　أَبْقَى　إِبْقَاءٌ

残る　残ること　残す　残すこと

رَضِيَ　يَرْضَى　رِضًى　أَرْضَى　إِرْضَاءٌ

満足する　満足　満足させる　満足させること

نَسِيَ　يَنْسَى　نَسْيٌ　تَنَاسَى　تَنَاسٍ

忘れる　忘れること　忘れたふりをする　忘れたふりをすること

* تَلَاには「…の後に続く」という意味もあり、その場合、動名詞にはتُلُوٌّ「後続」が用いられます。能動分詞はتَالٍで、فِي ٱلْيَوْمِ ٱلتَّالِي「翌日に」やبِٱلتَّالِي「したがって、その結果」という表現でよく用いられます。

6　動詞رَأَى「見る」

رَأَىは弱文字に加えてأを語根に含む、いうなれば後述の２重不規則動詞に分類される動詞です。しかしこの動詞には、完了形においてبَنَىの活用原則が適用され、一方、未完了形においてはلَقِيَの活用原則が適用されます（ただし第２語根のハムザが省略されます）ので、その活用をここで確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	رَأَى	يَرَى	يَرَى	يَرَ
３人称女性	رَأَتْ	تَرَى	تَرَى	تَرَ
２人称男性	رَأَيْتَ	تَرَى	تَرَى	تَرَ
２人称女性	رَأَيْتِ	تَرَيْنَ	تَرَيْ	تَرَيْ
１人称	رَأَيْتُ	أَرَى	أَرَى	أَرَ
（双数）				
３人称男性	رَأَيَا	يَرَيَانِ	يَرَيَا	يَرَيَا
３人称女性	رَأَتَا	تَرَيَانِ	تَرَيَا	تَرَيَا
２人称男女	رَأَيْتُمَا	تَرَيَانِ	تَرَيَا	تَرَيَا
（複数）				
３人称男性	رَأَوْا	يَرَوْنَ	يَرَوْا	يَرَوْا
３人称女性	رَأَيْنَ	يَرَيْنَ	يَرَيْنَ	يَرَيْنَ
２人称男性	رَأَيْتُمْ	تَرَوْنَ	تَرَوْا	تَرَوْا
２人称女性	رَأَيْتُنَّ	تَرَيْنَ	تَرَيْنَ	تَرَيْنَ
１人称	رَأَيْنَا	نَرَى	نَرَى	نَرَ

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞を取った形です。しかし実際、この命令形が用いられることはほとんどありません。その代わりに、通常「見る」の意味をもつ３語根動詞نَظَرَの命令形اُنْظُرْ（男性単数）が用いられます。

◇分詞

- 能動分詞：رَاءٍ　見る人

	単数（限定）	双数	複数
男性	رَاءٍ（اَلرَّائِي）	رَائِيَانِ	رَاؤُونَ
女性	رَائِيَةٌ（اَلرَّائِيَةُ）	رَائِيَتَانِ	رَائِيَاتٌ

- 受動分詞：مَرْئِيٌّ　見られた、見ることができる

◇動名詞：次のパターンになります。رُؤْيَةٌ　見ること、視点　　رَأْيٌ　意見、考え

◇受動態：弱動詞の受動態の活用にしたがいますが、能動態と同じように未完了形ではأが省かれます。

	完了形	未完了形
３人称男性単数	رُئِيَ	يُرَى
３人称女性単数	رُئِيَتْ	تُرَى
１人称単数	رُئِيتُ	أُرَى
３人称男性複数	رُؤُوا	يُرَوْنَ

رَأَىの目的語が人称代名詞の結合形の場合、رَأَىの第３語根であるىはاに変化します。

نَرَاهُ　私たちは彼を見る　　رَآهَا　彼は彼女を見た

◇رَأَىの派生形：次の４つの派生形で用いられることがあります。（　）内は未完了形。

第３形　رَاءَى　（يُرَائِي）　装う

第4形	أَرَى	(يُرِي)	見せる	＊命令形：أَرِ
第6形	تَرَاءَى	(يَتَرَاءَى)	見合う	
第8形	اِرْتَأَى	(يَرْتَئِي)	考える	

7　弱動詞の能動分詞に似た活用をする複数形

おもに弱動詞から派生した名詞の不規則複数形の一部、また特定の名詞の不規則複数形には、弱動詞の能動分詞に似た活用をするものがあります。唯一の違いは非限定の場合、対格にタンウィーンが付かないことです。（　）内は限定。

• أُغْنِيَةٌ「歌」の複数形：

主格	対格	属格
أَغَانٍ (اَلْأَغَانِي)	أَغَانِيَ (اَلْأَغَانِيَ)	أَغَانٍ (اَلْأَغَانِي)

• مَقْهًى「喫茶店」の複数形：

主格	対格	属格
مَقَاهٍ (اَلْمَقَاهِي)	مَقَاهِيَ (اَلْمَقَاهِيَ)	مَقَاهٍ (اَلْمَقَاهِي)

＊それぞれ不規則複数形のفَعَالِلُ型（أَجْنَبِيٌّ「外国人」－أَجَانِبُ）、مَفَاعِلُ型（مَكْتَبٌ「事務所」－مَكَاتِبُ）のパターンにあてはまりますが、それぞれغَنِيَ、قهوと弱文字を含んだためこのように変化します。

• لَيْلَةٌ「夜」の複数形：

主格	対格	属格
لَيَالٍ (اَللَّيَالِي)	لَيَالِيَ (اَللَّيَالِيَ)	لَيَالٍ (اَللَّيَالِي)

第30課　ハムザ動詞、２重不規則動詞（不規則動詞５）

１　ハムザ動詞

語根のなかにハムザを含む動詞です。ハムザは、أ や إ のように ا の上下に書かれたり、また ؤ や ئ のように و や ى の上に書かれます（ハムザの表記については第36章でまとめてあります）。ハムザ動詞はこのハムザが第１語根にくる場合、第２語根にくる場合、第３語根にくる場合の３つに分類されます。

２　第１語根ハムザ動詞

完了形と未完了形では３語根動詞の原形と同じ活用をしますが、受動態の未完了形では أ が ؤ に変化します。أَخَذَ「取る」と أَلِفَ「親しくある、…に慣れている」を例に活用を確認しておきましょう。

■أَخَذَ「取る」の活用：

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	أَخَذَ	يَأْخُذُ	يَأْخُذَ	يَأْخُذْ
３人称女性	أَخَذَتْ	تَأْخُذُ	تَأْخُذَ	تَأْخُذْ
２人称男性	أَخَذْتَ	تَأْخُذُ	تَأْخُذَ	تَأْخُذْ
２人称女性	أَخَذْتِ	تَأْخُذِينَ	تَأْخُذِي	تَأْخُذِي
１人称	أَخَذْتُ	آخُذُ	آخُذَ	آخُذْ
（双数）				
３人称男性	أَخَذَا	يَأْخُذَانِ	يَأْخُذَا	يَأْخُذَا
３人称女性	أَخَذَتَا	تَأْخُذَانِ	تَأْخُذَا	تَأْخُذَا
２人称男女	أَخَذْتُمَا	تَأْخُذَانِ	تَأْخُذَا	تَأْخُذَا

（複数）

3人称男性	أَخَذُوا	يَأْخُذُونَ	يَأْخُذُوا	يَأْخُذُوا
3人称女性	أَخَذْنَ	يَأْخُذْنَ	يَأْخُذْنَ	يَأْخُذْنَ
2人称男性	أَخَذْتُمْ	تَأْخُذُونَ	تَأْخُذُوا	تَأْخُذُوا
2人称女性	أَخَذْتُنَّ	تَأْخُذْنَ	تَأْخُذْنَ	تَأْخُذْنَ
1人称	أَخَذْنَا	نَأْخُذُ	نَأْخُذَ	نَأْخُذْ

＊１人称単数の未完了形は、أأとならずに、マッダ記号を用いてآとなります。

◇命令形：要求形（２人称）の接頭辞と أ を取った形です。

男性単数 خُذْ　取りなさい　女性単数 خُذِي

双数 خُذَا

男性複数 خُذُوا　女性複数 خُذْنَ

＊第１語根ハムザ動詞の本来の命令形は、اِيذَنْ（أَذِنَ「聞く、許可する」）や أُومُلْ（أَمَلَ「希望する」）のように要求形（２人称）の接頭辞を取り、それに ا を加え、未完了形の第２語根の発音にしたがって اِ や اُ になります。しかし أَخَذَ や أَكَلَ「食べる」、أَمَرَ「命令する」などの命令形は、例外的に خُذْ、كُلْ、مُرْ の形になります。

◇分詞：

能動分詞 آخِذٌ　取っている

＊أاخِذٌ とならずにマッダ記号を用いて آخِذٌ と表記します。

受動分詞 مَأْخُوذٌ　取られた

◇動名詞：次のパターンになります。أَخْذٌ　取ること

◇受動態：أُخِذَ（完了形）　يُؤْخَذُ（未完了形）

■أَلِفَ「親しくある、…に慣れている」の活用：

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
3人称男性	أَلِفَ	يَأْلَفُ	يَأْلَفَ	يَأْلَفْ
3人称女性	أَلِفَتْ	تَأْلَفُ	تَأْلَفَ	تَأْلَفْ
2人称男性	أَلِفْتَ	تَأْلَفُ	تَأْلَفَ	تَأْلَفْ
2人称女性	أَلِفْتِ	تَأْلَفِينَ	تَأْلَفِي	تَأْلَفِي
1人称	أَلِفْتُ	آلَفُ	آلَفَ	آلَفْ
（双数）				
3人称男性	أَلِفَا	يَأْلَفَانِ	يَأْلَفَا	يَأْلَفَا
3人称女性	أَلِفَتَا	تَأْلَفَانِ	تَأْلَفَا	تَأْلَفَا
2人称男女	أَلِفْتُمَا	تَأْلَفَانِ	تَأْلَفَا	تَأْلَفَا
（複数）				
3人称男性	أَلِفُوا	يَأْلَفُونَ	يَأْلَفُوا	يَأْلَفُوا
3人称女性	أَلِفْنَ	يَأْلَفْنَ	يَأْلَفْنَ	يَأْلَفْنَ
2人称男性	أَلِفْتُمْ	تَأْلَفُونَ	تَأْلَفُوا	تَأْلَفُوا
2人称女性	أَلِفْتُنَّ	تَأْلَفْنَ	تَأْلَفْنَ	تَأْلَفْنَ
1人称	أَلِفْنَا	نَأْلَفُ	نَأْلَفَ	نَأْلَفْ

＊１人称単数の未完了形は、أأとならずに、マッダ記号を用いてآとなります。

＊このパターンに入る動詞には、このほかにأَذِنَ「許可する」があります。

- 命令形：要求形（２人称）の接頭辞と取り、إを加えた形です。ただしأがيに変化し、إِيとなります。

男性単数	اِيلَفْ	親しくありなさい	女性単数	اِيلَفِي
双数	اِيلَفَا			
男性複数	اِيلَفُوا		女性複数	اِيلَفْنَ

このほか、未完了形の第２語根の発音にしたがって、次の２つの命令形の形があります。

完了形		未完了形		命令形	
أَمَلَ	希望する	يَأْمُلُ	（第２語根がダンマ）	اُومُلْ	（أがوに変化）
أَثَرَ	伝える	يَأْثِرُ	（第２語根がカスラ）	اِيثِرْ	（أがيに変化）

◇分詞：

能動分詞 آلِفٌ 慣れている　　受動分詞 مَأْلُوفٌ 普通の、いつもの

◇動名詞：次のパターンになります。أَلْفٌ 慣れていること

◇受動態：أُلِفَ（完了形）　　يُؤْلَفُ（未完了形）

３　第１語根ハムザ動詞の派生形

第１語根ハムザ動詞の派生形は、完了形では３語根動詞の原形と同じように活用します。注意すべきは第２形、第３形、第４形の未完了形です。接頭辞がيُとなり、それにしたがってأがؤに変化します。また分詞（第２形、第３形、第４形、第８形）や動名詞（第３形）でمُが直接أに先行する場合もأの代わりにؤが用いられます。またأにカスラが先行する第８形の完了形と動名詞、第10形の動名詞などでは、أはئに変化している点にも注意してください。

第２形أَلَّفَ「著述する、形成する」、第３形آزَرَ「援助する、支える」、第４形آلَمَ「苦痛を与える」、第５形تَأَلَّفَ「構成される」、第６形تَآلَفَ「協調し合う」、第８形اِئْتَلَفَ「結合される、協調する」、第10形اِسْتَأْلَفَ「親交を求める」を例にポイントを示しておきます。

	完了形	未完了形	命令形	能動分詞	受動分詞
第2形	أَلَّفَ	يُؤَلِّفُ	أَلِّفْ	مُؤَلِّفٌ	مُؤَلَّفٌ
第3形	آزَرَ	يُؤَازِرُ	آزِرْ	مُؤَازِرٌ	مُؤَازَرٌ
第4形	آلَمَ	يُؤْلِمُ	آلِمْ	مُؤْلِمٌ	مُؤْلَمٌ
第5形	تَأَلَّفَ	يَتَأَلَّفُ	تَأَلَّفْ	مُتَأَلِّفٌ	مُتَأَلَّفٌ
第6形	تَآلَفَ	يَتَآلَفُ	تَآلَفْ	مُتَآلِفٌ	مُتَآلَفٌ
第8形	اِئْتَلَفَ	يَأْتَلِفُ	اِئْتَلِفْ	مُؤْتَلِفٌ	مُؤْتَلَفٌ
第10形	اِسْتَأْلَفَ	يَسْتَأْلِفُ	اِسْتَأْلِفْ	مُسْتَأْلِفٌ	مُسْتَأْلَفٌ

＊第７形、第９形はありません。

◇動名詞：

第2形 تَأْلِيفٌ 著述　　第3形 إِزَارٌ／مُؤَازَرَةٌ 援助

第4形 إِيلَامٌ 苦痛を与えること　　第5形 تَأَلُّفٌ 構成されること

第6形 تَآلُفٌ 協調　　第8形 اِئْتِلَافٌ 協調、一致、連立

第10形 اِسْتِئْلَافٌ 親交を求めること

◇注意する派生形：

أَخَذَの第８形「取り入れる、採用する」はأがتに吸収され、تّとなります。

完了形	未完了形	命令形	能動分詞	受動分詞	動名詞
اِتَّخَذَ	يَتَّخِذُ	اِتَّخِذْ	مُتَّخِذٌ	مُتَّخَذٌ	اِتِّخَاذٌ

第８形では、ハムザがيに置き換えられるパターンもありますが、本書ではハムザを維持するパターンを原則として使用します。

完了形： اِئْتَلَفَ (اِيتَلَفَ)　　動名詞： اِئْتِلَافٌ (اِيتِلَافٌ)

4　第2語根ハムザ動詞

完了形、未完了形ともに3語根動詞の原形の原則にしたがって活用します。سَأَلَ「尋ねる」を例にその活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
3人称男性	سَأَلَ	يَسْأَلُ	يَسْأَلَ	(يَسَلْ) يَسْأَلْ
3人称女性	سَأَلَتْ	تَسْأَلُ	تَسْأَلَ	(تَسَلْ) تَسْأَلْ
2人称男性	سَأَلْتَ	تَسْأَلُ	تَسْأَلَ	(تَسَلْ) تَسْأَلْ
2人称女性	سَأَلْتِ	تَسْأَلِينَ	تَسْأَلِي	(تَسَلِي) تَسْأَلِي
1人称	سَأَلْتُ	أَسْأَلُ	أَسْأَلَ	(أَسَلْ) أَسْأَلْ
（双数）				
3人称男性	سَأَلَا	يَسْأَلَانِ	يَسْأَلَا	(يَسَلَا) يَسْأَلَا
3人称女性	سَأَلَتَا	تَسْأَلَانِ	تَسْأَلَا	(تَسَلَا) تَسْأَلَا
2人称男女	سَأَلْتُمَا	تَسْأَلَانِ	تَسْأَلَا	(تَسَلَا) تَسْأَلَا
（複数）				
3人称男性	سَأَلُوا	يَسْأَلُونَ	يَسْأَلُوا	(يَسَلُوا) يَسْأَلُوا
3人称女性	سَأَلْنَ	يَسْأَلْنَ	يَسْأَلْنَ	(يَسَلْنَ) يَسْأَلْنَ
2人称男性	سَأَلْتُمْ	تَسْأَلُونَ	تَسْأَلُوا	(تَسَلُوا) تَسْأَلُوا
2人称女性	سَأَلْتُنَّ	تَسْأَلْنَ	تَسْأَلْنَ	(تَسَلْنَ) تَسْأَلْنَ
1人称	سَأَلْنَا	نَسْأَلُ	نَسْأَلَ	(نَسَلْ) نَسْأَلْ

＊未完了形、接続形、要求形はそれぞれيَسْئَلُ、يَسْئَلَ、يَسْئَلْと書かれることもあります。また要求形にはيَسْأَلْ型と（ ）で示したيَسَلْ型があります。

第2語根ハムザ動詞にはこれまで見てきたسَأَلَと異なり、第2語根の発音がカ

スラとダンマの動詞もあります。その場合、完了形ではハムザはىやوの上に書かれます。

完了形		未完了形	命令形
كَئِبَ	暗い状態にある	يَكْئَبُ／يَكْأَبُ	اِكْئَبْ／اِكْأَبْ
بَؤُسَ	強くある	يَبْؤُسُ	اُبْؤُسْ

◇命令形：要求形のパターンにしたがって命令形にも２つの書き方があります。

يَسْأَلْ型の場合、要求形（２人称）の接頭辞を取り、その代わりにاِを加えた形です。なお、第２語根のハムザがىの上に書かれることもあります。

男性単数	اِسْئَلْ／اِسْأَلْ	尋ねなさい	女性単数	اِسْئَلِي／اِسْأَلِي
双数	اِسْئَلَا／اِسْأَلَا			
男性複数	اِسْئَلُوا／اِسْأَلُوا		女性複数	اِسْئَلْنَ／اِسْأَلْنَ

يَسَلْ型の場合は、要求形（２人称）の接頭辞を取った形です。

男性単数	سَلْ	尋ねなさい	女性単数	سَلِي
双数	سَلَا			
男性複数	سَلُوا		女性複数	سَلْنَ

◇分詞：

能動分詞 سَائِلٌ 尋ねている、質問者

受動分詞 مَسْؤُولٌ 尋ねられた、責任者

◇動名詞：次のパターンになります。

سُؤَالٌ 尋ねること、質問 مَسْأَلَةٌ/تَسْآلٌ 問題

◇受動態：سُئِلَ（完了形） يُسْئَلُ／يُسْأَلُ（未完了形）

5　第2語根ハムザ動詞の派生形

第２形سَأَّلَ「何度も尋ねる」、第３形سَاءَلَ「問う」、第４形أَسْأَمَ「退屈させる」、第５形تَسَأَّلَ「請う」、第６形تَسَاءَلَ「互いに尋ねる」、第７形اِنْسَأَلَ「問われる」、第８形اِلْتَأَمَ「集まる」、第10形اِسْتَشْأَمَ「不幸に気づく」を例にポイントを示しておきます。

	完了形	未完了形	命令形	能動分詞	受動分詞
第2形	سَأَّلَ	يُسَئِّلُ	سَئِّلْ	مُسَئِّلٌ	مُسَأَّلٌ
第3形	سَاءَلَ	يُسَائِلُ	سَائِلْ	مُسَائِلٌ	مُسَاءَلٌ
第4形	أَسْأَمَ	يُسْئِمُ	أَسْئِمْ	مُسْئِمٌ	مُسْأَمٌ
第5形	تَسَأَّلَ	يَتَسَأَّلُ	تَسَأَّلْ	مُتَسَئِّلٌ	مُتَسَأَّلٌ
第6形	تَسَاءَلَ	يَتَسَاءَلُ	تَسَاءَلْ	مُتَسَائِلٌ	مُتَسَاءَلٌ
第7形	اِنْسَأَلَ	يَنْسَئِلُ	اِنْسَئِلْ	مُنْسَئِلٌ	مُنْسَأَلٌ
第8形	اِلْتَأَمَ	يَلْتَئِمُ	اِلْتَئِمْ	مُلْتَئِمٌ	مُلْتَأَمٌ
第10形	اِسْتَشْأَمَ	يَسْتَشْئِمُ	اِسْتَشْئِمْ	مُسْتَشْئِمٌ	مُسْتَشْأَمٌ

＊第９形はありません。

◇動名詞：

第2形	تَسْئِيلٌ	何度も尋ねること	第3形	مُسَاءَلَةٌ	問うこと、質問
第4形	إِسْآمٌ	退屈させること	第5形	تَسَؤُّلٌ	請うこと
第6形	تَسَاؤُلٌ	互いに尋ねること	第7形	اِنْسِئَالٌ	問われること
第8形	اِلْتِئَامٌ	集まること	第10形	اِسْتِشْآمٌ	不幸に気づくこと

6　第3語根ハムザ動詞

３語根動詞の原形と同じように活用しますが、ハムザの書き方に注意すべ

き点があります。قَرَأَ「読む」を例に活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	قَرَأَ	يَقْرَأُ	يَقْرَأَ	يَقْرَأْ
３人称女性	قَرَأَتْ	تَقْرَأُ	تَقْرَأَ	تَقْرَأْ
２人称男性	قَرَأْتَ	تَقْرَأُ	تَقْرَأَ	تَقْرَأْ
２人称女性	قَرَأْتِ	تَقْرَئِينَ	تَقْرَئِي	تَقْرَئِي
１人称	قَرَأْتُ	أَقْرَأُ	أَقْرَأَ	أَقْرَأْ
（双数）				
３人称男性	قَرَآ	يَقْرَآنِ	يَقْرَآ	يَقْرَآ
３人称女性	قَرَأَتَا	تَقْرَآنِ	تَقْرَآ	تَقْرَآ
２人称男女	قَرَأْتُمَا	تَقْرَآنِ	تَقْرَآ	تَقْرَآ
（複数）				
３人称男性	قَرَأُوا	يَقْرَأُونَ	يَقْرَأُوا	يَقْرَأُوا
３人称女性	قَرَأْنَ	يَقْرَأْنَ	يَقْرَأْنَ	يَقْرَأْنَ
２人称男性	قَرَأْتُمْ	تَقْرَأُونَ	تَقْرَأُوا	تَقْرَأُوا
２人称女性	قَرَأْتُنَّ	تَقْرَأْنَ	تَقْرَأْنَ	تَقْرَأْنَ
１人称	قَرَأْنَا	نَقْرَأُ	نَقْرَأَ	نَقْرَأْ

＊複数形の活用は、ときに次のように表記される場合があります。また、人称代名詞の結合形が付く場合も、以下のような表記になることがあります。

قَرَؤُوا （完了形、３人称男性複数）

يَقْرَؤُونَ （未完了形、３人称男性複数）

يَقْرَؤُهُ　(未完了形、3人称、男性、単数に人称代名詞の結合形が付いたもの)

＊接続形の場合はيَقْرَأُهُ

◇命令形：3語根動詞の命令形のつくり方と同じです。要求形(2人称)の接頭辞を取り、اِを加えます。

男性単数	اِقْرَأْ	読みなさい	女性単数	اِقْرَئِي
双数	اِقْرَآ			
男性複数	اِقْرَأُوا		女性複数	اِقْرَأْنَ

◇分詞：

能動分詞	قَارِئٌ	読んでいる、読者
受動分詞	مَقْرُوءٌ	読まれた

◇動名詞：次のパターンになります。قِرَاءَةٌ　読むこと、読書

◇受動態：3語根動詞の受動態のつくり方と同じです。ただし、ハムザの表記方法に注意が必要です。

	完了形	未完了形
3人称男性単数	قُرِئَ	يُقْرَأُ
3人称女性単数	قُرِئَتْ	تُقْرَأُ

◇注意すべき動詞：未完了形の活用で第2語根がカスラになる動詞の場合、ハムザの書き方は以下のようになります。

完了形		未完了形	命令形
هَنَأَ	健康によい	يَهْنِئُ	اِهْنِئْ

完了形の第2語根がカスラ、未完了形ではファトハになる動詞の場合、ハムザの書き方は以下のようになります。

	完了形		未完了形
3人称男性単数	خَطِئَ	誤る	يَخْطَأُ
3人称女性単数	خَطِئَتْ		تَخْطَأُ
2人称男性単数	خَطِئْتَ		تَخْطَأُ
2人称女性単数	خَطِئْتِ		تَخْطَئِينَ
1人称単数	خَطِئْتُ		أَخْطَأُ
1人称複数	خَطِئْنَا		نَخْطَأُ

命令形も以下のようになります。パターンを確認してください。

男性単数	اِخْطَأْ	誤りなさい	女性単数	اِخْطَئِي
双数	اِخْطَآ			
男性複数	اِخْطَؤُوا		女性複数	اِخْطَأْنَ

完了形の第２語根がダンマ、未完了形でもダンマになる動詞の場合、ハムザの書き方は以下のようになります。

	完了形		未完了形
3人称男性単数	بَطُؤَ	遅くなる	يَبْطُؤُ
3人称女性単数	بَطُؤَتْ		تَبْطُؤُ
2人称男性単数	بَطُؤْتَ		تَبْطُؤُ
2人称女性単数	بَطُؤْتِ		تَبْطُئِينَ
1人称単数	بَطُؤْتُ		أَبْطُؤُ
1人称複数	بَطُؤْنَا		نَبْطُؤُ

命令形も以下のようになります。

男性単数 أُبْطُؤْ 遅くなりなさい　女性単数 أُبْطُئِي

双数 أُبْطُؤَا

男性複数 أُبْطُؤُوا　女性複数 أُبْطُؤْنَ

7　第3語根ハムザ動詞の派生形

3語根動詞の原形の派生系と同じように活用します。ハムザの書き方はこれまで示した方法によります（第36課でまとめてあるハムザの表記を必ず参照してください)。第2形 بَرَّأَ「放免する」、第3形 قَارَأَ「読み合わせる」、第4形 أَقْرَأَ「読み方を教える」、第5形 تَقَرَّأَ「イスラーム法を学ぶ」、第6形 تَبَاطَأَ「手間どる」、第7形 اِنْقَرَأَ「読まれる」、第8形 اِقْتَرَأَ「読む」、第10形 اِسْتَقْرَأَ「読むことを頼む」を例にポイントを示しておきます。

	完了形	未完了形	命令形	能動分詞	受動分詞
第2形	بَرَّأَ	يُبَرِّئُ	بَرِّئْ	مُبَرِّئٌ	مُبَرَّأٌ
第3形	قَارَأَ	يُقَارِئُ	قَارِئْ	مُقَارِئٌ	مُقَارَأٌ
第4形	أَقْرَأَ	يُقْرِئُ	أَقْرِئْ	مُقْرِئٌ	مُقْرَأٌ
第5形	تَقَرَّأَ	يَتَقَرَّأُ	تَقَرَّأْ	مُتَقَرِّئٌ	مُتَقَرَّأٌ
第6形	تَبَاطَأَ	يَتَبَاطَأُ	تَبَاطَأْ	مُتَبَاطِئٌ	مُتَبَاطَأٌ
第7形	اِنْقَرَأَ	يَنْقَرِئُ	اِنْقَرِئْ	مُنْقَرِئٌ	مُنْقَرَأٌ
第8形	اِقْتَرَأَ	يَقْتَرِئُ	اِقْتَرِئْ	مُقْتَرِئٌ	مُقْتَرَأٌ
第10形	اِسْتَقْرَأَ	يَسْتَقْرِئُ	اِسْتَقْرِئْ	مُسْتَقْرِئٌ	مُسْتَقْرَأٌ

＊第9形はありません。

◇動名詞：

第2形 تَبْرِئَةٌ 放免、免除　第3形 مُقَارَأَةٌ 読み合わせること

第4形 إِقْرَاءٌ 読み方を教えること　第5形 تَقَرُّؤٌ イスラーム法を学ぶこと

第6形 تَبَاطُؤٌ 手間どること、遅滞　第7形 اِنْقِرَاءٌ 読まれること

第8形 اِقْتِرَاءٌ 読むこと　第10形 اِسْتِقْرَاءٌ 読むことを頼むこと

- その他のハムザ動詞とその重要な派生形：

完了形	未完了形	動名詞	派生形	派生形の動名詞
أكد（原形では用いられません）			أَكَّدَ	تَأْكِيدٌ
			強調する	強調
			تَأَكَّدَ	تَأَكُّدٌ
			確認する	確信
أَثَرَ	يَأْثُرُ	أَثْرٌ	أَثَّرَ عَلَى	تَأْثِيرٌ
跡をたどる		跡	…に影響を与える	影響(を与えること)
			تَأَثَّرَ بِ	تَأَثُّرٌ
			…の影響を被る	影響(を被ること)
أَمَرَ	يَأْمُرُ	أَمْرٌ	تَآمَرَ عَلَى	تَآمُرٌ
命令する		命令	…に陰謀を企てる	陰謀
لَأَمَ	يَلْأَمُ	لَأْمٌ	لَاءَمَ	مُلَاءَمَةٌ
包帯を巻く		包帯を巻くこと	適合する	適性
أَذِنَ	يَأْذَنُ	إِذْنٌ	اِسْتَأْذَنَ	اِسْتِئْذَانٌ
聞く		許可	許可を求める	許可を求めること
أَمِنَ	يَأْمَنُ	أَمْنٌ	آمَنَ بِ	إِيمَانٌ
安全である		安全	…を信仰する	信仰

أَلِمَ	يَأْلَمُ	أَلَمٌ	أَلَّمَ	تَأْلِيمٌ
痛みを感じる		痛み	傷つける	傷つけること
			تَأَلَّمَ	تَأَلُّمٌ
			痛みを感じる	痛みを感じること
نَشَأَ	يَنْشُؤُ	نُشُوءٌ	أَنْشَأَ	إِنْشَاءٌ
生じる		生長	設立する	設立
بَدَأَ	يَبْدَأُ	بَدْءٌ	اِبْتَدَأَ	اِبْتِدَاءٌ
始まる		始まり	始まる	始まり
خَبَأَ	يَخْبَأُ	خَبْءٌ	اِخْتَبَأَ	اِخْتِبَاءٌ
隠す		隠すこと	隠れる	隠れること
هَنِئَ	يَهْنَأُ	هَنَاءٌ	هَنَّأَ	تَهْنِئَةٌ
喜ぶ		幸福	祝福する	祝福

8　2重不規則動詞

رَأَى「見る」のところですでに触れましたが、不規則動詞のなかには3語根のなかに弱文字やハムザを同時に2つ以上含む2重不規則動詞と呼ばれる動詞があります。これらの動詞を正確にすべて活用させることはアラブ人にとっても大変やっかいなことです。そのため、よく用いられる2重不規則動詞の活用や単語のパターンはかなり限定されてきます。ここでは学習者が知っておくべき代表的な2重不規則動詞とよく用いられる単語のパターンを紹介しておきます。

- 第2語根、第3語根に弱文字をもつ動詞

この種類の動詞には弱動詞の活用が適用されます（くぼみ動詞のように第2語根のوが消えることはありません）。رَوَى「話を語る」を例に活用を確認し

ておきましょう。

(単数)	完了形	未完了形	接続形	要求形	命令形
3人称男性	رَوَى	يَرْوِي	يَرْوِيَ	يَرْوِ	
3人称女性	رَوَتْ	تَرْوِي	تَرْوِيَ	تَرْوِ	
2人称男性	رَوَيْتَ	تَرْوِي	تَرْوِيَ	تَرْوِ	اِرْوِ
2人称女性	رَوَيْتِ	تَرْوِينَ	تَرْوِي	تَرْوِي	اِرْوِي
1人称	رَوَيْتُ	أَرْوِي	أَرْوِيَ	أَرْوِ	
(双数)					
3人称男性	رَوَيَا	يَرْوِيَانِ	يَرْوِيَا	يَرْوِيَا	
3人称女性	رَوَتَا	تَرْوِيَانِ	تَرْوِيَا	تَرْوِيَا	
2人称男女	رَوَيْتُمَا	تَرْوِيَانِ	تَرْوِيَا	تَرْوِيَا	اِرْوِيَا
(複数)					
3人称男性	رَوَوْا	يَرْوُونَ	يَرْوُوا	يَرْوُوا	
3人称女性	رَوِينَ	يَرْوِينَ	يَرْوِينَ	يَرْوِينَ	
2人称男性	رَوَيْتُمْ	تَرْوُونَ	تَرْوُوا	تَرْوُوا	اِرْوُوا
2人称女性	رَوَيْتُنَّ	تَرْوِينَ	تَرْوِينَ	تَرْوِينَ	اِرْوِينَ
1人称	رَوَيْنَا	نَرْوِي	نَرْوِيَ	نَرْوِ	

◇分詞：(　)内は限定の形

能動分詞　رَاوٍ (اَلرَّاوِي)　語り手　＊弱動詞の能動分詞と同じ。

受動分詞　مَرْوِيٌّ　語られた　＊弱動詞２および３の受動分詞と同じ。

◇動名詞：次のパターンになります。رِوَايَةٌ　語ること、小説

• ダブル動詞として第2語根、第3語根にيをもつ動詞

代表的な動詞は、حَيَّ「生きる」（حَيِيَとも書かれます）です。未完了形は يَحْيَا（يَحْيَىと書くと、男性名の「ヨハネ」と混同されるおそれもありますので、يَحْيَاの形が用いられます）、動名詞はحَيَاةٌ「人生」です。

◇派生形第２形：حَيَّا「挨拶する、保護する」

يُحَيِّي（未完了形）　　تَحِيَّةٌ（動名詞）

◇派生形第４形：أَحْيَا「甦らせる」

يُحْيِي（未完了形）　　إِحْيَاءٌ（動名詞）　　مُحْيٍ（اَلْمُحْيِي）（能動分詞）

◇派生形第10形：اِسْتَحَى「恥ずかしがる、生かせる」

يَسْتَحِي（未完了形）　　اِسْتِحْيَاءٌ（動名詞）

＊完了形はاِسْتَحَيَّ、اِسْتَحْيَاとも書かれます。

• 第１語根と第３語根に弱文字をもつ動詞

■وَقَى「守る」

未完了形	接続形	要求形	命令形	能動分詞	動名詞
يَقِي	يَقِيَ	يَقِ	قِ	وَاقٍ（اَلْوَاقِي）	وِقَايَةٌ

＊命令形はقِي（女性形）、قُوا（複数）と活用します。

◇派生形第８形：اِتَّقَى「神を恐れる」

未完了形	接続形	要求形	命令形	能動分詞	動名詞
يَتَّقِي	يَتَّقِيَ	يَتَّقِ	اِتَّقِ	مُتَّقٍ（اَلْمُتَّقِي）	اِتِّقَاءٌ

■وَفَى「約束を果たす」

未完了形	接続形	要求形	命令形	能動分詞	動名詞
يَفِي	يَفِيَ	يَفِ	فِ	وَافٍ（اَلْوَافِي）	وَفَاءٌ

◇派生形第４形：أَوْفَى「誓いを果たす」

未完了形	接続形	要求形	命令形	能動分詞	動名詞
يُوفِي	يُوفِيَ	يُوفِ	أَوْفِ	مُوفٍ (اَلْمُوفِي)	إِيفَاءٌ

◇派生形５形：تَوَفَّى「十分にとる」

未完了形	接続形	要求形	命令形	能動分詞	動名詞
يَتَوَفَّى	يَتَوَفَّى	يَتَوَفَّ	تَوَفَّ	مُتَوَفٍّ (اَلْمُتَوَفِّي)	تَوَفٍّ (اَلتَّوَفِّي)

この派生形はしばしば、アッラーを主語として人間の死亡を示す場合に用いられます。

تَوَفَّاهُ ٱللّٰهُ.　アッラーが彼を御自身のもとへ連れて行った（彼は死亡した）。

同様に、この派生形は受動態で用いると「死亡した」の意味になります。

受動態完了形	受動態未完了形	受動分詞
تُوُفِّيَ	يُتَوَفَّى	مُتَوَفًّى (اَلْمُتَوَفَّى)

اَلْعَالِمُ ٱلْمُتَوَفَّى فِي مَكَّةَ ٱلْمُكَرَّمَةِ　聖なるメッカで没した学者

■وَلِيَ「続く」

未完了形	接続形	要求形	命令形	能動分詞	動名詞
يَلِي	يَلِيَ	يَلِ	لِ	وَالٍ (اَلْوَالِي)	وَلْيٌ

◇派生形第２形：وَلَّى「責任者や統治者に任命する」

未完了形	接続形	要求形	命令形	能動分詞	動名詞
يُوَلِّي	يُوَلِّيَ	يُوَلِّ	وَلِّ	مُوَلٍّ (اَلْمُوَلِّي)	تَوْلِيَةٌ

◇派生形第５形：تَوَلَّى「従事する、役職につく」

未完了形	接続形	要求形	命令形	能動分詞	動名詞
يَتَوَلَّى	يَتَوَلَّى	يَتَوَلَّ	تَوَلَّ	مُتَوَلٍّ (اَلْمُتَوَلِّي)	تَوَلٍّ (اَلتَّوَلِّي)

◇派生形第６形：تَوَالَى「続く」

未完了形	接続形	要求形	命令形	能動分詞	動名詞
يَتَوَالَى	يَتَوَالَى	يَتَوَالَ	تَوَالَ	مُتَوَالٍ (اَلْمُتَوَالِي)	تَوَالٍ (اَلتَّوَالِي)

- 第３語根がハムザのくぼみ動詞

■جَاءَ「来る」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形	命令形
３人称男性	جَاءَ	يَجِيءُ	يَجِيءَ	يَجِئْ	
３人称女性	جَاءَتْ	تَجِيءُ	تَجِيءَ	تَجِئْ	
２人称男性	جِئْتَ	تَجِيءُ	تَجِيءَ	تَجِئْ	جِئْ
２人称女性	جِئْتِ	تَجِيئِينَ	تَجِيئِي	تَجِيئِي	جِيئِي
１人称	جِئْتُ	أَجِيءُ	أَجِيءَ	أَجِئْ	
（双数）					
３人称男性	جَاءَا	يَجِيئَانِ	يَجِيئَا	يَجِيئَا	
３人称女性	جَاءَتَا	تَجِيئَانِ	تَجِيئَا	تَجِيئَا	
２人称男女	جِئْتُمَا	تَجِيئَانِ	تَجِيئَا	تَجِيئَا	جِيئَا
（複数）					
３人称男性	جَاؤُوا	يَجِيئُونَ	يَجِيئُوا	يَجِيئُوا	
３人称女性	جِئْنَ	يَجِئْنَ	يَجِئْنَ	يَجِئْنَ	

2人称男性	جِئْتُمْ	تَجِيئُونَ	تَجِيئُوا	تَجِيئُوا	جِيئُوا
2人称女性	جِئْتُنَّ	تَجِئْنَ	تَجِئْنَ	تَجِئْنَ	جِئْنَ
1人称	جِئْنَا	نَجِيءُ	نَجِيءَ	نَجِئْ	

◇分詞：

能動分詞　جَاءٍ (اَلْجَائِي)　やって来る

受動分詞　مَجِيءٌ　持って来られる

◇動名詞：次のパターンになります。مَجِيءٌ　到来

◇受動態：جِيءَ（完了形）　　يُجَاءُ（未完了形）

＊本来、「来る」の意味ですが、受動態があるのは、جَاءَ بِ「…を持ってくる」のように、目的語の前にしばしば前置詞بِを伴うからです。後述のأَتَى「来る」もأَتَى بِ「…を持ってくる」の形で用いられます。

■سَاءَ「悪くなる、傷つける」：よく用いられる活用のみを示します。

	完了形	未完了形	接続形	要求形	命令形
3人称男性単数	سَاءَ	يَسُوءُ	يَسُوءَ	يَسُؤْ	
3人称女性単数	سَاءَتْ	تَسُوءُ	تَسُوءَ	تَسُؤْ	
2人称男性単数	سُؤْتَ	تَسُوءُ	تَسُوءَ	تَسُؤْ	سُؤْ
2人称女性単数	سُؤْتِ	تَسُوئِينَ	تَسُوئِي	تَسُوئِي	سُوئِي
1人称単数	سُؤْتُ	أَسُوءُ	أَسُوءَ	أَسُؤْ	
1人称複数	سُؤْنَا	نَسُوءُ	نَسُوءَ	نَسُؤْ	

◇分詞：

能動分詞　سَاءٍ (اَلسَّائِي)　悪化している

受動分詞　مَسُوءٌ　傷つけられる

◇動名詞：次のパターンになります。

سَوْءٌ　悪、不幸

◇受動態：سِيءَ（完了形）　　يُسَاءُ（未完了形）

◇派生形第４形：أَسَاءَ「害する」

未完了形	接続形	要求形	命令形	能動分詞	動名詞
يُسِيءُ	يُسِيءَ	يُسِئْ	أَسِئْ	مُسِيءٌ	إِسَاءَةٌ

■شَاءَ「望む」：よく用いられる活用のみを示します。

	完了形	未完了形	接続形	要求形	命令形
３人称男性単数	شَاءَ	يَشَاءُ	يَشَاءَ	يَشَأْ	
３人称女性単数	شَاءَتْ	تَشَاءُ	تَشَاءَ	تَشَأْ	
２人称男性単数	شِئْتَ	تَشَاءُ	تَشَاءَ	تَشَأْ	شَأْ
２人称女性単数	شِئْتِ	تَشَائِينَ	تَشَائِي	تَشَائِي	شَائِي
１人称単数	شِئْتُ	أَشَاءُ	أَشَاءَ	أَشَأْ	
１人称複数	شِئْنَا	نَشَاءُ	نَشَاءَ	نَشَأْ	

◇分詞：

能動分詞　شَاءٍ (اَلشَّائِي)　望んでいる

受動分詞　مَشِيءٌ　望まれた

◇動名詞：次のパターンになります。

مَشِيئَةٌ/ شَيْءٌ　意思

＊إِنْ شَاءَ ٱللّٰهُ「もしアッラーがお望みであれば（期待）」、مَا شَاءَ ٱللّٰهُ「アッラーがお望みになったこと（感嘆）」の表現で多用されます。

- 第１語根にハムザ、第３語根に弱文字をもつ動詞

■أَتَى「来る」

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形	命令形
３人称男性	أَتَى	يَأْتِي	يَأْتِيَ	يَأْتِ	
３人称女性	أَتَتْ	تَأْتِي	تَأْتِيَ	تَأْتِ	
２人称男性	أَتَيْتَ	تَأْتِي	تَأْتِيَ	تَأْتِ	تِ／اِيتِ
２人称女性	أَتَيْتِ	تَأْتِينَ	تَأْتِي	تَأْتِي	تِي／اِيتِي
１人称	أَتَيْتُ	آتِي	آتِيَ	آتِ	
（双数）					
３人称男性	أَتَيَا	يَأْتِيَانِ	يَأْتِيَا	يَأْتِيَا	
３人称女性	أَتَتَا	تَأْتِيَانِ	تَأْتِيَا	تَأْتِيَا	
２人称男女	أَتَيْتُمَا	تَأْتِيَانِ	تَأْتِيَا	تَأْتِيَا	تِيَا
（複数）					
３人称男性	أَتَوْا	يَأْتُونَ	تَأْتُوا	يَأْتُوا	
３人称女性	أَتَيْنَ	يَأْتِينَ	تَأْتِينَ	يَأْتِينَ	
２人称男性	أَتَيْتُمْ	تَأْتُونَ	تَأْتُوا	تَأْتُوا	تُوا／اِيتُوا
２人称女性	أَتَيْتُنَّ	تَأْتِينَ	تَأْتِينَ	تَأْتِينَ	تِينَ
１人称	أَتَيْنَا	نَأْتِي	نَأْتِيَ	نَأْتِ	

◇分詞：

能動分詞　آتٍ (اَلْآتِي)　やって来る、次の

受動分詞　مَأْتِيٌّ　持って来られる

◇動名詞：次のパターンになります。

إِتْيَانٌ/ أَتْيٌ　来ること、遂行

◇受動態：أُتِيَ（完了形）　　يُؤْتَى（未完了形）

◇派生形第４形：آتَى「授ける」　＊（受）は受動態完了形。

未完了形	接続形	要求形	命令形	能動分詞	動名詞	（受）
يُؤْتِي	يُؤْتِيَ	يُؤْتِ	آتِ	مُؤْتٍ (اَلْمُؤْتِي)	إِيتَاءٌ	أُوتِيَ

第31課　特別な動詞

1　4語根動詞

これまで学んだように、アラビア語では3語根動詞の原形が、意味の上でも、形態の上でも大部分の単語の基盤となっています。しかし、すべての単語がこの原形から派生しているわけではありません。単語としては2語根(قَدْや مِنْなど)や5語根(عَنْكَبُوتٌ「蜘蛛」)など、動詞との関わりなしにそれだけで単語として成立しているものもあります。

一方、動詞に関しては、3語根動詞のほかに4語根動詞と呼ばれるものがあります。4語根動詞の数は非常に少ないのですが、そのなかにはよく用いられる重要なものがいくつかあります。ここでは4語根動詞の基本的な活用と分詞や動名詞などのパターンを見ていきます。تَرْجَمَ「翻訳する、通訳する」を例に、その活用を確認しておきましょう。

(単数)	完了形	未完了形	接続形	要求形
3人称男性	تَرْجَمَ	يُتَرْجِمُ	يُتَرْجِمَ	يُتَرْجِمْ
3人称女性	تَرْجَمَتْ	تُتَرْجِمُ	تُتَرْجِمَ	تُتَرْجِمْ
2人称男性	تَرْجَمْتَ	تُتَرْجِمُ	تُتَرْجِمَ	تُتَرْجِمْ
2人称女性	تَرْجَمْتِ	تُتَرْجِمِينَ	تُتَرْجِمِي	تُتَرْجِمِي
1人称	تَرْجَمْتُ	أُتَرْجِمُ	أُتَرْجِمَ	أُتَرْجِمْ
(双数)				
3人称男性	تَرْجَمَا	يُتَرْجِمَانِ	يُتَرْجِمَا	يُتَرْجِمَا
3人称女性	تَرْجَمَتَا	تُتَرْجِمَانِ	تُتَرْجِمَا	تُتَرْجِمَا
2人称男女	تَرْجَمْتُمَا	تُتَرْجِمَانِ	تُتَرْجِمَا	تُتَرْجِمَا

（複数）

3人称男性	تَرْجَمُوا	يُتَرْجِمُونَ	يُتَرْجِمُوا	يُتَرْجِمُوا
3人称女性	تَرْجَمْنَ	يُتَرْجِمْنَ	يُتَرْجِمْنَ	يُتَرْجِمْنَ
2人称男性	تَرْجَمْتُمْ	تُتَرْجِمُونَ	تُتَرْجِمُوا	تُتَرْجِمُوا
2人称女性	تَرْجَمْتُنَّ	تُتَرْجِمْنَ	تُتَرْجِمْنَ	تُتَرْجِمْنَ
1人称	تَرْجَمْنَا	نُتَرْجِمُ	نُتَرْجِمَ	نُتَرْجِمْ

＊ 4語根動詞の活用は派生形第2形の活用を基本にしていることがわかります。たとえば、قَدَّمَをقَدْدَمَとして考え、دْدَをتَرْجَمَのرْجَと対応させればいいわけです。

◇命令形：要求形（2人称）から接頭辞を取った形です。

男性単数 تَرْجِمْ 訳しなさい　　女性単数 تَرْجِمِي

双数 تَرْجِمَا

男性複数 تَرْجِمُوا　　女性複数 تَرْجِمْنَ

◇分詞：

能動分詞 مُتَرْجِمٌ 訳している、訳す人、通訳者、翻訳者

受動分詞 مُتَرْجَمٌ 訳された

◇動名詞：次のパターンになります。تَرْجَمَةٌ 訳すこと、通訳、翻訳

◇受動態：تُرْجِمَ（完了形）　يُتَرْجَمُ（未完了形）

◇他の4語根動詞：

سَيْطَرَ عَلَى …を支配する　بَرْهَنَ عَلَى …を証明する　عَرْبَدَ 騒がしくある

تَلْمَذَ 弟子にする　عَسْكَرَ 野営する　دَحْرَجَ 転がす

حَرْجَمَ 家畜などを集めてぎゅうぎゅう詰めにする　طَمْأَنَ 静める、落ち着かせる

• 音や動きの反復を示す２文字を繰り返した４語根動詞：

غَرْغَرَ うがいをする　زَلْزَلَ 激しく揺する　تَمْتَمَ 吃る

وَسْوَسَ (悪魔が)ささやく　سَلْسَلَ 一緒につなぐ

• 一定の表現を短縮した４語根動詞：

بَسْمَلَ:「アッラーの御名をもって」(بِسْمِ ٱللّٰهِ)と言う

حَمْدَلَ:「称賛はアッラーへ」(اَلْحَمْدُ لِلّٰهِ)と言う

حَوْلَقَ／حَوْقَلَ:

「アッラーのところ以外には権威も力もない」(لاَ حَوْلَ وَلاَ قُوَّةَ إِلاَّ بِٱللّٰهِ)と言う

２　４語根動詞の派生形

４語根動詞には派生形第２形、第３形、第４形の３つの形が用いられます。第３形、第４形は非常に少なく、一部の動詞にしか用いられません。

◇第２形：４語根動詞の自動詞化（カッコ内は原形）

完了形：...تَتَلْمَذَ عَلَى يَدِ　...に師事する　(تَلْمَذَ)

未完了形：يَتَتَلْمَذُ　命令形：تَتَلْمَذْ　能動分詞：مُتَتَلْمِذٌ　動名詞：تَتَلْمُذٌ

تَلْمَذَ「弟子にする」の第２形تَتَلْمَذَ（تَتَلْمَذَ عَلَى يَدِ「...に師事する、...の弟子となって学ぶ」）を例に活用を確認しておきましょう。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	تَتَلْمَذَ	يَتَتَلْمَذُ	يَتَتَلْمَذَ	يَتَتَلْمَذْ
３人称女性	تَتَلْمَذَتْ	تَتَتَلْمَذُ	تَتَتَلْمَذَ	تَتَتَلْمَذْ
２人称男性	تَتَلْمَذْتَ	تَتَتَلْمَذُ	تَتَتَلْمَذَ	تَتَتَلْمَذْ
２人称女性	تَتَلْمَذْتِ	تَتَتَلْمَذِينَ	تَتَتَلْمَذِي	تَتَتَلْمَذِي
１人称	تَتَلْمَذْتُ	أَتَتَلْمَذُ	أَتَتَلْمَذَ	أَتَتَلْمَذْ

（双数）

3人称男性	تَتَلْمَذَا	يَتَتَلْمَذَانِ	يَتَتَلْمَذَا	يَتَتَلْمَذَا
3人称女性	تَتَلْمَذَتَا	تَتَتَلْمَذَانِ	تَتَتَلْمَذَا	تَتَتَلْمَذَا
2人称男女	تَتَلْمَذْتُمَا	تَتَتَلْمَذَانِ	تَتَتَلْمَذَا	تَتَتَلْمَذَا

（複数）

3人称男性	تَتَلْمَذُوا	يَتَتَلْمَذُونَ	يَتَتَلْمَذُوا	يَتَتَلْمَذُوا
3人称女性	تَتَلْمَذْنَ	يَتَتَلْمَذْنَ	يَتَتَلْمَذْنَ	يَتَتَلْمَذْنَ
2人称男性	تَتَلْمَذْتُمْ	تَتَتَلْمَذُونَ	تَتَتَلْمَذُوا	تَتَتَلْمَذُوا
2人称女性	تَتَلْمَذْتُنَّ	تَتَتَلْمَذْنَ	تَتَتَلْمَذْنَ	تَتَتَلْمَذْنَ
1人称	تَتَلْمَذْنَا	نَتَتَلْمَذُ	نَتَتَلْمَذَ	نَتَتَلْمَذْ

＊その他、重要な第２形動詞には تَرَعْرَعَ「成長する」、تَأَقْلَمَ「…に慣れる」、تَزَحْلَقَ「スキーで滑る」、تَدَحْرَجَ「転がる」、تَزَلْزَلَ「激しく揺れる」などがあります。

◇第３形：４語根動詞の自動詞化（カッコ内は原形）

完了形：اِحْرَنْجَمَ　ぎゅうぎゅう詰めになる　(حَرْجَمَ)

未完了形：يَحْرَنْجِمُ　命令形：اِحْرَنْجِمْ　能動分詞：مُحْرَنْجِمٌ　動名詞：اِحْرِنْجَامٌ

◇第４形：４語根動詞の自動詞化（カッコ内は原形）

完了形：اِطْمَأَنَّ إِلَى　…に安心する　(طَمْأَنَ)

未完了形：يَطْمَئِنُّ　命令形：اِطْمَأْنِنْ/اِطْمَئِنَّ　能動分詞：مُطْمَئِنٌّ　動名詞：اِطْمِئْنَانٌ

この動詞は４語根動詞の派生形のなかでも最も重要な動詞の１つです。活用と能動分詞のパターンをしっかり確認しておきましょう。活用には、不規則動詞（ダブル動詞）と語尾がءで終わる動詞の原則がともに適用されています。

（単数）	完了形	未完了形	接続形	要求形
３人称男性	اِطْمَأَنَّ	يَطْمَئِنُّ	يَطْمَئِنَّ	يَطْمَئِنَّ
３人称女性	اِطْمَأَنَّتْ	تَطْمَئِنُّ	تَطْمَئِنَّ	تَطْمَئِنَّ
２人称男性	اِطْمَأْنَنْتَ	تَطْمَئِنُّ	تَطْمَئِنَّ	تَطْمَئِنَّ
２人称女性	اِطْمَأْنَنْتِ	تَطْمَئِنِّينَ	تَطْمَئِنِّي	تَطْمَئِنِّي
１人称	اِطْمَأْنَنْتُ	أَطْمَئِنُّ	أَطْمَئِنَّ	أَطْمَئِنَّ
（双数）				
３人称男性	اِطْمَأَنَّا	يَطْمَئِنَّانِ	يَطْمَئِنَّا	يَطْمَئِنَّا
３人称女性	اِطْمَأَنَّتَا	تَطْمَئِنَّانِ	تَطْمَئِنَّا	تَطْمَئِنَّا
２人称男女	اِطْمَأْنَنْتُمَا	تَطْمَئِنَّانِ	تَطْمَئِنَّا	تَطْمَئِنَّا
（複数）				
３人称男性	اِطْمَأَنُّوا	يَطْمَئِنُّونَ	يَطْمَئِنُّوا	يَطْمَئِنُّوا
３人称女性	اِطْمَأْنَنَّ	يَطْمَأْنِنَّ	يَطْمَأْنِنَّ	يَطْمَأْنِنَّ
２人称男性	اِطْمَأْنَنْتُمْ	تَطْمَئِنُّونَ	تَطْمَئِنُّوا	تَطْمَئِنُّوا
２人称女性	اِطْمَأْنَنْتُنَّ	تَطْمَأْنِنَّ	تَطْمَأْنِنَّ	تَطْمَأْنِنَّ
１人称	اِطْمَأْنَنَّا	نَطْمَئِنُّ	نَطْمَئِنَّ	نَطْمَئِنَّ

＊要求形にはيَطْمَأْنِنْ型もあります。

3　名詞から派生した４語根動詞の派生形第２形

３語根動詞の派生形第５形、第６形のように「…になる、…のように振舞う」の意味で用いられます。

أَمْرِيكَا　アメリカ　تَأَمْرَكَ　アメリカ人になる、アメリカ人のように振舞う

فَيْلَسُوفٌ　哲学者　　تَفَلْسَفَ　哲学者のように振舞う、思索する

شَيْطَانٌ　悪魔　　تَشَيْطَنَ　悪魔のようになる

4　開始の動詞

動詞のなかには完了形と未完了形を一緒に用いる用法があります。その代表的なものがأَخَذَ「取る」、جَعَلَ「つくる」、شَرَعَ「始める」やبَدَأَ「始める」の完了形のあとに未完了形を続け、「…し始める」を意味する開始の動詞です。助動詞的なكَانَと同様に主語が人称代名詞以外の場合、動詞先行文では完了形と未完了形の間に主語が入ります。

أَخَذَ يَرْكُضُ.　彼は走り始めました。

جَعَلَ ٱلْبَدْوُ يَرْحَلُونَ فِي ٱلصَّحْرَاءِ.　遊牧民は砂漠を移動し始めました。

بَدَأَは完了形でも未完了形でも用いられます。

بَدَأَ يَبْحَثُ عَنِ ٱلْكِبْرِيتِ.　彼はマッチを探し始めました。

يَبْدَأُ ٱلنَّاسُ يَقْرَأُونَ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ.　人々はアラビア語を読み始めます。

また、未完了形の動詞を後ろに続ける代わりに、動名詞を目的語として取ることもできます。

يَبْدَأُ ٱلنَّاسُ قِرَاءَةَ ٱللُّغَةِ ٱلْعَرَبِيَّةِ.

5　كَانَとその姉妹の重要動詞

كَانَとلَيْسَの基本的用法については第９課で、またその助動詞的用法については第11課で学びました。ここではكَانَとلَيْسَと同じように述部にきた名詞や形容詞が対格に変化し、また他の動詞の未完了形を伴って助動詞的に用いられる動詞を学びます。كَانَの助動詞的用法ではその後に動詞の完了形が用いられることもありますが、ここで学ぶ動詞の場合には常に未完了形が用いられます。كَانَの仲間に分類されるこうした動詞をアラビア語文法では「كَانَの姉妹」

と呼んでいます。

◇「…になる」を意味する動詞：( )内は未完了形を示します。

(يَبِيتُ) بَاتَ／(يُمْسِي) أَمْسَى／(يُصْبِحُ) أَصْبَحَ／(يَصِيرُ) صَارَ

أَصْبَحَ أُسْتَاذًا. 彼は偉大な教授になりました。

سَيُصْبِحُ جَمِيلاً. それは美しくなるでしょう。

◇「…のままでいる」「…し続ける」を意味する動詞：

(يَدُومُ) دَامَ／(يَظَلُّ) ظَلَّ／(يَبْقَى) بَقِيَ

بَقِيَ مُوَظَّفًا لِلشَّرِكَةِ طُولَ حَيَاتِهِ.

彼は生涯、その会社の職員で居続けました。

◇一定の形式で用いられる動詞：

- لاَ يَزَالُ／لَمْ يَزَلْ／مَا زَالَ：…のままでいる、…し続ける、今も…である

مَا زَالَ مُحَمَّدٌ مُدِيرًا لِمَكْتَبِ ٱلرَّئِيسِ.

ムハンマドは今も大統領室長官です。

- مَا دَامَ：…である間は、…し続ける限りは

يُسَاعِدُهُ أَصْدِقَاؤُهُ مَا دَامَ فَقِيرًا.

彼が貧しいあいだ、彼の友人たちが彼を援助します。

- لَمْ يَعُدْ／مَا عَادَ：2度と…しない、もはや…でない

قَالُوا لِي إِنَّهُ مَا عَادَ سَاكِنًا فِي دِمَشْقَ.

彼らは私に彼はもうダマスカスに住んでいないと言いました。

述部が前置詞句の場合、كَانَやلَيْسَの場合と同様に述部はそのままの形で用います。

لاَ تَزَالُ جَامِعَتُنَا فِي ٱلْعَاصِمَةِ.　私たちの大学は今でも首都にあります。

ظَلَّتْ بِحَاجَةٍ إِلَى مُسَاعَدَتِهِ.　彼女は彼の援助を必要とし続けました。

* لَيْسَを用いた構文のなかでلَيْسَの後に前置詞مِنْを置き、その後に非限定名詞を用いて「...はいない、...はない」を示す重要構文があります。

لَيْسَ مِنْ أُسْتَاذٍ يَعْرِفُ ٱللُّغَةَ ٱلْفَارِسِيَّةَ فِي جَامِعَتِي.

私の大学にはペルシア語を知っている教授はいません。

これらの動詞は、助動詞的に後ろに未完了の動詞を伴って用いられます。通常、主語が人称代名詞の場合は省略されますが、それ以外の主語が用いられる場合、主語はこれらの動詞と未完了形の間に置かれます。この場合、未完了形には、主語の性と数に一致した活用を用いなければなりません。

أَصْبَحَ ٱلطُّلاَّبُ يَتَعَلَّمُونَ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ.

学生たちはアラビア語を学ぶようになりました。

ظَلَّتْ أُمُّ مُحَمَّدٍ تَبْحَثُ عَنْ وَلَدِهَا فِي ٱلسُّوقِ.

ムハンマドのお母さんは市場で彼女の子供を捜し続けました。

مَا زَالَ ٱلْبَاحِثُ يَعْمَلُ فِي ٱلْمَعْهَدِ.

その研究者はまだその研究所で働いています。

لَمْ نَعُدْ نَرْجِعُ إِلَى بَلَدِنَا بَعْدَ ٱلْحَرْبِ.

戦争の後で私たちは二度と私たちの国へ戻りませんでした。

مَا زَالَ／لَمْ يَزَلْ／لاَ يَزَالُの３つのパターンは、どれも現在(今でも...している、いまだに...である）を意味しますが、これを過去形にする場合にはكَانَを文頭に付け加えます。

لاَ أَزَالُ مُعَلِّمًا.　私は今も教師です。

كُنْتُ لاَ أَزَالُ مُعَلِّمًا.　私は（その時）まだ教師をしていました。

لاَ يَزَالُ ٱلرُّكَّابُ يَنْتَظِرُونَ دَاخِلَ ٱلْقِطَارِ.

乗客たちは列車内で今も待機しています。

كَانَ ٱلرُّكَّابُ لاَ يَزَالُونَ يَنْتَظِرُونَ دَاخِلَ ٱلْقِطَارِ.

乗客たちは列車内でまだ待機していました。

زَالَの本来の意味は「消滅する、消え去る」です。そしてこの意味で用いられる限り、زَالَ/زَالَتْ/زُلْتَ/زُلْتِ/زُلْتُと第1語根のزはくぼみ動詞قَالَのパターンと同じになります。

しかし、否定詞とともに「...し続ける」の表現として用いられると、その活用はمَا زَالَ/مَا زَالَتْ/مَا زِلْتَ/مَا زِلْتِ/مَا زِلْتُのように第1語根のزがくぼみ動詞نَالَのパターンと同じになります。なお、未完了形や要求形においてはどちらもくぼみ動詞نَالَ（يَزَالُ／يَزَلْ）のパターンとなります。

◇助動詞的に用いられる他の重要動詞：

- كَادَ「ほとんど...だ、もう少しで...するところだった」

  活用は「くぼみ動詞２」のパターンでكَادَ/كَادَتْ/كِدْتَ/كِدْتِ/كِدْتُ（完了形）、يَكَادُ/تَكَادُ/تَكَادُ/تَكَادِينَ/أَكَادُ（未完了形）となります。

  كَادَ يَمُوتُ جُوعًا.　彼はもう少しで飢え死にするところでした。

  ＊كَادَ أَنْ＋接続形の形で用いられる場合もあります。

- مَا كَادَ／لاَ يَكَادُ「ほとんど...でない、かろうじて...する」

  لاَ تَكَادُ تُكْمِلُ عَمَلَهَا قَبْلَ ٱلْعَشَاءِ.

  彼女が夕食前に彼女の仕事を終えるのはまず難しいでしょう。

  مَا كَادَ يُغَادِرُ بَيْتَهُ حَتَّى عَادَ وَالِدَاهُ.

  彼は彼の両親が戻るやいなや家を後にしました。

- أَوْشَكَ「ほとんど...するところだった、まさに行為が行なわれる時点にいた」
  （通常、أَنْ＋接続形を伴って用いられます）

أَوْشَكَتِ ٱلْأُسْتَاذَةُ أَنْ تُنْهِيَ دَرْسَهَا.

教授は彼女の授業を終えるところでした。

＊ أَوْشَكَ أَنْ تُنْهِيَ ٱلْأُسْتَاذَةُ دَرْسَهَا.という表現でも用いられます。この場合、أَوْشَكَは常に3人称男性単数形の活用となることに注意してください。また、さらによく用いられる表現としてعَلَى وَشْكِ＋動名詞、またはعَلَى وَشْكِ أَنْ＋接続形があります。

كُنْتُ عَلَى وَشْكِ ٱلْوُصُولِ إِلَى ٱلْجَامِعَةِ. 私は大学に到着しかけていました。

- طَالَمَا「…する限りは」(未完了形または名詞節を伴って)

「しばしば、長期にわたって」(完了形を伴って)

طَالَمَا يَسْتَمِرُّ ٱلِاحْتِلَالُ يَبْقَى ٱلْحَلُّ صَعْبًا.

占領が続く限り、解決は困難なままでしょう。

طَالَمَا أَنْتَ عِنْدَنَا نُسَاعِدُكَ.

あなたが私たちのもとにいる限り、私たちはあなたを援助しましょう。

طَالَمَا سَقَطَتْ أَمْطَارٌ غَزِيرَةٌ فِي ٱلْمِنْطَقَةِ ٱلشَّرْقِيَّةِ.

しばしば東部地区で大量の雨が降りました。

- سَبَقَ「すでに(以前に)…していた」

سَبَقَ لِ أَنْ＋完了形のパターンで用いられます。前置詞لِの後に意味上の主語を入れます。もともとسَبَقَは「先行する」の意味ですが、「すでに(以前に)…していた」の意味で用いる場合にはأَوْشَكَのところで述べたと同じように常に3人称男性単数形で用いられます。

سَبَقَ لِي أَنْ زُرْتُ فَاسَ. 私はすでに(以前に)フェズを訪れていました。

- عَسَى「おそらく…であろう」(期待感、願望を表します)

常にこの3人称男性単数の完了形でأَنْ＋接続形を伴って用いられます。

عَسَى ٱلْأَمْرُ أَنْ يَنْتَهِيَ. おそらくそのことは終わるでしょう。

6　称賛と非難の動詞

نِعْمَは「なんと素晴らしい…」と称賛を表し、بِئْسَは「なんとひどい…」と非難を示す動詞です。لَيْسَと同じように完了の形をしていますが、現在のことを表します。また、この動詞は通常、３人称単数の形でしか用いられません。

نِعْمَ عَلِيٌّ.　アリーはなんと素晴らしいのだろうか。

نِعْمَ عَلِيٌّ أُسْتَاذًا.　アリーは教授としてなんと素晴らしいのだろうか。

نِعْمَتْ وَرْدَةُ.　ワルダはなんと素晴らしいのだろうか。

نِعْمَتْ وَرْدَةُ طَبِيبَةً.　ワルダは医者としてなんと素晴らしいのだろうか。

بِئْسَ ٱلْوَلَدُ ٱلْعَاقُّ.　なんてひどい反抗的な少年だろうか。

بِئْسَتِ ٱلْبِنْتُ ٱلْعَاقَّةُ.　なんてひどい反抗的な少女だろうか。

＊主語が女性の場合であっても.نِعْمَ وَرْدَةُのように男性形の活用が用いられることもあります。

7　動詞の意味をもつ特殊な単語

ここで紹介する単語は、主語の性や数に関係なく一定の形で動詞の完了形、未完了形、命令形の意味を表すものです。文法書によっては間投詞として扱っているものもあります。一定の意味しか示さないことから通常の動詞の完了形、未完了形、命令形よりも強調された意味を伝えます。（　）内は同じ意味を表す通常の動詞。

◇完了形：

- هَيْهَاتَ：「遠のく」(بَعُدَ)

هَيْهَاتَ ٱلْأَمَلُ فِي ٱلنَّجَاحِ.　成功の希望は遠のきました。

◇未完了形：おもに感情を表現します。

- أُفَّ／أُفٌّ／أُفْ：不快感、不満足感を表す。「私は不満です」(أَتَضَجَّرُ)

أُفْ لَقَدْ مَلَلْتُ مِنَ ٱلْعَمَلِ. ああ、つまらない。私は仕事に飽きてしまった。

- آهْ／آهِ：痛み、悲しみや残念な気持ちを表す。「私は痛みに悩む」(أَتَوَجَّعُ)

آهْ مِنْ هٰذَا ٱلْأَمْرِ. ああ、この件は残念だ。

- وَيْ：驚きの気持ちを表す。「私は感心する」(أَتَعَجَّبُ)

وَيْ لِزَيْدٍ. ザイドには感心させられる。

◇命令形：

- هَيَّ／هَيَّا：「急ぎなさい」(أَسْرِعْ)

هَيَّا إِلَى ٱلْعَمَلِ. 仕事へ急ぎなさい。　　هَيَّا بِنَا. さあ、行こう。

- حَيَّ：「来なさい」(أَقْبِلْ)

حَيَّ عَلَى ٱلصَّلاَةِ. 礼拝に来たれ。

＊حَيَّは、一日５回の礼拝を義務づけられているムスリムに、礼拝時間が来たことを告げる呼びかけ、アザーン (اَلْأَذَانُ) で用いられています。

- صَهْ：「黙りなさい」(أُسْكُتْ)

صَهْ يَا وَلَدُ. そこの男の子、黙りなさい。

- هَلُمَّ：「来なさい」(أَقْبِلْ／تَعَالْ)

هَلُمَّ إِلَيَّ. 私の方に来なさい。

- هَاتِ：「私によこしなさい」(أَعْطِنِي)

هَاتِ ٱلْكَأْسَ. コップをよこしなさい。

هَاتِ عَكْسَ ٱلْكَلِمَاتِ ٱلَّتِي تَحْتَهَا خَطٌّ. 下線部の単語の対語を答えよ。

- إِلَيْكَ／هَاكَ：「取りなさい」(خُذْ)

هَاكَ (إِلَيْكَ) ٱلْكِتَابَ. 本を取りなさい。

• إِلَيْكَ :「離れなさい」(اِبْتَعِدْ)

إِلَيْكَ عَنِّي. 私から離れなさい。

＊最後の２つのパターンの場合には、相手の性や数によってهَاكِ／هَاكُمْ／إِلَيْكُمْのように変化します。またهَلُمَّやهَاتِもهَلُمِّي／هَلُمُّوا、هَاتِي／هَاتُواのように変化させて用いられることもあります。

＊３語根動詞のفَعَالِのパターンは、強調された命令を示すパターンとして用いられることがあります。

حَذَارِ「注意しなさい」(اِحْذَرْ)　　حَذَارِ ٱلْأَسَدَ. ライオンに注意。

8　祈願と誓約

アラビア語にはアッラーという言葉を主語として祈願の意を示す表現があります。またこの種の表現にはイスラームの預言者ムハンマドやその後継者であるカリフたちの名前の後に決まって用いられるものもあります。こうした祈願の意を示す場合、動詞は通常、完了形で用いられますが、会話などにおいては未完了形で用いられることもあります。

سَيِّدُنَا مُحَمَّدٌ صَلَّى ٱللّٰهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ.

我々の主人たるムハンマド、彼にアッラーの祝福と御加護がありますように。

اَلْخَلِيفَةُ عَلِيٌّ رَضِيَ ٱللّٰهُ عَنْهُ.

カリフたるアリー、アッラーが彼にその喜びを賜われますように。

بَارَكَ ٱللّٰهُ فِيكُمْ. アッラーがあなた方に祝福を与えてくださいますように。

حَيَّاكَ ٱللّٰهُ. アッラーがあなたの命を守ってくださいますように。

رَحِمَهُ ٱللّٰهُ／اَللّٰهُ يَرْحَمُهُ.

アッラーが彼に慈悲を与えてくださいますように。(死者の冥福を祈る言葉)

＊رَحِمَهُ ٱللّٰهُは通常、その前に人名を置きます。またرَحِمَの受動分詞مَرْحُومٌ「慈悲を与えられた」は、死者に対する尊称として用いられます。

اَلْأُسْتَاذُ ٱلْمَرْحُومُ ٱلشَّيْخُ عَبْدُ ٱلْقَادِرِ ٱلْمَغْرِبِيُّ

故シャイフ・アブドルカーディル・アルマグリビー先生

アッラーという言葉は祈願のほかに誓約の表現でも用いられます。アッラーという言葉を導く誓約のための語には、وَとبِとتَの3つがあります。これら3つの語はどれも前置詞として働きます。تَはアッラーにしか用いられませんが、وَとبِについてはアッラー以外の言葉、حَقٌّ「真実、正当性」やحَيَاةٌ「生涯、人生、命」などにも用いられます。また誓約の後に文が続く場合、次の原則に注意しなければなりません。

- 名詞先行文の場合：إِنَّまたはإِنَّ...لَで強調されます。

وَٱللهِ إِنَّ فَاعِلَ ٱلْخَيْرِ لَمَحْبُوبٌ.

アッラーにかけて、善を行なう者は愛されるのです。

- 動詞先行文で動詞が完了形の場合：قَدْまたはلَقَدْで強調されます。

تَٱللهِ لَقَدْ أَطَعْتُ أَمْرَكَ. アッラーにかけて、私はあなたの命に従いました。

- 動詞先行文で動詞が未完了形の場合：لَとنَّで強調されます。

بِحَيَاةِ ٱلنَّبِيِّ لَأُحَاسِبَنَّ ٱلْمُقَصِّرَ.

預言者の命（生涯）にかけて、私はやるべきことをきちんと行なわない人には責任をとらせます。

- 否定文の場合：名詞先行文でも動詞先行文でも強調されることはありません。

وَحَقِّكَ لاَ نَجَاحَ إِلاَّ بِٱلْمُثَابَرَةِ.

あなたの正当性にかけて、根気よく続ける以外に成功はありません。

بِٱللهِ مَا يَضِيعُ مَجْهُودُكَ.

アッラーにかけて、あなたが努力したことは無駄にはなりません。

第32課　数詞

アラビア語の数詞は、それをきちんと使いこなすためには性や格変化の区別、また複数形などをきちんと学んでおく必要があり、やや複雑なしくみになっています。しかし原則をきちんと把握すればそれほど混乱することもありません。なぜアラブ人がこのような数詞のしくみをつくったのかを考え、また楽しみながら学ぶことが大切です。

1　1から10まで

数詞は数えられる対象の性の違いによって2種類に区別されます。

	数えられる対象が男性形	数えられる対象が女性形
1	أَحَدٌ/ وَاحِدٌ	إِحْدَى/ وَاحِدَةٌ
2	اِثْنَانِ (اِثْنَيْنِ)	اِثْنَتَانِ (اِثْنَتَيْنِ)
3	ثَلَاثَةٌ	ثَلَاثٌ
4	أَرْبَعَةٌ	أَرْبَعٌ
5	خَمْسَةٌ	خَمْسٌ
6	سِتَّةٌ	سِتٌّ
7	سَبْعَةٌ	سَبْعٌ
8	ثَمَانِيَةٌ	ثَمَانٍ [ثَمَانِي]
9	تِسْعَةٌ	تِسْعٌ
10	عَشَرَةٌ	عَشْرٌ

*「1」には2通りの言い方があります。إِحْدَى「1」はこの読み方で3つの格に対応します。

* 2の(　)内は対格と属格の場合に用いられます。

＊8の[　]内は限定された場合に用いられます。

＊10のعَشَرَةٌとعَشْرٌの発音の違いに注意しましょう。

◇1と2の用法：

数詞（اِثْنَانِとوَاحِدٌ）は形容詞と同じように用いられます。すなわち名詞（数えられる対象）の後ろにきて、その名詞の性と格変化に一致させます。

كِتَابٌ وَاحِدٌ　1冊の本（主格）

كِتَابَانِ ٱثْنَانِ　2冊の本（主格）　　كِتَابَيْنِ ٱثْنَيْنِ　2冊の本（対格・属格）

لُغَةٌ وَاحِدَةٌ　1言語（主格）

لُغَتَانِ ٱثْنَتَانِ　2言語（主格）　　لُغَتَيْنِ ٱثْنَتَيْنِ　2言語（対格・属格）

＊アラビア語の単語はそれ自体が単数を示し、また双数形がありますから、強調する場合を除いて、「1」と「2」の数詞を使う必要はありません。

أَحَدٌ(إِحْدَى)は、おもに他の名詞と属格関係を形成して用いられます。

أَحَدُ ٱلنَّاسِ　人々の1人（主格）

إِحْدَى ٱلطَّالِبَاتِ　女子学生たちの1人（主格、対格、属格）

وَاحِدٌ (وَاحِدَةٌ)も後ろに複数形を伴って用いられることがありますが、その場合は前置詞مِنْを伴います。

وَاحِدٌ مِنَ ٱلنَّاسِ　人々のなかの1人（主格）

وَاحِدَةٌ مِنَ ٱلطَّالِبَاتِ　女子学生たちのなかの1人（主格）

◇3から10の用法：

数えられる対象が男性名詞の場合、数詞は女性形（ةが付いている形）を用います。数えられる対象が女性名詞の場合、数詞は男性形を用います。

名詞は「非限定、複数形、属格」となって、数詞の後ろに置かれます。言い替えれば数詞と名詞は属格関係を形成します。格変化は数詞で示されます。

ثَلاَثَةُ كُتُبٍ　3冊の本（主格）　　ثَلاَثَةَ كُتُبٍ　3冊の本（対格）

ثَلاَثَةِ كُتُبٍ　3冊の本（属格）

خَمْسُ لُغَاتٍ　5言語（主格）　　خَمْسَ لُغَاتٍ　5言語（対格）

خَمْسِ لُغَاتٍ　5言語（属格）

＊「8」の数詞（男性形）の格変化には注意しましょう。

ثَمَانِي مَدَارِسَ　8つの学校（主格）　　ثَمَانِيَ مَدَارِسَ　8つの学校（対格）

ثَمَانِي مَدَارِسَ　8つの学校（属格）

2　11から19まで

1から10と同様に数詞は2種類に区別されます。

	数えられる対象が男性形	数えられる対象が女性形
11	أَحَدَ عَشَرَ	إِحْدَى عَشْرَةَ
12	(اِثْنَيْ عَشَرَ) اِثْنَا عَشَرَ	(اِثْنَتَيْ عَشْرَةَ) اِثْنَتَا عَشْرَةَ
13	ثَلاَثَةَ عَشَرَ	ثَلاَثَ عَشْرَةَ
14	أَرْبَعَةَ عَشَرَ	أَرْبَعَ عَشْرَةَ
15	خَمْسَةَ عَشَرَ	خَمْسَ عَشْرَةَ
16	سِتَّةَ عَشَرَ	سِتَّ عَشْرَةَ
17	سَبْعَةَ عَشَرَ	سَبْعَ عَشْرَةَ
18	ثَمَانِيَةَ عَشَرَ	ثَمَانِيَ عَشْرَةَ
19	تِسْعَةَ عَشَرَ	تِسْعَ عَشْرَةَ

＊「12」の（　）内は対格と属格の場合に用いられます。

10の位は数えられる対象となっている名詞の性に一致し、1の位は1から9までの数詞の用法に一致します。

名詞は「非限定、単数形、対格」となって数詞の後ろに置かれます。数詞の格変化は「12」を除いて一定で、言い換えれば、1の位も、10の位もファトハで3つの格に対応します。

أَحَدَ عَشَرَ كِتَابًا	11冊の本（主格、対格、属格）
إِحْدَى عَشْرَةَ لُغَةً	12言語（主格、対格、属格）
خَمْسَةَ عَشَرَ طَالِبًا	15人の学生（主格、対格、属格）
ثَمَانِيَ عَشْرَةَ طَالِبَةً	18人の女子学生（主格、対格、属格）

＊「18」については、ثَمَانِي عَشْرَةَを主格と属格で用い、ثَمَانِيَ عَشْرَةَを対格で用いることもあります。

3　20から99まで

◇20から29の用法：

数詞はやはり1の位が2種類に区別されます。

	数えられる対象が男性形	数えられる対象が女性形
20	عِشْرُونَ (عِشْرِينَ)	عِشْرُونَ (عِشْرِينَ)
21	وَاحِدٌ وَعِشْرُونَ	وَاحِدَةٌ وَعِشْرُونَ
	أَحَدٌ وَعِشْرُونَ	إِحْدَى وَعِشْرُونَ
22	اِثْنَانِ وَعِشْرُونَ	اِثْنَتَانِ وَعِشْرُونَ
	(اِثْنَيْنِ وَعِشْرِينَ)	(اِثْنَتَيْنِ وَعِشْرِينَ)
23	ثَلَاثَةٌ وَعِشْرُونَ	ثَلَاثٌ وَعِشْرُونَ
24	أَرْبَعَةٌ وَعِشْرُونَ	أَرْبَعٌ وَعِشْرُونَ
25	خَمْسَةٌ وَعِشْرُونَ	خَمْسٌ وَعِشْرُونَ

26	سِتَّةٌ وَعِشْرُونَ	سِتٌّ وَعِشْرُونَ
27	سَبْعَةٌ وَعِشْرُونَ	سَبْعٌ وَعِشْرُونَ
28	ثَمَانِيَةٌ وَعِشْرُونَ	ثَمَانٍ وَعِشْرُونَ (ثَمَانِيًا وَعِشْرُونَ)
29	تِسْعَةٌ وَعِشْرُونَ	تِسْعٌ وَعِشْرُونَ

＊20の（　）内は対格、属格の場合に用いられます。

＊21は２通りの言い方があります。

＊22の（　）内は対格、属格の場合に用いられます。

＊28の（　）内は対格の場合に用いられます。ثَمَانٍは主格、属格を示します。

数えられる対象となっている名詞の性については１の位では１から９までの原則が適用されますが、「20」については性に関係なくعِشْرُونَが用いられます。１の位と「20」は接続詞وَによって結ばれます。

名詞は「非限定、単数形、対格」となって数詞の後ろに置かれます。格変化は、１の位と「20」の数詞によって示されます。

رَجَعَتْ عِشْرُونَ طَالِبَةً.　20人の女子学生が戻ってきました。

قَابَلْتُ عِشْرِينَ طَالِبَةً.　私は20人の女子学生と面会しました。

إِلَى عِشْرِينَ طَالِبَةً　20人の女子学生へ

دَرَسْتُ خَمْسًا وَعِشْرِينَ لُغَةً.　私は25の言語を研究しました。

بَعْدَ ثَلَاثَةٍ وَعِشْرِينَ يَوْمًا　23日後に

حَضَرَتِ ٱلْوُفُودُ مِنْ ثَمَانٍ وَعِشْرِينَ دَوْلَةً.

28カ国から代表団がやってきました。

فِي ٱلشَّرِكَةِ أَرْبَعَةٌ وَعِشْرُونَ مُوَظَّفًا وَسَبْعٌ وَعِشْرُونَ مُوَظَّفَةً.

その会社には24人の男性従業員と27人の女性従業員がいます。

◇30から99の用法

30 ثَلَاثُونَ (ثَلَاثِينَ)　　40 أَرْبَعُونَ (أَرْبَعِينَ)

50 خَمْسُونَ (خَمْسِينَ)　　60 سِتُّونَ (سِتِّينَ)

70 سَبْعُونَ (سَبْعِينَ)　　80 ثَمَانُونَ (ثَمَانِينَ)

90 تِسْعُونَ (تِسْعِينَ)　＊(　)内は対格、属格の場合に用いられます。

30から99までは、20から29の原則がそのまま適用されます。

فِي صَفِّنَا خَمْسَةٌ وَأَرْبَعُونَ طَالِبًا.　私たちのクラスには45人の学生がいます。

4　100から999まで

100 مِئَةٌ／مِائَةٌ　　200 مِئَتَانِ (مِئَتَيْنِ)

＊100は2つのかたちで用いられますが、ا を発音しないため、両者は同じ発音になります。200の(　)内は対格、属格の場合に用いられます。

300から900は、3から9までの数詞の原則が適用されます。100という単語は女性名詞ですから、たとえば「300」をつくるにはثَلَاثُを用います。そして数詞の後には、原則にしたがえば、非限定、複数形、属格のمِئَاتٍが用いられなければなりませんが、この100の位を表す形では、単数形が用いられていることに注意してください。

	主格	対格	属格
300	ثَلَاثُمِئَةٍ	ثَلَاثَمِئَةٍ	ثَلَاثِمِئَةٍ
400	أَرْبَعُمِئَةٍ	أَرْبَعَمِئَةٍ	أَرْبَعِمِئَةٍ
500	خَمْسُمِئَةٍ	خَمْسَمِئَةٍ	خَمْسِمِئَةٍ
600	سِتُّمِئَةٍ	سِتَّمِئَةٍ	سِتِّمِئَةٍ

700	سَبْعُمِئَةٍ	سَبْعَمِئَةٍ	سَبْعِمِئَةٍ
800	ثَمَانِيمِئَةٍ	ثَمَانِيَمِئَةٍ	ثَمَانِيمِئَةٍ
900	تِسْعُمِئَةٍ	تِسْعَمِئَةٍ	تِسْعِمِئَةٍ

＊通常、数詞として用いる場合には上述のように１つの単語として書きます。後述する分数と区別するためです。

◇100の位の用法：

数えられる対象となる名詞の性による使い分けはありません。名詞は「非限定、単数形、属格」となって数詞の後ろに置かれます。

300からの格変化は３から９の数詞によって示されます。800はثَمَانِيمِئَةٍで主格、属格を示し、ثَمَانِيَمِئَةٍで対格を示します。

مِئَةُ رَجُلٍ　100人の男（主格）　　مِئَةَ وَلَدٍ　100人の少年（対格）

مِئَةِ بِنْتٍ　100人の娘（属格）

مِئَتَا رَجُلٍ　200人の男（主格）　　مِئَتَيْ وَلَدٍ　200人の少年（対格、属格）

دَرَسَ ثَلاثُمِئَةِ طَالِبٍ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ.

300人の学生がアラビア語を学びました。

اِسْتَقْبَلْنَا خَمْسَمِئَةِ طَالِبَةٍ.　私たちは500人の女子学生を迎えました。

أَكْتُبُ رِسَالَةً إِلَى سَبْعِمِئَةِ شَرِكَةٍ.　私は700社に手紙を書きます。

◇101から999の用法：

101は１の位に単数形、102は１の位に双数形を用います。103からは、これまでの原則にしたがって数詞を接続詞وでつなげていきます。

مِئَةُ كِتَابٍ وَكِتَابٌ　101冊の本(主格)　　مِئَةَ كِتَابٍ وَكِتَابًا　101冊の本(対格)

مِئَةِ كِتَابٍ وَ كِتَابٍ　101冊の本(属格)

مِئَتَا كِتَابٍ وَكِتَابَانِ　202冊の本(主格)　　ثَلاَثُمِئَةِ كِتَابٍ وَكِتَابَيْنِ　302冊の本(対格)

خَمْسِمِئَةِ كِتَابٍ وَكِتَابَيْنِ　502冊の本（属格）

مِئَةٌ وَثَلاَثَةُ كُتُبٍ　103冊の本（主格）

5　1000以上

1000　أَلْفٌ　　2000　أَلْفَانِ (أَلْفَيْنِ)

＊2000の（ ）内は対格、属格の場合に用いられます。

أَلْفٌは男性名詞でその複数形はآلاَفٌですから、3000という場合には原則にしたがってثَلاَثَةٌを用います。300から900と異なりثَلاَثَةٌとآلاَفٌを1つにして書くことはありません。أَلْفٌにはأُلُوفٌという複数形もありますが、これはおもに不特定多数（「数千の…」）を意味する時に用いられます。

3000　ثَلاَثَةُ آلاَفٍ　　4000　أَرْبَعَةُ آلاَفٍ

5000　خَمْسَةُ آلاَفٍ　　6000　سِتَّةُ آلاَفٍ

7000　سَبْعَةُ آلاَفٍ　　8000　ثَمَانِيَةُ آلاَفٍ

9000　تِسْعَةُ آلاَفٍ　　1万　عَشَرَةُ آلاَفٍ

2万からは「20から99」「100」の原則にしたがいます。

2万　عِشْرُونَ أَلْفًا (عِشْرِينَ أَلْفًا)

3万　ثَلاَثُونَ أَلْفًا　　4万　أَرْبَعُونَ أَلْفًا

5万　خَمْسُونَ أَلْفًا　　6万　سِتُّونَ أَلْفًا

7万　سَبْعُونَ أَلْفًا　　8万　ثَمَانُونَ أَلْفًا

9万　تِسْعُونَ أَلْفًا　　10万　مِئَةُ أَلْفٍ

20万　مِئَتَا أَلْفٍ (مِئَتَيْ أَلْفٍ)　　30万　ثَلاَثُمِئَةِ أَلْفٍ

100万　مِلْيُونٌ [مَلاَيِينُ]　　200万　مِلْيُونَانِ (مِلْيُونَيْنِ)

300万	ثَلَاثَةُ مَلَايِينَ	1000万	عَشَرَةُ مَلَايِينَ
2000万	عِشْرُونَ مِلْيُونًا	3000万	ثَلَاثُونَ مِلْيُونًا
1億	مِئَةُ مِلْيُونٍ	2億	مِئَتَا مِلْيُونٍ (مِئَتَيْ مِلْيُونٍ)
3億	ثَلَاثُمِئَةِ مِلْيُونٍ	10億	بِلْيُونٌ [بَلَايِينُ]／مِلْيَارٌ [مِلْيَارَاتٌ]

＊2万と200万と2億の(　)内は対格、属格の場合です。

＊100万、10億の[　]内は複数形です。

100から900と同じように名詞は「非限定、単数形、属格」で数詞の後ろに置かれます。1の位や他の位を伴う場合は101から999の原則にしたがいます。

أَلْفُ لَيْلَةٍ وَلَيْلَةٌ 1001夜

6　不特定多数の表現

عَشَرَةٌ「10」の複数形عَشَرَاتٌ、مِئَةٌ「100」の複数形مِئَاتٌ、أَلْفٌ「1000」の複数形آلَافٌやأُلُوفٌは、前置詞مِنْを伴ったり、また他の複数形と属格関係を形成し、不特定多数を示します。

عَشَرَاتٌ مِنَ ٱلطُّلَّابِ	数十人の学生は	مِئَاتٌ مِنَ ٱلنَّاسِ	数百人の人々は
أُلُوفٌ مِنَ ٱلْكَلِمَاتِ	数千もの単語は	آلَافُ ٱلْمُتَظَاهِرِينَ	数千ものデモ隊は

عَشَرَاتُ أُلُوفِ ٱلرَّسَائِلِ　数万通の手紙は

مِئَاتُ ٱلْأُلُوفِ مِنَ ٱلْفِلَسْطِينِيِّينَ　数十万人のパレスチナ人たちは

7　数詞が付いた名詞の限定

これまで説明したように、数詞を伴う名詞はどの場合も非限定で用いられています。では、その名詞が限定された場合にはどのようになるのでしょうか。その代表的な用法を示しておきます。

◇数詞の後ろに置かれていた名詞を数詞に先行させる方法：

１と２については先行する限定名詞に一致させて定冠詞を付けます。

اَلْكِتَابُ ٱلْوَاحِدُ　その１冊の本　　اَلْكِتَابَانِ ٱلِاثْنَانِ　その２冊の本

３から10は限定名詞を数詞に先行させ、数詞はそのままにして定冠詞を付けます。そして先行する名詞の格変化に一致させます。

اَلْكُتُبُ ٱلثَّلَاثَةُ　その３冊の本　　اَللُّغَاتُ ٱلْخَمْسُ　その５言語

اَلْمَدَارِسُ ٱلْعَشْرُ　その10校

11から19は複数形にした限定名詞を先行させ、１の位のみに定冠詞を付けます。

اَلطُّلَّابُ ٱلْأَرْبَعَةَ عَشَرَ　その14人の学生

اَلطَّالِبَاتُ ٱلثَّلَاثَ عَشْرَةَ　その13人の女学生

20、30、100、200などの場合、複数形にした限定名詞を先行させ、その後ろに先行名詞の格変化に一致さた数詞を定冠詞を付けて置きます。

اَلْأَيَّامُ ٱلْعِشْرُونَ　その20日（間）　　اَلرِّجَالُ ٱلْمِئَةُ　その100人の男たち

اَلْمُوَظَّفُونَ ٱلْمِئَتَانِ　その200人の職員たち

وَで結ばれている場合は複数形にした限定名詞を先行させ、すべての数詞に定冠詞を付けます。

اَلسَّاعَاتُ ٱلْأَرْبَعُ وَٱلْعِشْرُونَ　その24時間

◇数詞と名詞の位置はそのままにして限定する方法：

１と２については前述の通りです。３から10までは名詞に定冠詞を付けます。

عَشَرَةُ ٱلْأَمْثَالِ　その10の諺　　خَمْسُ ٱلطَّالِبَاتِ　その５人の女学生

11から19は数詞の１の位だけに定冠詞を付けます。

اَلْأَحَدَ عَشَرَ صَدِيقًا　その11人の友人

اَلثَّلَاثَةَ عَشَرَ طَالِبًا　その13人の学生

اَلسِّتَ عَشْرَةَ طَالِبَةً　その16人の女学生

وでつながれている数詞はすべての数詞に定冠詞を付けます。

قَاتَلَ ٱلْخَمْسُونَ جُنْدِيًّا ٱلسَّبْعِينَ عَدُوًّا.

その50人の兵士はその70人の敵と戦いました。

قَابَلْتُ ٱلْخَمْسَةَ وَٱلثَّلَاثِينَ طَالِبًا.　私はその35人の学生と面会しました。

8　その他の数を示す名詞

- صِفْرٌ「0」
- بَعْضٌ：まとまりや部分を示します。通常「いくつか、何人か」と訳されます。しかし一方で「1つ、1人」の意味も忘れないでください。

بَعْضُ ٱلنَّاسِ　何人かの人々

- بِضْعٌ：3から9まで、1から4までなど、いろいろな解釈がありますが、これも通常は「いくつか」と訳されます。3から9の数詞と同様、数えられる対象となっている名詞の性によって、بِضْعَةٌとبِضْعٌの2つに区別されます。また名詞は「非限定、複数形、属格」となって後ろに置かれます。

بِضْعَةُ رِجَالٍ　何人かの男　　بِضْعُ بَنَاتٍ　何人かの娘

- عَدَدٌ「いくつか、何人か」：数えられる数、人数を示します。عَدَدٌ مِنْの形で限定、複数名詞を伴って用いられます。

عَدَدٌ مِنَ ٱلْجَامِعَاتِ　いくつかの大学

- عَدِيدٌ「たくさん」：كَثِيرٌと同じ意味となり、عَدِيدٌ مِنْの形で限定、複数名詞を伴います。

عَدِيدٌ مِنَ ٱلْمَدَارِسِ　たくさんの学校

＊كَثِيرٌと同じように形容詞として名詞の後に用いられることもあります。

مَدَارِسُ عَدِيدَةٌ たくさんの学校

- عِدَّةٌ「いくつか、何人か」：
非限定、複数名詞、属格を伴います。

عِدَّةُ أَيَّامٍ 何日か　　عِدَّةُ طُلَّابٍ 何人かの学生

عِدَّةُ دُوَلٍ いくつかの国家

- نَيِّفٌ：10以上の不特定の数を示します。

مِئَةُ طَالِبٍ وَنَيِّفٌ 百十数人の学生は

9　アラビア語の数字

アラビア語の数字は次のように書かれます。アラビア語は右から左へ書きますが、数詞に関しては、2桁以上になると左から右の順に書かれます。ゼロは点になるので注意してください。

٠	١	٢	٣	٤	٥	٦	٧	٨	٩
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

١٠ 10　　١٠٠ 100　　١٩٨٥ 1985　　٢٠٠٩ 2009

10　通し番号を示すアルファベット

アラビア語のアルファベットは、本の節や項、または試験問題などで通し番号として用いられることがあります。その場合、次のような順列になります。つまり、これらの文字はそれぞれそれに対応する数字（数価）をもっているのです。

また、この順列は、もともとセム語族（アッカド語、アラム語、ヘブライ語など）に共通したアルファベットの順列に一致するもので、いまのアルファベットの順とは異なります。そしてこの順列の最初の4文字をつなげ、اَلْأَبْجَدِيَّةُとすると「アルファベット」を意味します。

ا	ب	ج	د	ه	و	ز	ح	ط	ي
١	٢	٣	٤	٥	٦	٧	٨	٩	١٠

ك	ل	م	ن	س	ع	ف	ص	ق	ر
٢٠	٣٠	٤٠	٥٠	٦٠	٧٠	٨٠	٩٠	١٠٠	٢٠٠

ش	ت	ث	خ	ذ	ض	ظ	غ
٣٠٠	٤٠٠	٥٠٠	٦٠٠	٧٠٠	٨٠٠	٩٠٠	١٠٠٠

第33課　序数詞

1　1から10の序数詞

「第何番目の」という、順序を表現する場合には序数詞を用います。序数詞は、1を除いて能動分詞の基本パターンفَاعِلٌの形をとります。

	男性形	女性形
1（1番目）	اَلْأَوَّلُ	اَلْأُولَى
2（2番目）	اَلثَّانِي (اَلثَّانِيَ)	اَلثَّانِيَةُ
3（3番目）	اَلثَّالِثُ	اَلثَّالِثَةُ
4（4番目）	اَلرَّابِعُ	اَلرَّابِعَةُ
5（5番目）	اَلْخَامِسُ	اَلْخَامِسَةُ
6（6番目）	اَلسَّادِسُ	اَلسَّادِسَةُ
7（7番目）	اَلسَّابِعُ	اَلسَّابِعَةُ
8（8番目）	اَلثَّامِنُ	اَلثَّامِنَةُ
9（9番目）	اَلتَّاسِعُ	اَلتَّاسِعَةُ
10（10番目）	اَلْعَاشِرُ	اَلْعَاشِرَةُ

＊1の女性形اَلْأُولَىはこの形で主格、対格、属格の3つの格に対応します。

＊2の(　)内は対格の場合に用いられます。

序数詞は、形容詞と同様に名詞の後に置かれ、先行する名詞の性、格変化に一致した形をとります。

وَصَلَ ٱلْقِطَارُ ٱلْأَوَّلُ.　最初の列車が着きました。

رَكِبْتُ ٱلسَّيَّارَةَ ٱلْأُولَى.　私は最初の自動車に乗りました。

序数詞は、しばしば非限定、対格の形で副詞として用いられます。

أَوَّلاً 最初に、1番目に　ثَانِيًا 次に、2番目に　ثَالِثًا 3番目に

2　11から19の序数詞

	男性形	女性形
11（11番目）	اَلْحَادِيَ عَشَرَ	اَلْحَادِيَةَ عَشْرَةَ
12（12番目）	اَلثَّانِيَ عَشَرَ	اَلثَّانِيَةَ عَشْرَةَ
13（13番目）	اَلثَّالِثَ عَشَرَ	اَلثَّالِثَةَ عَشْرَةَ
14（14番目）	اَلرَّابِعَ عَشَرَ	اَلرَّابِعَةَ عَشْرَةَ
15（15番目）	اَلْخَامِسَ عَشَرَ	اَلْخَامِسَةَ عَشْرَةَ
16（16番目）	اَلسَّادِسَ عَشَرَ	اَلسَّادِسَةَ عَشْرَةَ
17（17番目）	اَلسَّابِعَ عَشَرَ	اَلسَّابِعَةَ عَشْرَةَ
18（18番目）	اَلثَّامِنَ عَشَرَ	اَلثَّامِنَةَ عَشْرَةَ
19（19番目）	اَلتَّاسِعَ عَشَرَ	اَلتَّاسِعَةَ عَشْرَةَ

＊1の位に定冠詞が付きます。

＊11から19まではこの形で主格、対格、属格の3つの格に対応します。

＊11と12の男性形は、اَلْحَادِي عَشَرَ、اَلثَّانِي عَشَرَの形もあり、この形で主格、属格に対応し、対格ではاَلْحَادِيَ عَشَرَ、اَلثَّانِيَ عَشَرَとなります。

اَلطَّالِبُ ٱلْحَادِيَ عَشَرَ 11番目の学生　اَلدَّرْسُ ٱلسَّابِعَ عَشَرَ 第17課

3　20以降の序数詞

20や30、また100や200、1000や2000などの場合は、特別な序数詞の形はなく、先行させた名詞の後に定冠詞を付けた数詞を置きます。またوَで結ばれている数詞の場合はすべての位に定冠詞を付けます。このとき1の位の1にはاَلْحَادِيを用いますが、先行する名詞の性、格変化にしたがって次のように変化します。

	男性形	女性形
主格	اَلْحَادِي	اَلْحَادِيَةُ
対格	اَلْحَادِيَ	اَلْحَادِيَةَ
属格	اَلْحَادِي	اَلْحَادِيَةِ

51ページに فِي ٱلصَّفْحَةِ ٱلْحَادِيَةِ وَٱلْخَمْسِينَ

4　分数、小数、パーセント、倍数

分数は、2分の1を除いてفُعْلٌのパターンでつくることができます。

نِصْفٌ (أَنْصَافٌ)	2分の1	ثُلْثٌ (أَثْلَاثٌ)	3分の1
رُبْعٌ (أَرْبَاعٌ)	4分の1	خُمْسٌ (أَخْمَاسٌ)	5分の1
سُدْسٌ (أَسْدَاسٌ)	6分の1	سُبْعٌ (أَسْبَاعٌ)	7分の1
ثُمْنٌ (أَثْمَانٌ)	8分の1	تُسْعٌ (أَتْسَاعٌ)	9分の1
عُشْرٌ (أَعْشَارٌ)	10分の1		

＊分数は男性名詞です。また（　）内は複数形です。

分子が２の場合は、分母の語の双数形を用います。分子が３以上の場合は、数詞の原則にしたがって、分子の数詞を置き、その後ろに分母の語の複数形を属格で続けます。

ثَلَاثَةٌ وَثُلْثَانِ　3と3分の2　　ثَلَاثَةُ أَخْمَاسٍ　5分の3

小数は、コンマ（فَاصِلَةٌ）を用いて表現されます。

5.6　:٥,٦　خَمْسَةٌ فَاصِلَةٌ سِتَّةٌ مِنْ عَشَرَةٍ

3.72　:٣,٧٢　ثَلَاثَةٌ فَاصِلَةٌ ٱثْنَانِ وَسَبْعُونَ مِنْ مِئَةٍ

＊مِنْは「…のうちの」を意味します。مِنْ以下はしばしば省略されます。

パーセントは、فِي ٱلْمِئَةِまたはبِٱلْمِئَةِを用いて表現されます。

عَشَرَةٌ بِٱلْمِئَةِ　10パーセント　　خَمْسَةٌ وَعِشْرُونَ بِٱلْمِئَةِ　25パーセント

مِئَةٌ بِٱلْمِئَةِ　100パーセント

倍数を示すパターンはمُفَعَّلٌです。これに序数詞をあてはめ、次のように示します。また、このパターンで三角形、四角形などの形も表すことができます。

مُثَنًّى　2倍　　مُثَلَّثٌ　3倍、三角形

مُرَبَّعٌ　4倍、四角形　　مُخَمَّسٌ　5倍、五角形

مُسَدَّسٌ　6倍、六角形　　مُثَمَّنٌ　8倍、八角形

اَلْكَعْبَةُ بِنَاءٌ مُرَبَّعٌ أَقَامَهُ ٱلنَّبِيُّ إِبْرَاهِيمُ.

カアバ（メッカのカアバ神殿）は預言者イブラヒームが建てた四角い建物です

「2重の、3重の」などを示す数詞の形容詞は、فُعَالِيٌّのパターンで示されます。

أُحَادِيٌّ　1の　　ثُنَائِيٌّ　2の　　ثُلَاثِيٌّ　3の　　رُبَاعِيٌّ　4の

خُمَاسِيٌّ　5の　　سُدَاسِيٌّ　6の　　سُبَاعِيٌّ　7の

ثُمَانِيٌّ　8の　　تُسَاعِيٌّ　9の　　عُشَارِيٌّ　10の

اَلْعَلَاقَاتُ ٱلثُّنَائِيَّةُ　2国間関係、両国関係

اَلْفِرْقَةُ ٱلثُّنَائِيَّةُ　デュオ　　اَلْفِرْقَةُ ٱلثُّلَاثِيَّةُ　トリオ

اَلْفِرْقَةُ ٱلرُّبَاعِيَّةُ　カルテット　　اَللَّجْنَةُ ٱلْخُمَاسِيَّةُ　5人委員会

رُبَاعِيَّاتُ عُمَرَ ٱلْخَيَّامِ　ウマル・ハイヤームのルバーイーヤート（4行詩）

5　月名

月名は、地域によって用いられる形が2つあります。1つは、シリア、レバノン、イラクなど、地中海の東側に位置し、アラビア語が広がる以前に用いられていたアラム語に代表されるセム語族の影響をうけた地域で、もう一

方は、エジプト、スーダンなど、英語を中心とする外来語による名称を受け入れ、定着させた地域です。

またチュニジアやモロッコなど、フランスの植民地下におかれた北アフリカではフランス語の発音に近い表記も用いられます。外来語の表記と母音記号の付け方は、国や地域によって異なる場合があります。

	シリア、レバノン、イラク	エジプト、スーダン	チュニジア、モロッコ
1月	كَانُونُ ٱلثَّانِي	يَنَايِرُ	جَانْفِيٌّ
2月	شُبَاطُ	فِبْرَايِرُ	فِيفْرِيٌّ
3月	آذَارُ	مَارِسُ	مَارِسُ
4月	نِيسَانُ	أَبْرِيلُ	أَفْرِيلُ
5月	أَيَّارُ	مَايُو	مَايُ
6月	حَزِيرَانُ	يُونِيُو	جُوَانُ
7月	تَمُّوزُ	يُولِيُو	جُويِلِيَّةُ
8月	آبُ	أَغُسْطُسُ	أُوتُ
9月	أَيْلُولُ	سِبْتَمْبِرُ	سِبْتَمْبِرُ
10月	تِشْرِينُ ٱلْأَوَّلُ	أُكْتُوبِرُ	أُكْتُوبِرُ
11月	تِشْرِينُ ٱلثَّانِي	نُوفَمْبِرُ	نُوفَمْبِرُ
12月	كَانُونُ ٱلْأَوَّلُ	دِيسِمْبِرُ	دِيسِمْبِرُ

また、イスラーム暦にのっとったイスラーム月は次のように表されます。おもにイスラームに関連する宗教的な行事の日程を示すために用いられますが、さまざまな機会に上述の月名と並記されるのが一般的になっています。

1月　مُحَرَّمٌ (اَلْمُحَرَّمُ ٱلْحَرَامِ)

2月　صَفَرٌ (صَفَرُ ٱلْخَيْرِ)

3月　رَبِيعُ ٱلْأَوَّلُ

4月　رَبِيعُ ٱلثَّانِي / رَبِيعُ ٱلْآخَرُ

5月　جُمَادَى ٱلْأُولَى

6月　جُمَادَى ٱلْآخِرَةُ

7月　رَجَبٌ (رَجَبُ ٱلْفَرْدُ)

8月　شَعْبَانُ (شَعْبَانُ ٱلْمُعَظَّمُ)

9月　رَمَضَانُ (رَمَضَانُ ٱلْمُكَرَّمُ)

10月　شَوَّالٌ

11月　ذُو ٱلْقَعْدَةِ

12月　ذُو ٱلْحِجَّةِ

*（　）内はよく用いられる別称です。

なお、イスラーム世界の代表的な祭りには次の3つがあります。

- フィトル（断食明け）祭（عِيدُ ٱلْفِطْرِ）:
ラマダーン月（9月）の断食が終了したことを祝うもので、シャッワール月（10月）1日から3日まで続きます。小祭（اَلْعِيدُ ٱلصَّغِيرُ）とも呼ばれています。
- 犠牲祭（عِيدُ ٱلْأَضْحَى）:
巡礼月（12月）の10日（メッカ巡礼の最終日）から13日にかけて続き、巡礼者はイブラヒーム（アブラハム）の伝承にならい動物の犠牲を捧げて祝います。大祭（اَلْعِيدُ ٱلْكَبِيرُ）とも呼ばれています。

• 預言者生誕祭 (اَلْمَوْلِدُ ٱلنَّبَوِيُّ):
ムハンマドが生まれたとされるラビーウ・アルアッワル月（4月）の12日に祝われます。مَوْلِدُ ٱلنَّبِيِّやاَلْمَوْلِدُとも呼ばれています。

6　曜日

イスラーム諸国のカレンダーでは土曜日から始まって、休日である金曜日が最後になる曜日配列が一般的です。

土曜日	يَوْمُ ٱلسَّبْتِ	日曜日	يَوْمُ ٱلْأَحَدِ
月曜日	يَوْمُ ٱلِاثْنَيْنِ	火曜日	يَوْمُ ٱلثَّلَاثَاءِ／يَوْمُ ٱلثُّلَاثَاءِ
水曜日	يَوْمُ ٱلْأَرْبِعَاءِ	木曜日	يَوْمُ ٱلْخَمِيسِ
金曜日	يَوْمُ ٱلْجُمْعَةِ	土曜日	يَوْمُ ٱلسَّبْتِ

＊يَوْمُはしばしば省略されます。またيَوْمُの代わりにنَهَارُ「日中、昼間」が用いられることもあります。なお、اَلْجُمْعَةُはしばしばاَلْأُسْبُوعُ「週」の意味でも用いられます。

7　数を尋ねる

数、時間、分量、年齢を尋ねる疑問詞كَمْには、さまざまな用法があります。كَمْの後に名詞が「非限定、単数形、対格」で用いられます。

كَمْ أُسْتَاذًا ٱسْتَقْبَلَ رَئِيسَ ٱلْجَامِعَةِ؟　何人の教授が学長を迎えたのですか。
كَمْ أُسْتَاذًا ٱسْتَقْبَلَ رَئِيسُ ٱلْجَامِعَةِ؟　学長は何人の教授を迎えたのですか。

＊２つの例文のように、他動詞が用いられた場合、كَمْの直後にくる対格が主語として働く場合と目的語として働く場合があります。

非限定、単数の名詞が前置詞مِنْを伴って用いられることもあります。

كَمْ فِي ٱلْقُرْآنِ مِنْ جُزْءٍ؟　コーランは何部に分かれるのですか。

部分を示す役割の前置詞مِنْの後に限定、複数名詞を用いると、「どれくらい」という意味を表します。

كَمْ مِنَ ٱلْكُتُبِ قَرَأْتَ؟　あなたは本をどれくらい（何冊）読んだのですか。

كَمْ عِنْدَكَ مِنَ ٱلْأَوْلَادِ؟　あなたは子供がどれくらい（何人）いるのですか。

كَمْの後に名詞が単数形や複数形の非限定、属格で用いられると驚嘆の意味になります。名詞先行文や動詞先行文が用いられることもあります。

كَمْ قَلَمٍ (أَقْلَامٍ) ٱشْتَرَيْتَ!　あなたはなんと多くの鉛筆を買ったのでしょうか。

كَمْ أَنَا مَسْرُورٌ لَوْ أَسْمَعُ صَوْتَكَ!
あなたの声をきけたら私はどれだけうれしいことでしょう。

كَمْ تُحِبُّ أَهْلَكَ!　あなたはどれだけ家族を愛しているのでしょうか。

年齢を尋ねるときもكَمْを用います。

كَمْ سَنَةً عُمْرُكَ؟/عُمْرُكَ كَمْ سَنَةً؟　あなたは何歳ですか。

* سَنَةًはしばしば省略され、كَمْ عُمْرُكَ؟の形でも用いられます。また答えには数詞と序数詞の両方を用いることができ、سَنَةٌの代わりにعَامٌを用いることもあります。

عُمْرِي ٱثْنَانِ وَعِشْرُونَ سَنَةً.　私は22歳です。

عُمْرُهُ سَبْعَةٌ وَخَمْسُونَ عَامًا.　彼は57歳です。

كَانَ فِي ٱلثَّالِثَةِ وَٱلثَّلَاثِينَ مِنْ عُمْرِهِ.　彼は33歳でした。

値段を尋ねるときにはبِكَمْという形になります。

بِكَمْ هٰذَا؟　これはいくらですか。

بِكَم ٱشْتَرَيْتَهُ؟　あなたはそれをいくらで買いましたか。

* このほか、値段を尋ねる表現としてكَمْ سِعْرُهُ؟があります。

時間を尋ねるكَمْの後には、اَلسَّاعَةُ「時間」を主格で用います。先に述べたكَمْ سِعْرُهُ؟やكَمْ عُمْرُكَ؟も疑問詞كَمْが名詞先行文の述部として主語に先行する形で用いられたものです。

اَلسَّاعَةُ كَمْ؟/كَمِ ٱلسَّاعَةُ؟　何時ですか。

＊كَمِは補助母音カスラが付いた形です。

＊疑問詞مَاも用いられます：مَا ٱلسَّاعَةُ؟　何時ですか。

◇時間表現に必要な単語：

سَاعَةٌ (سَاعَاتٌ)　時間　＊「時計」の意味で用いられる時もあります。

دَقِيقَةٌ (دَقَائِقُ)　分　　ثَانِيَةٌ (ثَوَانٍ)　秒

شَهْرٌ (أَشْهُرٌ／شُهُورٌ)　月　　أُسْبُوعٌ (أَسَابِيعُ)　週

يَوْمٌ (أَيَّامٌ)　日　　عَامٌ (أَعْوَامٌ)　年

سَنَةٌ (سِنُونَ／سَنَوَاتٌ)　年　　قَرْنٌ (قُرُونٌ)　世紀

＊(　) 内は複数形です。سَنَةٌの複数形سِنُونَは規則複数形ですから、対格と属格ではسِنِينَとなります。

時間には序数詞が用いられます。

اَلسَّاعَةُ ٱلْوَاحِدَةُ　1時　　اَلسَّاعَةُ ٱلْحَادِيَةَ عَشْرَةَ　11時

اَلسَّاعَةُ ٱلسَّادِسَةُ وَثَلَاثُونَ دَقِيقَةً (ٱلدَّقِيقَةُ ٱلثَّلَاثُونَ)　6時30分

＊(　) 内は「分」を限定して用いた場合です。

＊序数詞のほかに数詞（基数詞）が用いられる場合もあります。やや口語的になりますが、その場合、数えられる対象が男性形のかたちが用いられます。

اَلسَّاعَةُ خَمْسَةٌ　5時

30分、20分、15分は分数を用いて示すこともできます。

اَلسَّاعَةُ ٱلثَّانِيَةَ عَشْرَةَ وَٱلنِّصْفُ　12時30分（12時と２分の１）

اَلسَّاعَةُ ٱلْخَامِسَةُ وَٱلثُّلْثُ　5時20分（5時と3分の1）

اَلسَّاعَةُ ٱلرَّابِعَةُ وَٱلرُّبْعُ　4時15分（4時と4分の1）

「…時…分前」を示すには除外詞إِلاَّが用いられ、この後にくる名詞は対格になります。

اَلسَّاعَةُ ٱلسَّابِعَةُ إِلاَّ ثُلْثًا　7時20分前

اَلسَّاعَةُ ٱلثَّامِنَةُ إِلاَّ رُبْعًا　8時15分前

اَلسَّاعَةُ ٱلثَّانِيَةُ إِلاَّ عَشْرَ دَقَائِقَ　2時10分前

時間の後にしばしば次のような副詞句が加えられます。

قَبْلَ ٱلظُّهْرِ	午前	بَعْدَ ٱلظُّهْرِ	午後
صَبَاحًا	午前、朝	مَسَاءً	夕方、夜
لَيْلاً	夜、夕刻	بَعْدَ مُنْتَصَفِ ٱللَّيْلِ	深夜、午前零時過ぎ

8　日付の読み方

何日にあたるところには序数詞を用い、前置詞مِنْを伴って月名を続け、最後に年(عَامٌまたはسَنَةٌ)を対格で示し、数詞を属格とします。

وَقَعَ ذٰلِكَ فِي ٱلْيَوْمِ ٱلْحَادِي وَٱلثَّلاَثِينَ مِنْ شَهْرِ كَانُونَ ٱلْأَوَّلِ عَامَ أَلْفٍ وَتِسْعِمِئَةٍ وَثَمَانِيَةٍ وَتِسْعِينَ.

それは1998年12月31日に起きた。

＊日（اَلْيَوْمُ）と月（شَهْرٌ）は省略される場合があります。

＊年の１の位の「8」は、سَنَةٌを用いた場合、سَنَةٌは女性名詞ですから、数詞の3から9までの原則にしたがって、ثَمَانٍが用いられます。

このほか、序数詞を用いず、数詞で表現する方法やعَامَをفِي عَامِとしたりといろいろな表現が用いられます。

年を1の位から序数詞を用いて述べる方法もあります。

فِي ٱلسَّنَةِ ٱلثَّامِنَةِ وَٱلتِّسْعِينَ وَٱلتِّسْعِمِئَةِ بَعْدَ ٱلأَلْفِ　1998年に

◇暦の表現：

- 西暦：キリスト教暦、太陽暦などと表現します。

اَلسَّنَةُ ٱلْمِيلَادِيَّةُ　キリスト誕生暦　اَلسَّنَةُ ٱلْمَسِيحِيَّةُ　キリスト教暦

اَلسَّنَةُ ٱلشَّمْسِيَّةُ　太陽暦　قَبْلَ ٱلْمِيلَادِ　紀元前　بَعْدَ ٱلْمِيلَادِ　紀元後

عَامَ أَلْفٍ وَتِسْعِمِئَةٍ وَاحِدٍ وَخَمْسِينَ بَعْدَ ٱلْمِيلَادِ　西暦1951年に

*سَنَةَを使うと次のようになります。

سَنَةَ أَلْفٍ وَتِسْعِمِئَةٍ وَإِحْدَى وَخَمْسِينَ بَعْدَ ٱلْمِيلَادِ

- イスラーム暦：ヒジュラ暦、太陰暦などと表現されます。

اَلسَّنَةُ ٱلْإِسْلَامِيَّةُ　イスラーム暦　اَلسَّنَةُ ٱلْهِجْرِيَّةُ　ヒジュラ（聖遷）暦

اَلسَّنَةُ ٱلْقَمَرِيَّةُ　太陰暦

فِي ٱلسَّنَةِ ٱلْعَاشِرَةِ لِلْهِجْرَةِ (بَعْدَ ٱلْهِجْرَةِ)　イスラーム暦10年に

*暦という意味では、اَلسَّنَةُの代わりにاَلتَّقْوِيمُもよく用いられます。

預言者ムハンマドは、622年9月22日にメッカ（مَكَّةُ）からメディナ（اَلْمَدِينَةُ）近郊に到着したといわれています。当時のアラビア暦では移住が行なわれた年の1月1日が622年7月16日に相当したため、この7月16日がイスラーム暦元年1月1日とされました。ムハンマドのこの移住をヒジュラと呼び、イスラーム暦を示す場合に「ヒジュラに対して」または「ヒジュラ後何年」と表現します。またメッカは、مَكَّةُ ٱلْمُكَرَّمَةُ「聖なるメッカ」、メディナはاَلْمَدِينَةُ ٱلْمُنَوَّرَةُ「光輝なるメデ

ィナ」のように特定の形容詞を添えて使われることがあり、両者はイスラームの聖地として اَلْحَرَمَانِ ٱلشَّرِيفَانِ「２聖地」と呼ばれます。太陰暦は354日のため、西暦とのずれが生じます。数式によってそれぞれの暦を算出することもできますが、繁雑になるため通常、イスラーム暦と西暦の対照表を用いて確認します。このほか、中東には旧約聖書の創世記の天地創造を元年とするユダヤ暦、622年のヒジュラを元年とするイラン暦（太陽暦）などがあります。さまざまな機会に西暦とイスラーム暦は並記されるのが普通です。

西暦からイスラーム暦、またイスラーム暦から西暦を算出する数式を以下に記します。

イスラーム暦＝(西暦－622)×33÷32

西暦＝イスラーム暦－(イスラーム暦÷33)＋622

第34課　前置詞と接続詞のまとめ

ここでは主要な前置詞、接続詞について、その用法をまとめておきます。

1　前置詞

• مِنْ「…から」(場所、時間)

مِنَ ٱلْجَامِعَةِ 大学から　　مِنَ ٱلصَّبَاحِ 朝から

◇所属（…のなかのもの）や部分（…の一部）：

جَمَاعَةٌ مِنَ ٱلطَّالِبَاتِ 女子学生のグループ

مِنْ أَشْهَرِ ٱلْأُدَبَاءِ 最も有名な文学者の１人

أُسْتَاذٌ مِنَ ٱلْأَسَاتِذَةِ 教授たちの１人、ある１人の教授

مِنَ ٱلْمَعْرُوفِ أَنَّ... 知られていることのうちの１つは…

اِسْتَقْبَلَ ٱلطُّلَّابَ وَمِنْهُمْ مُحَمَّدٌ.

彼は学生たちを迎えました。そのなかにはムハンマドがいました。

مَا ٱشْتَرَيْتُ مِنَ ٱلْكُتُبِ 私が購入したもので本に属するもの

＊所属のمِنْと関係代名詞のمَاが連結したمِمَّاには、مِمَّا構文と呼ばれる重要な用法があります。مِمَّا以下で、その前文で述べられたことに対する追加説明を行ないます。مِمَّا以下は、前文で述べられたことの述部とみなすことができますから、「そしてそのことは」と理解して訳せばいいでしょう。

نَظَّفَتْ هِنْدُ أَوَانِيَ ٱلطَّعَامِ تَنْظِيفًا جَيِّدًا مِمَّا أَدْهَشَ ٱلْأُمَّ.

ヒンドが食器をとてもきれいに洗ったので母親はびっくりしました。

◇「...のいくらか」：

شَرِبْتُ مِنَ ٱلْقَهْوَةِ. 私はコーヒーをいくらか飲みました。

◇「...よりも」（比較級とともに）：

أَجْمَلُ مِنْ هٰذَا. これよりも美しい。

◇原因を示す：

مَرِضْتُ مِنَ ٱلْبَرْدِ. 私は寒さのために病気になりました。

◇材質を示す：

ثَوْبٌ مِنَ ٱلْحَرِيرِ 絹製の衣服

◇特定の動詞とともに：

تَعَجَّبَ مِنْ ...に驚く、驚嘆する　حَذَّرَ مِنْ ...について警告する

◇慣用表現として：

مِنْ سَاعَتِهِ 同じ時間に　مِنْ غَيْرِ ...なしで

مِنْ أَجْلِ ...のために

◇否定文における強調として：

مَا مِنْ أَحَدٍ だれも...でない

- بِ「...で」（場所）：

現代アラビア語ではفِيとほとんど同じ意味で用いられますが、本来بِは非常に近い場所を示します。一方、فِيは内側の意味が強くなります。

بِٱلْبَيْتِ 家で　قَرْيَةٌ بِقُرْبِ ٱلْقَاهِرَةِ カイロのすぐそばの村

◇「...に」（時間帯）：

بِٱلنَّهَارِ 昼間に　بِٱلْأَمْسِ 昨日に

◇時間の長さ：

قَبْلَ ذٰلِكَ بِأَيَّامٍ　その数日前に

هُوَ أَكْبَرُ مِنْكَ بِسَنَةٍ.　彼はあなたよりも一年（一歳）年上です。

◇「…で、…を使って」（手段）：

بِٱلطَّائِرَةِ　飛行機で

◇「…と一緒に、…を伴って」：

ذَهَبَتْ بِهِ.　彼女は彼を伴って（それを持って）行きました。

◇他の前置詞や否定詞に付き、1つの前置詞として働く：

بِغَيْرِ/بِدُونِ/بِلاَ...　…なしに

◇強調のبِ（لَيْسَの述部）：

لَيْسَ بِعَادِلٍ.　彼は公正ではありません。

◇誓約：

بِٱللّٰهِ　アッラーにかけて

◇特定の動詞を伴って：

قَامَ بِ　…を行なう　　اِعْتَرَفَ بِ　…を承認する

◇名詞や疑問詞を伴う成句として：

بِٱلْمُنَاسَبَةِ　…の機会に、ところで　　بِٱلتَّفْصِيلِ　詳細に

بِحَسَبِ　…にしたがって　　بِكَمْ　いくら

◇接続詞的な慣用表現として：

بِمَا أَنَّ　…ということのゆえに

بِمَا فِيهِ　そのなかには（それが含むもののなかには）

• فِي「...の中で」(場所)：

فِي ٱلْبَيْتِ 家で

◇「...に」(時間、時間帯)：

فِي ٱلسَّاعَةِ ٱلثَّالِثَةِ 3時に　　فِي ٱلصَّبَاحِ 朝に

◇「...の間で、...の中には」：

نَهَضَ فِي ٱلنَّاسِ صَائِحًا. 彼は人々の間で叫びながら立ち上がりました。

اِسْتَقْبَلَ ٱلطُّلَّابَ وَفِيهِمْ مُحَمَّدٌ.

彼は学生たちを迎えました。そのなかにはムハンマドがいました。

◇「...において、...の分野で」：

فِي ٱلسِّيَاسَةِ 政治においては

◇「...に関して(考える、語る)」：

فَكَّرَ فِي ٱلْمُشْكِلَةِ ٱلِاقْتِصَادِيَّةِ. 彼は経済問題について考えました。

◇「...の状態にある」：

أَنَا فِي حَاجَةٍ إِلَى... 私は...を必要としている

◇関わっている行為：

وَهُمْ فِي ٱلْحَدِيثِ 彼らが話している間

◇掛け算(ضَرَبَ فِيとともに)：

إِضْرِبْ خَمْسَةً فِي ثَلَاثَةٍ. 5を3倍しなさい。

◇関係代名詞のمَاと連結して慣用句的に：

فِيمَا هُوَ عَلَى هٰذِهِ ٱلْحَالَةِ 彼がこの状態にある間に

فِيمَا إِذَا　…した場合には　　فِيمَا بَعْدُ　後に、後で

فِيمَا بَيْنَهُمْ　彼らの間で　　فِيمَا مَضَى　過去に

فِيمَا يَلِي　以下のとおり　　فِيمَا أَذْكُرُ　私が思い出すには

• لِ「…のために、…の利益となるように」(目的、原因)、「…するために」(動名詞とともに)：

جَمَعَ لِي أَزْهَارًا.　彼は私のために花を集めてくれました。

لِلْحُرِّيَّةِ　自由のために　　لِذٰلِكَ　それゆえ

لِٱسْتِقْبَالِ ٱلضَّيْفِ　客を迎えるために

◇「…へ、…に」(方向)：

قَالَ لِفَاطِمَةَ.　彼はファーティマに言いました。

◇所属を示す：

لَهُ مَا فِي ٱلسَّمٰوَاتُ وَمَا فِي ٱلْأَرْضِ.

天にあるもの、地にあるものは彼に属する。(『コーラン』牝牛の章、255節)

لِي سَيَّارَةٌ.　私は自動車を持っています。　　صَدِيقٌ لِي　私のある友人

لِمَنْ هٰذِهِ ٱلدَّارُ؟　この家はだれのものですか。

◇著者を示す：

إِحْيَاءُ عُلُومِ ٱلدِّينِ لِلْغَزَّالِيِّ　ガッザーリーの『宗教諸学のよみがえり』

◇「…の信用、功績、評判に対して」(عَلَىの反対)：

كُلُّ مَا كُتِبَ لَهُ وَكُلُّ مَا كُتِبَ عَلَيْهِ

彼(の功績)に対して書かれたものすべてと、彼に反対して書かれたものすべて

لَكَ عَلَيَّ لَيْرَتَانِ.　私はあなたに2ポンドの借金があります。

◇ある時点との関連を示す（ある時点を境にして）：

وُلِدَ سَنَةَ عِشْرِينَ لِلْهِجْرَةِ.

彼はヒジュラ暦20年（ヒジュラから20年後）に生まれました。

فِي ٱلْيَوْمِ ٱلثَّانِي لِمَوْلِدِهِ 彼の誕生後２日目に　لِلْآنَ 今まで

◇形容詞句の分離：

اَلْمُرَاسِلَةُ ٱلْمَشْهُورَةُ لِلْجَرِيدَةِ ٱلْقَدِيمَةِ 古い新聞社の有名な女性記者

＊مُرَاسِلَةُ ٱلْجَرِيدَةِ ٱلْقَدِيمَةِ ٱلْمَشْهُورَةُの形容詞と名詞のつながりを明確にするためにلِを用いて区別しています。

◇能動分詞や動名詞の目的語を示す：

اَلْكُتُبُ ٱلْمُقَدَّسَةُ ٱلسَّابِقَةُ لِلْقُرْآنِ コーランに先だつ神聖な書物

＊اَلْكُتُبُ ٱلْمُقَدَّسَةُ ٱلَّتِي تَسْبِقُ ٱلْقُرْآنَと同じ意味です。

تَدْرِيسُ ٱلْأُسْتَاذِ لِلتَّارِيخِ 教授が歴史を教えること

＊تَدْرِيسُ ٱلْأُسْتَاذِ ٱلتَّارِيخَと同じ意味です。

◇慣用表現として：

لَهُ أَنْ... 「彼は…できる、…する権利がある」

（否定文はلَيْسَ لَهُ أَنْ、過去形はكَانَ لَهُ أَنْ、過去の否定文はمَا كَانَ لَهُ أَنْ）

يَا لَهُ مِنْ بَطَلٍ! 彼はなんという英雄だろうか。

أَخٌ لِأَبِيهِ 彼の父方の兄弟　لِأَوَّلِ مَرَّةٍ 初めて

• عَلَى「…の上に、…を超えて」：

عَلَى ٱلطَّاوِلَةِ كِتَابٌ. テーブルの上に本があります。

اَلسَّلَامُ عَلَيْكُمْ. あなた方の上に平安がありますように。

يَزِيدُ ٱلثَّمَنُ عَلَى مِئَةِ جُنَيْهٍ.　値段は100ポンドを超えます。

◇「...に」(時間)：

حَدَثَ هٰذَا عَلَى عَهْدِهِ.　このことは彼の時代に起こりました。

◇「...に対抗して」(敵対感情)：

خَرَجْتُ عَلَيْهِ.　私は彼との戦いに出た。

اَلدَّهْرُ يَوْمَانِ يَوْمٌ لَكَ وَيَوْمٌ عَلَيْكَ.

時というものは2つの日です。あなたに味方する日とあなたに立ちはだかる日です。

اَلْحَقُّ عَلَيْكَ.　正義はあなたに反対しています(あなたが悪いのです)。

◇「...にとっては」：

هٰذَا سَهْلٌ عَلَيْكَ.　これはあなたにとっては簡単です。

◇「...に課せられた」：

عَلَيْكَ أَنْ...　あなたは...する必要があります。

◇「...の状態にある」：

通常、كَانَに導かれ、状態動詞（思考、認識、希望などを表す）の動名詞を用いて「...の状態にあること、...をしていること」を示します。必然性に基づく状態を示すのが特徴です。

كَانَ عَلَى دِرَايَةٍ بِهِ.　彼はそのことを知っていました。

كُنْتُ عَلَى ثِقَةٍ مِنْهُ.　私はそれを確信していました。

كَانَتْ عَلَى مَوْعِدٍ مَعَهُ.　彼女は彼と約束していました。

◇慣用表現として：

عَلَى ٱلرَّغْمِ مِنْ　...にもかかわらず　　بِنَاءً عَلَى　...にしたがって

عَلَى أَنْ　...する条件で　　عَلَى أَنَّ　しかし、...にもかかわらず

عَلَى كُلِّ حَالٍ　何はともあれ　　عَلَى ٱلْأَقَلِّ　少なくとも

• عَنْ「…に関して」:

كَتَبَ عَنْ جَامِعَتِهِ.　彼は彼の大学について書きました。

تَكَلَّمَتْ عَنْكَ.　彼女はあなたについて話しました。

◇「…から離れる」:

مِنْの意味と似ていますが、مِنْは対象になるものとの一種の関連性を示唆しているのに対して、عَنْは対象になるものとの分離、関連性の否定、放棄などに重点が置かれます。

اِبْتَعَدَ عَنِ ٱلْمَكَانِ.　彼はその場から離れました。

غَابَتْ عَنْ عَيْنَيْهِ.　彼女は彼の前から姿を消しました。

اِنْقَطَعَ عَنِ ٱلْمَدْرَسَةِ.　彼は学校（へ通うこと）をやめました。

اِسْتَقَلَّتْ سُورِيَةُ عَنْ فَرَنْسَةَ.

シリアはフランスから独立しました（フランスの手から離れました)。

تَخَلَّى عَنْهُ.　彼はそれを放棄しました。

◇「…から取り除く、…を暴露する」:

كَشَفَ عَنِ ٱلْحَقِيقَةِ.　彼は真実を暴露しました。

◇「…側に、…の方向に（へ)」(位置):

هُوَ عَنْ يَمِينِهَا وَأَنَا عَنْ يَسَارِهَا.　彼は彼女の右側で、私は左側です。

اَلرَّئِيسُ وَعَنْ يَسَارِهِ مُسَاعِدُوهُ.　大統領とその左側に彼の補佐官たち。

مَدَّ يَدَهُ عَنِ ٱلْيَمِينِ.　彼は手を右側へ伸ばしました。

◇「…の代わりに」: ذَهَبَ عَنِّي.　彼は私の代わりに行きました。

◇「…より少ない、…より多い」(قَلَّやزَادَとともに)：

لاَ يَقِلُّ عَنْ خَمْسِ لَيْرَاتٍ. それは5ポンドを下りません。

عُمْرُهُ لاَ يَزِيدُ عَنْ ثَلاَثَ عَشْرَةَ سَنَةً. 彼の年齢は13歳以下です。

يَزِيدُ ٱلثَّمَنُ عَنْ مِئَةِ جُنَيْهٍ. 値段は100ポンドを超えます。

◇特定の動詞や慣用表現として：

اِخْتَلَفَ عَنْ …と異なる

تَرْجَمَ عَنْ …語から翻訳する

مَاتَ عَنْ …歳で死ぬ

عَمَّا قَرِيبٍ／عَنْ قَرِيبٍ／عَمَّا قَلِيلٍ／عَنْ قَلِيلٍ すぐに、近く(時間)

فَضْلاً عَنْ …はいうに及ばず、…はもちろんのこと

عَنْ طَرِيقِ …を経由して、…によって(手段)

• إِلَى「…へ、…へ向けて」：

ذَهَبَ إِلَى ٱلْعَمَلِ. 彼は仕事へ行きました。

نَظَرَ إِلَى ٱلرَّجُلِ. 彼はその男を見つめました。

رَدَّ ٱلْكِتَابَ إِلَيْهَا. 彼はその本を彼女に返しました。

◇「…に」(場所)：

جَلَسَ إِلَى ٱلطَّاوِلَةِ. 彼はテーブル(の席に)につきました。

كَانَتْ إِلَى جَانِبِهِ. 彼女は彼のとなりにいました。

◇「…まで」：

بَقِيَ إِلَى ٱلسَّاعَةِ ٱلسَّادِسَةِ. 彼は6時まで残っていました。

كَانَ أُسْتَاذًا وَحِيدًا إِلَى أَنْ حَضَرَ ٱلْأُسْتَاذُ ٱلْجَدِيدُ.
その新しい教授が来るまで彼がただ1人の教授でした。

◇「さらに」:

تَعَلَّمَ إِلَى ذٰلِكَ ٱللُّغَةَ ٱلْعِبْرِيَّةَ.
それに加えて彼はヘブライ語を学びました。

• مَعَ「...と一緒に」:

دَرَسْتُ مَعَهُ.　私は彼と一緒に勉強しました。

هَلْ مَعَكَ كِتَابٌ؟　あなたは本を持っていますか。

مَعَ مُضِيِّ ٱلزَّمَنِ　時の経過とともに

◇「...に」(時間):

رَجَعَ مَعَ ٱلْمَسَاءِ إِلَى بَيْتِهِ.　彼は夕方に家へ戻りました。

حَضَرَ صَدِيقِي مَعَ ٱللَّيْلِ.　私の友人は夜やってきました。

◇「...にもかかわらず」:

مَعَ ذٰلِكَ　それにもかかわらず

مَعَ أَنَّ...　(أَنَّ以下)にもかかわらず

◇「一緒に」(副詞、単独、対格):

شَرِبْنَا مَعًا.　私たちは一緒に飲みました。

＊このように語尾変化をすることから、مَعَは純粋な意味での前置詞ではなく、厳密には名詞型前置詞に分類されます。

2　接続詞

• وَ

وَは単語、句、節を前後の関連にこだわらず連結します。なお、表記されるとき、وَとその後ろにくる文字との間に間隔をあけません。また、وَの後に人称代名詞の独立形هُوَとهِيَがきた場合、وَهْوَ、وَهْيَと人称代名詞ۀの母音が失われることもありますが、本書ではوَهُوَ、وَهِيَを用いています。

اَلرَّئِيسُ وَٱلْوَزِيرُ　大統領と大臣

قَرَأُوا وَكَتَبُوا.　彼らは読み、そして書きました。

◇状況文を導く：

حَضَرَ إِلَى دِمَشْقَ وَهُوَ صَغِيرٌ.　彼は小さいときにダマスカスにやって来ました。

◇誓約：

وَٱللّٰهِ لَمْ أَفْعَلْ ذٰلِكَ.

アッラーにかけて（誓って）、私はそれをしませんでした。

• فَ

単語と単語を結ぶよりも、文章と文章を連結する場合に用いられることが多いのが特徴です。وَが連結する単語や文章の相互関係にこだわらずに用いられるのに対して、فَは文と文の間になんらかの関係があることを暗示する役割をもっています。ですから「そこで、だから、すると」などと訳されることが多くなります。またفَの後に人称代名詞の独立形هُوَとهِيَがきた場合、فَهْوَ、فَهْيَと人称代名詞のۀの母音が失われることもありますが、本書ではفَهُوَ、فَهِيَを用いています。

شَرِبَ ٱلْقَهْوَةَ فَشَرِبْتُهَا.

彼はコーヒーを飲みました。そこで私もそれを飲みました。

اِرْتَفَعَ ٱلسِّتَارُ فَظَهَرَ ٱلْمُمَثِّلُ عَلَى ٱلْمَسْرَحِ.

幕が上がりました。すると役者が舞台の上に現われました。

◇要求形１人称複数とともに：

فَلْنَذْهَبْ. さあ、行きましょう。

◇慣用表現として：

فَحَسْبُ …だけ、(否定文とともに)…だけではない、単に…にとどまらない

ثَلَاثَةٌ فَحَسْبُ ３つだけ、たった３つ

اَلْمُؤَرِّخُ لَيْسَ كَاتِبًا فَحَسْبُ. 歴史家というのは単なる作家ではありません。

• ثُمَّ

連結する単語や文章の間にある順番を示します。あるいは先行する文章で述べられた行為がすでに終了していることを示します。ですから「それから、そして、その後で」などと訳されます。

دَخَلَ ٱلصَّفَّ ثُمَ فَتَحَ ٱلْكِتَابَ. 彼は教室に入りました。そして本を開きました。

◇慣用表現として：

مِنْ ثُمَّ さらに、再度

• إِلاَّ أَنَّ／غَيْرَ أَنَّ／وَلٰكِنَّ／لٰكِنَّ／وَلٰكِنْ／لٰكِنْ

どれも逆接の接続詞ですが、動詞先行文を導くものと名詞先行文を導くものの２つに分けることができます。

◇لٰكِنْ、وَلٰكِنْ：動詞先行文や前置詞句を導きます。

ذَهَبَ مُحَمَّدٌ لٰكِنْ لَمْ يَذْهَبْ أَحْمَدُ.

ムハンマドは行きました。しかしアフマドは行きませんでした。

◇لٰكِنَّ／وَلٰكِنَّ／غَيْرَ أَنَّ／إِلاَّ أَنَّ：名詞先行文を導きます。

هٰذِهِ ٱلْبِلَادُ جَمِيلَةٌ وَلٰكِنَّ ٱلثَّرْوَةَ ٱلطَّبِيعِيَّةَ فِيهَا قَلِيلَةٌ.

この国は美しいです。しかしそこの天然資源は少ないです。

• بَلْ

肯定文の後に用いられ、先行文の内容をより強くするために、先行文を打ち消す文を導きます。

دِمَشْقُ مَدِينَةٌ قَدِيمَةٌ بَلْ هِيَ مِنْ أَقْدَمِ ٱلْمُدُنِ فِي ٱلْعَالَمِ.

ダマスカスは古い町です。いやそればかりか世界で最も古い町の1つです。

هَلْ تَسْتَطِيعُ ٱلطَّيَرَانَ كَمَا أَطِيرُ؟ — بَلْ سَأَطِيرُ أَفْضَلَ مِنْكَ.

私が飛ぶようにあなたは飛ぶことができますか。

—いやそれどころか私はあなたより上手に飛んでみせます。

否定文の後に用いられ、否定された内容を強調する文を導きます。

لَمْ تُؤَيِّدِ ٱلْحُكُومَةُ تِلْكَ ٱلسِّيَاسَةَ بَلْ عَارَضَتْهَا مُعَارَضَةً شَدِيدَةً.

政府はその政策を支持しませんでした。そればかりかその政策に激しく反対しました。

否定文の後に用いられ、否定した内容に代わる、あるいは補う文を導きます。

مَا قَامَ زَيْدٌ بَلْ حَسَنٌ.

ザイドは立ち上がりませんでしたが、ハサンは立ち上がりました(立ち上がったのはザイドではなくハサンでした)。

صَدِيقِي كَرِيمٌ لَيْسَ مُتَرْجِمًا فَحَسْبُ بَلْ هُوَ أَيْضًا نَاقِدٌ مَشْهُورٌ.

私の友人であるカリームは単なる翻訳家ではありません。彼はまた有名な批評家でもあります。

• أَوْ

曖昧さや疑問を示す接続詞で、「…か…、…または…」と訳されます。

جَاءَ سَعِيدٌ أَوْ خَالِدٌ.	サイードかハーリドが来ました。
سَوْفَ أَتَّصِلُ بِأَبِي أَوْ بِأُمِّي.	私は父か母に連絡をとります。
سَأُسَافِرُ ٱلْيَوْمَ أَوْ غَدًا أَوْ بَعْدَ غَدٍ.	私は今日か明日か明後日に旅立ちます。

◇命令形の後では「どちらか一方の選択」を求める場合と「それらを一緒に」と選択の自由を与える場合があります。

تَزَوَّجْ هِنْدَ أَوْ أُخْتَهَا.

ヒンドか彼女の妹のどちらかと結婚しなさい。(1つの選択)

كُلِ ٱلسَّمَكَ أَوِ ٱللَّحْمَ.

魚か肉を食べなさい。(1つを選択してもよいし、両者を選択してもよい)

تَعَلَّمِ ٱلْفِقْهَ أَوِ ٱلنَّحْوَ.

法学か文法を学びなさい。(1つを選択してもよいし、両者を選択してもよい)

* كُلِ、أَوِ、تَعَلَّمِはどれも補助母音が付いた形です。

◇全体の意味を区別して説明する(1つの単語の意味を分類する)

اَلْكَلِمَةُ ٱسْمٌ أَوْ فِعْلٌ أَوْ حَرْفٌ. 単語は名詞か動詞が小辞に区別されます。

• أَمْ

「…か…のどちらか」と答えを特定する接続詞です。أَوْと似ていますが、疑問文に用いられるとその違いがはっきりします。أَوْはどちらかはっきりしないこと示しますから、答えにはنَعَمまたはلَاを用いなければなりません。一方、أَمْの場合にはどちらかの一方を特定しなければなりません。

هَلْ قَامَ زَيْدٌ أَوْ عُمَرُ؟ ザイドかウマルが立ち上がったのですか。

نَعَمْ، قَامَ زَيْدٌ. はい、ザイドが立ち上がりました。

هَلْ قَامَ زَيْدٌ أَمْ عُمَرُ؟ ザイドかウマルのどちらが立ち上がったのですか。

قَامَ زَيْدٌ. ザイドが立ち上がりました。

疑問詞にهَلْの代わりにأَが用いられた場合、通常、疑問の対象となっている名詞や動詞が疑問詞の後にすぐ続きます。

أَمُحَمَّدًا لَقِيتَ أَمْ حَسَنًا؟ ムハンマドとハサンのどちらに会ったのですか。

أَضَرَبْتَ شَخْصًا أَمْ شَتَمْتَهُ؟

あなたはだれか人を叩いたのですか、それとも罵ったのですか。

أَفَاطِمَةُ عِنْدَكِ أَمْ سَوْسَنُ؟

ファーティマがあなたのところにいるんですか、それともサウサン（女性名）ですか。

◇أَ سَوَاءٌ「どちらも同じです」を意味する構文で用いるأَمْ：

سَوَاءٌ عَلَيْكَ أَدَرَسْتَ أَمْ لَمْ تَدْرُسْ.

あなたにとっては勉強しようがしまいが同じことです。

• إِمَّا「…か、あるいは」

أَوْと同じように、曖昧さや疑問、選択、区別などを示しますが、対象となっている単語それぞれの前にإِمَّا（２番目以後はوَإِمَّا、またはأَوْ）が用いられます。

جَاءَنِي إِمَّا مُحَمَّدٌ وَإِمَّا خَالِدٌ.

ムハンマドあるいはハーリドが私のところに来ました。

اَلْكَلِمَةُ إِمَّا ٱسْمٌ وَإِمَّا فِعْلٌ وَإِمَّا حَرْفٌ.

単語は名詞か動詞か小辞に区別されます。

• حَيْثُ

حَيْثُは常に語尾がダンマになる単語です。場所に加えて、しばしば理由、原因を示す接続詞として用いられます。またحَيْثُ أَنَّという形でも用いられることがあります。

اِنْخَفَضَتْ نِسْبَةُ ٱلْأُمِّيَّةِ حَيْثُ أَصْبَحَ عَدَدُ ٱلْمَدَارِسِ أَكْثَرَ مِنْ ١٥٠ مَدْرَسَةً.

学校の数が150校以上になったことにより非識字率が低下しました。

◇بِحَيْثُ「…するために」（目的）：

تَوَجَّهَ إِلَى ٱلْمَكْتَبِ بِحَيْثُ يَبْحَثُ ٱلْمَوْضُوعَ مَعَ زَمِيلِهِ.

彼は彼の同僚とその問題を検討するために事務所へ向かいました。

• لِأَنَّ「なぜならば」(原因、理由)：

لَمْ أَسْتَطِعْ أَنْ أَحْضُرَ ٱلْمُحَاضَرَةَ لِأَنَّنِي كُنْتُ مَرِيضًا.

私は講義に出席できませんでした。というのも私は病気だったからです。

3　مَاの用法

مَاにもさまざまな用法があります。

◇否定詞（動詞先行文）のمَا：

完了形、未完了形に用いられますが、多くは完了形に用いられます。

مَا دَرَسْتُ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ.　私はアラビア語を勉強しませんでした。

◇否定詞（名詞先行文）のمَا：

多くは除外詞إِلَّاとの組み合わせで用いられます。

مَا هِيَ إِلَّا مَسْأَلَةٌ مَحَلِّيَّةٌ.

それは国内（地域）問題でしかない（国内問題以外の何ものでもない）。

◇مَا أَنْ...حَتَّى（またはمَا إِنْ...حَتَّى）構文などで：「…するやいなや」

مَا أَنْ وَقَّعَتْ فَرَنْسَةُ مُعَاهَدَةَ ٱلسَّلَامِ حَتَّى ٱنْسَحَبَ جَيْشُهَا مِنَ ٱلْأَرَاضِي ٱلْمُحْتَلَّةِ.

フランスが平和条約に調印するやいなや、その軍隊は占領地から撤退しました。

◇疑問詞：おもに名詞先行文に用いられます。動詞先行文では通常مَاذَاが用いられます。

مَا هٰذَا؟　これは何ですか。

前置詞と一緒に用いられた場合、次のように結合し、مَاは短母音が付くمَに変化しますから注意が必要です。

عَمَّ (عَنْ مَا)	مِمَّ (مِنْ مَا)	عَلَامَ (عَلَى مَا)	لِمَ (لِ مَا)
فِيمَ (فِي مَا)	إِلَامَ (إِلَى مَا)	بِمَ (بِ مَا)	حَتَّامَ (حَتَّى مَا)

فِيمَ تُفَكِّرُ؟　あなたは何について考えているのですか。

مِمَّ تَخَافُ؟　あなたは何を恐れているのですか。

لِمَ تُؤَجِّلُهُ؟　あなたはどうしてそれを延期するのですか。

بِمَ كَتَبْتَ؟　あなたは何を使って書いたのですか。

◇関係代名詞のمَا：

سَجَّلَ مَا قَالُوا.　彼は彼らが言ったことを記録しました。

関係代名詞のمَاも前置詞とともに用いられると次のように結合します。疑問詞のときの結合の仕方と異なりますから注意が必要です。

(عَنْ مَا) عَمَّا　(مِنْ مَا) مِمَّا　(لِ مَا) لِمَا　(فِي مَا) فِيمَا

(بِ مَا) بِمَا

＊他の前置詞に関してはإِلَى مَا، عَلَى مَا، حَتَّى مَاと表記上の変化はありません。

◇動名詞化のمَا：

مَاの後にくる動詞は、その動詞の動名詞と置き換えることが可能です。مَاはしばしば前置詞の後に用いられます。

عِنْدَمَا سَأَلَ　彼が尋ねたとき　　عِنْدَ سُؤَالِهِ　彼の質問時に（彼が尋ねた時に）

بَعْدَمَا غَادَرُوا مَكَّةَ　彼らがメッカを去った後に

بَعْدَ مُغَادَرَتِهِمْ مَكَّةَ　彼らのメッカ出発後に（彼らがメッカを去った後に）

◇形容詞の対格に付くمَا：形容詞を含めて全体で副詞として訳されます。

كَثِيرًا مَا أَكَلْتُ مَعَهُمْ.　しばしば（たびたび）私は彼らと一緒に食べました。

قَلِيلاً مَا رَاجَعْتُ ٱلْقَامُوسَ.　私はほとんど辞書を参照しませんでした。

غَالِبًا مَا يَتَحَدَّثُ إِلَى ٱلشَّعْبِ بِٱلْفُصْحَى.

彼は通常、国民にフスハーで話しかけています。

◇継続のمَا：

مَا دَامَ رَئِيسًا　彼が大統領でいる限り

◇感嘆詞のمَا：

مَا أَكْبَرَهُ!　なんとそれは大きいのでしょう。

مَا أَجْمَلَ مَا رَسَمَهُ!　彼の描いたものはなんと美しいのでしょうか。

◇不特定を示すمَا：非限定名詞の後に用いられます。

يَوْمًا مَا　ある日、いつか　إِلَى حَدٍّ مَا　ある程度まで

بِسَبَبٍ مَا　何かある理由で

◇条件詞化のمَا：もともと条件詞の役割をもつ疑問詞や、一定の名詞に付け加えて用いられます。

أَيْنَمَا　どこでも、どの場所でも　مَتَى مَا (مَتَامَا)　いつでも、どんな時間でも

كَيْفَمَا　どんなに…でも　أَيُّمَا　どちらであろうが

حَيْثُمَا　どこでも、どの場所でも

◇付け足しのمَا：

特定の単語に付け加えて用いられますが、مَاを省略しても文法上、意味上の変化はありません。

عَنْ قَرِيبٍ／عَمَّا قَرِيبٍ　もうすぐ、間もなく

إِذَا طَلَبْتَ／إِذَا مَا طَلَبْتَ　あなたが頼めば（頼むときに）

第35課　格変化のまとめ

　これまでの学習で、アラビア語を理解する鍵は格変化にあるということが明らかになったと思います。言い換えれば、単語の語尾をどう読むべきかということが、アラビア語学習の中心的問題なのです。この格変化は、会話においてはかなり簡略化され、語尾がほとんど子音で発音されることが普通になっています。しかし高等教育を受けた人々は、格変化をきちんと区別して単語、そして文章を読み、また書けなければなりません。ここでは基本３段変化を中心にさまざまな格変化を紹介し、また主格、対格、属格の役割についてまとめておきます。

1　基本３段変化のまとめ

- 主格にはダンマ、対格にはファトハ、属格にはカスラがそれぞれ用いられます。
- 非限定の場合にはタンウィーン記号が用いられますが、限定されるとタンウィーン記号は用いられません。
- 双数形、規則男性複数形では最後のنがタンウィーン記号を示します。ただし定冠詞のاَلْによって限定された場合にはنはそのまま残りますが、その他の方法によって限定されるとنは省略されます。
- 規則女性複数形では主格にはダンマ、対格と属格にはカスラが用いられます。

　مُعَلِّمٌ「教師」を例に、非限定の場合の格変化を確認しておきましょう。

	主格	対格	属格
男性単数	مُعَلِّمٌ	مُعَلِّمًا	مُعَلِّمٍ
男性双数	مُعَلِّمَانِ	مُعَلِّمَيْنِ	مُعَلِّمَيْنِ
男性複数	مُعَلِّمُونَ	مُعَلِّمِينَ	مُعَلِّمِينَ

女性単数	مُعَلِّمَةٌ	مُعَلِّمَةً	مُعَلِّمَةٍ
女性双数	مُعَلِّمَتَانِ	مُعَلِّمَتَيْنِ	مُعَلِّمَتَيْنِ
女性複数	مُعَلِّمَاتٌ	مُعَلِّمَاتٍ	مُعَلِّمَاتٍ

定冠詞اَلْで限定されたاَلْمُعَلِّمُ「その教師」の格変化を確認しておきましょう。

	主格	対格	属格
男性単数	اَلْمُعَلِّمُ	اَلْمُعَلِّمَ	اَلْمُعَلِّمِ
男性双数	اَلْمُعَلِّمَانِ	اَلْمُعَلِّمَيْنِ	اَلْمُعَلِّمَيْنِ
男性複数	اَلْمُعَلِّمُونَ	اَلْمُعَلِّمِينَ	اَلْمُعَلِّمِينَ
女性単数	اَلْمُعَلِّمَةُ	اَلْمُعَلِّمَةَ	اَلْمُعَلِّمَةِ
女性双数	اَلْمُعَلِّمَتَانِ	اَلْمُعَلِّمَتَيْنِ	اَلْمُعَلِّمَتَيْنِ
女性複数	اَلْمُعَلِّمَاتُ	اَلْمُعَلِّمَاتِ	اَلْمُعَلِّمَاتِ

人称代名詞の結合形が付くことで限定されたمُعَلِّمُكَ「あなたの教師」の格変化を確認しておきましょう。

	主格	対格	属格
男性単数	مُعَلِّمُكَ	مُعَلِّمَكَ	مُعَلِّمِكَ
男性双数	مُعَلِّمَاكَ	مُعَلِّمَيْكَ	مُعَلِّمَيْكَ
男性複数	مُعَلِّمُوكَ	مُعَلِّمِيكَ	مُعَلِّمِيكَ
女性単数	مُعَلِّمَتُكَ	مُعَلِّمَتَكَ	مُعَلِّمَتِكَ
女性双数	مُعَلِّمَتَاكَ	مُعَلِّمَتَيْكَ	مُعَلِّمَتَيْكَ
女性複数	مُعَلِّمَاتُكَ	مُعَلِّمَاتِكَ	مُعَلِّمَاتِكَ

＊１人称の人称代名詞の結合形（私の）が付いた場合は、以下のようになります。

単数　مُعَلِّمِي：　主格、対格、属格

双数　مُعَلِّمَايَ：主格　　双数　مُعَلِّمَيَّ：対格、属格

複数　مُعَلِّمِيَّ：　主格、対格、属格

＊古典的な用法として、１人称対格にيَ を用いることがあります。

他の属格語（ここではلُغَةٌ「言語」を用います）と属格関係を形成した、مُعَلِّمُ ٱللُّغَةِ「言語の教師」の格変化を確認しておきましょう。

	主格	対格	属格
男性単数	مُعَلِّمُ ٱللُّغَةِ	مُعَلِّمَ ٱللُّغَةِ	مُعَلِّمِ ٱللُّغَةِ
男性双数	مُعَلِّمَا ٱللُّغَةِ	مُعَلِّمَيِ ٱللُّغَةِ	مُعَلِّمَيِ ٱللُّغَةِ
男性複数	مُعَلِّمُو ٱللُّغَةِ	مُعَلِّمِي ٱللُّغَةِ	مُعَلِّمِي ٱللُّغَةِ
女性単数	مُعَلِّمَةُ ٱللُّغَةِ	مُعَلِّمَةَ ٱللُّغَةِ	مُعَلِّمَةِ ٱللُّغَةِ
女性双数	مُعَلِّمَتَا ٱللُّغَةِ	مُعَلِّمَتَيِ ٱللُّغَةِ	مُعَلِّمَتَيِ ٱللُّغَةِ
女性複数	مُعَلِّمَاتُ ٱللُّغَةِ	مُعَلِّمَاتِ ٱللُّغَةِ	مُعَلِّمَاتِ ٱللُّغَةِ

＊双数では、مُعَلِّمَيِ、مُعَلِّمَتَيِと語尾のيに補助母音が付きます。

2　2段変化のまとめ

- 非限定の場合でも、主格、対格、属格のどれにもタンウィーンが用いられません。
- 主格にはダンマ、対格と属格にはファトハが用いられます。
- 限定され場合には基本３段変化になります。

２段変化するものを以下にまとめます。

◇ةの有無にかかわらず女性名詞として扱われる固有名詞：

女性の名前：　فَاطِمَةُ ファーティマ　خَدِيجَةُ ハディージャ

عَائِشَةُ アーイシャ　زَيْنَبُ ザイナブ　سُعَادُ スアード

都市名、国名：مَكَّةُ メッカ　دِمَشْقُ ダマスカス　بَغْدَادُ バグダッド

مِصْرُ エジプト　سُورِيَةُ シリア　تُونِسُ チュニジア

＊男性の名前でもةが付いているものは２段変化扱いになります。

مُعَاوِيَةُ ムアーウィヤ　حَمْزَةُ ハムザ

＊女性名詞を示すためのアリフ・マクスーラが付いた女性の名前には格変化に伴う語尾変化がありません。

سَلْوَى サルワー　سَلْمَى サルマー　نَجْوَى ナジュワー

＊３語根からなる女性名詞でهِنْدُ「ヒンド」（女性の名前）やمِصْرُ「エジプト」のように第２語根がスクーンになっている場合、３段変化（هِنْدٌ／هِنْدًا／هِنْدٍやمِصْرٌ／مِصْرًا／مِصْرٍ）として扱うことも認められていますが、現代アラビア語としては例外的な用法になるため、本書では基本的に２段変化として扱っています。

دِمَشْقُ「ダマスカス」とفَاطِمَةُ「ファーティマ」を例に格変化を確認しておきましょう。

	主格	対格	属格
地名	دِمَشْقُ	دِمَشْقَ	دِمَشْقَ
女性名	فَاطِمَةُ	فَاطِمَةَ	فَاطِمَةَ

◇男性の名前であってもそれが非アラビア語起源とみなされる場合：

إِبْرَاهِيمُ イブラーヒーム　رَمْسِيسُ ラムセス　نَابْلِيُونُ ナポレオン

سُقْرَاطُ ソクラテス　إِدْرِيسُ イドリース

＊非アラビア語起源の男性の名前であっても、それが３語根の形をとり、かつ第２語根が長母音を示す文字の場合は、３段変化として扱われます。

لُوطٌ ロト（人名）　نُوحٌ ノア（人名）

◇おもに地名に見られる、２単語以上によって形成された複合名詞：

بُورْسَعِيدُ ポートサイード　بَعْلَبَكُّ バールベック

حَضْرَمَوْتُ ハドラマウト　نِيُويُورْكُ ニューヨーク

＊非アラビア語起源の人名や都市名の多くは事実上、語尾を子音で（原音に近い形で）読むことも許容されていますが、パリのように２段変化として定着している都市名もあります。

وَاشِنْطُنُ ワシントン　لَنْدَنُ ロンドン　بَارِيسُ パリ

مُوسْكُو モスクワ　اِسْتَانْبُولُ イスタンブール

＊日本人の名前や都市名については、そのまま原音に近い形で表記され、事実上、語尾変化はありません。

طُوكِيُو 東京　كِيُوتُو 京都　أُوسَاكَا 大阪　هِيرُوشِيمَا 広島

هُوكَايْدُو 北海道　هُونْشُو 本州　شِيكُوكُو 四国　كِيُوشُو 九州

◇おもに男性の名前に見られる、語尾にاとنが付け加えられた形：

عَدْنَانُ アドナーン　عَفَّانُ アッファーン　سُلَيْمَانُ スライマーン

عُثْمَانُ ウスマーン　مَرْوَانُ マルワーン　عَرَفَانُ アラファーン

◇動詞の形をした名詞：

أَحْمَدُ アフマド（男性名）　يَزِيدُ ヤズィード（男性名）　يَثْرِبُ ヤスリブ（地名）

◇فُعَلُ型の男性の名前：

عُمَرُ ウマル　زُحَلُ ズハル　جُحَا ジュハー（語尾変化なし）

مَدْرَسَةٌ「学校」の不規則複数形であるمَدَارِسُを例に格変化を確認しておきましょう。非限定の場合のみ、２段変化になります。限定は定冠詞、人称代名詞

の結合形、属格関係の順に示してあります。なお、اَلْعِرَاقُは「イラク」。

	主格	対格	属格
非限定	مَدَارِسُ	مَدَارِسَ	مَدَارِسَ
限定	اَلْمَدَارِسُ	اَلْمَدَارِسَ	اَلْمَدَارِسِ
限定	مَدَارِسُكَ	مَدَارِسَكَ	مَدَارِسِكَ
限定	مَدَارِسُ ٱلْعِرَاقِ	مَدَارِسَ ٱلْعِرَاقِ	مَدَارِسِ ٱلْعِرَاقِ

他の２段変化には不規則複数形の一部のパターン、فَعْلَانُ型の形容詞と色や比較級を示すأَفْعَلُ型などがあります。

女性名詞を示すاءが語尾となっている名詞も２段変化として扱われます。

صَحْرَاءُ 砂漠　زَكَرِيَّاءُ ザカリヤ（男性名）

＊あくまでも女性形を示すためのاءであって、語根に含まれているハムザや弱文字が名詞を形成するための形態変化の結果、اءとなったものについては通常の３段変化が適用されます。

إِنْشَاءٌ 設立　اِبْتِدَاءٌ 開始　سَمَاءٌ 空　بِنَاءٌ 建物

صَحْرَاءُ「砂漠」を例に格変化を確認しておきましょう。またこの形の単語の双数形ではءがوに変化します。双数形の語尾のنが省略される原則は他の双数形とまったく同じです。またصَحْرَاءُの複数形はصَحَارَىという不規則複数ですが、この形で主格、対格、属格に対応します。なお、اَلْجَزَائِرُは「アルジェリア」。

	主格	対格	属格
非限定	صَحْرَاءُ	صَحْرَاءَ	صَحْرَاءَ
限定	اَلصَّحْرَاءُ	اَلصَّحْرَاءَ	اَلصَّحْرَاءِ
限定	صَحْرَاؤُهَا	صَحْرَاءَهَا	صَحْرَائِهَا
限定	صَحْرَاءُ ٱلْجَزَائِرِ	صَحْرَاءَ ٱلْجَزَائِرِ	صَحْرَاءِ ٱلْجَزَائِرِ

双数	صَحْرَاوَانِ	صَحْرَاوَيْنِ	صَحْرَاوَيْنِ
複数	صَحَارَى	صَحَارَى	صَحَارَى

* 複数形にはصَحْرَاوَاتٌという規則女性複数形のパターンが用いられる場合もあります。

3　無変化のパターン１

無変化とは、語尾が常に一定のパターンで３つの格に対応するもので、非限定の場合、タンウィーンをとるものととらないものの２つに分けて説明します。

- 非限定の場合には主格、対格、属格ともにファトハのタンウィーン記号が用いられます。
- 限定されるとタンウィーン記号がとれ、すべてファトハになります。
- ほとんどの語尾はアリフ・マクスーラ（ى）になりますが、わずかながらアリフになるものもあります。
- 人称代名詞の結合形が付いた場合、アリフ・マクスーラ（ى）はアリフに変化します。

無変化のパターン１に属するものを以下にまとめます。

◇弱動詞の派生形の受動分詞：

شَفَى「治療する」の派生形第10形اِسْتَشْفَى「治療を求める」の受動分詞مُسْتَشْفًى「病院」を例に格変化を確認します。なお、بَلَدٌは「町」。

	主格	対格	属格
非限定	مُسْتَشْفًى	مُسْتَشْفًى	مُسْتَشْفًى
限定	اَلْمُسْتَشْفَى	اَلْمُسْتَشْفَى	اَلْمُسْتَشْفَى
限定	مُسْتَشْفَاكَ	مُسْتَشْفَاكَ	مُسْتَشْفَاكَ
限定	مُسْتَشْفَى ٱلْبَلَدِ	مُسْتَشْفَى ٱلْبَلَدِ	مُسْتَشْفَى ٱلْبَلَدِ

双数	مُسْتَشْفَيَانِ	مُسْتَشْفَيَيْنِ	مُسْتَشْفَيَيْنِ
複数	مُسْتَشْفَيَاتٌ	مُسْتَشْفَيَاتٍ	مُسْتَشْفَيَاتٍ

◇弱動詞からの派生名詞：

مَقْهًى「喫茶店」（3語根はقهوですが、この形で動詞として用いられることはありません）を例に格変化を確認します。

	主格	対格	属格
非限定	مَقْهًى	مَقْهًى	مَقْهًى
限定	اَلْمَقْهَى	اَلْمَقْهَى	اَلْمَقْهَى
限定	مَقْهَاكَ	مَقْهَاكَ	مَقْهَاكَ
限定	مَقْهَى ٱلْبَلَدِ	مَقْهَى ٱلْبَلَدِ	مَقْهَى ٱلْبَلَدِ
双数	مَقْهَيَانِ	مَقْهَيَيْنِ	مَقْهَيَيْنِ
複数	مَقَاهٍ	مَقَاهِيَ	مَقَاهٍ

◇語尾がアリフで終わるもの：

عَصًا「棒」（3語根はعصوですが、この形で動詞として用いられることはありません）を例に格変化を確認します。

	主格	対格	属格
非限定	عَصًا	عَصًا	عَصًا
限定	اَلْعَصَا	اَلْعَصَا	اَلْعَصَا
限定	عَصَاكَ	عَصَاكَ	عَصَاكَ
限定	عَصَا ٱلْوَلَدِ	عَصَا ٱلْوَلَدِ	عَصَا ٱلْوَلَدِ
双数	عَصَوَانِ	عَصَوَيْنِ	عَصَوَيْنِ
複数	عُصِيٌّ	عُصِيًّا	عُصِيٍّ

◇不規則複数形فُعَلٌのパターンの語尾に弱文字がくるもの：
قَرْيَةٌ「村」の複数形قُرًىを例に格変化を確認します。

	主格	対格	属格
非限定	قُرًى	قُرًى	قُرًى
限定	اَلْقُرَى	اَلْقُرَى	اَلْقُرَى
限定	قُرَاكَ	قُرَاكَ	قُرَاكَ
限定	قُرَى ٱلْعِرَاقِ	قُرَى ٱلْعِرَاقِ	قُرَى ٱلْعِرَاقِ

4　無変化のパターン2

- 非限定であってもタンウィーン記号が付きません。
- ファトハによって主格、対格、属格を示します。
- 限定された場合でも非限定の場合と同じ語尾変化になります。

無変化のパターン２に属するものを以下にまとめます。

◇語尾が女性形を示すアリフ・マクスーラ(ى)：
ذِكْرَى「思い出」を例に格変化を確認します。

	主格	対格	属格
非限定	ذِكْرَى	ذِكْرَى	ذِكْرَى
限定	اَلذِّكْرَى	اَلذِّكْرَى	اَلذِّكْرَى
限定	ذِكْرَاكَ	ذِكْرَاكَ	ذِكْرَاكَ
限定	ذِكْرَى ٱلْبَلَدِ	ذِكْرَى ٱلْبَلَدِ	ذِكْرَى ٱلْبَلَدِ
双数	ذِكْرَيَانِ	ذِكْرَيَيْنِ	ذِكْرَيَيْنِ
複数	ذِكْرَيَاتٌ	ذِكْرَيَاتٍ	ذِكْرَيَاتٍ

◇不規則複数形の一部：

هَدِيَّةٌ「贈り物」の複数形هَدَايَاを例に格変化を確認します。なお、وَلَدٌは「少年」。

	主格	対格	属格
非限定	هَدَايَا	هَدَايَا	هَدَايَا
限定	اَلْهَدَايَا	اَلْهَدَايَا	اَلْهَدَايَا
限定	هَدَايَاكَ	هَدَايَاكَ	هَدَايَاكَ
限定	هَدَايَا ٱلْوَلَدِ	هَدَايَا ٱلْوَلَدِ	هَدَايَا ٱلْوَلَدِ

＊قَضِيَّةٌ「問題」の複数形قَضَايَاもこのパターンに入ります。

◇固有名詞（地名、町名、外国名など）：

فَرَنْسَا「フランス」、بَرِيطَانِيَا「英国」、سُورِيَا「シリア」を例に格変化を確認します。これらはすべて固有名詞のため限定名詞として扱われます。

	主格	対格	属格
限定	فَرَنْسَا	فَرَنْسَا	فَرَنْسَا
限定	بَرِيطَانِيَا	بَرِيطَانِيَا	بَرِيطَانِيَا
限定	سُورِيَا	سُورِيَا	سُورِيَا

＊アラビア語が拡大する以前に用いられていた言語（たとえばアラム語）や欧米諸語の影響を受けて定着した国名、地名などで、語尾がアリフの長母音で表記されてきたものは、アリフをター・マルブータで書き換えて表記される場合もあります。たとえば上述の単語はفَرَنْسَةُ、بَرِيطَانِيَةُ、سُورِيَةُと表記され、この場合には２段変化の原則が適用されます。

5　変則のパターン１

変則とは、おもに弱動詞の能動分詞や弱動詞から派生した名詞の複数形のパターンにあてはまるもので、対格の場合、タンウィーンをとるものととらないものの２つに区別して説明します。

- 非限定の場合、主格と属格ではカスラのタンウィーンになり、一方、対格ではيが加えられてファトハのタンウィーンになります。
- 女性形は基本3段変化になります。
- 限定された場合、主格と属格ではيが加えられ、カスラの長母音になり、一方、対格ではタンウィーンがなくなります。

変則のパターン1に属するものを以下にまとめます。

◇弱動詞の能動分詞：

ثَنَى「2つに曲げる」の能動分詞ثَانٍ「2番目の、次の」とعَلَا「昇る」の能動分詞عَالٍ「高い」などがあてはまります。ここではثَانٍを例に格変化を確認します。

	主格	対格	属格
男性非限定	ثَانٍ	ثَانِيًا	ثَانٍ
男性限定	اَلثَّانِي	اَلثَّانِيَ	اَلثَّانِي
女性非限定	ثَانِيَةٌ	ثَانِيَةً	ثَانِيَةٍ
女性限定	اَلثَّانِيَةُ	اَلثَّانِيَةَ	اَلثَّانِيَةِ

◇弱動詞の派生形の能動分詞：

غَنِيَ「裕福である」の派生形第2形غَنَّى「歌う」の能動分詞مُغَنٍّ「歌手」を例に格変化を確認します。

	主格	対格	属格
男性非限定	مُغَنٍّ	مُغَنِّيًا	مُغَنٍّ
男性限定	اَلْمُغَنِّي	اَلْمُغَنِّيَ	اَلْمُغَنِّي
男性限定	مُغَنِّيكَ	مُغَنِّيَكَ	مُغَنِّيكَ
男性限定	مُغَنِّي ٱلْبَلَدِ	مُغَنِّيَ ٱلْبَلَدِ	مُغَنِّي ٱلْبَلَدِ

男性双数	مُغَنِّيَانِ	مُغَنِّيَيْنِ	مُغَنِّيَيْنِ
男性複数	مُغَنُّونَ	مُغَنِّينَ	مُغَنِّينَ
女性非限定	مُغَنِّيَةٌ	مُغَنِّيَةً	مُغَنِّيَةٍ
女性限定	اَلْمُغَنِّيَةُ	اَلْمُغَنِّيَةَ	اَلْمُغَنِّيَةِ

6　変則のパターン2

- 非限定の場合、主格と属格については変則1と同じですが、対格ではタンウィーンがなくなります。
- 限定された場合、変則1と同じになります。主格と属格ではيを加え、カスラの長母音、対格ではそのيにファトハの短母音が付きます。

変則のパターン2に属するものを以下にまとめます。

◇弱動詞から派生した名詞の不規則複数形の一部：

أُغْنِيَةٌ「歌」の複数形أَغَانٍとمَقْهًى「喫茶店」の複数形مَقَاهٍを例に格変化を確認します。

	主格	対格	属格
非限定	مَقَاهٍ/ أَغَانٍ	مَقَاهِيَ/ أَغَانِيَ	مَقَاهٍ/ أَغَانٍ
限定	اَلْمَقَاهِي/ اَلْأَغَانِي	اَلْمَقَاهِيَ/ اَلْأَغَانِيَ	اَلْمَقَاهِي/ اَلْأَغَانِي
限定	مَقَاهِيكَ/ أَغَانِيكَ	مَقَاهِيَكَ/ أَغَانِيَكَ	مَقَاهِيكَ/ أَغَانِيكَ
限定	مَقَاهِي ٱلْبَلَدِ/ أَغَانِي ٱلْبَلَدِ	مَقَاهِيَ ٱلْبَلَدِ/ أَغَانِيَ ٱلْبَلَدِ	مَقَاهِي ٱلْبَلَدِ/ أَغَانِي ٱلْبَلَدِ

*それぞれ、不規則複数形のفَعَالِلُ型（أَجْنَبِيٌّ「外国人」－أَجَانِبُ)、مَفَاعِلُ型(مَكْتَبٌ「事務所」－مَكَاتِبُ)のパターンにあてはまります。

◇一部の特定の名詞：

لَيْلَةٌ「夜」の複数形لَيَالٍとكُرْسِيٌّ「椅子」の複数形كَرَاسٍなどがあてはまります。ここではلَيَالٍを例に格変化を確認します。

	主格	対格	属格
非限定	لَيَالٍ	لَيَالِيَ	لَيَالٍ
限定	اَللَّيَالِي	اَللَّيَالِيَ	اَللَّيَالِي
限定	لَيَالِيكَ	لَيَالِيَكَ	لَيَالِيكَ
限定	لَيَالِي ٱلْبَلَدِ	لَيَالِيَ ٱلْبَلَدِ	لَيَالِي ٱلْبَلَدِ

７　格の働き

格変化のさまざまな形式を押さえたあと、ここでは主格、対格、属格の役割について説明します。

◇主格

- 名詞先行文や動詞先行文の主語：

اَلرَّئِيسُ يَعْمَلُ طُولَ ٱلْيَوْمِ.　大統領は、一日中働きます。

أَكَلَ ٱلضَّيْفُ ٱلْكَبَابَ.　客はカバーブを食べました。

- 名詞先行文の述部の役割を果たす形容詞や名詞：

اَلْبَيْتُ كَبِيرٌ.　その家は大きいです。

هٰذَا هُوَ ٱلطَّالِبُ.　これがその学生です。

- 間投詞の後にくる名詞：

أَيُّهَا ٱلرَّجُلُ.　男よ。　يَا وَلَدُ.　少年よ。

◇対格

- إِنَّ、أَنَّ、لٰكِنَّ、لَعَلَّで始まる名詞先行文の主語：

لٰكِنَّ ٱلْمُعَلِّمَ مَشْغُولٌ.　しかし教師は忙しいです。

إِنَّ لَهُ بَيْتًا.　彼は家をもっています。

• كَانَとلَيْسَの述部になった形容詞や名詞：

كَانَ صَالِحًا. 彼は正しい道を歩んでいました。

لَيْسَ عَادِلاً. 彼は公正ではありません。

• 動詞の目的語：

اِشْتَرَيْتُ مَجَلَّةً. 私は雑誌を買いました。

عَلَّمْتُ هٰذِهِ ٱلطَّالِبَةَ ٱللُّغَةَ ٱلْعَرَبِيَّةَ. 私はこの女子学生にアラビア語を教えました。

* اَلِاخْتِصَاصُ（意図の限定）と呼ばれる用法があります。これは、省略された動詞أَخُصُّ「私は…に関連づける」またはأَعْنِي「私は…を意味する」の目的語として対格をとる用法です。通常、人称代名詞の1人称単数、または複数の後に限定名詞を対格で置き、人称代名詞が意図するものを限定します。

نَحْنُ ٱلْجُنُودَ نُدَافِعُ عَنِ ٱلْوَطَنِ. 私たち兵士は、祖国を防衛します。

لَنَا مَعْشَرَ ٱلْعَرَبِ مَجْدٌ قَدِيمٌ. 私たちアラブ人には古い栄光があります。

• 名詞型前置詞：

صَادَفْتُهُ أَمَامَ بَيْتِهِ. 私は彼の家の前で彼に出会いました。

• 理由を示す動名詞：

زُرْتُكَ رَغْبَةً فِي عِلْمِكَ.

私はあなたのことを知りたいと思ってあなたを訪問したのです。

• 行為の強調、内容や回数を示す動名詞（同族目的語）：

دَرَسْتُ دَرْسًا. 私は勉強しました。

زُرْتُ ٱلْآثَارَ زِيَارَتَيْنِ. 私は遺跡を2回訪問しました。

نَحْتَرِمُ مُعَلِّمَنَا ٱحْتِرَامَ ٱلِابْنِ لِوَالِدِهِ.

私たちは息子が父親を尊敬するように私たちの先生を尊敬しています。

- 明確化（「...の観点において」や数）：

هُوَ أَكْثَرُ مِنْكَ عِلْمًا. 彼はあなたよりも知識がある。

كَمْ طَالِبًا فِي ٱلصَّفِ؟ クラスには学生が何人いますか。

اِشْتَرَيْتُ أَحَدَ عَشَرَ قَلَمًا. 私は11本のペンを買いました。

- 形容詞や名詞の副詞化：

سَاعَدَنِي كَثِيرًا. 彼は私をたくさん援助してくれました。

اِسْتَيْقَظْتُ صَبَاحًا. 私は朝、目を覚ましました。

رَحَّبْنَا بِهِ سَاعَةَ وُصُولِهِ. 到着時に私たちは彼を歓迎しました。

اِسْتَمَرَّتِ ٱلْحَرْبُ فَتْرَةً طَوِيلَةً. 戦争は長期間、続きました。

- 状況構文（能動分詞を伴う）：

وَصَلَ حَامِلاً رِسَالَةً هَامَّةً. 彼は重要な手紙を携えて到着しました。

- 全面否定のلَاとともに：

لاَ بُدَّ مِنْهُ. それは避けられません（当然そうあるべきです）。

لاَ شَكَّ فِي (مِنْ) ذٰلِكَ. それには疑問の余地がありません。

◇属格

名詞と名詞を連結し、属格関係を形成します。この場合、後ろに続く名詞を属格語と呼びます。属格関係を形成している場合、先行する語は限定名詞として扱われるため、タンウィーンが付くことはありません。ただし先行する語に定冠詞を付けてはいけません。属格関係を形成した単語に形容詞を用いる場合、その形容詞が修飾する単語は属格語になるのか、または先行する語になるのかに注意して区別する必要があります。

بَابُ ٱلْجَامِعَةِ その大学の門

بَابُ ٱلْجَامِعَةِ ٱلْجَدِيدُ　その大学の新しい門

بَابُ ٱلْجَامِعَةِ ٱلْجَدِيدَةِ　その新しい大学の門

属格語が非限定の場合、先行する語にはタンウィーンが付かず、形の上では限定名詞となりますが、文法上、非限定名詞扱いとなり、したがって形容詞が先行する語を修飾するために用いられた場合、その形容詞には先行する語の格変化に一致したタンウィーンが用いられます。

بَابُ جَامِعَةٍ　ある大学の門

زِيَارَةُ عَمَلٍ قَصِيرَةٌ　短期の実務訪問

＊先行するこの種の語は、属格語が限定の場合と区別されます。なお、限定名詞と限定名詞が属格関係を形成することはありません。限定名詞と限定名詞が連続する場合は、同格用法とみなされます。よく用いられる表現にはاَلدُّوَلُ ٱلْأَعْضَاءُ「加盟国」や、اَلْوَطَنُ ٱلْأُمُّ ٱلصِّينُ「祖国であり、母である中国（大陸中国または中国本土）」などがあります。

• 前置詞の後にきた名詞や形容詞：

بِطَائِرَةٍ 飛行機で　　مِنْ بَعِيدٍ 遠くから

• 誓約のوَとتَの後にくる名詞：

وَٱللّٰهِ　アッラーに誓って　　تَٱللّٰهِ　アッラーに誓って

第36課　注意すべき表記

ここではアラビア語を学ぶ多くの学習者がとまどいを覚える、表記上の主要な問題について確認します。表記の基準は、時代、地域（国）によって異なり、これが唯一の正しい表記であるということが難しい場合があります。ここで紹介する表記は現代アラブ世界のどの国においても用いることができる標準的なものです。

1　ハムザの書き方

◇語頭のハムザ（ハムザトルカトウとハムザトルワスル）：

ハムザトルカトウでは、ハムザはアリフの上に書かれ（カスラで発音される場合にはアリフの下に書かれます）、ハムザとして発音されます。以下にあげたのはハムザトルカトウの代表的なものです。

أَمَّا	…についていうと	إِنْ	（条件詞）	أَنْ	（動詞先行節導入詞）
أَنَّ	（名詞節導入詞）	أَنَا	私（人称代名詞の独立形）		
أُمٌّ	母	إِكْرَامٌ	歓待（派生形第４形のハムザ）		

＊本来、省略されることがないハムザトルカトウが、表記のうえでは省略される場合があります。これは往々にして印刷上の繁雑さを避けるためです。ハムザが表記されていないからといって、発音を省略することがないよう注意しなければなりません。

ハムザトルワスルでは、ハムザの表記は省略され、アリフのみが表記されます。文頭にきたときだけ発音され、他の場合にはワスラ記号（ ٱ ）を付けることによって発音が省略されます。またワスラ記号は、しばしば省略されます。ハムザトルワスルの前にくる単語の最後の文字がスクーンで発音される場合にはスクーンに代わって補助母音が付けられます。ハムザトルワスルは、以下の単語に用いられます。

اَلْ　（定冠詞）　　اَلَّذِي / اَلَّتِي / اَلَّذِينَ　（関係代名詞）

اِبْنٌ　息子　　اِبْنَةٌ　娘　　اِسْمٌ　名前　　اِمْرُؤٌ　男

اِمْرَأَةٌ　女性　　اِثْنَانِ　（数詞の）2　　اِثْنَتَانِ　（数詞の）2［女性形］

＊اِمْرُؤٌとاِمْرَأَةٌは定冠詞が付くとاَلْمَرْءُ、اَلْمَرْأَةُと表記されます。

その他、ハムザトルワスルには以下のようなものがあります。

- 派生形（第７形、第８形、第９形、第10形）

اِنْقَسَمَ　分けられる　　اِجْتَمَعَ　会う　　اِحْمَرَّ　赤くなる　　اِسْتَخْدَمَ　使用する

- 命令形：اُدْرُسْ　勉強しなさい　　اُطْلُبْ　求めなさい

◇語中のハムザ

ハムザが語中にきた場合、ハムザの表記はその前にある母音記号との力関係によって決定されます。母音記号の強さは、カスラ、ダンマ、ファトハ、スクーンの順になります。この順位をきちんと頭にいれておくことが必要です。

ハムザの母音がカスラであれば、ハムザはيの上に書かれます。これをナブラと呼びます。

يَئِسَ　あきらめる　　قَائِلٌ　言っている　　مَسَائِلُ　件、問題

ハムザの母音がダンマであれば、ハムザはوの上に書かれます。ただし、ダンマより強い発音であるカスラ、またはカスラの長母音がその前にある場合には、يの上に書かれます。

شُؤُونٌ　件、問題　　رُؤُوسٌ　頭　　مَسْؤُولٌ　責任者

يُقَيِّئُهُ　彼に吐かせる　　يُبَرِّئُكَ　あなたを赦す

ハムザの母音がファトハの場合、ハムザの前がスクーンであればاの上に書かれます。

يَسْأَلُ　尋ねる　　يَزْأَرُ　うなり声をあげる

ハムザ(母音がファトハ)の前がアリフの長母音、またはダンマの長母音であれば独立形で書かれます。

عَبَاءَةٌ アバー、マント　　لَنْ يَسُوءَهُ 悲しませはしない

ハムザ(母音がファトハ)の前がダンマであればوの上に書かれます。

مُؤَيِّدٌ 支持者　　يُؤَكِّدُ 強調する

ハムザ(母音がファトハ)の前がカスラ、カスラの長母音、またはيのスクーンであれば、يの上に書かれます。

فِئَةٌ 100　　مِئَةٌ グループ　　خَطِيئَةٌ 過ち、罪　　هَيْئَةٌ 形、機構

ハムザがスクーンの場合、もしその前がファトハならاの上に、ダンマならوの上に、カスラならيの上に書かれます。

رَأْسٌ 頭　　لُؤْمٌ 不正、下劣　　بِئْرٌ 井戸

語尾にハムザが付いているハムザ動詞のうち、活用のために他の文字が付け加えられた場合、あるいは単数名詞を双数形や複数形にするために他の文字が付け加えられた場合にも上述の法則が適用されます。

يَقْرَؤُونَ 読む　　مَلَؤُوا 満たす　　جُزْأَيْنِ (جُزْءٌ「部分」の双数形)

◇語尾のハムザ：

語尾にハムザがきた場合、ハムザの前にある文字の母音記号にしたがい、ファトハの場合はا、カスラの場合はي、ダンマの場合はوの上に表記されます。

نَبَأٌ ニュース　　قَرَأَ 読む　　بَرِئَ 罪を赦される　　لُؤْلُؤٌ 真珠

ただし、ハムザの前の文字の発音記号がスクーン、またはاとيとوの長母音の場合には、独立形で書かれます。

جُزْءٌ 部分　شَيْءٌ 事、物　بِنَاءٌ 建物　سَمَاءٌ 空

يُسِيءُ 傷つける　يُضِيءُ 光をあてる　يَنُوءُ 重くのしかかる

対格の表記は以下の原則によります。

ハムザの前の文字の発音記号がスクーンまたはيの長母音で、その文字が後ろの文字と連結可能な文字である場合、ハムザはيの上に書かれ、ا をそれに連結させて書きます。

شَيْئًا 事、物　هَنِيئًا いいことがありますように　بَرِيئًا 無実の

一方、前の文字が後ろの文字と連結不可能な文字の場合、ハムザは独立形で書かれ、اはその後ろに書き加えられます。

بَدْءًا 開始　جُزْءًا 部分　رُزْءًا 災害、大損害

ハムザの前の文字がاの長母音の場合、ハムザにはاを書き加えないで、単にファトハのタンウィーン記号を付けます。

مَاءً 水　جَزَاءً 見返り、罰　أَعْبَاءً 重荷、負担　أَسْمَاءً 名前

اの上に記されたハムザの対格、属格は以下のようになります。

نَبَأً ニュースを（対格）　نَبَأٍ/نَبَإٍ ニュースの（属格）

2　اの省略

اِبْنٌ「息子」とاِبْنَةٌ「娘」のاがハムザトルワスルであることはすでに見ましたが、ここではこのاが表記上、省略される場合について学びます。

اِبْنٌとاِبْنَةٌが「…の息子あるいは娘である…（個人名）」というように個人名の同格（置き換え）として用いられ、全体で１つの名前となった場合、اは省略され、表記されることがありません。またاِبْنٌ、اِبْنَةٌの格変化は個人名の格変化に一致させます。このとき個人名にタンウィーンが付くことはありません。

قَالَ عَبْدُ ٱلْعَزِيزِ بْنُ سُعُودٍ.

アブドゥルアズィーズ・ブン・スウードは言いました。

アラブ人の名前は、何々族のだれだれの息子のだれだれの息子、または娘であるというように個人名、父親名、祖父名、一族名（部族名や職業集団名や出身地名）によって示されますが、息子、娘という単語を省略してしまうこともあります。現在では個人名と父親名、または一族名で示すことが多くなっています。その他、尊称（特にだれだれの父、または母、逆にだれだれの息子または娘）で呼ばれることもあります。

例文で示したアブドゥルアズィーズ・ブン・スウードは、スウードの息子アブドゥルアズィーズの意味ですが、サウジアラビア建国の父であるこの人物はしばしば ٱبْنُ سُعُودٍ「イブン・スウード（スウードの息子）」とも呼ばれます。またスウードを一族名として採用し、آلُ سُعُودٍ「スウード家（آلٌは「一族」の意味）」として、عَبْدُ ٱلْعَزِيزِ بْنُ عَبْدِ ٱلرَّحْمٰنِ آلُ سُعُودٍ「アブドゥルアズィーズ・ブン・アブドゥッラフマーン・アール・スウード（スウード家のアブドゥッラフマーンの息子アブドゥルアズィーズ）」と呼ばれることもあります。

قَالَتْ حَفْصَةُ بْنَةُ عُمَرَ.

ハフサ・ブナト・ウマル（ウマルの娘ハフサ）は言いました。

صَدَقَ عِيسَى بْنُ مَرْيَمَ.

イーサー・ブヌ・マルヤム（マルヤムの息子イーサー）は真実を語りました。

قَالَ عَلِيُّ بْنُ أَبِي طَالِبٍ.

アリー・ブヌ・アビー・ターリブ（アブー・ターリブの息子アリー）は言いました。

إِنَّ خَالِدَ بْنَ ٱلْوَلِيدِ قَائِدٌ شُجَاعٌ.

ハーリド・ブヌ・ルワリードは勇敢な司令官です。

* عِيسَى「イーサー（イエス）」はこの形で３格に対応する無変化のパターン２の名詞ですが、男性名詞として扱われます。イエスがキリストを指す場合、通常 ٱلْمَسِيحُ「キリスト」や يَسُوعُ「ジーザス」という表現が用いられます。
* ٱبْنٌ「息子」や ٱبْنَةٌ「娘」が、「…の息子または娘である…（個人名）」というように全体で１つの名前を形成していながらも、ٱبْنٌやٱبْنَةٌが行の最初にきた場合、ا は省略されません。

間投詞يَاの後にきた場合、ا は省略されます。

يَا بْنَ آدَمَ　人間（アダムの息子）よ

「…の息子または娘である…（個人名）」の場合でも、人名が双数になった場合、ا は省略されません。

جَاءَ سَعِيدٌ وَخَالِدٌ ٱبْنَا مُحَمَّدٍ.

サイード・ブヌ・ムハンマドとハーリド・ブヌ・ムハンマドが来ました。

رَجَعَتْ لَيْلَى وَسُعَادُ ٱبْنَتَا زَيْدٍ.

ライラー・ブナト・ザイドとスアード・ブナト・ザイドが戻ってきました。

「…の息子または娘」が独立して用いられる場合、言い替えれば個人名と一緒に全体で１つの名前を形成していない場合、ا は省略されません。

خَالِدٌ ٱبْنُ ٱلْوَلِيدِ.　ハーリドはアルワリードの息子です。

إِنَّ خَالِدًا ٱبْنُ ٱلْوَلِيدِ.　ハーリドはアルワリードの息子です。

اِسْمٌ「名」においては、次の場合、ا は省略され表記されません。

بِسْمِ ٱللّٰهِ ٱلرَّحْمٰنِ ٱلرَّحِيمِ

慈悲深く、慈愛あまねきアッラーの御名において

これは間投詞のところですでに紹介してありますが、『コーラン』の第９章（悔悟の章）を除くすべての章の冒頭に用いられている文言で、ムスリムはこの表現を物事を開始する際に必ず唱えます。また書類や手紙もこの表現で始まるのが普通です。このため使用頻度が非常に高くなり、ا の省略に至ったわけです。

他の場合、ا はそのまま表記されます。

بِٱسْمِ ٱلشَّعْبِ ٱلْعَرَبِيِّ ٱلسُّورِيِّ　シリア・アラブ国民の名において

اِقْرَأْ بِٱسْمِ رَبِّكَ.　汝の主の名において読みなさい。（『コーラン』凝血の章、１節）

定冠詞اَلْが付いている単語の前に前置詞لِが用いられると、اは省略されます。

لِلْوَلَدِ　その少年のために　(لِـ+اَلْوَلَدِ)

次の表記に注意してください。

لِلُّغَةِ (لِـ+اَللُّغَةِ)　لِلّٰهِ (لِـ+اَللّٰهِ)　لِلَّيْلَةِ (لِـ+اَللَّيْلَةِ)

3　区別のو

عُمَرُ「ウマル、オマル」とよく間違えられる名前にعَمْرٌو「アムル」があります。オールドカイロ（フスタート）にある大モスクにその名を残しているعَمْرُو بْنُ ٱلْعَاصِ「アムル・ブヌルアース」の名前です。عُمَرُとはっきり区別するために形式上のوが付け加えられました。عُمَرُは２段変化の人名ですが、عَمْرٌوの方は３段変化をします。しかし対格の場合にはوが省略されます。

主格	対格	属格
عَمْرٌو	عَمْرًا	عَمْرٍو

4　省略語

- إلَخ：إِلَى آخِرِهِと読みます。「…など」の意。
- صلّعم：صَلَّى ٱللّٰهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَと読みます。意味は以下に示します。

  「彼の上にアッラーの祝福とご加護がありますように」（預言者ムハンマドの名前の後に用いられる祈願の言葉）
- رضّه：رَضِيَ ٱللّٰهُ عَنْهُと読みます。意味は以下に示します。

  「アッラーが彼に喜びを賜りますように」（カリフたちの名前の後に用いられる祈願の言葉）
- عمّ：عَلَيْهِ ٱلسَّلَامُと読みます。意味は以下に示します。

  「彼の上に平和がありますように」（預言者たちの名前の後に用いられる祈願の言葉）

＊短縮されたことを示すマッダ記号はしばしば省略されます。

長さや重さの単位も省略語で表されます。（　）内は複数形

سم ：سَنْتِمِتْرٌ (سَنْتِمِتْرَاتٌ)　「センチメーター」

م ：مِتْرٌ (أَمْتَارٌ)　「メートル」

كم ：كِيلُومِتْرٌ (كِيلُومِتْرَاتٌ)　「キロメーター」

كغ ：كِيلُوغُرَامٌ (كِيلُوغُرَامَاتٌ)　「キログラム」

5　小さなアリフについて

ا を用いずにファトハの長母音を表す方法ですが、文字の上に短い ا を書きます。おもに以下の単語に用いられます。

هٰذَا／هٰذِهِ／هٰؤُلَاءِ／ذٰلِكَ／أُولٰئِكَ などの指示代名詞

إِلٰهٌ　神　　اَللّٰهُ　アッラー

اَلرَّحْمٰنُ　慈悲深い　　اَلسَّمٰوَاتُ　天　　اَلْعٰلَمِينَ　万世

＊おもにコーランで用いられる用法です。

参考文献

アラビア語教育に携わって以来、これまで多くの辞書、文法書、参考書と出合ってきましたが、本書を執筆するに際し、おもに参考にした文献は以下の通りです。

［アラビア語］

١) المنظمة العربية للتربية والثقافة والعلوم: المعجم الأساسي. لاروس. ١٩٨٩
٢) المطبعة الكاثوليكية: المنجد في اللغة والأعلام. دار المشرق. بيروت. الطبعة الثانية والعشرون. ١٩٧٥
٣) دار المشرق: المنجد في اللغة العربية المعاصرة. دار المشرق. بيروت. الطبعة الثانية. ٢٠٠١
٤) إسبر، محمد سعيد/ جنيدي، بلال: الشامل، معجم في علوم اللغة العربية ومصطلحاتها. دار العودة. بيروت. ١٩٨١
٥) الحوص، أحمد: قصة الإعراب. ٣ أجزاء. المطبعة العلمية. دمشق. ١٩٨٤
٦) الدقر، عبد الغني: معجم النحو. الشركة المتحدة للتوزيع. بيروت. ١٩٨٢
٧) الغلاييني، الشيخ مصطفى: جامع الدروس العربية. الطبعة الخامسة عشرة. المكتبة العصرية. بيروت. ١٩٨١
٨) المبارك، مازن/ إلياس، منى/ يعقوب، عبدالكريم/ البيطار، عاصم: اللغة العربية لغير المختصين. مطابع جامعة حلب. حلب. ١٩٨٣
٩) نعمة، فؤاد: ملخص قواعد اللغة العربية. الطبعة الثانية عشرة. نهضة مصر للطباعة والنشر والتوزيع. القاهرة. ١٩٧٣ (الطبعة الأولى)

［英語］

1) Abboud, Peter F./McCarus, Ernest N.: *Elementary Modern Standard Arabic*. 2 Vols. Cambridge University Press. 1984.
2) Abboud, Peter F./McCarus, Ernest N.: *Modern Standard Arabic Intermediate*

Level. 3 Vols. Department of Near Eastern Studies. Ann Arbor. Michigan. 1979.

3) Cantarino, Vicente: *Syntax of Modern Arabic Prose*. Indiana University Press. 1974.
4) Haywood, J. A./Nahmad, H. M.: *A New Arabic Grammar of the Written Language*. Lund Humphries. London. 1970.
5) Wright, W.: *A Grammar of the Arabic Language*. 3rd Edition. Libraire Du Liban. Beirut. 1974.
6) Wehr, Hans: *A Dictionary of Modern Written Arabic*. (Translation&Edition) J. Milton Cowan Fourth Edition, Spoken Language Services, INC. Ithaca, NY. 1994.
7) Thatcher, G. W.: *Arabic Grammar of the Written Language*. Star Publications. Ltd. New Delhi, Reprint, 1996.
8) Schulz, W./Krahl, G./Reuschel, W.: *Standard Arabic—An elementary-intermediate course*. Cambridge University Press, 2000.
9) Cowan, David: *An Introduction to Modern Literary Arabic*. Cambridge University Press, 1970.

［日本語］

井筒俊彦『アラビア語入門』慶應出版社、1950年

池田修『アラビア語入門』岩波書店、1976年

黒柳恒男・飯森嘉助『アラビア語入門』泰流社、1976年

内記良一『基礎アラビヤ語』大学書林、1983年

奴田原睦明『基本アラビア語入門』大学書林、2002年

佐々木淑子『アラビア語入門』翔文社、2005年